特定教育・保育施設等における事故情報データベース【令和６年３月27日 更新】

No	初回掲載年月日	概要：認可・認可外	概要：施設・事業所種別	事故発生時：月	事故発生時：時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳：0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故：年齢	性別	特記事項	事故状況：発生時状況	事故の転帰	死亡：死因	負傷：負傷状況	受傷部位	診断名
1	令和5年9月28日	3.その他	14.子育て短期支援事業（ショートステイ・トワイライトステイ）	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	6									2	2（児童指導員）	16. 4歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折（全治１～２カ月）
2	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	15							15		3	3	22. 10歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	5.下肢(足・足指)	左ひざ裂創 左ひざ膝蓋骨骨折
3	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	13							13		2	1	21. 9歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足外果骨折（全治１か月以上）
4	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	15							15		4	2	21. 9歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足中指骨折
5	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	8.学童	55							55		5	3	19. 7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	1.頭部	耳たぶ裂傷

No	事故誘因	ソフト面：マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面：施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策
1	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	数回/年	2.基準配置	事故予防に関する研修は適切に行われており、事故発生時の人員配置も適切であった。	実施施設には、今後も研修等を通して事故予防に関する知識の習得に努めていただくよう伝達した。	1.定期的に実施	12回/年	2.不定期に実施	使用の際のチェックと随時の修繕は行っている。	2.不定期に実施	使用の際のチェックと随時の修繕は行っている。	日常使用している、施設内の裏庭での出来事であった。	実施施設には、日常使用している設備であっても事業の利用児童にとっては慣れない場所であるという視点をもって、適切に養育を行っていただくよう伝達した。
2	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度(数　)回/年	2.基準配置	特になし	職員会議での危険個所の周知の徹底。早急なマニュアルの作成。外遊びの見直し	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(数　)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(数　)回/年	特になし	クラブ前での遊び方、遊ぶ際の職員配置の検討
3	8.その他	1.あり	3.未実施	実施頻度（０）回/年	1.基準以上配置	事故発生場所の図書室では、本を読んだり体を動かさない静かな遊びをするよう日頃から児童に伝えていたため、職員を配置していなかった。	図書室にいる児童同士が静かに遊んでいない様子であれば、その日の職員の人数によっては図書室に常時職員を配置する。また、図書室を定期的に巡回する。	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	特になし	特になし
4	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	特になし	支援員が危険な状況を判断する力を高め、児童自身の危険を避けて身を守る能力が向上するよう事例を再検証する。	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年	特になし	図書室の物品の配置を変え、角に入り込めないようにした。
5	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度（１２）回/年	2.基準配置	特になし	全支援員が参加しての事例研修を実施するとともに、全児童を対象とした集会等の場を活用し安全意識の向上を図る。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1　)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	安全点検を引き続き計画的に実施する。

No	環境面：教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面：対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
1	1.集団活動中・見守りあり	他の自転車を片付けている間に小学生用の自転車が倉庫前に置かれており、職員としても危ないという認識はあった。	事故が事前に予見できる場合には危険を取り除く、児童を危険から遠ざける、そもそも事故が発生しそうな活動は行わないなどの方法により積極的に安全を確保するよう施設に伝達した。	1.いつもどおりの様子であった	当該児童は動きが多く、家でも自転車に乗りたい気持ちが強かった（後日確認した内容）。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	従事していた職員らは、児童が自転車に跨った段階で児童に「危ない」と声掛けを行ったが、間に合わず転倒してしまった	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	事故発生時、１名は自転車の片付けがあらかた終了し倉庫から外に出てきたところで、もう１名は倉庫前で全体を見つつ他児の対応をしていした。	事故については施設全体で共有し、職員会議やリーダー会議で振り返りを実施している。	今後も取り組みを継続していただくよう実施施設に伝達した。	
2	1.集団活動中・見守りあり	興奮状態の子ども達への声掛けをせず、やりたいようにやらせていた。	ルールの把握、職員の危険意識向上、遊びを中断させるなど、子どもも達にもその遊び方で大丈夫なのか考えさせるべきだった。危険個所にクッション材の設置を検討。	1.いつもどおりの様子であった	該当児童は、いつも通りであったが、周りが興奮状態にあった。該当児童も遊んでいるうちにヒートアップした様子。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	玄関付近(バスケゴール前)で見守りを行う	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1名は玄関前で他の児童と縄跳びを行う。もう1名は道路側でバスケと鬼ごっこの見守りをしていた。	玄関前の柱にぶつかる危険を予測できなかった。危険個所の把握がされていなかった。ボールの取り合いに夢中になり周りが見えていなかった。	特になし	
3	4.個人活動中・子どものみ	長期間休む前から、図書室では動く遊びをしないように伝えていたが、久しぶりの来所で気持ちが高ぶり、動く遊びをしてしまった。	久しぶりに来所した際には一緒に改めて学童内のルールを確認し、説明をする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	図書室で本読みをしていた児童は、隣に同学年男児が来た事で特に理由もなく相手にちょっかいをかけ、じゃれあいの遊びに発展。床に仰向けに寝そべっており、その足を同学年男児に踏まれ、そのまま体を回転させてしまう。結果、足を痛めた。	4.対象児の動きを見ていなかった	ホールには児童が９名おり、支援員はホールで動く遊びをしている児童の様子を見守っていた。図書室にいる児童から、対象児が怪我をしたという話を聞き図書室に向かう。腫れている様子だったため湿布を貼って対応。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ホールで動く遊びをしている児童の様子を見ながら、洗濯物を干すなどの作業をしていた。	職員が２名しかいない状況で、ホールから廊下を挟んで別室にある図書室に１名配置できなかった。	どうしても体を動かした遊びがしたい場合は17時以降の動く遊びができる時間帯に、ホールでやるよう伝える。	
4	7.その他	特になし	お迎えを待つ時間帯なので、静かに過ごすよう声がけをする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	事故直前にも同じ動きをしており、注意を受けている。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	児童全体を見渡せる位置に配置し、本児に対して直前に注意を行っている。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の部屋で事務処理を行っている。	特になし	職員全体で事故の状況および安全対策の情報を共有し事故防止に努める。	
5	1.集団活動中・見守りあり	特になし	全支援員が参加しての事例研修を実施するなど、より組織的な安全確保の取組を推進する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	図書コーナーの周辺を走り回っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児童がいるところには必ず職員が配置、見守りをしている。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他室の児童を見守っていた。	特になし	ボランティアの支援者の増員など、実効性のある改善策を具現化する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰
6	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	26							26		5	2	20.８歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷
7	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	72							72		7	4	18.６歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷
8	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	1	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	13							13		4	2	21.９歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷
9	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	22							22		2	2	20.８歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷
10	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	31							31		2	1	20.８歳	1.男児		8.その他	1.負傷

No	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策
6		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の折れ	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	特になし	事故事例の共有など、様々な可能性を考慮した体制づくりに努める。	2.不定期に実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	特になし	今後も引き続き安全点検の実施を継続する。
7		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性亜脱臼（歯）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(数)回/年	1.基準以上配置	特になし	児童への安全指導について職員全体で共通認識を持つとともに、出勤職員数を考慮した職員配置を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	活動場所に危険個所がないか毎日点検する。
8		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	1.基準以上配置	当該児童は今シーズンのスキー初滑りであったため、滑走前に特に注意して滑走するなどといった指導が必要だったと思われる。	初滑りの際にはいつも以上に滑走について注意喚起を促す。	1.定期的に実施	実施頻度( )回/年	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	特になし	天候の変化や雪質に注意する。
9		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足関節外果骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(複数)回/年	2.基準配置	日々のOJTとミーティングで安全な環境構成と安全な遊び方についてかなり高い頻度で話し合われている。	各遊具、各玩具に関する安全に遊ぶ上での注意点をまとめ、園内研修等で共有する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１３)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	全ての園庭の遊具の下、その他広い範囲に安全用のマットが敷いてある。	マットが固くなっている場所もあったため、場所に適したマットを購入、交換していく。
10		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	傷口3針縫合	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	特になし	廊下移動時の対応方法を見直して事故を未然に防止できるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)/年	施設内に遊具なし	実施頻度(０)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)/年	特になし	引き続き、日々の確認を実施して安全点検を怠らないように努める。

No	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
6	4.個人活動中・子どものみ	特になし	児童だけで行動することのないような環境づくりに努める。	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた		2.担当者・対象児の動きを見ていなかった		特になし	他児童に関しても、同様の事故が起きないよう指導を徹底する。	
7	3.個人活動中・見守りあり	当該児童は図書スペースで靴を脱いだ状態で読書をしており、少し離れた本棚へ移動する際、上靴を履かないまま靴下でフローリングの上を歩いたことですべって転倒してしまった。	上靴を履いて落ち着いて活動するように指導を適宜行う。移動する際には、足元に一層の注意を払うよう再度安全指導を行う。	1.いつもどおりの様子であった	図書スペースから少し離れた本棚へと移動していた。	4.対象児の動きを見ていなかった	本棚へ背を向けた形で、他の職員と荷物の移動を行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	児童クラブ受入や保護者連絡、読書指導、インターフォン対応等を行っていた。	特になし	子どもたちが安全に過ごすことができるよう、児童への安全指導について職員で共通認識を持つと共に子どもたち自身も児童会館で安全に過ごすことができる態度を養っていく。	
8	1.集団活動中・見守りあり	シーズン初すべりの際には、特に注意して滑走するよう児童に伝える。	滑走中にも、子どもの状況を見ながら指導方法を適宜変更する。	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた	滑走中のため事故発生を予測するのは困難だった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)		特になし	特になし	
9	1.集団活動中・見守りあり	ブランコが園児用サイズであり、普段から注意して乗るよう指導しており、該当児童もその事を分かって当日も注意しながら乗っていた。	当日は天気も良く、ブランコや園庭の遊具の安全点検も終わったばかりで特に問題はなかった。	1.いつもどおりの様子であった	36.4℃でいつも通り元気であった。普段から園庭で遊ぶときは活発な児童で、特にブランコは大好きでいつもブランコに乗っている。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	支援員Bは、久しぶりにブランコで遊んでいる児童に「ブランコの点検が終わって良かったね」とブランコ付近で児童４名を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ちょうど1年生を連れて園庭に来たところで、１年生、支援員Cともに園庭内にいたが、事故発生当時ブランコからは少し離れたところにいた。	特記事項無し	ブランコを高さが異なる２種類を設置済。こどもの身体の大きさに適した方のブランコを使用するよう指導する。	
10	1.集団活動中・見守りあり	児童の人数に対して引率する支援員が1人であったため、後方にいた当該児童に配慮できていなかった。	児童クラブ用の靴を取りに行く際は少人数（4～6人程度）で児童全員に配慮できるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	児童クラブ用の靴を取りに行くために廊下に並んでいた際に、列の最後方で他の児童とふざけあっていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	児童を学校玄関まで引率するために列の一番前にいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	施設教室内で他の児童の対応をしていた。	特になし	児童クラブ用の靴を取りに行く際の引率は一番前ではなく、最後方で児童全員に配慮しながら引率する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項
11	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	39							39		4	4	21.9歳	1.男児	
12	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	20							20		6	4	18.6歳	1.男児	
13	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	42							42		6	3	18.6歳	2.女児	
14	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	72							72		8	5	19.7歳	1.男児	
15	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	78							78		7	4	19.7歳	1.男児	

No	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策
11	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(0～1)回/年	2.基準配置	戸外全体での配置人数は限られた中では多く配置したが、全体を見ているつもりでも常に全児童が見えていたわけではなかった。	児童の人数は多く、支援員の人数は限られているので、遊ぶ場所を人数に応じて決めて支援員の目の届かない場所では遊ばないようにする。
12	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(0～1)回/年	2.基準配置	1年生の遊びの範囲内でサッカーやなわとび、追いかけっこなど様々な遊びをしている子が多かった。	狭い範囲でサッカーはやらないなど、怪我が起こりにくい環境をつくる。
13	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	逆関節骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	全体の見守りが不十分だった。	全体の見守りを行う。また，今回の事例を職員間で共有して再発防止を図る。
14	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	永久歯上顎前歯外傷性歯脱臼	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	-	事故防止マニュアルを研修を通して職員で再確認する。事故事案についてはヒヤリハット簿に対応内容や改善策を記録し，職員間の周知徹底を行う。
15	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	特になし	見守りの職員を増やすか，遊戯室のあそびの制限をする。

No	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策
11	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	児童は想像以上に激しい動きをするので、毎回遊び場所・ルール確認を行うべきだった。	遊びが始まる前に、児童に今遊んでいい場所・危険個所などの禁止事項や気をつけて欲しいことなどルールを話して支援員と児童が確認し合う。
12	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	砂地と草が生えている部分に凹凸があり、平らではない。	小学校と協議し、凹凸のある部分に砂を入れ平らにしてもらった。
13	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	大型ブロックの上に立って乗っていた。	大型ブロックは２個以上重ねた上には乗らないルールだが，遊び慣れていない１年生や，周囲の状況によっては1段でも上に立って乗らないようにする。
14	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	-	定期的に施設・設備点検を実施し，劣化・損傷個所は修繕対応を行う。
15	1.定期的に実施	実施頻度毎日2回	1.定期的に実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度毎日１回	遊戯室にも多くの子どもが遊んでいる状態だった。	児童の人数や職員の人数を踏まえて，遊び種類や範囲を考慮する。

No	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
11	3.個人活動中・見守りあり	また新年度で進級した喜び、自分はできるんだという思い込みも相まって激しい遊びにつながった。	危険な遊び、行動についてはその都度注意し止めさせる。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	大型連休前、午前授業が続く週であったため、いつもより楽しく遊んでいたが、ベンチを飛んだ際に足を滑らせて転んでしまい手をついたところ、激しい動きだったので右手に全体重がかかってしまった。	4.対象児の動きを見ていなかった	ベンチで痛がりじっと座っている児童を見つけて声をかける。理由を聞くと転んで手をつき痛みを訴えていたので、手の動かし方や腫れの状態、握る力なども確認した。痛がるので学童へ戻り冷やして様子を見るように児童に伝える。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	児童が外から戻ってくると痛いと右手首を抑えているので、動かせるか、握れるか確認した。腫れはひどくなく保冷剤で冷やし様子を見ていたら異常に右手が冷たくなり寒さを訴え始めた。痛みもひどくなる様子があったので至急保護者に連絡し受診をお願いした。	ケガをした瞬間を誰も見ていなかったために、手をどのようについたのか捻ったのかわからず、本児の証言も興奮状態で曖昧だったため、打撲ではないかと予想してしまった。	見れない場合でもケガをした児童や周りの児童などを落ち着かせ、きちんと状況の確認、ケガの様子などを聞き取りをする。	
12	1.集団活動中・見守りあり	１年生の遊びの範囲内で遊ぶ児童数が多く、注意散漫になりがちだった。	意識して児童の様子を観察し、声掛けをして注意を促す。	1.いつもどおりの様子であった	当該児童が他男子児童とともに、女子児童に対して追いかけてみて！と煽り、女子児童が追いかけてきたので逃げたところ転倒する。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	転倒した当該児童に駆け寄り、声をかける。特に痛みをうったえず再び遊びに戻ったので、児童から離れる。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	当該児童に声をかけ、特に変化は見られなかったのでその場を離れる。	転倒するまでの当該児童の様子を見ていた指導員はいなかった。転倒後の児童の様子を細かく観察する必要があった。	視野を広くし、児童がどんな遊びをしているかを常に確認する。怪我の程度を決めつけず、適切に処置をする。	
13	1.集団活動中・見守りあり	児童の遊びに合わせて，前もって声がけができなかった。	大型ブロックで遊ぶ際の注意点や遊び方について声がけをする。	1.いつもどおりの様子であった	昼食後も普通に遊びだしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	他の児童や遊びに関わっており，児童が転倒したところは見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ他の児童や遊びに関わっており，児童が転倒したところは見ておらず本児が泣き気づいた。	新1年生のほとんどが初利用日で個別対応が必要な場面が多く，全体の見守りが不十分だった。	-	
14	1.集団活動中・見守りあり	怪我防止のために周りを見て遊ぶような声がけが不足していた。	児童には校庭遊びの決まりや安全な遊具の使い方について重点的に指導を重ねる。遊んでいる最中も様子を見ながら適宜声がけする。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り他児と一緒にドッジボールで遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ドッジボールをしている所から10メートルくらい離れた所から見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	校庭にいた他2名の職員はサッカーゴール前でのサッカー遊びや遊具での遊び，グラウンド内でのボール遊びと周辺での虫取りなどを見守っていた。	怪我防止のために周りを見て遊ぶような声がけが不足していた。	-	
15	1.集団活動中・見守りあり	本児はボール遊びに夢中になり，周囲の状況を把握できなかった。	ボール遊びは複数名で見守る。職員体制に合った遊戯室での遊びを提供する。周囲によく見ながら遊ぶよう声掛けをする。	1.いつもどおりの様子であった	春休みで制限の多い中で過ごしていたこともあり，遊戯室でのボール遊びを心待ちにしていた様子だった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	審判をしていたため全体を見ており，突発的な個人の動きには対応できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊戯室以外で児童の見守りと保護者対応をしていた。	ボール遊びの前に周りをよく見て他児との接触に気を付けるよう伝えているが、声掛けが足りなかった。	-	

No	初回掲載年月日	概要：認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時：月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制：発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳：0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故：年齢	性別	特記事項
16	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	39							39		6	4	21.9歳	1.男児	
17	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	57							57		7	5	19.7歳	1.男児	
18	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	45							45		8	4	18.6歳	1.男児	
19	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	26							26		3	1	20.8歳	1.男児	
20	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	58							58		9	8	20.8歳	2.女児	

No	事故状況：発生時状	事故の転帰	死亡：死因	負傷：負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面：マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面：施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】
16	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度（1）回/年	2.基準配置	–	–	1.定期的に実施	実施頻度(60)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(60)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(60)回/年
17	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右ひじの骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1.基準以上配置	準備運動等，遊びの前の準備が不足していた。	運動あそびをする前に準備運動をする。	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年
18	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	各部屋での見守りが中心となり、廊下等、移動時の見守りが不十分であった。	装具をしている等怪我の危険性がある児童がいる場合には，十分な見守りができるよう職員配置を考慮する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(14)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年
19	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	2.顔面(口腔内含む)	不明	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	遊びの特性上、接近しながらボールをやり取りすることがある。その特性理解と準備運動等の取組も必要であった。	各担当者は常に一人一人の子どもの動きを注視し、安全確保に努める。事故の際は速やかに職員に話すことができるよう、日頃の信頼関係を築く。	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年
20	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左とう骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(常時　)回/年	1.基準以上配置	コロナ禍による運動不足で体力や筋力、バランス感覚が低下していることも原因として考えられる	児童により近い位置での見守りを行う	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度(－)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年

No	ハード面：その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面：教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面：対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
16	室内の角のでっぱりに勢いよくぶつかった時に怪我につながる可能性がある	室内の角のでっぱり等に、保護材を設置	1.集団活動中・見守りあり	–	–	1.いつもどおりの様子であった	元気に登館し、友達と融資室でサッカー等で遊び、17時過ぎに退館した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	遊戯室内で遊んでいる児童全体の見守りを行っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各部屋に配置しているので、遊戯室の子どもの動きは見ていない	子どもは遊びに夢中で痛みを忘れて遊ぶ場合がある。活動中の子どもの様子を確認するのはもちろんだが、遊び後の子どもの会話の中に痛みを訴えるタイミングがあるかも知れないのでその後の様子も見守る。	–	
17	特になし	安全点検を継続して行う。	1.集団活動中・見守りあり	高学年児童との交流で気分が高揚している児童への声がけや対応が不十分だった。	今まで以上に見守りを行い，児童の様子を見ながら怪我をしないように声がけをする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	お昼休憩が終わった後、すぐに運動あそびをしていた。いつもサテライトへ行っている高学年児童が本館に来ていたのもあり、気分が高揚している様子だった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児の怪我に気づき事務室へ本児を連れていく。館長に本児から聞き取りした怪我の状況を伝え、患部を保冷材で冷やし、作った添え木で腕を固定する。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の児童の対応をしていた。怪我に気づいてから本児を事務室へ連れていく。	気分が高揚している児童への声がけが不十分だった。	特になし	
18	特になし	安全点検を継続して行いながら，転倒や怪我の危険性がないかを普段から意識して確認する。	7.その他	脚に装具を付けている点を考慮し、特に移動の場面では一層の配慮が必要だった。	一斉に移動する際には近くに職員がつく等、すぐそばで見守る。	1.いつもどおりの様子であった	館庭への移動中だった。	4.対象児の動きを見ていなかった	他児童たちの移動を促していたところ、廊下で座り込んでいる本児を見つけ声をかける。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各部屋で児童の対応。部屋の中から廊下は見えないため、本児の事故には気づかなかった。	各部屋だけでなく、全体を意識した見守りをする職員がいなかった。	なし	
19	学校の校庭を借りていることもあり、日頃から整備や安全点検がしっかりされている。当館職員もその都度安全確認をしながらすすめている。	日頃の遊び方やゲームのルール等について、子どもたちとともに振り返り安全な遊び方について確認する。	1.集団活動中・見守りあり	見守る職員の人数確保には限界がある。遊び内容の特性を理解した上での働き掛けや声掛けを工夫する必要があった。	外遊びへの安全に対する事前の働き掛けを積極的に行い、子どもたちの安全意識や危険回避能力を高めていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつもの仲間と一緒に元気に遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	2つのグループがサッカーをしていたこともあり、十分な見守りができていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの担当か所を見守ることに集中していて、担当者や対象児童を見守ることはできなかった。	一人当たりの見守りの範囲や集中の度合いについて、更に検討を加える必要があった。	子どもたちとともに日頃の遊び方を振り返り、よさや課題を具体的に整理しながら安全に対する意識をより高めていく。	
20	大型ブロックには危険箇所などない為、問題はない	大型ブロックの他、周囲にも危険箇所などない為、問題はない	3.個人活動中・見守りあり	普段から小さい怪我をしやすい児童なので、事前の声がけが必要であった	児童の様子を見ながら、適度に声を掛け、休憩させる	1.いつもどおりの様子であった	他の児童とともに、並べた大型ブロックの上を歩いて遊んでいた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	離れたところからみていたが、本児が転倒したことに気付いて声をかけ手当をした	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	引継ぎをしながら、離れたところから見守っていた。	職員２名が遊びの状況を伝達するために、２名とも児童から離れた位置で見守りを行っていた	–	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
21	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	62							62		19	14	19.7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		1.意識不明	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	痙攣	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	–	突発的な事柄に対して本児の様子を見る、撮影する、本児・他児とも怖がらないよう離す、保護者・救急要請・市へ連絡する、など各自役割を互いに理解してより迅速に動くことができるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	3.未実施	実施頻度(-)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	–	日常で床材の欠損やひび割れなどないかを確認し、転倒の際に怪我をすることがないようにしていく。	1.集団活動中・見守りあり	–	自分の友達がいつもの様子と違う時は近くの職員にすぐに知らせる事を子どもたちに働きかけていく。	1.いつもどおりの様子であった	普段のように友だちと館庭で鬼ごっこを楽しみ、遊戯室に来る時も具合の悪そうな様子はなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	子どもたちの後ろにいた職員が痙攣直後に本児の動きが普段と違うことに気づき、担当職員に知らせる。担当職員はすぐさま痙攣に気づき、他の職員にも応援を要請する。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	本児に職員が対応している間、他児を離し、落ち着かせる。また、動画撮影や他職員の応援要請を行うなどをしていた。	–	–	
22	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	8.学童	18							18		4	3	20.8歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の欠け	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	休憩場所のベンチ付近で立つ児童、座る児童が混在していた。	鬼ごっこの途中で各自が休憩をとるときのルールを作り知らせる。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	休憩場所のベンチ付近で、立つ児童、座る児童が混在していた。	休憩をする時は休むと声に出してもらい、安全に休憩を取れるように配慮する。休憩場所では座るようにしてもらい、休む場合の安全にも気を配ること。	1.いつもどおりの様子であった	氷おにのルールを守り参加していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	氷おにをする児童たちの見守りをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各室でそれぞれの児童を見守っていた。	子どもたちが安全に休憩を取るための方法の周知が不足していた。	子どもたちと危険予知トレーニングを行い、危険回避をして遊ぶ。	
23	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	62							62		18	17	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	–	活動当日の天候と路面の確認を実施する	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度 毎日)回/年	–	滑りやすい、転倒の恐れがある箇所がないか点検実施する	1.集団活動中・見守りあり	圧雪での転倒の危険性を声掛けしていなかった。	児童に転倒の恐れがあることの声掛けを行う	1.いつもどおりの様子であった	館庭で、他児数名と鬼ごっこをしていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	館庭を動き周り、全体をみていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児と砂場あそびをしながら全体を見ていた。	圧雪状態で滑りやすくなっていた。	雪や氷の上で全力で走ると、転倒に繋がる事を児童と再確認した。	
24	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	56							56		6	3	19.7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷による歯牙脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1・2)回/年	2.基準配置	特になし	ヒヤリハット事例や事故事例を共有し，改善策について職員間で共通認識を作る。	1.定期的に実施	実施頻度(13)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	体育館で遊ぶ際にフロアに座ったり横になっている児童がいた。	休憩をとる際は体育館の端など安全な場所で休むようその都度声がけをする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	鬼ごっこ中でいつもより勢いよく、他児童を飛び越えようとしたと思われる。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	広い体育館内では２名が離れて遊びの様子見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	多くの児童が動いていたので、本児の動きを予測することは難しかった。	運動遊びをする前に安全に遊ぶための注意点等の周知が不十分だった。	–	
25	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	31							31		7	6	19.7歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	永久歯欠損	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	全員が下校するまでは開けないことになっていたドアを開けて外を歩いている子たちに声をかけていた。	再度勝手にドアを開けないことを子どもたちや職員間で確認。	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	子どもが勝手に鍵を開けられる状態だった。	子どもの手が届かない位置に鍵をかけるなど対応を取る。	3.個人活動中・見守りあり	約束やルールについて理解が難しい場面が見られる。	個人的に話をして確認をする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	他児より早く帰ってきたので気持ちが高ぶっていたのか、テンションは高めだった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	受入時の態勢で、集会スペースに位置して広く子どもの様子を見ることができるようにしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	畳スペース・玄関スペース・事務スペースに位置し、子どもの受け入れ態勢をとっていた。	本児の様子を気にかけながらも声をかけないでしまった。	情報交換や情報共有をこまめに行い、しっかり連携できるようにする。	
26	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	40							40		5	5	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	走り回る子どもへ、危険箇所の確認を行なう。	こどもたちのあそびの危険予知訓練を定期的に行なっていくとともに、職員同士声がけを徹底し、ケガを未然に防ぐように工夫を行なう。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	花壇や校庭にある段差などについて、普段から子ども達に話しているが、再度一緒に校庭を周りながら確認する。	今後も花壇や校庭にある段差などについて、丁寧に説明していく。	3.個人活動中・見守りあり	夢中で駆け回っている子ども達に、巡回職員が声がけなどをしていく。	校庭で遊ぶときの職員の配置を確認し合い、見守りを徹底していく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも元気に外遊びをする子どもで、かけっこや鬼ごっこをよくしている。	4.対象児の動きを見ていなかった	見守りで近くにスタッフはいたが、転ぶ瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	危険箇所付近に職員を配置し、巡回しながら見守りしており、本児が花壇付近を走り転ぶ瞬間は見ていなかった。	走り回ったりする際に、普段から花壇付近は危険なことを子どもたちに話しているが、走るのに夢中になっており足下の危険を回避できなかった。	こどもたちと一緒に、あそびの中での危険予知訓練を定期定期に行なっていくとともに、職員同士の声がけを徹底しケガを未然に防ぐよう工夫していく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	概要 施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
27	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	137							##		18	11	18. 6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	靭帯損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	-	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度(-)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	花壇内の砂が減り雨水桝が飛び出して段差になっている。	雨水桝のまわりに段差がなくなるよう砂を補充する必要がある。	1.集団活動中・見守りあり	子ども達の遊び場の一部になっている為、鬼ごっごや移動時の通り抜け等に普段から花壇内の砂地に入っている。	雨水桝のまわりに段差がなくなるよう砂を補充する必要がある。	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこをするなど元気に遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児の遊ぶ駐車場側を怪我やトラブル等にならないよう見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	館庭側を重点的に怪我のないよう見守っていた。	外遊びから館内にショートカットして入ろうと、ふざけて飛び越えたと思われる。	支援児が多い中で職員は本館サテライトに分かれており、外遊びだけでなく見守る個所が多い。支援員の配置人数には限りがあり見守りに必要な人員の増が必要と思われる。	
28	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	59							59		5	4	21. 9歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	剥離骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(11)回/年	1.基準以上配置	職員配置は、受け入れ態勢を万全にする為に午前中を手厚くしており、夕方になるにつれて職員が少なくなってしまう体制となっていた。	どの時間帯にも職員がまんべん無く勤務するよう体制を整える。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	安全面を配慮して布ボールを使用していたが、ボールが転がらずに止まっているためかえって事故につながったかもしれない。	布ボール自体に問題が無いかどうかを使用前に十分注意する。	1.集団活動中・見守りあり	春休み中ということもあり、少々子どもたちの気分が高揚している様子だった。	ケガの無いように、遊びに入る度にきちんと注意事項を伝えるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	特に変わった様子は見られなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ドッジボールの審判をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	外遊びや児童クラブ室、図書室等、他の場所でそれぞれ子どもたちを見守っていた。	運動遊びを始める前に，怪我をしないよう準備運動とともに遊びの注意点を伝える必要があった。	遊びがあまり過熱しないように、適度に休憩を挟むなど、クールダウンしながら楽しく安全に遊ぶことができるようにする。	
29	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	60							60		11	6	22. 10歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手中指を骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	なし	館庭内の遊具で遊ぶ際は,各種遊具の危険性を事前指導を実施しながら遊具付近に職員を配置する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	なし	ハード面に関して問題点・改善策はないと思われる。	1.集団活動中・見守りあり	なし	環境面に関して問題点・改善策はないと思われる。	1.いつもどおりの様子であった	精神的にも安定しており普段と変わらない様子であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	当該児童が落下時，見守りの職員の視野に入っていたが，大きな事故になるとは思わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊びを見守る職員は，該当児童が落下するところは見ていない。	なし	改善策なし。その他項目において問題点・改善策はないと思われる。	
30	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	16							16		3	2	21. 9歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	骨挫傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(8)回/年	2.基準配置	なし	なし	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	なし	なし	3.個人活動中・見守りあり	つき山にも担当はいたが、その場面を見た職員はいなかった。転んだことを近くの子どもが知らせてくれ、発見。膝の様子を見て冷やす対応をとった。	全てを見ることはできないものの、担当の職員が全体を把握できるよう気をつけていく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	もともと児童館本館で過ごしていた児のため、分室での生活に慣れず、普段よりは活動的な様子があった。小高い山をかけ下りて転倒し、膝を強打した。	4.対象児の動きを見ていなかった	山に担当職員はいたものの転倒した場面は見ていなかった。他児からの報告により転倒に気づき、すぐに膝の様子を見て冷やす対応をとる。その後、膝が痛むと児からの訴えがあり、保護者・児童館本館に連絡。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当している部分を見ていて、転倒した場面は見ていなかった。他児からの報告により転倒に気づく。戸外の児童の安全確保を行う。	山にも担当はいたが、山の別の部分を見ていたことで、児の転倒に気づくことができなかった。	築山に登る際は、降りてくる児に対して走らず歩いて降りるよう声をかける等、繰り返しルールの説明をして安全に遊べるよう見守っていく。戸外遊び前にルールを再確認してから遊びを始めるようにする。走るとどうなるか等、子ども達が自分で考え危険だという認識を持てるよう伝えていく。担当職員はいたが、その場面を見る職員はいなかったため、全体を見渡せる位置で見守れるよう気をつけていく。	
31	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	14							14		3	3	21. 9歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指第二関節下部骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	対戦相手との力の差がありすぎた。（４年男児）	力の配分の助言や、学年を分けての遊びの実施	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	特記事項なし	異年齢による遊びのため柔らかいボールを使用したが防ぎようのない事故であった。	1.集団活動中・見守りあり	遊びに夢中で少し興奮していた可能性があった。	落ち着いて、十分な距離を保って遊ぶよう何度も声掛けする。	1.いつもどおりの様子であった	遊びに夢中になっていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	瞬間は見ていたが、瞬間に手助けできる位置にいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊びをしている児童に対応していた。	特記事項なし	その他に対する改善策なし	

No	概要					発生時の施設・事業体制											事故			事故状況						事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面							環境面				人的面							
				月	時間帯		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																							死因	負傷状況	受傷部位								実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																
32	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	3						3		1		1	19.7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	子どものテンションが上がり過ぎた	ゲームの楽しさの伝え方の工夫、見通しを持った助言	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	特記事項なし	リングの大きさの見直し、代用品の検討	1.集団活動中・見守りあり	遊びに夢中だったこともあり少し興奮していた。	落ち着かせるための声掛けを行う。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	遊びに夢中になっていた	2.対象児の近くで対象児を見ていた	小さめリングへ同時に向かって走っていた為、衝突が起きてしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊びをしている児童に対応していた。	特記事項なし	その他に対する改善策なし	
33	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	42						42		4		3	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	靭帯損傷、骨挫傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	事故発生時、グラウンドでサッカーをしていた児童8名に対し、職員1名は付いていた。人的不足ではないと判断できることから改善策はなし。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	男児が遊んでいた場所は、学校のグラウンドでできちんと整備されていた。グラウンドは広く、周りに危険な箇所はなかった為、改善策はなし。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	広い範囲で、児童を見守る。	1.いつもどおりの様子であった	屋外での活動(特にたまにしか行けない、学校のグラウンド)は、気持ちがハイになり、活動が活発。	2.対象児の近くで対象児を見ていた	サッカーをする場合、指導員が付いて見守っていた。	2.担当者・対象児の動きをしていなかった	遊具等で他の遊びをしている児童に付き添っていた。	特になし	気を付けてするように声掛けはしていたが、一層強化していく。	
34	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	25						25		4		2	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(5)回/年	1.基準以上配置	とても活発なので雲梯も得意であったため、見守っていた。	より一層の見守り、声掛け	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	校庭のため、雲梯の下が固い可能性あり	落下の時を考え、クッションを敷く等、学校側と相談する	1.集団活動中・見守りあり	なし	今まで通守り状況にあわせて、声がけをする	1.いつもどおりの様子であった	元気に走りまわっていた	2.対象児の近くで対象児を見ていた	人にぶつからない様、転ばないように声掛け	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	トラブルにならないように、事前に声掛け	なし	事故対応の流れについて再度確認し、さらに速やかな対応を目指す。	
35	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	8	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	50						50		4		2	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足骨折	3.子ども同士突もの衝によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	マニュアル、研修、職員配置については適切に実施している。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	特になし	施設、設備については引き続き定期的に安全点検を実施し、学校と連携しながら危険を未然に防止することに努める。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	引き続き屋外での遊び時間には支援員が付き添い、危険な遊びはしないルールを守るよう指導を徹底していく。	1.いつもどおりの様子であった	特になし	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	支援員が決められた立ち位置で見守りを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援員が決められた立ち位置で見守りを行っていた。	特になし	事故発生後の対応(怪我の程度の判断、保護者への連絡、病院受診)の流れについて再確認し、速やかな対応を目指す。	
36	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	25						25		3		3	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	マニュアル、研修、職員配置については適切に実施している。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	特になし	施設、設備については引き続き定期的に安全点検を実施し、学校と連携しながら危険を未然に防止することに努める。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	引き続き屋外での遊び時間には支援員が付き添い、危険な遊びはしない、ルールを守るよう指導を徹底していく。	1.いつもどおりの様子であった	特になし	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	支援員が決められた立ち位置で見守りを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援員が決められた立ち位置で見守りを行っていた。	特になし	事故発生後の対応(怪我の程度の判断、保護者への連絡、病院受診)の流れについて再確認し、速やかな対応を目指す。	
37	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	19						19		2		1	19.7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕上腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	マニュアル、研修、職員配置については適切に実施している。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	特になし	施設、設備については引き続き定期的に安全点検を実施し、学校と連携しながら危険を未然に防止することに努める。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	引き続き屋外での遊び時間には支援員が付き添い、危険な遊びはしない、ルールを守るよう指導を徹底していく。	1.いつもどおりの様子であった	特になし	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	支援員が決められた立ち位置で見守りを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援員が決められた立ち位置で見守りを行っていた。	特になし	事故発生後の対応(怪我の程度の判断、保護者への連絡、病院受診)の流れについて再確認し、速やかな対応を目指す。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
38	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	141							##		13	13	18. 6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	特になし	準備体操後に遊びたい場所を選んで移動する際、子供たちに一斉に動き出すことがなく、落ち着いて移動するよう指導する。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	特になし	安全点検を行っていく中で修理等が必要なものは早急な対応に心がける。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	支援員や児童にケガの事例を伝え、未然防止を重視する外遊びを心がける。	1.いつもどおりの様子であった	好きな遊びを選んで遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	各自、自分の担当箇所の見守りをしていたが、該当児童には気が付かなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各自、自分が担当している箇所の見守りをしていた。	特になし	なし	
39	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	36							36		4	2	18. 6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折（左腕）	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	鉄棒に慣れていない１年生という怪我の可能性を伴う環境の中、それぞれ遊びが異なる10人程度の児童を見る職員が１人しかいなかった。鉄棒に取り組んでいることを把握しておきながら、怪我に繋がる可能性を考えて職員を配置していなかった。	鉄棒や雲梯など落下の危険が伴う遊具を練習中の児童には、注意喚起を怠らないだけでなく可能な限り補助に入り、怪我のリスクを予防する。怪我の可能性を予測し、予防に務められるよう職員配置を適切に行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(250)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	設備・遊具等に不備はなし	1.集団活動中・見守りあり	スイミングの送り出し、個別対応児童が重なり、職員が通常より手薄だった。	やむを得ず職員が不足していると感じた場合は、専属の見守りが必要な遊びをしている児童に声をかけ、遊びを中断してもらうなどして安全面を優先する。適切な人数で見守りが可能になるよう、都度周りの職員と連携を図り、常に安全が保障された環境で支援に臨む。	1.いつもどおりの様子であった	校庭にさける人員が確保出来るまで職員と鬼ごっこをして遊んでいた。一緒に遊んでいた職員が個別対応が必要な児童を所属クラブに引き継いでいる際に、本児は一人で鉄棒に向かった。逆上がり補助板を用いながら鉄棒に取り組んでいた。落ちた瞬間を目撃した人はおらず何が原因で手を滑らせたのか不明だが、本児によると左腕から地面に落下したとのことだった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	個別対応が必要な児童を所属クラブの職員に引き継いでいた際、本児が一人で鉄棒に向かっていたため遠くから見守る形となっていた。職員が不足している時間帯だったこともあり、鉄棒に専属で職員がつくことができず、校庭で遊ぶ10人程度の児童を職員が広く見守っている状態だった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	職員の動きが流動的だったため、本児の動きを常に見守っている職員は配置していなかった。他の職員は隣接する学校敷地内の遊具広場で遊ぶ児童の見守りを行っていた。本児が怪我をする直前に鉄棒に向かった職員が１名いたが、怪我を未然に防ぐには至らなかった。	本児の鉄棒を含め、職員の人数に対し個々の対応が必要な児童・遊びが多かった。	鉄棒に限らず、遊具が伴う危険性を児童に伝え、安全性を児童自ら確保出来るような声かけや注意喚起を徹底する。	
40	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	39							39		4	2	18. 6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外側顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	１年生に対して遊具の使い方についての周知がきちんとできていなかった	遊具の使い方について子どもたち全員に話す。遊具で遊んでいる時は、すぐに声掛けが出来るように遊具の周りに職員が一人つく。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	設備・遊具等に不備はなし	1.集団活動中・見守りあり	上級生が上に乗って遊ぶのを見て、対象児が真似をしてしまった	子どもたち全員に正しい使い方について話をした	1.いつもどおりの様子であった	上級生が上に乗って遊ぶのを見て、対象児も出来ると思って真似をしてしまった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他児の様子を見ていたため、対象児が落下する瞬間に間に合わなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の様子を見ていたため	職員の交代の時間で、数分間外が手薄となり声掛けができなかった	学校とも遊具の使い方について共有し、遊具が伴う危険性を子どもたちに伝え、安全性を子ども自ら確保出来るような声掛けや注意喚起を徹底する	
41	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	35							35		6	2	19. 7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	第二人差し指裂傷、ひび	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	事故を予防する方法について職員間で協議・検討を定期的に実施する。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	特になし	設備等が原因ではないため改善策はなし	1.集団活動中・見守りあり	児童が縄跳びの正しい使い方をしていなかった	玩具を使用する際は、正しい使い方をするように周知する。	1.いつもどおりの様子であった	児童2名が縄跳びを引っ張り合いをして遊んでいたが、1人の児童が手を離したため、グリップ部分が相手児童の指に当たってしまった。	4.対象児の動きを見ていなかった	第二保育室の施錠を行う10分前だったため、清掃作業を行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	第一保育室で支援を行っていた。	保育の終了時間が近づき、児童の数も少なかったことから職員の安全管理意識が薄れてしまっていた	安全管理意識が保たれるように、日頃から事故等の緊急事態を想定して職員間で協議・検討を行う。	
42	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	41							41		5	2	20. 8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	日常の生活や遊びの中で起こり得る事故やケガを防止するため、室内及び屋外の環境の安全性について毎日点検し、必要に応じて補修する。	1.定期的に実施	実施頻度（2）回/年	3.未実施	実施頻度(6)回/年	3.未実施	実施頻度(6)回/年	特になし	事故が予測される遊びについて、子どもに注意喚起と安全点検	1.集団活動中・見守りあり	特になし	本人の能力を超えていそうなあそびは、より注意深く見守る。	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた		1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	近くで木登り中の児童を見守っていた。	特になし	子ども達が日頃より遊んで慣れている場所や遊具でも、怪我や事故に繋がりかねないことを念頭にしっかり見守ること、危機管理を持つことを忘れないよう心がける。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事者	
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		
43	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	27							27		5	4
44	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	17							17		3	2
45	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	25							25		3	1
46	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	101							##		9	2
47	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	34							34		4	3
48	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	41							41		4	3

No	事故			事故状況						
	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰	死亡	負傷		診断名	事故誘因
						死因	負傷状況	受傷部位		
43	18. 6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの
44	21. 9歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上顎前歯歯冠破折・ 下顎前歯部脱臼	3.子ども同士の衝突によるもの
45	21. 9歳	2.女児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足間接外果骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの
46	20. 8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの
47	21. 9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	5.他児から危害を加えられたもの
48	19. 7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下

No	事故発生の要因分析 ソフト面						
	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策
43	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	特になし	正しい遊具の使用法に対する指導の実施
44	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	研修内容を周知徹底させて運営をおこない、マネージャー巡回時に都度状況確認をする。
45	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	帰る時の危険箇所の周知や掲示、声掛けを行う。
46	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	1.基準以上配置	遊具の丸太を飛び越えようとする児童がいる。	危険なことを児童へ伝えて。子どもたちにもどうやって遊べばよいか考えさせた。
47	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(10)回/年	2.基準配置	本人たちも支援員にも予測のできない怪我であった。	支援員の見守りの立ち位置など工夫して死角をできる限り少なくする。密集しないように配慮する。
48	1.あり	2.不定期に実施	年一回程度実施	1.基準以上配置	特になし	事故との関連無し

No	ハード面							
	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策
43	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(49)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	特になし	遊具の設置状況等で問題がないか再確認する
44	1.定期的に実施	実施頻度(開所日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(開所日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(開所日)回/年	特になし	遊具・施設等の確認は毎日指導員が実施する。また、児童が遊ぶにあたり危険な場所はないか、見えづらい場所がないかを確認しながら見守りを実施する。
45	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	施設に起因する事故ではないため改善策なし
46	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	設備の不備ではないので特記事項なし。
47	1.定期的に実施	実施頻度(250)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(250)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(250)回/年	若干グラウンドが乾いていたので滑りやすかったかもしれない。	散水をして、滑らないように配慮する。
48	2.不定期に実施	実施頻度(10～12) 回/年	2.不定期に実施	実施頻度(10～12) 回/年	2.不定期に実施	実施頻度(10～12) 回/年	特になし	事故との関連無し

No	環境面			人的面								掲載更新年月日
	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
43	1.集団活動中・見守りあり	特になし	児童一人ひとりの行動を注意して見守る。	1.いつもどおりの様子であった	普段はブランコの安全柵を越えることはないが、当日は柵に触れていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	常に2，3人で館庭全体に目を配り見守りをしているが、対象児が転倒した瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の遊びの様子を見ていた。	危険を避けるための柵であるが、乗り越えることを察知出来ず注意を怠った。	安全な遊び方をしない等全体の児童に注意喚起するとともに職員も安全管理に対して再度意識を高めるようにする。	
44	1.集団活動中・見守りあり	特になし	児童の見守りをする際は、全体を見られる配置につけるように指導、改善する。また、死角がないかを意識しながら見守りを行う。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	普段から仲の良い二人であったが、突発的に言い争い、もめてしまった。	4.対象児の動きを見ていなかった	事故発生場所（トイレ前）の室内反対側にて別児童の対応をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故発生時は外遊びに出る前で、室内で使った玩具等の片づけやトイレ誘導をそれぞれ他児童と行っていた。	新年度ということで新しく入所した1年生に配慮し保育していくという共通認識があり、全体を見るという事が欠けていた。	事故を全体で共有して、様々な場面で事故が起きうることを認識して、児童の見守りにあたるようにする。	
45	7.その他	特になし	職員がいない状況で発生したため改善策なし	1.いつもどおりの様子であった	クラブ内ではお友達と楽しく過ごしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	自宅へ帰る途中に起きた事案のため、職員は確認できていません。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	自宅へ帰る途中に起きた事案のため、職員は確認できていません。	特になし	クラブ外には危険な箇所がたくさんあるので、安全に登所や降所が出来るよう子どもたちと一緒に危険箇所を確認し、話合いを行う	
46	3.個人活動中・見守りあり	丸太を飛び越え遊ぶ児童が多数いる。	飛び越えるような危ない遊びはしないよう注意する。危険な状況にならないよう予測して声かけする。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子で遊具のまわりで数名の児童が遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	見守りはしていたがバランスをくずして左腕を打つまで動作が一瞬だったので間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は数人の児童に話しかけられ対応していて気付かなかった。	当該児童の動きを事前に予測して、もう少し早く声掛け等の対応ができた。	児童だけではなく職員配置にも気を配る。職員が気を配るのはもちろん子どもたち同士でも危険な遊びになってないかお互いに確認をさせる。	
47	1.集団活動中・見守りあり	ゲームを中断させていた時の事故。	常に子どもたちの動向を観察しておく必要があった。	1.いつもどおりの様子であった	当該児童は行動も活発で、当日も元気に外遊びに参加していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	散水のために一時遊びを停止させていたところ。至近で見守りをしていたが、咄嗟のことで事故を未然に防げなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	散水をしていたので見ていなかった。	普段仲の良い子ども同士の接触事故であり、ふざけあっていたことが起因。	特になし。	
48	1.集団活動中・見守りあり	特になし	外遊び中は、事故発生の可能性の高い遊具付近については特に注意して見守るようにする。	1.いつもどおりの様子であった	普段と特段変わった様子はなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	雲梯の隣にある鉄棒付近にて見守りをしていた。本児が遊具から落下した瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	グランド全体を見て見守りをしていた。	特になし	遊具で遊ぶ際など注意が必要な時には、職員が分担して近くで見守るようにする。危険な行動が無いよう児童に声掛けをする。	

No	初回掲載年月日	概要：認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期：月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制：発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳：0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故：年齢	性別	特記事項	事故状況：発生時状	事故の転帰	死亡：死因	負傷：負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析：ソフト面：マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面：施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面：教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面：対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
49	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	10							10		5	2	18. 6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	年１回程度実施	1.基準以上配置	特になし	事故との関連無し	2.不定期に実施	実施頻度（10～12）回/年	2.不定期に実施	実施頻度（10～12）回/年	2.不定期に実施	実施頻度（10～12）回/年	特になし	事故との関連無し	1.集団活動中・見守りあり	特になし	外遊び中は事故発生の可能性が非常に高いので、注意して見守るようにする。	1.いつもどおりの様子であった	普段と特段変わった様子はなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	サッカーをしており少し離れて全体の見守りをしていた。本児がシュートを止めようとした瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	グランド全体を見て見守りをしていた。	特になし	集団で遊ぶ際など注意が必要な時には、職員が分担して近くで見守るようにする。危険な行動が無いよう児童に声掛けをする。	
50	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	40							40		3	2	18. 6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	年１回程度実施	1.基準以上配置	特になし	事故との関連無し	2.不定期に実施	実施頻度（10～12）回/年	2.不定期に実施	実施頻度（10～12）回/年	2.不定期に実施	実施頻度（10～12）回/年	特になし	事故との関連無し	1.集団活動中・見守りあり	特になし	外遊び中は事故発生の可能性の高い遊具付近については、特に注意して見守るようにする。	1.いつもどおりの様子であった	普段と特段変わった様子はなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	ターザンロープを揺らして遊んでいた上級生２人にやめるよう注意していたところ、後ろで本児がマネをした。落ちた瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	グランド全体を見て見守りをしていた。	特になし	遊具で遊ぶ際など注意が必要な時には、職員が分担して近くで見守るようにする。また危険な行動が無いよう児童に声掛けをする。	
51	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	76							76		7	6	19. 7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度（1）回/年	3.基準以下	児童全体として疲労感がみられた時期でもあった。4月以降に制限がなくなり、児童の動きが活発となったが体がついてきていない。	児童全体へ、遊びだけでなく準備運動の重要性も含めた体力向上を図る。	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	特になし	ハード面の改善策はなし。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	石等の障害物はなかったが、ボールを除ける際につまづいてしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	タスケの監視	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	タスケ・なわとび等を監視	特になし	特になし	
52	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	124							##		15	9	18. 6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	ひび	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし。	研修に関しては、毎年意識して職員が受けていけるとよい。	1.定期的に実施	実施頻度(200)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(200)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(200)回/年	学校の遊具に対して、子どもたちが扱いなれていない部分がある。今回はサッカーゴールの網に引っかかったという所で、思いがけない本児の不注意もある。	学校の設備のためハード面での改善は難しい。ソフト面、環境面で対応していく。	1.集団活動中・見守りあり	学校の遊具に対しての理解についてはオリエンテーションの時に説明していることと、今回は自ら転んで生じてしまった怪我だった。	改めて、今回の怪我を子どもたちとも共有しながら学校の遊具に対しての理解を深めてもらう。	1.いつもどおりの様子であった	サッカーゴールの網に手を入れていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	サッカーゴールの近くで危険な動きをしていないことはわかるが、実際転ぶところまでは把握できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ自分の範囲の子どもたちを見守っていたため、サッカーゴールでの対象児の動きは見えていなかった。	網で遊んでいる訳でもなかったので、転んでしまったことが原因と考えられる。	怪我が起きたことを職員、子どもたちに共有する。	
53	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	53							53		6	4	20. 8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	色々な動きの遊びを同時に行っていた。	遊びによって時間を分けるなど見守りやすい工夫をする。	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	地面が若干、凸凹していた。	遊具や玩具だけでなく、小石など児童が遊ぶ場所の点検も行うようにする。	3.個人活動中・見守りあり	色々な学年の子が遊んでいる中で、遊びの区分けが十分でなかった。	動きの大きい遊びやそうではない遊びなど、遊び方によって場所を決め、お互いの干渉を減らしていく。	1.いつもどおりの様子であった	登所してからは、いつも通り支度、学習をして外へ出てきた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	集団遊びを見守りながらも全体を見ていたので、対象児が何をしていたかも視覚でとらえていて転倒時も見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	学童クラブでの生活に慣れていない1年生を中心に見守っていたため、対象児童が何をしていたかは知っていたが転倒するところは見ていなかった。	一人遊びをしていた対象児童に対し、集団遊びに誘う声掛けが積極的ではなかった。	一人で遊んでいる児童に対し遊びの誘いを増やしていく。	

No	初回掲載年月日	概要：認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時：月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制：発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳：0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故：年齢	性別	特記事項
54	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	60							60		7	3	18.６歳	1.男児	
55	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	36							36		6	4	19.７歳	1.男児	
56	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	26							26		8	7	20.８歳	1.男児	
57	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	8.学童	66							66		8	7	21.９歳	1.男児	
58	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	36							36		7	3	19.７歳	1.男児	

No	事故状況：発生時状	事故の転帰	死亡：死因	負傷：負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面：マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策
54	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施	実施頻度( )回/年	2.基準配置	学童クラブに入所して間もない１年生はジャングルジムなど危険な遊具の使用を制限するなど配慮が必要であった。	予防に関する研修への参加。
55	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕下腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度( )回/年	2.基準配置	事故予防に対するマニュアルがなく事故予防に関する研修も行えていなかった。	マニュアルを作成し、事故予防に関する研修を施設内で取り組んでいく。
56	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	鼻骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(３)回/年	1.基準以上配置	遊び前、ボールを取りに行くといった状況についての約束を明確にしていなかった。	ボールが飛んで行った際には、児童の１人が取りに行くように声掛けをする。２人以上でボールを取りに行った際には、話し合い又はジャンケンでボールを所持者を決める様に指導する。子ども達が目のまえの遊びに集中しすぎないよう、１ゲームの時間を定めたり水分補給の声をかけるといった休憩時間を設ける。
57	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	左上１歯槽骨骨折、左上１脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	本児がボールを避ける時にバランスを崩し、手をつくことが出来ずに転倒してしまった。	自ら転倒したものであるが、職員は危険な状況にならないよう声掛けを行うようにする。児童の動きが無理なものにならないように全体周知を行う。
58	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首剥離骨折(じん帯を痛めている可能性もあるとのこと)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	特になし	特になし

No	ハード面：施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面：教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面：対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
54	1.定期的に実施	実施頻度（１２)回/年	2.不定期に実施	実施頻度（１２)回/年	2.不定期に実施	実施頻度（１２）回/年	特になし	ジャングルジムの使用制限、または使用禁止。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	普段より職員数が少ない場合は、活動エリアを制限する。	1.いつもどおりの様子であった	普段と特変はなく、仲の良い友達とドッジボール、ジャングルジムで遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	普段より職員数は少なかったが、外遊びの見守り配置はいつも通りであった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ジャングルジムで遊んでいたことは把握していたが、隣のブランコの見守りも同時に行っていた為、転落の瞬間は目をはなしていた。	特になし	ジャングルジムの下に職員を配置する。	
55	1.定期的に実施	実施頻度（１２)回/年	2.不定期に実施	実施頻度（２、３）回/年	2.不定期に実施	実施頻度（２、３）回/年	園庭の砂利にでこぼこがあったためと思われる。	園庭は雨天時以外毎日ブラシをかけている。子ども達にも砂遊びの場所について話をしていく。整備は補助員が行っているが、常勤職員も入りながら状況の確認を行う。	1.集団活動中・見守りあり	園庭の砂利をいじる児童が多く、地面がでこぼこになっていた。外遊び中の帽子の着用が徹底されていなかった。	砂遊びは砂場でするように徹底をする。帽子の着用をするように徹底をする。	1.いつもどおりの様子であった	ドッジボールに参加をしていて、本児が帽子を被っていない事を他児が声をかけ、帽子を取りに走り出し転倒した。帽子は着用必須であったが、その時に本児はなぜ帽子をベンチに置いたままにしていたかは覚えていない。	4.対象児の動きを見ていなかった	ドッジボールに13名の児童が参加していて、発生時に本児とは反対側にいた児童に話かけられた為、本児が転倒時に見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	発生時3名の職員がいたが、２名はそれぞれ他児童の遊びを見守っていた。	園庭の砂利をいじる児童が多く、地面がでこぼこになっていた。外遊び中の帽子の着用の声掛けが徹底されていなかった。	特になし	
56	1.定期的に実施	実施頻度毎日	1.定期的に実施	実施頻度毎日	1.定期的に実施	実施頻度毎日	遊びの内容と、参加人数に応じた十分なスペースが確保できていたか。	急に参加する子どもが増える遊びである為、人数状況に応じて場所を移動して十分なスペースを確保する動きや、子ども達に使えるスペースを伝えて、密集しすぎないように声掛けを行う。	1.集団活動中・見守りあり	遊びの約束事の事前確認が不足していた。また、トラブル発生時の職員の声掛けや速やかな介入が遅れてしまった。	遊ぶ子ども全体の動きと使用状況を把握し、事故怪我を未然に防ぐ為の声掛けを事前と新たに参加する子どもが増える都度行う。また、トラブルの予兆が見られた時には速やかに介入する。	1.いつもどおりの様子であった	ドッジボールの際、遠くに飛んで行ったボール友人と共に拾いに行く。友人がボールを拾ったが、自分が投げたかった為、友人からボールを奪おうとする。しつこくボールを奪い取ろうとした為、友人がボールを手元から地面に落とし、友人の手が空いた瞬間に、押し倒されて怪我をする。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	両児童がボールの取り合いをしているのを目撃し、職員はボールの取り合いを止めるよう大声で注意するが、声が届かなかった。注意後も両児童がボールの取り合いを続けていたので、職員は止めに入る為に両児童の元へ向かう。職員が向かっている途中で、友人が対象児のことを押し倒す形となり、怪我が発生する。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員が対象児と共にドッジボールをしていた為、その他の児童の様子を見守る。対象児の怪我の発生後、担当職員から声が掛かり、すぐに対象児の手当てに入る。	子どもが遊びに対して集中しすぎていないかの確認が不足していた。また、審判役の職員の声が掛かったら手を止めるといった約束が徹底されていなかった。	予め遊びに行く前に子ども達への休憩についての約束をする。目のまえの遊びに集中しすぎないよう、１ゲーム辺りの時間を定めたり水分補給の声をかけるといった休憩時間を設け、クールダウンをして落ち着いた状態を作る。	
57	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(週一)回/年	本児がボールを避ける時にバランスを崩し、手をつくことが出来ずに転倒してしまった。	今回は特に施設の不備などはなかったが、児童の転倒を招くような状態を作らないことを心掛ける。	1.集団活動中・見守りあり	見守りはしていたが、突発的な転倒の為、職員で防止できなかった。	自ら転倒したものであるが、職員は危険な状況にならないよう声掛けを行うようにする。児童の動きが無理なものにならないように全体周知を行う。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	他児数名と共にボール遊びに熱中していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ボール遊びを行う際には職員が付くようにしているため、当日もボール遊びのコートサイドからで見守りをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は別の部屋の見守りを行っていた。	コート外で見守りをしており、突発的な転倒のため職員で防ぐことは難しい案件だった。	特になし。	
58	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	校庭の状態に問題はなかった。	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	見守り自体は問題なく行われていたため、改善策については後述の人的面の要素からアプローチを行う。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	元々活発な性格であるうえに、屋外遊びを好む児童である。遊び場に早くたどり着きたいという気持ちがあり、つい走り出してしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	引率の支援員(１名)が見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の支援員及び補助員（計５名）も各々の持ち場の遊具のある場所から遠目に引率の様子を見守っていた。	特になし	特になし	

No	初回掲載年月日	概要：認可・認可外	概要：施設・事業所種別	事故発生時期：月	事故発生時期：時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳：0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故：年齢	性別	特記事項	事故状況：発生時状	事故の転帰	死亡：死因	負傷：負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面：マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面：施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面：教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面：対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
59	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	142							##		15	11	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	開放骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	本児の不注意であったため、防ぐのは困難であった。	2.不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	本児の不注意であったため、防ぐのは困難であった。	4.個人活動中・子どものみ	特になし	児童と一緒に外に出れるよう外に記名簿を設置し、外で人数を把握する方法を実施。	1.いつもどおりの様子であった	一番に点呼を終えて外遊びへ。ジャンプ台の上で腹ばいになるようにして乗っていた。バランスを崩して落下。（高さ1mほど）	4.対象児の動きを見ていなかった	室内にて外遊びに行く児童の点呼をしており、外に出れていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	校庭開放スタッフ２名、放課後支援員1名	特になし	屋外活動での遊び方、遊具の使い方など再周知して児童自身も気を付けるように声掛けしていく。	
60	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	122							##		13	8	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	背骨にヒビ	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	急に職員2名の病休があり万全の態勢ではなかったが、見守りのポイントが外れていた。	見守りのポイントを職員数によって変更する。	2.不定期に実施	校庭施設については、危険個所を確認次第学校へ報告している。安全点検は学校の用務員が実施。	2.不定期に実施	子ども館の遊具は必要に応じて不定期で実施。	2.不定期に実施	子ども館の遊具は必要に応じて不定期で実施。	特になし	特になし	3.個人活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	鉄棒で回るのではなく、ただぶら下がりたかったという思いで遊んでいたとのこと。体力的にどこまでできるか本児も理解が難しかったと思われる。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	鬼ごっこや大縄跳びで遊びたい児童が多かった為、児童数が多い場所で見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	上の校庭でサッカーや野球で遊ぶ児童を見守っており、上校庭から現場は死角になっているので確認することは困難であった。	特になし	上下校庭に支援員は配置していたが、鉄棒付近にはいなかったため、今後鉄棒で遊ぶ児童がいる場合には、危険防止対策として支援員が近くで見守るよう配置する。	
61	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	162							##		17	11	20.8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置	特になし	本児の不注意であったため、防ぐのは困難であった。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	怪我の起きにくい育成環境となっているかどうか職員全体で確認する。	危険箇所がある場合は速やかに職員全体で共有し、対策を施す。	1.集団活動中・見守りあり	砂場は放課後は使用しないので、ブルーシートがかけられていた。	実際に児童が使う遊具だけでなく、校庭に置いてあるものの危険性についても支援員が意識し児童に伝えていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつものように数人の友達と鬼ごっこをしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	特に気になる様子は見られなかったので、全体を視野に入れながら見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	砂場の周囲は危険な場所という認識はなかったので、特別に意識して見守っていなかった。	児童が走り回っている場所に、足を取られる等危険箇所があることを予測して声かけをすることができていなかった。	見守りの立ち位置を工夫し、隅々まで目が届くようにする。思いがけないもの怪我につながるということを支援員全体で共有する。	
62	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	2	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	95							95		9	5	19.7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	痛がっていないか職員が何度も確認の声掛けをする。	2.不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	子どもが使用するテーブルの高さを配慮していく。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	混み合う状況を作らないように配慮していく。	1.いつもどおりの様子であった	読みたい本を読み楽しんでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	同じ部屋にいた職員が全体を見ている中ですぐに気づき対応した。その状況を第2クラブの職員に知らせてくれた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	本人が本を読んでいたい。と言う間はそのまま様子を見守ることにし、手首を痛がり出したら第2クラブに戻ってもらい、腫れてきたので保護者に連絡をした。	特になし	痛がっていたらすぐに病院に連れていくようにする。	
63	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	27							27		4	4	20.8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	腓骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	実施頻度(０)回/年	1.基準以上配置	特になし	全体に改めて遊具の使い方の指導を行い、自分がやらないのはもちろん、自分以外の子や学童外の子が危険な行為をしていたら止めるか近くの指導員に知らせるようお願いした。指導員間でも安全に配慮した保育ができるよう情報共有している。	1.定期的に実施	実施頻度(３)回/年	3.未実施	実施頻度(０)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	遊具に欠損や異常は無かったので改善するところは無いが、危険箇所を発見した場合は指導員間で共有し、子どもたちにも伝える。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	広い校庭で15名ほどを２名で保育している中で、一人一人の全ての行動を把握する事や子どもの突発的な行動を防ぐ事は難しいが、できる限り注意する。	1.いつもどおりの様子であった	新しくお友だちになった学童外のお友だちと楽しそうに遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	アスレチックで遊んでいた様子は見ていたが、飛び降りた瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児童と関わっていた。	学童外の新しい友だちと遊んでおり、お互いの身体能力の差も分からない事を加味して注意深い保育が必要だった。既定の指導員数以上は配置しているが、既存の指導員数では付きっ切りで見守る事が難しく、安全を確保しきれない。	危険な行為をしないように当人及び学童全体に注意する。見慣れない友だちがいる時には特に注意して保育する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
64	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	30							30		4	3	19. 7歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第5趾基節骨骨折	8.その他	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	室内遊びの見守りを支援員が行っていたが、児童が全体的に落ち着いていたため注意がおろそかになった。	室内で静かに遊んでいるときもけがをするおそれがあることを指導員で共有し、見守りに努める。室内でけがをするおそれがある箇所を児童に共有する。全体的に児童を見守る支援員を配置する。	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	廊下等は指導員のいる室内からは死角になっており、様子がわかりづらかった。	欠損や異常のない壁で負傷したため、ハード面での改善は難しい。指導員の目が届きづらい箇所は児童に共有し、児童が近付く場合は、気を付けるように声を掛ける。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	なし	1.いつもどおりの様子であった	室内遊びをしており、お手洗いに行くため廊下へ向かった。	4.対象児の動きを見ていなかった	お迎え対応や他児童の見守りを行っていた。児童から足をぶつけた報告がなかったため、後日けがの事実や発生状況を把握した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内の他の児童を見守っていた。	児童が周りが見えていないことも要因として考えられるので、指導員が周辺の状況を見ながら気を付けるように声掛けをする。	日常の生活の中でも危険があることを指導員が児童に伝え、室内でも落ち着いて過ごすように声掛けをする。	
65	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	5	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	57							57		6	2	19. 7歳	2.女児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	今年度は１年生の在籍が50名と多く、１年生の迎えに支援員が必要となり、上級生への配慮が手薄になってしまった。	2年生以上の児童は支援員が付かず学校から一人で帰ってくるが、帰り道で見守ることができると事故防止または早い発見ができるのではないか。	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	学校から出てすぐの道は車が停車している場合が多く、縁石にも躓きやすい。	学校へ行き来する時に危険な場所や歩き方伝えを安全な歩き方の再確認をする。	4.個人活動中・子どものみ	いつも一緒に帰る同級生が欠席のため一人で帰った。遅くなり、両手に荷物を持ち走って帰ったとのこと。	走らずに余裕をもって安全に歩くように繰り返し伝えていく	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	いつも一緒に帰る同級生が欠席のため一人で帰った。	4.対象児の動きを見ていなかった	帰ってきて泣いていたため話を聞く。痛む箇所の手当てをする（冷やす）。保護者への連絡をして早いお迎えをお願いする。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	数名でケガの様子、児童の様子を確認。全員で共有。当該児童が安静に過ごせるように他の児童の遊びを見守る。	同級生が周りに誰もいない時間に一人で帰ることになり急いで走ってしまった。	定期的に支援員は帰り道を見守る。児童にも危険行為を目撃したら具体例を挙げて注意をし、安全にゆっくり帰ることを伝えていく。	
66	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	74							74		6	4	20. 8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	ヒヤリハットの検討がいかされていない	日頃よりヒヤリハット等、事故防止についての検討会を充実させる	1.定期的に実施	実施頻度(毎回)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎回)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎回)回/年	遊ぶ範囲の確認を怠った	支援員、児童共に遊ぶ範囲の確認、危険行為の確認を行う	1.集団活動中・見守りあり	児童の体格に対し危険な高さであった	児童の体格や運動能力を見極め、早めに声をかける等の対応をする	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わらない様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	児童3名が藤棚付近で遊んでいたのを見守る	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他支援員1名補助員2名で担当の場所に配置	支援員はすぐそばで見ていたがクラブ外の保護者に話しかけられ児童に対する声掛けが遅れてしまった。	常に危険かもしれないということを意識し、共通認識を持っておく	
67	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	5	9.夜間・早朝（泊り保育）	1.施設敷地内(室内)	8.学童	11							11		2	1	19. 7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	事故予防マニュアルの作成がなく、事故予防に関する研修が行われていなかった。	事故予防マニュアルを作成し、危険予知トレーニング等を定期的に開催する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	集団遊びなどで子ども達が密になりやすい。	見守りが手薄になる時間帯は部屋を限定し見守れる体制とする。	2.集団活動中・子ども達のみ	子ども達が自主的に遊んでいたため、部屋によっては活発的な遊びを行っていた。	自由時間であっても職員が常に見守れる体制をとって、子どもが危険な場面では声かけができるように支援を整える。	1.いつもどおりの様子であった	宿題を終えた後、室内遊びをしていた。激しい遊びはせず静かに過ごしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	玄関で保護者対応をしていた。他児童から報告がありかけつける。本人に声かけをするも苦しそうに返事をする。児童の保護者(父)と連絡がつき、クラブに向かうとの返答あり。まわりにいた児童にも話を聞く。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	勉強部屋で他の児童の見守りをしていた。	保護者対応する際に見守りが手薄になってしまっていた。	保護者対応など、子どもの見守りから離れる際は、他職員に声をかけるなどしてすべての子どもを見守れる体制とする。	
68	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	9							9		2	1	23. 11歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足親指成長軟骨の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(数)回/年	2.基準配置	特になし	職員の配置も不足なく、事故防止のためのヒヤリハットの検証も行っているため改善点はなし。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	施設の安全点検や遊具、玩具の安全点検は適切に行っているため改善点はなし。	1.集団活動中・見守りあり	児童はつまづく前から、他の児童に体をぶつけたりしてふざけている様子があった。	日頃から、度が過ぎたじゃれあいは気をつけるようにしようと児童に伝えている。	1.いつもどおりの様子であった	友達とじゃれて遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	児童が友達同士でじゃれて遊んでいる様子を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体を見守りながら対象児童の動きを見ていた。他の児童も見守るため至近距離にはいなかった。	特になし	今回の件について、その他考えられる要因等はない。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	概要 施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
69	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	9							9		6	5	23.11歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肩骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	児童の人数に対して、必要な配置人数の支援員が欠ける時は必ず代わりの支援員を配置するような連携をとることをマニュアルに追記した。	1.定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	今回の事故と関連性が低いため特になし	1.集団活動中・見守りあり	支援員を先頭に児童を列に並ばせ移動中に、門扉のカギを開けるために子どもたちの列に背を向けていた。	運動場での活動中は２人体制と取れていたが、先に保育室に帰る子に付き添った等１人で移動させることのないよう体制が整ってから移動を開始する。	1.いつもどおりの様子であった	戸外遊びが終わり、列になってならんで歩き門扉の前で支援員が鍵を開けるのを待っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	１人の支援員が先導して戸外遊びから並んであるいていた。門扉の鍵を開けるため児童に背を向けている状態であった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	本来列の最後尾に１人支援員がついて引率するが、他児の対応のためその場を離れており鍵が開くのを待っている児童を見守ることができなかった。	戸外遊びをしていた児童の人数に対しての職員配置は適切であったが、入室する際の急な対応のため事故現場に支援員が１名欠けたこと。	その他考えられる要因がないため、特になし	
70	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	25							25		6	4	19.7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	研修に対し伝講による危険予知に対する話し合いや見守りの際の立ち位置など具体的な話し合いが足りなかった。	館内で事故予防に関する勉強会を定期的に行ないながら、各自の意識を高めていく。	1.定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	部屋の一角に子どもがひとり入れるだけの隙間があるため、追い詰められると出られなくなるスペースがある。	部屋のレイアウトを変更することで一角にある隙間をなくした。	1.集団活動中・見守りあり	消毒、部屋の清掃、トイレ掃除などをするため、別の部屋にいた支援員もおり子どもたちの見守りが手薄になっていた。	消毒、部屋の清掃、トイレ掃除等の開始時間を変更して、より多くの支援員で見守りができるように改善する。	2.いつもより元気がなかった(理由を記載)	執拗に一緒に遊ぼうと誘ってこられることが嫌で泣いていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	険悪な状況であったため至近距離での見守りをしていたが、他児童が２人の状況について担当支援員に説明をし始めたため、そこに注意が向いてしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別室で作業をしていたため気づくことができなかった。	手の届く距離に児童がいたにもかかわらず、話しかけてきた児童の方に気を取られてしまい２人のいさかいを止めることができなかった。	いつ如何なる時も児童の様子が視界の中に入るよう、立ち位置を考えながら支援に当たるようにする。	
71	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	18							18		4	3	23.11歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首舟状骨骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	当該児童は児童の中でもドッジボールが上手く、下級生が投げたボールによる事故で初歩的な補球ミスによる要因以外は考えられない。	自分より下の学年にボールを投げるときは手加減をするように日頃から言っているため、引き続きその指導は継続し、緩いボールでもしっかり見て補球する指導を加えていく。	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	今回の事故は施設・設備等によるものとは考えにくい。	今後事故が起こることがないとは言えないので市教委の指導の下、上記安全点検を継続していく。	1.集団活動中・見守りあり	園庭のコンディションも良く、児童の人数やコートの大きさも適切であり、環境面での要因は考えにくい。	改善策としては見当たらないが、コートの大きさやグラウンドのコンディションに関してはこれからも最新の注意を払う。	1.いつもどおりの様子であった	2～6年生児童の男女8～15人がドッジボールをしており、ドッジボールが好きな当該児童は進んで中に入り楽しく遊んでいた。ボールが右手に当たった後もゲームを続けていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	指導員がホイッスルで審判をしながら全員の動きを把握していた。補球ミスに対してアウトにしたが、その後も当該児童がゲームを続けていたため異常には気付かなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	室内遊びをしている児童に1人、屋外遊びをしている児童に3人が指導に当たっていた。3人のうち1人は運動場で指導に当たり、1人がドッジボールの審判と指導をし、1人は屋内と屋外を見守ったりドッジボールの指導に入る等していた。	当該児童は児童の中でもドッジボールが上手く、下の学年が投げたボールによる事故であることから、初歩的な捕球ミスによる要因以外は考えられない。	今まで以上に児童の活動中の様子及び活動後の様子についてよく見て、いつもと違う様子はないか気にかけていく。	
72	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	32							32		4	1	24.12歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		6.その他	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	特になし	8.その他	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	アルバイトも含めてミーティング等で情報共有を図る。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(250)回/年	特になし	特になし	3.個人活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り元気に過ごしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児童とは違う児童と接していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	屋外遊びから室内へ戻るときだった為見れていない。	特になし	アルバイトも含めた指導員全体で、児童の注意すべき既往症やアレルギー等を共有しておく。	
73	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	99							99		10	4	21.9歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	特になし	児童からの聞き取りに重点を置き、異変を迅速に察知し行動する。	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(10)回/年	特になし	不定期から、定期的に検査するよう努めて実施する。	1.集団活動中・見守りあり	地域の子どもが自転車に乗り現れたことで気持ちが高揚し、自転車を追いかける。	気分が高揚したことに一早く気づき、落ち着きを取り戻せるよう声かけをおこなう。	1.いつもどおりの様子であった	普段遊んでいる子を見かけ、一緒に遊びたいとの気持ちが高まり、自転車を追いかけ道の端を通ったことによる怪我であった。	4.対象児の動きを見ていなかった	施設外の移動中に起こり現場を見ていなかったが、児童とのすり合わせで出血の手当は迅速に対応。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育場所以外での怪我で、対応は担当の指導員が行なっていたので、連絡・報告を対応。	特になし	特になし	
74	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	83							83		6	4	20.8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左示指中指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	3.個人活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	とくに変化はなくいつも通りの様子だった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	遊びを見守ることのできる位置で見守っていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	離れたところにいる指導員からは死角になる場所であった	特になし	特になし	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
75	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	63							63		8	5	23.11歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折（左足の小指）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1～2)回/年	2.基準配置	特になし	迅速な対応はできたが事故発生時後は支援員間で内容の共有、経過観察が必要である。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	ケガに繋がる行動をとっていないか、危ない場所がないかを確認し、安全に遊べる環境作りが必要である。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	外は広く子ども同士の距離感も室内よりはとれるが、動きが大きくなるため注意を払い、事故が起きる前に防げる声掛けが必要である。	1.いつもどおりの様子であった	室内で工作を作り終えてから同じ学年の児童２名がいる外にでてきた。人数も少なかったのでサッカーの試合ではなくサッカーボールを蹴っていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	同じようにボールを蹴っていて痛いと声がきこえ振り返ると左側面を地面につけうずくまるように倒れる。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童を見ていた為グラウンドから２名に支えられて室内に戻る様子を目撃していた。	特になし	児童のサッカーのスキルを理解し、事前に声掛けや注意を促す。	
76	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	125							##		17	8	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘頭骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	支援員によって見守りの仕方が異なる	マニュアルを制作する	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度毎日	特になし	ジョイントマットを2重にする	1.集団活動中・見守りあり	特になし	児童の人数によっては見守りが不十分になる可能性があるため、その時は遊具の使用をやめる	1.いつもどおりの様子であった	元気に帰ってき、食欲もあった。活発に外で遊んでいた。ケガの後おやつも食べた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	1～2メートル離れたところで見ていた。児童は一つ一つのうんていを速いスピードで進んでいた。一瞬で落下したので守れなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の児童のほうの見守りをしていた	先に進もうとすると勢いをつけるため、手が届かないと落下する	うんていをするときは支援員が傍につき見守りを強化する	
77	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	43							43		4	4	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	ミーティングでその都度実施	2.基準配置	小学３年生	職員同士で事故の原因等を振り返り、児童の見守りに際しては、十分注意するよう周知した。	1.定期的に実施	開所日は毎日実施	1.定期的に実施	開所日は毎日実施	1.定期的に実施	開所日は毎日実施	学校では禁止されていないものの、高さのあるうんていの使用が１年生にとって危険があるかもしれない。	高さのあるうんていを１年生に使用させることについて、安全面を考慮して検討する。	1.集団活動中・見守りあり	雲梯の高さが児童の能力に見合っていなかった可能性もあるが、バランスを崩して落ちたことが今回の怪我につながった。	児童の挑戦したい気持ちを尊重しつつ、高さのある雲梯の使用に当たっては、声掛けと見守りを強化し十分注意することとする。	1.いつもどおりの様子であった	いつも使用している遊具で手が滑り、バランスを崩して落下した。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	雲梯には4～5人の児童が順番を待っており、その周囲には2～3人の児童が遊んでいる中で、雲梯をやっている児童を手前から見守っていた。そうしたところ当該児童が落下するのを目撃し、すぐに駆け寄った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の場所で児童の見守りをしていたが、怪我をした児童がいる報告を無線で受け、周囲の児童への目配りをするとともに、支援員の抜けた場所の見守りに移動した。	見守る支援員の人数が不足していたことも一因だと思われる。	危険予知トレーニングの実施及びヒヤリハット事例の共有を再度行う。	
78	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	45							45		4	1	20.8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘 骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	児童の運動場使用範囲を利用人数・支援員人数に合わせて変動させる必要があった。	正しい使い方をしていても怪我につながることがあることを共通認識する。ヒヤリハット研修を支援員ミーティングの時に導入する。	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	学校管理施設でも共有で使用する遊具は丁寧に点検する。	開所前の安全点検をより丁寧に実施する。危険だと思ったら学校に知らせる。	1.集団活動中・見守りあり	児童が遊びを選択する中で、他児童との関わりを援助する必要があった。	長期休業時など1日開所する場合、状況に応じて外遊びの範囲を限定する。	1.いつもどおりの様子であった	ほかの友達がけいどろをやっていたため、仲間に入るかどうか迷っている最中だった。	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児以外の児童たちの様子を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	外の配置支援員は２名、室内に3名おり瞬間的な場面は見ていなかった。	外遊び中の支援員人数と配置場所を再検討する。	外遊びの時、支援員はインカムを使用する等して情報を共有する。	
79	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	40							40		7	5	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	鼻骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	特になし。	支援員間の情報共有を徹底し、再発防止に努める。	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	タイヤが滑りやすい	本年度内に安全計画を策定し、定期的な安全点検を実施していくよう計画する。危険な箇所・玩具を発見した場合は速やかに報告・対処するよう職員へ共有する。	3.個人活動中・見守りあり	特になし。	雨の後など、滑りやすい時にはタイヤ遊具を使用しないように児童に指導する。	1.いつもどおりの様子であった	他児童とタイヤ遊具遊びをしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	当該児童を含め、児童たちの様子を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児童たちを見守っていた。	怪我直後は児童から訴えがなく、異変への気付きが遅れた。	保護者との情報共有を密に行う。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
80	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	44							44		4	3	19. 7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首の剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	特になし。	支援員間の情報共有を徹底し、再発防止に努める。	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	特になし。	本年度内に安全計画を策定し、定期的な安全点検を実施していくよう計画する。危険な箇所・玩具を発見した場合は速やかに報告・対処するよう職員へ共有する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし。	危険行為等に対して注意・呼びかけを行う。	1.いつもどおりの様子であった	他児童達とサッカーで遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	当該児童を含め、児童たちの様子を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児童たちを見守っていた。	怪我直後は児童から訴えがなく、異変への気付きが遅れた。	保護者との情報共有を密に行う。	
81	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	38							38		4	2	18. 6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手薬指骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	支援員、補助員の立ち位置を見直した	グラウンドに配置する支援員、補助員の人数の見直しと見守りの徹底	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	ハード面は問題なし	ハード面は問題なし	1.集団活動中・見守りあり	支援員の見守る中、1人の児童が転倒し一瞬の出来事で防ぐ事が出来なかった	外での活動では夢中になっている児童への声掛けを多くし、落ち着いて行動するように指導する	1.いつもどおりの様子であった	外で他児童とサッカーを行っていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	少し離れたところから見守っていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	痛がる様子等が見られなかった為、気付くことが出来なかった	研修等の徹底	準備体操をする。グローブをはめる。キーパーはグーで返すようにする。また児童が怪我をした場合にはすぐに申し出るよう、児童へ周知する。	
82	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	30							30		4	2	19. 7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	ソフト面は問題なし	ソフト面は問題なし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	校庭を森と鉄棒付近に場所を区切って使用していたが目の届かない場所があった	全体を見通せるよう使用するエリアの見直しをした	1.集団活動中・見守りあり	落ち葉が多く、地面が見づらく滑りやすかった	その都度、環境整備と児童に声掛けをし注意喚起する	1.いつもどおりの様子であった	元気に友達と走っていた	4.対象児の動きを見ていなかった	支援員4名で外に出て分散し、児童全体の様子を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援員4名で外に出て分散し、児童全体の様子を見ていた	森の中は見通しが悪く死角ができた	特になし	
83	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	48							48		6	4	21. 9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	橈骨遠位端骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	怪我をしている児童については、室内で安静に過ごすようにする	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	ハード面は問題なし	ハード面は問題なし	1.集団活動中・見守りあり	環境面は問題なし	環境面は問題なし	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わらない様子だった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担当を設けておらず、全体の見守りを実施	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	外遊びの見守りを実施	対象児童が外遊びに行くと言ったとき、引き留めたが、本人が大丈夫と言って行ってしまった	特になし	
84	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	32							32		3	3	22. 10歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右大腿骨肋骨不全骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	低学年の児童を中心に見守りを実施	遊具の前には支援員を配置する	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	ハード面は問題なし	ハード面は問題なし	1.集団活動中・見守りあり	支援員は見守りを実施していたが、鬼ごっこをしていると確認できていなかった	遊具の周辺で児童が走っている場合には常に配慮し注意を促す	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子であり、問題なかった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ジャングルジムの近くには居たが他の児童の対応をしていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の職員はグランド、ブランコの見守り	遊具の周辺で走っている児童への声かけが不足していた	特になし	
85	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	27							27		3	2	21. 9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左中指中節骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	興奮状態の児童への声掛け、遊具で遊ぶときの危険性についての再認識	児童と支援員等とで再度危険個所について共有を行う	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	ハード面は問題なし	ハード面は問題なし	1.集団活動中・見守りあり	見守りをしていたが突発的な行動で防ぐことが難しかった。他の職員は他児童のトラブルの対応中であった。	その場の状態をよく分析して支援員等同士で連携し、危険個所への配置を検討する。突発的な行動を防ぐことは難しいため、児童の精神状態や危険な行為が見られる場合は、配置場所を含めて個別対応をしていく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	下級生に注目されて嬉しいという感情が興奮状態につながった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	遊具で遊ぶ児童全体（10名前後）を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊びの見守りや、児童同士のトラブルの仲裁をしていた。	同時にトラブルが発生することを想定して見守りにあたる。	特になし	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
86	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	53							53		6	4	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	雲梯で遊ぶ時のルールは決められていたが、児童は決められた場所以外から雲梯に登り、雲梯の上に座りこんでしまった。	雲梯で遊ぶ際は西側から登り東側へ進むこと、それ以外の場所からは登らないことなど、遊具の正しい使い方を再度児童へ周知する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	ハード面は問題なし。	ハード面は問題なし。	1.集団活動中・見守りあり	グラウンドでは運動会の準備が行われており、邪魔にならないよう他の児童の誘導をすることに専念していたため、細部まで目が行き届いていなかった。	職員配置や役割分担の再確認し、グラウンド状況が日頃と異なる場合は、情報共有し状況に合わせた支援を行う。児童を含めて事故のリスクについて考える時間を設ける。	1.いつもどおりの様子であった	日頃から他の児童より元気に過ごしており、当日も変わりない様子だった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他の児童を含め全体を見ていたが、事故の瞬間を目撃していなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	約50名の児童が外遊びに出ており、5名の職員が外遊びの見守りをしていた。室内には児童20名が残り、3名の職員が見守りをしていた。	見守る児童やエリアを事前に打合せし、状況が変化しても見落としのない見守り体制を維持できるようにする。	特になし	
87	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	1	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	24							24		4	3	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(-)回/年	2.基準配置	支援員の配置人数を考えるべきだった。	草や土が完全に乾いていることを確認する。危険な所に支援員を配置して立ち入らないようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	3.未実施	実施頻度(-)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	外遊びをする広場は駐車場として利用される時がある為、地面が平ではなく土が削られていて水が溜まりやすい。体育館横で陰になる為、草・土が乾きにくい。	雨上がり後、中2日間を開けたがもう少し間を開けるべきだった。草・土が完全に乾くまで広場を使用しない。	1.集団活動中・見守りあり	地面の段差があるところは危険個所として注意を促した方が良い。	管理者に事故があった旨を報告し、環境整備について児童会も協力する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	当該児童はサッカーが大好きな為、外遊びで活発だった。ボールを追いかけている時は周りが見えていないことが多い。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	道路にボールが出ないように道路との間にネットを張っていた。ネットを張り終えた時に滑った児童を目撃した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他3人の職員は室内の子供達を見守っていた。	特になし	管理者に相談して、今後土を入れる等改善策の協力をお願いする。	
88	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	62							62		5	2	19.7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指基節骨骨端線損傷	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	研修が未実施だったため、周知徹底ができていなかった。	早急に研修を行い、事故時の対応の周知を図る。	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2.不定期に実施	実施頻度随時	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	ハード面は問題なし	ハード面は問題なし	1.集団活動中・見守りあり	外での遊び方のルールが曖昧になっていた。	遊び方のルールを子供たちが考える時間を作る。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと同じように外で元気に走り回っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	児童が鬼ごっこをしており、鬼から逃げていると認識して見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体的に見ていたため、けがをした際の対象児童の動きを見ることができなかった。	全体を見つつも遊具で遊ぶ児童を重点的に見ていた。	保護者とコミュニケーションを取り、関係を築き生活習慣などについての話ができるようにする。	
89	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	19							19		3	1	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	ソフト面は問題なし	ソフト面は問題なし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度(-)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(200)回/年	ハード面は問題なし	遊びの前、児童が来所する前に必ず遊ぶ場所、環境を確認をする。	1.集団活動中・見守りあり	雨上がりでもなく、地面はぬかるんでいる様子はなかった。良好であった。つまづいた様な物もなかった。	職員の人数、配置を確認し遊びの内容や活動範囲を考える。	1.いつもどおりの様子であった	ケイドロをして遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	児童達の遊びの様子を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の児童の様子を見守っていた。	職員配置は適切であった。	外遊びに行く時は必ず準備体操を行う。遊んでいる中でも加減をしたり怪我を予測できるようにしたりと考えて遊べるように声掛けをする。	
90	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	24							24		3	3	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	当該児童が雲梯で遊ぶ上級生の真似をして、本人の実力以上の遊具で遊ぼうとした為と思われる。	年齢に合わせた遊具での遊び方をみんなで話し合った。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	ハード面は問題なし。	ハード面は問題なし。	1.集団活動中・見守りあり	特になし。	児童が遊具遊びをしていたら、特に注意深く見守るようにする。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子で、特に問題はなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	遊具の近くにはいたけれど、落下する瞬間は見ていなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	校庭で児童の様子は見守っていたが、至近距離で見てはなかった。	天気が良く、おやつも食べた後で、外で遊ぶことをとても楽しみにしていた。	特になし。	
91	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	28							28		3	2	19.7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし。	遊びの時間配分や配置する職員数に注意する。	2.不定期に実施	実施頻度(数)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	特になし。	外遊びの前に、運動場において滑りやすい・躓きやすい箇所がないか確認を行う。	1.集団活動中・見守りあり	児童が運動場でおにごっこをしており、職員から距離が離れたため、怪我の予測が遅れた。	保育中の所在確認は支援員全員で行う。怪我や事故の対応は迅速に行う。怪我や事故の記録を取っておく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	鬼ごっこで鬼から逃げることに夢中になっており、周りが見えにくくなっていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	いくつかのグループを少し離れたところから見ており、怪我の予測が遅れた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	見守りを行う児童の遊びグループの担当分けがされており、対象児の動きを見ていなかった。	特になし。	児童に関わる（見守る）職員数をしっかりと確保する。児童が遊びに夢中になり周りが見えにくくなっている際は、休憩を促したりクールダウンするように声掛けしたりする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
92	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	23							23		4	1	21.9歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左中指骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	校庭での支援員は2名配置していたが、校庭も広いため危険への瞬時の判断力が必要である。	研修などを通して勉強すること。危険個所の把握の徹底、子どもたちへの定期的な指導を行う	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	遊具で遊ぶ前にも、不備がないか確認する。	ブランコの使い方を支援員・子供達ともに確認、指導する。	1.集団活動中・見守りあり	様々な場所で遊んでいたため、至近距離ではついていることができなかったため。	育成支援をする時に、もう少し全体を見ていくよう安全面に配慮していく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り元気だった。放課後ということもあり疲れもあったかもしれない。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ブランコ付近で対象児をみながら他児の遊ぶ様子も見ていた。対象児が落下した時には間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児から離れて遊んでいた子供達の遊ぶ様子を見ていた。	友達と楽しくブランコ遊びをしていたが、使い方を誤ってしまったため。	子どもたちへ遊具の使い方の指導・支援を行う。職員同士の連携体制をしっかりとしていくようにする。	
93	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	27							27		4	1	21.9歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肩鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置	児童間のトラブルや小さな怪我が起こった場合、職員1名が対応に当たるため見守りが手薄になる。また、集団活動を苦手とする児童に1名関わる場合も同じように手薄となり得る。	見守りが手薄となる場合は、目の届く範囲に児童を集め遊ばせたり、皆で同じ遊びを行う。	1.定期的に実施	毎日環境整備や、掃除を行うため、同時に点検を行っている。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	毎日の掃除時の片付けや遊びの前に、改善に必要な玩具は改善・修理を行い、定期的に消毒を行っている。	児童は大人が考えもつかない行動をとる時がある（本来の使い方ではない遊び方）また、遊びに夢中になると周りが見えなくなる。	遊具や道具は本来の使用の仕方があり、誤った使用をすると危険なことがあることを知らせ、声掛けを行う。	1.集団活動中・見守りあり	予測される行動の分析を行い見守り支援を行う。	予想される児童の行動分析を行う。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	夢中であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	すぐそばで見ていたが、助ける暇もなく一人で転倒した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園舎に居る児童を見ていた。	集団遊びの苦手な児童に関わり、注意がそちらにそれてしまいがちになる。	日頃から遊び方に関して指導の充実を図り見守りを強化する。	
94	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	46							46		4	4	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	特になし	職員の配置や人数については特に少ないこともなく運営していたので今後の改善はない。今まで通りに児童の安全管理に努める	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	特になし	小学校の管理の遊具のため特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	危険な遊び方をしている場合は正しい使い方・遊び方を改めて児童に周知する必要があるが、今回は偶発的な事故なので遊具で日頃からよく遊び体の使い方を知っておく必要がある	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた		1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)		特になし	他児とのトラブルや危険な遊び方であったり管理不足から起こった事故ではないと思うので、今後も遊ぶ前には声かけをし、職員配置等は今まで通り全体を見ながら対応していく。	
95	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	31							31		3	1	22.10歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	手首の骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	屋外での活動時には、指導員の人数を増やす	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	特になし	遊具に不具合などないかの点検を定期的に行うこと	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特に遊具で危険な遊びがされていないかを注意する	1.いつもどおりの様子であった	特に変わりなかった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	離れたところでの見守り	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	離れたところでの見守り	特になし	学校の運動場で遊ぶ時は、子どもの人数に対して見守りの指導員の人数を増やし全体が見守れるところへ立つなど事故防止に努める。	
96	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	24							24		5	4	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	鎖骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	上級生達も同じコートにいてコートの中の人数が多めであったため、ぶつかりやすかった。	体力や身体の大小、運動力を考慮しぶつかりにくくし、コートも十分な広さを確保するよう支援員が判断する。	2.不定期に実施	実施頻度(毎)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎)回/年	ボールも一番柔らかい種類を使用し運動場で凸凹もないところだが、夢中で遊んでいると足元が滑り転んでしまい、他の人も夢中になっていたため事故が起こってしまった。	上級生達とは別のコートでドッヂボールをする。ぶつかりにくくしコートも十分な広さを確保するよう支援員が判断する。	1.集団活動中・見守りあり	低学年は特に楽しくて熱中するあまり周りが見えにくくなる。	熱中症を避けるためにも、頻繁に水分補給等の休憩を取入れながら慎重に外遊びをする。	1.いつもどおりの様子であった	天気が良く、上級生や同級生と大勢が楽しく遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	他学年の支援員たちが多数で見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	広い運動場で多くの場所に児童がいたため、散りながら近くと全体を見守っていた。	その状態で骨折事故が起きると思っていなかったこと。	おやつは成分を気にしながら安全なものを用意しているが、成長期の児童により体に良いものを準備する(カルシウム等)	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
97	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	35							35		5	1	19.7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	亜脱臼（右中切歯永久歯)	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	ボール遊びや大型遊具を十分に見守るよう気を付けていたが、だるまさんがころんだに付いて見守りはしていなかった。	どんな遊びでも、視野に入れて見守りをする。	2.不定期に実施	実施頻度(毎)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	遊具の裏になる場所であった	支援員の配置をマニュアル化	1.集団活動中・見守りあり	本児は遊具を使わずに遊んでいた	遊具を使用せずに遊んでいる子も気を付けて見守る。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	活発な本児と大人しめな男児4人の計5人がだるまさんがころんだをしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	支援員は近くにいたが、けがの多い遊具遊びのほうを見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	何人程度の子どもがその場にいたかの把握はしていたが別のグループを見守っていた。	だるまさんがころんだで怪我をすると考えておらず、認識の甘さがあった。	何の遊びでも事故につながると、支援員全員で認識し、気を付けていく。	
98	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	28							28		5	4	20.8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足脛骨遠位端骨折	8.その他	1.あり	3.未実施	実施頻度(０)回/年	2.基準配置	当該児童は和やかに過ごしていたのと畳の上だったこともあり、指導員も危機意識が甘かった。他に注意が必要な児童が分散しており手が取られていたことも目を離した要因と思う。	畳の上であっても常に危機意識、見通しをもって対応できるようにする。子ども達にも危険な遊びに対して注意喚起するとともに、根気よく声をかけていき、子ども達と一緒に考えながら子ども達の危険察知能力も高めていく。	1.定期的に実施	実施頻度（ 2 ）回/年	3.未実施	0	2.不定期に実施	実施頻度(０)回/年	特になし	なし	1.集団活動中・見守りあり	指導員の危機意識が薄かった。当該児童の学年には日頃から激しい遊びをし注意をしていた為、おんぶに対してまだ大人しい遊びという認識があり、注意を怠った部分がある。	子どもたちの状態に関係なく、常に危機意識を持てるように、職員間で意識改善につとめていく。	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わらず元気だったが、対象児童が相手の児童におんぶされている姿を見たのは初めてだった。笑顔でおんぶされていたため珍しく仲良く遊んでいるなという印象を持った。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児童の担当職員は特にいない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故が起こった瞬間をどの職員も見ていなかった。おんぶされている状況を離れているところから見ている職員（事故の瞬間は別の子どもに目を向けていた）、対象児童を背にして他児のトラブル対応していた職員、子どもの宿題を見ていた職員、洗い物をしながら近くの児童を見ていた職員など。	分散して見守りは行っているが、トラブルや保護者対応等、その時々で全児童に目が行きわたらない場合もある。	室内での自由遊びの時間は、できるだけ全体を見守る職員を増やす。また、声かけしたり他職員の動きも気に掛けるようにしているが、更に職員間の連携がとれるようにミーティングを重ねて意識改善に務める。	
99	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	17							17		1	1	19.7歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	特になし	危険性の想定	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	座る間隔等の見直し	1.集団活動中・見守りあり	想定外のけがだった。	あらゆる危険を想定する。	1.いつもどおりの様子であった	昼食後の歯磨きから掃除開始の時間までテラスに座って待とうとしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	歯磨きから掃除への移行の様子を、対象児を含め全体的に見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体的に児童を見ていた。	特になし	椅子に座って待ってたほうがよかったのか、座る間隔が悪かったのかなどを振り返り反省する。	
100	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	41							41		4	4	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左腓骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.基準以上配置	特になし	事故予防に関する研修も取り入れながら安全対策に取り組む。	1.定期的に実施	実施頻度(毎週)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎週)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎週)回/年	特になし	これからも定期的に安全点検を実施する	1.集団活動中・見守りあり	風が強く吹く時があった。	風の状況によっては、注意を促すようにする。	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた		2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの至近の児童をみていた。	特になし	準備体操の時に、念入りに足首と手首と指を動かす運動を取り入れる。	
101	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	45							45		5	5	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指中筋骨骨端線損傷、左手のひら挫創、左手のひら皮膚びらん	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	外遊び中で沢山の児童の行動を把握できていなかった。	児童が好む遊びに準じて支援員配置を変えできるかぎり目が届く状況を作る。	1.定期的に実施	実施頻度(複数)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(複数)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(複数)回/年	校庭での遊びは児童の範囲も広く室内よりも目が行き届かない状況である。	支援員の数は増やせないので児童を目の届く範囲であそんでもらえるよう誘導したり、声かけをしていく。	1.集団活動中・見守りあり	行動範囲が広がるため。	声かけ、児童がまとまって遊べるよう誘導	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り楽しそうに外遊びをしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	全体を見ていたためその瞬間の児童を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体を見ていたためその瞬間の児童を見ていなかった。	それぞれの児童が好む遊びをしていたため支援員の見守りが追いついていなかった。	サッカーなど激しい動きの遊びはより一層注意をする必要がある。	
102	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	187							##		22	9	21.9歳	2.女児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	開放骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	学童からの帰宅途中の出来事であり、子どもの動きを把握を把握することは困難である	子どもが下校するときは、その都度交通ルールを守ったり正規の登校道路を帰るよう声をかける	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	特になし	引き続き実施する	7.その他	近くに信号付きの横断歩道があり、道路を渡るときは必ず横断歩道を通るように指導している	子どもが下校するときは、その都度交通ルールを守ったり正規の登校道路を帰るよう声をかける	1.いつもどおりの様子であった	学校帰りは普通通りであり、今日はおやつをもらって帰ると施設長に元気に答えていた。また、担任には普段と変わらなく応対していた。	4.対象児の動きを見ていなかった	おやつを持って帰宅していたので、道路を横切る様子までは把握できていない	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	下校中のため指導員は見ていない。一人は教室前で子どもの受け入れを行っていたが、道路までは距離があり横断するのを確認はできなかった。	学童からの帰宅途中の出来事であり、子どもの動きを把握することは困難である	子どもが下校するときは、その都度交通ルールを守ったり正規の登校道路を帰るよう声をかける。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況						事故誘因	事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時			発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰						ソフト面						ハード面								環境面				人的面									
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】															
103	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	37						37		4		2	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首剥離骨折、左足関節外果骨折、左足外側外副じん帯損傷、左足外果離断性骨軟骨炎	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.基準以上配置	特になし	ケガをしたり、捻ったときの手当ての対処法の確認	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	特になし	周囲に気をつけながら遊ぶよう声掛けを行う	1.いつもどおりの様子であった	ドッチボール中で元気に逃げ回っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	目の前で転び、立てなかったので抱えて安全な場所に移動し、応急措置	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの持ち場で他の子たちを見守っていた。	ドッチボールのスペースが人数に対して狭いときがある。	足にあったサイズの靴を履くように話す。ボールを使った遊びの経験を重ねられるように見守る。	
104	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	33						33		2		1	18.6歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足親指の甲骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１１)回/年	2.基準配置	特になし	見守りの強化	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	3.個人活動中・見守り	見守り・声かけ	危険箇所の確認	3.いつもとより活発で活動的であった(理由を記載)	教室に入る時から水筒を引きずり、注意をするが聞き入れず、運動場から正門へ向かうときに走って転倒。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	離れたところから全体を見守りしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の支援員も離れたところから全体を見守りしていたが、対象児の動きまでは見ていなかった	走ったことによる転倒	走らないように注意し、日頃から安全な下校方法を児童たちと再確認する。	
105	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	21						21		4		2	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.基準以上配置	特になし	遊具の適切な遊び方を再確認し、危険な遊び方をしている際は声かけ等を徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年	3.未実施	実施頻度(-)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年	特になし	活動する前には注意点を入所児童に説明。	1.集団活動中・見守り	特になし	特段の改善点はなし。	1.いつもどおりの様子であった	健康状態は通常通りで、いつもどおり外遊びをしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	支援員は運動場全体を見守れる位置にいたため、対象児童からは少し離れた場所で危険な動きをしていないか見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	屋内に1名、屋外に担当職員以外に2名がいたが、他児童の支援を行っていたため、対象時の動きを見ていなかった。	特になし	走らないように注意し、日頃から安全な下校方法を児童たちと再確認する。	
106	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	20						20		3		1	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(11)回/年	1.基準以上配置	特になし	体育館内での適切な遊び方の再確認	3.未実施	実施頻度(０)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(11)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年	特になし	活動する前には注意点を入所児童に説明。	1.集団活動中・見守り	特になし	特段の改善点はなし。	1.いつもどおりの様子であった	友達と様々な遊びを展開。事故発生時はボールで遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	体育館内で複数の遊びが展開されていたことから、他児童で事故を目撃していなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	体育館内にいたものの、他児童の対応等で目撃していなかった。	特になし	特段の改善点はなし。	
107	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	28						28		3		3	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１) 回/年	1.基準以上配置	児童が雲梯を一つ飛ばしで遊んでいため、落下しやすい状況にあった。	遊具の適切な遊び方を再確認し、危険な遊び方をしている際は声かけ等を徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年	3.未実施	実施頻度(０)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年	校内に雲梯が２つあるが、児童の体格に比べ格高る雲梯で遊んでいた。	児童の体格にあった雲梯で遊ぶように指導を徹底する。	1.集団活動中・見守り	特になし	特段の改善点はなし。	1.いつもどおりの様子であった	健康状態は通常通りで、いつもどおり外遊びをした。	2.対象至児の近く対象児を見ていた	対象児童は支援員の目が届く範囲におり、全体的に危険な行動をしていないか目配りをしていた。また、落下する状況に手を差し伸べたが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	屋内に1名、屋外に担当職員以外に1名が、他児童の支援を行っていたため、対象時の動きを見ていなかった。	特になし	支援員は視野を広く保ち、全体を見渡しながらも個々の児童対応をするように支援員全員で確認。	
108	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	64						64		6		2	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	鼻骨骨折	3.子ども同士突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(-)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(-)回/年	—	特になし	1.集団活動中・見守り	—	特になし	1.いつもどおりの様子であった	いつもの様子と特に変わりなかった。	2.対象至児の近く対象児を見ていた	全体の見守りの中児童も見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当該児童の動きを見ていなかった。	支援員が見守りをしている生した事故。	今後も危機管理の手引きを用い、迅速な対応を行っていく。	
109	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	102						##		12		3	22.10歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	3.子ども同士衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(-)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(-)回/年	—	特になし	1.集団活動中・見守り	—	特になし	1.いつもどおりの様子であった	いつもの様子と特に変わりなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体の見守りの中児童も見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当該児童の動きを見ていなかった。	支援員が見守りを行っている中で発生した事故。	今後も危機管理の手引きを用い、迅速な対応を行っていく。	

No	概要					発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰	死亡	負傷		診断名	事故誘因	ソフト面					ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死因	負傷状況	受傷部位			マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
110	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	163						##		11	5	23.11歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(一)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(一)回/年	—	特になし	1.集団活動中・見守り	—	特になし	1.いつもどおりの様子であった	いつもの様子と特に変わりなかった。	2.対象児の近で対象児を見ていた	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当該児童の動きを見ていなかった。	支援員が見守りを行っている中で発生した事故。	今後も危機管理の手引きを用い、迅速な対応を行っていく。	
111	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	12	9.夜間・早朝(泊り保育)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	50						50		7	7	19.7歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左くるぶし骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(一)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(一)回/年	—	特になし	1.集団活動中・見守り	—	特になし	1.いつもどおりの様子であった	放課後児童クラブの活動中はいつもと変わりなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	下校途中での事故であり、支援員による見守りはなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	下校途中での事故であり、支援員による見守りはなかった。	特になし	今後も危機管理の手引きを用い、迅速な対応を行っていく。	
112	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	52						52		6	2	21.9歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯牙破折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(一)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(一)回/年	—	特になし	1.集団活動中・見守り	—	特になし	1.いつもどおりの様子であった	いつもの様子と特に変わりなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当該児童の動きを見ていなかった。	支援員が見守りを行っている中で発生した事故。	今後も危機管理の手引きを用い、迅速な対応を行っていく。	
113	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	1	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	11						11		3	1	20.8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左示指基節骨骨端線損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(一)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(一)回/年	—	特になし	1.集団活動中・見守り	—	特になし	1.いつもどおりの様子であった	いつもの様子と特に変わりなかった。	2.対象児の近で対象児を見ていた	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当該児童の動きを見ていなかった。	支援員が見守りを行っている中で発生した事故。	今後も危機管理の手引きを用い、迅速な対応を行っていく。	
114	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	116						##		13	3	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左中指基節骨骨端線損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(一)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(一)回/年	—	特になし	1.集団活動中・見守り	—	特になし	1.いつもどおりの様子であった	いつもの様子と特に変わりなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当該児童の動きを見ていなかった。	支援員が見守りを行っている中で発生した事故。	今後も危機管理の手引きを用い、迅速な対応を行っていく。	
115	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	105						##		12	4	20.8歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕（手首上）骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(一)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(一)回/年	—	特になし	1.集団活動中・見守り	—	特になし	1.いつもどおりの様子であった	放課後児童クラブの活動中はいつもと様子と変わりなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	下校途中に発生した事故であり、職員の見守りはなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	下校途中に発生した事故であり、職員の見守りはなかった。	特になし	今後も危機管理の手引きを用い、迅速な対応を行っていく。	
116	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	73						73		6	2	20.8歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯冠破折、外傷性下顎骨骨折疑い、外傷性口腔粘膜裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(一)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(一)回/年	—	特になし	7.その他	—	特になし	1.いつもどおりの様子であった	放課後児童クラブの活動中はいつもの様子と変わりなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	下校途中であり、支援員による見守りはなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	下校途中であり、支援員による見守りはなかった。	特になし	今後も危機管理の手引きを用い、迅速な対応を行っていく。	
117	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	46						46		6	2	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指中接骨端軟骨端線	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(一)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(一)回/年	—	特になし	1.集団活動中・見守り	—	特になし	1.いつもどおりの様子であった	いつもの様子と特に変わりなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当該児童の動きを見ていなかった。	支援員が見守りを行っている中で発生した事故。	今後も危機管理の手引きを用い、迅速な対応を行っていく。	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡		負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																
118	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	43						43		10	3	18.6歳	1.男児		7.登園・降園中(実所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	左腕上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(—)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	—	特になし	1.集団活動中・見守りあり	—	特になし	1.いつもどおりの様子であった	いつもの様子と特に変わりなかった。	2.対象児の近で対象児を見ていた	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当該児童の動きを見ていなかった。	支援員が見守りを行っている中で発生した事故。	今後も危機管理の手引きを用い、迅速な対応を行っていく。	
119	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	172						##		13	6	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	鼻骨骨折、鼻の横を裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(—)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	—	特になし	1.集団活動中・見守りあり	—	特になし	1.いつもどおりの様子であった	いつもの様子と特に変わりなかった。	3.対象児離れたところで対象児見ていた	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当該児童の動きを見ていなかった。	支援員が見守りを行っている中で発生した事故。	今後も危機管理の手引きを用い、迅速な対応を行っていく。	
120	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	153						##		10	4	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	右中指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1-2)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年		特になし	1.集団活動中・見守りあり		特になし	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	ふざけていた。	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	配慮を要する児童であるためマンツーマンで接していた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。		今後も危機管理の手引きを用い、迅速な対応を行っていく。	
121	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	57						57		10	4	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	右ひじ複雑骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1-2)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年		特になし	1.集団活動中・見守りあり		特になし	1.いつもどおりの様子であった	いつもの様子と特に変わりなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	全体を見ている中で当該児童の動きを見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体を見守っている中で当該児童の動きを見ていなかった。		今後も危機管理の手引きを用い、迅速な対応を行っていく。	
122	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	199						##		16	5	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	右頬部挫創	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1-2)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年		特になし	1.集団活動中・見守りあり		特になし	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	当該児童と加害児童が喧嘩をしていた。	2.対象児の近で対象児を見ていた	喧嘩をしている児の仲らの児に入ろうとしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	喧嘩をしている児の仲らの児に入ろうとしていた。		今後も危機管理の手引きを用い、迅速な対応を行っていく。	
123	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	156						##		12	3	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	右手小指骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1-2)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年		特になし	1.集団活動中・見守りあり		特になし	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおりの様子であった。	3.対象児離れたところで対象児を見ていた	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。		今後も危機管理の手引きを用い、迅速な対応を行っていく。	
124	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	71						71		6	2	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	唇裂傷、上歯のめりこみ	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1-2)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年		特になし	1.集団活動中・見守りあり		特になし	1.いつもどおりの様子であった	いつもの様子と特に変わりなかった。	3.対象児離れたところで対象児を見ていた	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。		今後も危機管理の手引きを用い、迅速な対応を行っていく。	
125	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	108						##		4	2	23.11歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	右手人差し指第一関節骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1-2)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年		特になし	1.集団活動中・見守りあり		特になし	1.いつもどおりの様子であった	いつもの様子と特に変わりなかった。	2.対象児の近で対象児を見ていた	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。		今後も危機管理の手引きを用い、迅速な対応を行っていく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
126	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	0							0		0	0	18. 6歳	2.女児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨近位骨端線損傷・右肘頭骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1-2)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(ー)回/年		特になし	7.その他		特になし	1.いつもどおりの様子であった	いつもの様子と特に変わりなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	クラブを出た後に起きた事故のため見守りなし	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	クラブを出た後に起きた事故のため見守りなし		今後も危機管理の手引きを用い，迅速な対応を行っていく。	
127	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	122							##		9	3	22. 10歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右中指末節骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1-2)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(ー)回/年		特になし	1.集団活動中・見守りあり		特になし	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの通りの様子であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	見守りを行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	見守りを行っていた。		今後も危機管理の手引きを用い，迅速な対応を行っていく。	
128	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	22							22		2	2	21. 9歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	なし	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度4回/年	2.基準配置	特になし	今回の事故について市内他クラブでも情報共有し、今後の事故防止に役立てる	1.定期的に実施	実施頻度（１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度 （１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２)回/年	特になし	今回の事故については運動場入口段差が原因であるため、施設改善は難しい	1.集団活動中・見守りあり	特になし	運動場で遊ぶ際は、入口付近は避け中央付近で遊ぶよう指導する	1.いつもどおりの様子であった	通常どおり友達と遊んでいた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	運動場中央付近で遊んでいる児童に付き添いながら全体を見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	通常　外遊び１名、室内１名体制で見守りをしている	運動場中央付近で遊んでいる児童の見守りを重点的に行う必要があった	運動場で遊ぶ際は、入口付近は避け中央付近で遊ぶよう指導する	
129	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	54							54		3	1	18. 6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕外顆骨折骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	外遊び中は支援員及び補助員が全体を見渡して見守りを行うが、見守りの配置につく職員よりも先に運動場へ行き遊び始めてすぐのことだった。	児童よりも先に支援員が外にでて見守りの体制が整った状態で児童に遊びを行わせる。	3.未実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/3年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	支援員よりも先に児童が運動場に行きすぐに雲梯にぶら下がり落ちたため、児童の近くで見守れていなかった	外遊び時間になったら支援員よりも先に児童を外に出さず、支援員が先に出て見守りの体制をとり、遊具で遊んでいる児童がいる場合、ケガ防止のため遊具付近で見守りを行い危険な時や転落時にすぐに対応ができるようにする	1.いつもどおりの様子であった	雲梯にぶら下がりつたっていたが、右手が届かずに左手でぶら下がる状態から手が滑って落下した	4.対象児の動きを見ていなかった	見守りに出る支援員は外遊び道具を準備していて、対象児童が先に雲梯にぶら下がり遊び始めていたのを見ておらず、落下し雲梯下にうずくまったのを確認した	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	外遊び時間になってすぐに対象児童が外に飛び出し遊びはじめた瞬間だったため、ほかの支援員が見守る前に起きた	特になし	特になし	
130	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	19							19		3	3	19. 7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	若木骨折（左手首上部）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	特になし	事故防止に関する研修を実施する。	1.定期的に実施	実施頻度(250)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(250)回/年	特になし	十分に対策は行っている。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	十分に対策は行っている。	1.いつもどおりの様子であった	元気にサッカーボール蹴りをしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ボール蹴りを近くで見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各々好きな遊びをしている児童たちを見守っていた。	特になし	ボールを蹴る際はボールの蹴る位置を確認することと目で見ながら蹴るように声掛けを行う。	
131	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	16							16		2	2	20. 8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足小指中節骨骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	具体的なマニュアルは作成していない。児童とルール決めはしていたが明文化していなかった。	マニュアル作成。ルールの遵守を徹底する。ドアは常に開放する。	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	手指挟みは想定して緩衝材で対策済だが、足指は想定外で無対策だった。	施設課に対応を相談。結果、常にドアを開放しておくことに決定した。	3.個人活動中・見守りあり	卒業を目前にした6年生との別れを惜しむが如く、普段以上に濃密な関係性で遊んでいた。支援員を含め全ての関係者が少し浮足立っていたかもしれない。	マニュアル作成。ルールの遵守を徹底する。ドアは常に開放する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	数人の列の後尾にいたが、前にいた児童が入室し続いて入室するつもりがドアを閉められたため、右足小指をドアに挟んだ。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	室内で遊んでいる児童の相手をしている支援員が一名。ドア付近で遊んでいる児童の見守りをしている支援員が一名。	左記のとおり	上記の二名のみ。	卒業を目前にした6年生との別れを惜しむが如く、普段以上に濃密な関係性で遊んでいた。支援員を含め全ての関係者が少し浮足立っていたかもしれない。	マニュアル作成。ルールの遵守を徹底する。ドアは常に開放する。この事故を自分事として児童を含め全員で検証する。	
132	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	20							20		3	2	20. 8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指剥離骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	支援員全員で再発防止に注意喚起を図った。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	学校内グランドを使用しており、特に危険個所なし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	集団遊びでの見守りに対して個々の児童の注意を払う。	1.いつもどおりの様子であった	グラウンドでドッチボールをしていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	外遊び中であったので、離れたところで全体を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	通常の遊びの範囲内のため、特に危険とは感じなかった。	特になし	ドッチボールを受け取る場合に手だけではなく体でも取るように指導する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
133	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	4							4		5	2	19.7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左ひじ骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	ボール遊びをするときは、靴下を脱ぐ約束だが脱いでいなかった。	靴下を脱いで遊びを行う。	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	日々の活動内容だったので、支援員も慢心があったかもしれない。	事故はいつ起こるか分からないので、とっさの対応ができるように気を引き締める事。部屋でボール遊びをするときは、思い切りボールを投げない。	1.集団活動中・見守りあり	卒所式終了後でテンションが上がっていたことも要因	テンションが上がっていたこともあるので、行事後は落ち着かせる活動（読書）を取り入れるようにする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	友だちとドッチボールをしていて足元付近にボールが来たので、よけることができずに足を払われる感じで転倒。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	見守っていたので状況の把握はできていたが、瞬間的な出来事だったので手を差し伸べたが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	転倒した衝撃音に気づき、うずくまる本児を発見。他の児童と関わっていたため気づく事に遅れた。	靴下を脱いでいない事に気づいていたが、声かけを怠った。	ボール遊びは屋外でやる事。部屋を仕切ってボール遊びができない空間作りをする。	
134	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	45							45		4	2	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足脛骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	マニュアルを確認したが、マニュアルの記載では判断ができなかった	マニュアルを再作成し、職員は研修・講習に参加する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	児童にとっては高さがある部分であった。	マットや低反発の素材に変更もしくは置く。	1.集団活動中・見守りあり	見守り支援はしっかり行っていたが、注意する判断力、声かけが欠けていた	研修を行い危険予知訓練などを実地する	1.いつもどおりの様子であった	いつものようにジャンプをして遊んでいたが、それを見ていた子に左足を向けながら片足ジャンプをし、見ていた子の肩にあたりバランスを崩し着地した	2.対象児の至近で対象児を見ていた	一瞬の出来事で声かけ、行動にすることが出来なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ホールにて他の児童と遊んだり、お迎えの保護者対応をしていた。	ジャンプをする前に近くに人がいることを注意できなかった。	遊ぶ場所をホールのみにして職員が児童を把握できる体制にする。	
135	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	30							30		5	4	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折(左手中指)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	外遊びに行く際、本来3名で引率していたところを主任の保護者対応のため2名で引率することとなった。	外遊びに行く際に来客等で主任の対応がある際は、主任の対応が終了するまでもしくはその日の外遊びの育成支援に別の支援員が入るようにし、外遊びへ出発するときから3名で児童を引率できるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	特になし	外遊びの際は、到着後だけでなく移動中の児童の様子もしっかりと見守ることができるよう、必要な支援員数を検討し配置する。	1.集団活動中・見守りあり	これまでなわとびやボール、フリスビー等の児童が遊ぶ道具は、使用する児童が上級生の場合は児童本人が校庭まで持っていくよう指示していたため、上級生の持つボールが地面で跳ねた際隣接するこども園の敷地に入った。	手から離れた際に遠方まで飛んでいく可能性のある遊具(ボールやフリスビー等)は、支援員が水筒用のかごに入れて持ち運ぶようにする。	1.いつもどおりの様子であった	学校からの下校時やクラブ室内、外遊びへの移動中に水筒の紐を持ち、自分の体に巻きつけるように振りながら持ち運ぶ様子が見られていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	先頭で14名の児童の引率をしており、列の中ほどにいた当該児の様子をしっかり見ることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	引率する予定だった支援員3名のうち、主任は保護者対応のため移動の引率ができず、もう1名の支援員は隣接するこども園に入ったボールを取りに行くため児童の動きを見ることができなかった。	特になし	特になし	
136	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	46							46		3	1	19.7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年	2.基準配置	特になし	子どもの動きや状態、個々の運動能力を十分に見極め少しでも危険と判断したら声掛け、場合によっては活動を打ち切ることも考慮。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	利用人数・園庭の広さで担当職員はいつもどおり。声掛け指導を行うも危険を察したと同時であった。	危険個所の把握	1.集団活動中・見守りあり	学年に応じての声掛け、活動内容	危機管理意識を高める	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおりに外遊びをはじめる。のぼり棒では、一人遊びをしていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	のぼり棒を降りようとしていた児を、ちかくの職員が危険を察したが、上で手がすべり落下。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保護者対応、室内1名。園庭（コート側）1名。園庭固定遊具あたり（のぼり棒側）1名。	普段通りの注意を払い、見守っていた。	支援にあたる職員の意識を共通理解、共有する。	
137	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	10							10		3	2	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	ロープから手が滑るかもしれないと予測するべき	事故やけがの予測を見越しての声掛け	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	地面から高さがあり傾斜のある場所の為、ロープをかける場所の考慮が必要であった。	事故後、使用中止とした	1.集団活動中・見守りあり	当該児童が入所当日であったため、遊具の使用方法への理解がなかったのかもしれない。	特に入所日には、児童が納得するまで説明を行う。	1.いつもどおりの様子であった	入所初日で児童の様子が把握できていなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	３名ほどの児童を１名の職員での見守りをしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の子どもの遊んでいる様子を見守っていた。	特になし	児童がいつも通りの様子でも事故が起こるかもしれないという意識を持つ。また、少しでも危険を感じた場合は、ためらわず注意喚起をし正しい使用方法を伝え理解させる。	
138	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	107							##		9	6	20.8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	遊び慣れている遊具であっても、万が一の事故に備える。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	高さのない遊具でも大きなケガにつながる危険性を注意喚起すると共に職員も留意する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	学年や遊び方に応じて休憩の時間を設けるなど配慮する。	1.いつもどおりの様子であった	普段から外遊びを活発に行う児童であり、この日も元気に遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他の高さのある遊具のそばにいながら周囲で遊んでいる児童を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	複数の職員で広い校庭を分担し、全体の児童を見られるようにしている。	特になし	児童の様子に気を配り、安全に遊ぶことができるよう声がけをおこなう。	

No	初回掲載年月日	概要：認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時：月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制：発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳：0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故：年齢	性別	特記事項
139	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	35							35		4	1	19.7歳	1.男児	
140	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	26							26		5	2	21.9歳	2.女児	
141	令和5年9月28日	1.認可	5.幼稚園	10	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	17	0	0	0	5	12	0	0		2	2	16.4歳	1.男児	家で転んだりぶつかったりし、前歯がかけたり揺れていたりしているため、治療中であった。神経をとっていて、黒くなっている。
142	令和5年9月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	78	0	0	0	0	28	50	0		4	4	18.6歳	1.男児	特になし
143	令和5年9月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	7	0	0	1	1	3	2	0		3	2	18.6歳	2.女児	

No	事故状況：発生時状	事故の転帰	死亡：死因	負傷：負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面：マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面：施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策
139	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左ひじ骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	－	1.基準以上配置	一緒に走っていた子どもが先に部屋に入って転んでしまった。支援員が肘を握ってしまった。	後ろ向きに部屋に促すのでなく、一旦止めて次の行動に移すようにする。	2.不定期に実施	毎日の掃除時	2.不定期に実施	外遊び時	2.不定期に実施	毎日の掃除時	長い廊下（約20m）の為、走りたがる。	注意看板掲示により周知徹底を図る。
140	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度（1）回/年	1.基準以上配置	インラインスケートで遊び児童は４名と少なかったが、広範囲にちらばっていた。また配置職員はインラインスケート経験がなく、技量を計れなかった。	児童の技量レベルを把握し、それを大幅に超えるような行動は控えさせる。	1.定期的に実施	実施頻度（1）回/年	2.不定期に実施	実施頻度（3）回/年	2.不定期に実施	実施頻度（3）回/年	インラインスケートで推奨されるヘルメット・膝・肘・手のひらのプロテクターは装備していたが、装着は児童に任せていたため固定が不十分だった可能性がある。	装備の装着状況を支援員が確認する。
141	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の亜脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	マスクをしていたため、口の中の怪我をしたことに気付けなかった。	泣いたり、血が出たりしておらず、歯を怪我をしていることに気づかなかった。もう一度確認するべきだった。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	50	特になし	特になし
142	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左の肘を骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、職員配置基準を満たしているため特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	300	特になし	施設、遊具、玩具の安全点検は定期的に行っているので、特になし
143	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足脛骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、職員配置基準を満たしているため特になし	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	278	特になし	施設、遊具、玩具の安全点検は定期的に行っているので、特になし

No	環境面：教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面：対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
139	1.集団活動中・見守りあり	事故当日を含め３日間雨が続いたため、外遊びが出来ていなかった。そのストレスで子ども達が部屋の中で走り回ったのかもしれない。	今後、雨が続いた時の学童での過ごし方を検討する必要がある。（学校の体育館利用や、部屋で出来るレクリエーション等）	1.いつもどおりの様子であった	普段から室内を走ることが多く、注意を促していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	他の支援員が指導していたが、中々止まないので止めに行った。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の子どもの宿題を見たり、遊んでいる様子を見守りながら走らないよう対象児童に声掛けをしていた。	部屋での過ごし方については指導していても、子ども達に何故その指導が必要なのかが伝わっていない。	問題行動を起こしたときには繰り返しでも、最後まできちんと子どもに伝えてやめさせる。注意看板の設置、毎日の反省会	
140	1.集団活動中・見守りあり	特になし	児童が広範囲に散らばる可能性がある場合は、まとまって行動するように促す。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	ひさしぶりのクラブでのインラインスケートで張り切っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	他の児童を注視していて、事故当時当該児童を目視していなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ担当箇所を指示し配置していたため、それ以外の場所を目視していなかった。また自由配置の１名はおやつ準備等雑務にかかっていた。	特になし	装備が適切に装着されているかを支援員が確認し、児童それぞれの技術レベルに合わせた遊び方を指導する。	
141	1.集団活動中・見守りあり	食事の片付け等をしていたため、子どもが転倒した瞬間を見ていなかった。	転ばないよう、落ち着いて遊ぶことを伝える。	1.いつもどおりの様子であった	ブロックであそんでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	食事の片付けや声掛けをしながら、子どもたちの様子を見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	食事の片付けや声掛けをしながら、子どもたちの様子を見ていた。	食事の片付け等をしていたため、子どもが転倒した瞬間を見ていなかった。	落ち着いて遊ぶように伝える。また、保育者が全体の様子を把握できるように気を付けていく。	
142	1.集団活動中・見守りあり	子どもが遊具にぶら下がっている場面を、見守ることができていなかった。	職員の見守り配置を分散する	1.いつもどおりの様子であった	活発に戸外遊びを楽しんでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	遊具のそばで全体を見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	見守りの役割分担をしその場を見守っていた。1人は総合遊具の階段部分、2人は園庭を見渡せる所。	遊具の遊び方を事前に伝えていなかった。	遊びを始める前に遊具の遊び方を改めて子どもたちに伝えたり、状況に合わせて子どもたちに声をかけたりする。	
143	1.集団活動中・見守りあり	特になし	活動中、見守り体制があったため、特になし	1.いつもどおりの様子であった	友だちとボール遊びを楽しんでいた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ボール遊びをしている当該児童をそばで見守っていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の2名の教諭も他の児童がボール遊びをしているところを見守っていた。	冬休み明けの預かり保育だった為、運動不足で、身体がしなやかに動かなかった可能性がある。	事前に柔軟体操をしてから、運動や遊びをはじめるようにする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
144	令和5年9月28日	1.認可	5.幼稚園	1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	80	0	0	0	20	30	30	0		3	2	17.5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	1	2.基準配置	特になし	遊具の点検等により想定される危険を洗い出し、マニュアルの見直し等により事故防止を図る	2.不定期に実施	1	2.不定期に実施	1	1.定期的に実施	1	園児が遊具の中に入り込んだことで死角になってしまった	園児が遊具の中に入り込むと死角になり危険が生じる可能性があるため、当該遊具を撤去した	1.集団活動中・見守りあり	特になし	正課保育終了後には担任以外の教職員が園児の保育にあたることになるが、その場合でも事故防止により一層留意しながら園児の保護にあたる	1.いつもどおりの様子であった	キノコ型の遊具付近または遊具の中で、友だちやひとりで遊んでいることが多い。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭を見回りながら、他児と遊んだり関わったりしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭を見回りながら、他児と遊んだり関わったりしていた。	特になし	想定される危険に応じた教職員配置を再検討する	
145	令和5年9月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	1	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	36									3	3	18.6歳	1.男児	特別支援児（自閉症スペクトラム）。状況や痛みなどは言葉で伝えることができる。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左腓骨遠位部骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、職員配置基準を満たしているため特になし	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	45	1.定期的に実施	89	特になし	施設、遊具、玩具の安全点検は定期的に行っているので、特になし	1.集団活動中・見守りあり	鬼ごっこをしている時に友達と交錯し足が引っ掛かり転倒した	相手が瞬時に接近することもあるということを知らせ、ぶつかりそうになった時は止まることを知らせる	1.いつもどおりの様子であった	クラスでよく遊んでいる遊びであり、担任がかかわっていなくても友達と一緒に遊ぶことができる。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児が友達と一緒に鬼ごっこをしていることを把握したうえで見守りをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当クラスの子どもの様子を見ていた	特になし	見守り体制があったため、特になし。	
146	令和5年9月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	2	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	1.0歳児クラス	5									2	2	13.1歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の脱臼、上唇小帯裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	4	2.基準配置	特になし	今後も実際に怪我をした時、ヒヤッとした事の原因を追究し、改善策を職員間で共有していく。裾がひっかかる等衣服による原因が無いよう気を付ける。	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	遊戯室の床は木で、柔らかくはないので、転倒時手をつけないとケガをする。	保育の中で、身体を使った遊びを多く取り入れ、しっかりと手をついて転ぶことができるように経験をさせる。	3.個人活動中・見守りあり	転倒時、本児は手をついたが間に合わなかった。	今後の保育の中で、運動遊びを多くし、手をしっかりとついて転べるように経験出来るようにする。	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた	すぐそばにいて、転倒の様子を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	本児と少し離れたマットで遊んでいる園児を見ていたため、転倒時の様子は視界には入らず音のみ聞いた。		保育士間で見る子どもを状況に応じて分担し、意思疎通を取る。	
147	令和5年9月28日	1.認可	5.幼稚園	3	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	17									1	1	17.5歳	2.女児	ぜんそくの薬を飲んでいたこともあり、嘔吐したことが骨折と関係があるかは不明。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	眼窩底骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	特になし	職員の数は適正であり本児の様子もきちんと把握していたが、鬼ごっこでは滑り台に上らない等のルールが守られていなかった為、より周知する	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	手すり等にウレタンを装着する	1.集団活動中・見守りあり	鬼ごっこを行なっていた	ホールは十分な広さがあったが鬼ごっこの際滑り台に上らないよう工夫する	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	鬼ごっこをしておりいつもよりテンションが上がっていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	職員が鬼ごっこの鬼をしており、すぐそばで見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	バスに乗車していた為、見ていなかった	鬼である職員が追ってきた事でテンションが上がり普段と違う動きをしてしまった。また、職員自身も遊びを楽しむあまりルールを失念していた。	冷静な視点を持って関わる	
148	令和5年9月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	14									2	2	16.4歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)		1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	特になし	園児への指導の実施。職員へ事故に関する周知と保育環境の再検討	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	引き続き、定期的な安全点検を実施を行い遊具・用具を適切に管理する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	体を動かした遊びの充実により身体諸機能の発達と、園児を対象とした安全指導を実施し周囲の状況把握や安全な遊び方が身に付けられるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	対象児は普段の様子と変わらなかった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	担任は対象児の近くで見ていたが、落下時に受け止めることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員以外は、それぞれの場で保育等を行っていたため発生時の様子は見ていなかった。	特になし	教師間で事故発生に関する共有を行い、指導に関して再確認を行った。	
149	令和5年9月28日	3.その他	5.幼稚園	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	92	0	0	0	35	30	27	0		10	10	17.5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨過剰骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	園庭の使い方として好きな場所で自由に遊ぶことをしていた	鬼ごっこをしても良い場所、サッカーをしても良い場所を区切るなど、遊ぶ場所の整理や時間の使い方を考えていく必要がある。	2.不定期に実施	1	2.不定期に実施	1	2.不定期に実施	1	園庭での活動であったため、危険がないものと認識していた。	危険個所がないと捉えずに、安全に遊べるのか職員同士で声を掛け合いながら確認を徹底していく	1.集団活動中・見守りあり	サッカーゴールの置き場所、サッカーをしている周知の仕方、	安全面を考え教師と一緒にサッカーゴールを運び活動場所を決めるラインを書き、周りから見てサッカーしていることがわかるようにする	1.いつもどおりの様子であった	逃げることに必死になり周りをよく見ていなかった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	鬼ごっこをしている把握はしていたが、他児と遊んでいた為実際に転倒した姿は見ていなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	鬼ごっこをして逃げているのを知り、転倒したときも目には入っていた	園庭の遊びを見る当番がいるが、視野に入っていなかった	園庭当番に限らず、外にいる職員全員が子どもの遊びを気にしながら過ごしていく	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
150	令和5年9月28日	1.認可	5.幼稚園	3	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	6									6	5	16. 4歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手　第2.3.4 中手骨骨折、基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	以前より入園式、卒園式、運動会等園児用椅子が必要な場合、園児が各クラスの部屋から運んでいた。当該園児については、体格が小さく椅子を持って階段を上がるときに、より丁寧な対応が必要であった。	椅子を持ち階段を昇降する際は、さらに丁寧に支援をする必要がある。また運びたい、運べる。という気持ちも尊重する必要があるため、講堂倉庫に全園児用の椅子を用意して、園児が椅子を運ぶことについては、安全を期する。具体的には階段等を園児が持ち運ぶことをやめる。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	特になし	3.個人活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	特になし	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	数名の園児が椅子を２階の部屋に運ぶ時に担任は階段の下にいた他園児への対応があり、当該園児を見ていたが、そばにいることはできなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	特になし	特になし	特になし	
151	令和5年9月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	3	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	10									3	2	14. 2歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指基節骨骨端線損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	4	2.基準配置	特になし	事故防止マニュアルのチェックシートの確認に加え、部屋、遊戯室、園庭等の危険個所がないか確認し、全職員で改善策を考え、改善する。	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	転倒時、本児は手をついたが、小指に体重がかかってしまった。	段差のある場所を登る、降りるの運動遊びは、１歳児の発達状況をみて実際のステージの階段ではなくマットと積み木など転んでも危険の無い場所でできるようにする。そのためにお遊戯室の遊び場所をついたてにより分ける。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	園児が、登る、降りる、走る等の足腰を使った運動遊びを安全な場所で十分に行い、転んだ時に身体をかばう転び方ができるよう、経験を多くできるようにしていく。危険個所で不必要なものは排除する。	1.いつもどおりの様子であった	特になし	2.対象児の至近で対象児を見ていた	すぐそばにいて、転倒の様子を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	１人はステージの反対側で遊んでいる園児をみていた。もう一人はステージから離れた場所で遊ぶ園児をみていた。	特になし	保育士間で見る子どもを状況に応じて分担し、意思疎通を取る。	
152	令和5年9月28日	1.認可	5.幼稚園	4	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	16									3	3	17. 5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	経験年数や職種の違う職員も多くいるため、園外保育事前の丁寧な打ち合わせが必要。	園外保育中の職員の動きを綿密に打ち合わせをし、役割を明確にしておく。									1.集団活動中・見守りあり	経験年数や職種の違う職員も多くいるため、園外保育事前の丁寧な打ち合わせが必要。	園外保育先の慣れない遊具は使用を限定したり、職員が同じ対応をするよう事前に話し合ったりしておく。	1.いつもどおりの様子であった	雲梯に対して、「怖い」と恐怖を示し一度は辞めた。しかし、他児の遊ぶ様子や、安心できる教師の見守りのもとで、挑戦してみようと自己判断し、取り組んだ。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児の挑戦したいという気持ちを尊重した。進み出した時はすぐ側で手助けできる位置にいたが、対象児が調子良く進み出したため近くで見守っていた。バーを掴み損ねた瞬間に手を差し伸べたが、間に合わずに落下した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の固定遊具での見守りをしていたため、見ていなかった。	新学期が始まったばかりで、担任との信頼関係、子供自身の個々能力等理解できていない時期に園外に出て、慣れていない固定遊具で遊ぶことが不必要であった。	担任が個々の能力を知り得ない時期に、園外での固定遊具遊びは行わない。	
153	令和5年9月28日	1.認可	5.幼稚園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	50									4	4	17. 5歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨の開放骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	特になし	園庭で複数の活動をさせている際の教職員の立ち位置に関して指導した。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	12	特になし	ブランコの周りの侵入防止用のコーンとゼブラバーを増やし、ブランコ周りのスペースを広げた。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	園庭での自由遊び中の監督は幅広い視野で園児の活動を見られるように指導した。	1.いつもどおりの様子であった	ブランコを乗っており、降りる際に飛び降りた。着地の際にバランスを崩して転倒した。	4.対象児の動きを見ていなかった	他の園児のかけっこを指導しており、ブランコを背にしていたために事故発生状況を見ることができていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当該クラスは園庭の持ち時間であったために園庭で活動を行っていた。他クラスは持ち時間でないと保育室または遊戯室での活動であるために園庭で活動していたこのクラスの様子を見ていなかった。	特になし	園庭での自由遊び中の監督は幅広い視野で園児の活動を見られるように指導した。また、他クラスも含めて遊具の使い方について再度指導するように指示を出した。	
154	令和5年9月28日	1.認可	5.幼稚園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	21									2	2	17. 5歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘尺骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1〜2	2.基準配置	特になし	鉄棒で遊ぶ際は手を離さないようにする等、安全に遊ぶための約束事を子ども達と話し、再確認・再認識をうながす。また、保育者間で連携を取り、安全に遊べるように子ども達の様子を見守っていくことを再確認した。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	2.不定期に実施		特になし	園庭や遊具の点検をしっかり行う。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	引き続き子どもたちの身体づくりを行うと共に安全教育に努める。	1.いつもどおりの様子であった	鉄棒に座ることはいつもの姿であり、本児の好きな遊びであった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	戸外でクラスの子ども達がそれぞれに遊んでいたため、本児を含む複数の女児が鉄棒で遊んでいることは把握していたが、落下時は他児の対応をしていた為目視できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭にはいたが、それぞれ別の場所で遊んでいた担当児の保育をしていたため。	特になし	子ども達の様子を常に見守り、不測の事態に適切に対応できるようにする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										教育・保育等従事者		事故			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
155	令和5年9月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	9					7	2			2	1	16. 4歳	1.男児	特記事項なし	8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	特記事項なし	事故発生時の対応などの研修の回数を増やす	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	3	特記事項なし	安全点検、確認の実施回数を増やす	1.集団活動中・見守りあり	目の前のトラブルだけでなく、背後のこどもの動きにも注意すべきだった	出来るだけ園児の様子全体を把握できるように常に保育者は考えておく	1.いつもどおりの様子であった	普段はあまり活発な動きをするほうでないが、他の園児をまねて柵に座ろうとするような事があった。	4.対象児の動きを見ていなかった	目前の園児がブランコの交代の事でもめたため、視線がそちらに取られてしまい、背後の園児に気づくことが出来ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭の他の場所にも園児がいたため少し離れたところで他の園児に係っていた。	特記事項なし	職員が常に園児の様子を把握できるように心がける事を確認する	
156	令和5年9月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	5	8.夕方(16時頃〜夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	16				4	9	3			6	6	17. 5歳	2.女児	特に無し	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨骨幹部骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	0	2.基準配置	特になし	様々なケースを想定した事故に対応できるよう研修を実施する。事故後、園内の危険箇所について職員で洗い出し共有する。職員の安全面への意識を高めるとともに、幼児への生活指導の内容を確認する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	随時	特になし	ハード面での不備による事故では無いため施設・整備等での改善策は考えていない。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	環境面での不備による事故では無いため施設・整備等での改善策は考えていない。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り元気にブランコで遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭全体を見ており、本児がブランコで遊んでいる様子は目にしていたが、落下を予見し防ぐことはできなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の降園支度を確認したり、保護者に受け渡しをしたりしていた。	特になし	園児が遊具でより安全に遊ぶことができるよう必要に応じて職員が園児の補助を行う。	
157	令和5年9月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	26									2	2	15. 3歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	特になし	事故予防の研修を強化する。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	特になし	事故発生場所は、屋上で人工芝を敷いており破損等はなく問題はなかった。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	先生を追いかけ転倒した事故であり問題はなかった。	1.いつもどおりの様子であった	特になし	2.対象児の至近で対象児を見ていた	特になし	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	特になし	特になし	担任も、他の職員も対象園児を見ており問題はなかった。	
158	令和5年9月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	30					14	16			6	4	18. 6歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	基準以上に配置していたが、園児から目を離す時があった	園児が落下の危険のある遊具を使う時は、保育者は傍で見守るようにする。保育者が傍にいない時は園児が保育者に見ていてなどと声をかけるよう指導する。	2.不定期に実施	1	2.不定期に実施	2	2.不定期に実施	3	鉄棒の下に人工芝やマット等の安全対策が取られていなかった	落下の危険のある遊具には人工芝やマットを敷くなど、落下の際の衝撃を押える工夫をする。事故後、衝撃を抑えるマットを鉄棒の下に設置した。	2.集団活動中・子ども達のみ	複数の職員で見守りを行っていたが、遊具の片付け対応と支援児の補助のため目を離す時間があった	片付けの時間帯には固定遊具で遊ばないように指導する	1.いつもどおりの様子であった	まだ一人ではできないが、友だちの様子を見て自分も前回り挑戦したいと思った。しかし回転の際に手を離してしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	鉄棒付近に数人の子どもがいることは確認していたが、片付けの対応で事故の瞬間はその場を離れていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援児の見守りを行っていた	保育者は、自分の片付けが終わり遊んでいる子どもたちに注意が向いていなかった	片付けの時間帯には保育者の視界に入る場所に子どもたちを集めておく	
159	令和5年9月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	60									7	7	17. 5歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外果骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施		2.基準配置	特になし	転倒しやすい場所を見つけ、共有し、改善できそうな場所は改善する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	芝生とコンクリートの境目なので気を付けて歩くよう促す。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	慌てず、落ち着いて行動するよう声をかける。	1.いつもどおりの様子であった	園舎内の便所へ行き運動場に戻ってくるところだった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	運動場にいる子どもたちを見守り、便所から戻ってくる子もみていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	便所と運動場の間で、便所から戻ってくる子たちを見守っていた。	特になし	転倒しやすい場所は職員が近くで見守るようにする。	

No	初回掲載年月日	概要：認可・認可外	概要：施設・事業所種別	事故発生時：月	事故発生時：時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制：発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳：0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故：年齢	性別	特記事項	事故状況：発生時状	事故の転帰	死亡：死因	負傷：負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面：マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面：施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面：教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面：対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
160	令和5年9月28日	1. 認可	2. 幼稚園型認定こども園	5	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	4. 3歳児クラス	57									11	11	15. 3歳	1. 男児	普段からよく動き、静止の指示が伝わりづらい。	1. 屋外活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	前歯損傷	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	2	1. 基準以上配置	特になし	正規職員だけではなく、パートの職員に関しても定期的な研修受講などで事故防止の意識を高める。また、今回は園外であったが、園内活動時も職員配置については、基準以上の配置を続けていく。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	48	1. 定期的に実施	240	特になし	城北公園での事故であるため、公園管理事務所所管	1. 集団活動中・見守りあり	大勢の児童が滑り台に集まっていた。	遊具で遊ぶ際には、密集しないように児童を分散させ、安全を確保する。また、入念に下見を行い、時期・内容・遊ばせ方をよく考え、危険と感じる遊具があれば使用しない。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	すべり台を下から登った。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	滑り台の登り口と降り口に職員がついていたが、降り口についていた職員が他児の対応をしていたときに、当該児童が下から登り始め、上から滑ってきた他児と衝突した。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	事前に打ち合わせていた担当場所についていた。	当該児童は気になる姿があるため、職員が傍に付くようにしていたが、すべり台を下から登り始めた際は、誰も当該児童を見ておらず、止めることができなかった。	大型の遊具で遊ぶ際は、傍に付く職員を増やす。	
161	令和5年9月28日	1. 認可	5. 幼稚園	6	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	15									2	2	17. 5歳	2. 女児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	外傷性歯の脱臼、下顎骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	1	2. 基準配置	特になし	特になし	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守りあり	ゲームボックスを使用したジャングルジムの高さや組み方が子どもの力量に合っていなかった。マットの設置をすべきであった。	発達を考慮し、段階を経た遊具の組み方を検討していく。職員が近くで見守るなどすぐに援助できる環境（遊具の構成）を行う。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	運動あそびや固定遊具を好む姿があり、ゲームボックスのジャングルジムに繰り返し挑戦していた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	大型の遊具がジャングルジムだった為常に１人の職員がついて補助ができるような体制をとっていた。しかし、トンネルくぐりの場に重点を置いていた為、本児が跳び降りた際に補助が間に合わなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	鉄棒や側転などポイントを抑えるべき場所を巡回しながら、全体を見て援助をしていた。	子どもへの跳び降り禁止の声かけが十分にできていなかった。	子どもへの指導の徹底をする。	
162	令和5年9月28日	1. 認可	2. 幼稚園型認定こども園	6	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	18									2	2	16. 4歳	1. 男児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	若木骨折	1. 遊具等からの転落・落下	2. なし	2. 不定期に実施	1〜2	2. 基準配置	特になし	どんなものでも事故につながる、という意識を常に持つように日々の注意喚起や研修の充実を図る。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	3	今年度初めて保育室内に出した枠積み木で、子ども達がとても興味を持ったため出したままにしてあった。	使用後は速やかに片づける。	1. 集団活動中・見守りあり	対象児は第一便の降園ではなく、他児の降園準備を待っていた際の事故であり、時間を持て余し、興味本位で枠積み木に登ったと考えられる。	玩具や施設の使い方で誤った使い方をすると危険なことが起きる可能性もあるということを園児に伝え、安全に楽しく過ごせるように環境を整える。	1. いつもどおりの様子であった	体調も変わりなく、いつも通りの様子であった。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	第一便の園児の降園準備を補助しながらも教室全体の様子、個々の園児の様子を見ていた。対象児が枠積み木に登りバランスを崩す瞬間も見たが、対象児とは離れた場所にいたため対応が間に合わなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	第一便の園児の降園準備を補助していたため、対象児の動きは見ていなかった。	特になし	担当職員、他の職員ともに全体の状況を把握するように努める。	
163	令和5年12月15日		13. 子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）	3	8. 夕方(16時頃〜夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	2			1		1				援助会員１名		14. 2歳	2. 女児	以前も利用していた	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右橈骨下端骨折	8. その他	2. なし	1. 定期的に実施	1	2. 基準配置	ケガや事故が想定される遊具などの使用について、マニュアル設置がない。	安全管理に関する研修内容に、ケガや事故が想定される遊びや遊具について加えると共にマニュアル作成を行う。	ー	ー	ー	ー	ー	ー	サポーターが１人で安全を管理できる遊具の大きさではなかった。	安全な遊び方など確認がとれるまでは、トランポリンは使用しないよう注意喚起を行う。	3. 個人活動中・見守りあり	トランポリン上に複数の子どもが乗って遊んでいたため、子ども達が安全な体制を保つことが出来ていなかった。	複数のこどもを預かる場合、一人のサポーターが安全を保てる活動を行い、遊具の使用時は一人一人が交代で行う、または安全に遊べる環境ではないと不安がある場合は、一旦その遊びはしないよう注意喚起を行う。	1. いつもどおりの様子であった	楽しく過ごしていた	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	サポーターは子ども達と一緒にトランポリン上にはおらず、トランポリンの外にいて遊びを見守っていた。	ー	ー	転倒しケガをするリスクを考えて見守っていたが、危険を取り除くことまでは配慮出来ていなかった。	サポーターの所有するトランポリンで何回か遊んだことがあり、これまでケガはないという慣れの意識があった。都度安全管理の意識を持ち、遊びの前に危険チェックを行うよう注意喚起を行う。	
164	令和5年12月15日		15. 放課後児童クラブ	6	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	116							##		5	2	20. 8歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	3. 未実施	実施頻度(0)回/年	2. 基準配置	特になし	マニュアルの周知徹底を図る。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(ー)回/年	机の配置等は普段通り。	机の配置を見直す。	1. 集団活動中・見守りあり	たなばた飾り製作期間中のため、部屋内の児童数が多かった。	製作活動を行う際の環境整備、人員配置を見直す。	1. いつもどおりの様子であった	普段と変わった様子は無し。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	職員１名は、七夕飾り製作を指導していた。もう１名の職員は別のトラブルで他の児童と話をしていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	２名の職員はホールで他の児童を見ていた為対象児童から離れていた。１名の職員は玄関にいた為、対象児童から離れていた。	当該児童間には学校においてもトラブルがあったことが確認できた。その流れから来館後言葉のからかいをきっかけに事故に繋がった。	児童１人ひとりの様子を観察し、言葉のやり取りに少しでも変わった様子が伺えたら、すぐに間に入り暴力に発展しないよう気を付けて見守る。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
165	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	4							4		4	3	21.9歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	なし	事故予防に関する研修の実施	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	なし	遊びの活動内容の変更。遊びの活動場所はマットや畳の上で行う。	1.集団活動中・見守りあり	なし	最低１人は見守りをすることを徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	体調面は問題なし。	4.対象児の動きを見ていなかった	他児のトラブルに対応していたため見ていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児のトラブルに対応していたため見ていなかった	なし	指導員へ事故防止マニュアルの再周知	
166	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	6							6		8	6	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折（右腕、手首から肘にかけて）	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度（1）回/年	1.基準以上配置	特になし	折に触れて、マニュアルを読み、事故防止につなげていく。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/月	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/日	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/日	特になし	事故発生場所に関しては転落防止策を設置。児童が窓の縁に座ったり、足をかけたりできないようにした。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	窓の縁に座ったり寄りかからないように利用児童へ指導した。	1.いつもどおりの様子であった	1人遊び（スライドパズル）をしており、比較的穏やかであった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児童が遊んでいる状況で、3～5mの距離には見守りをしていた職員はいた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	児童の動きは見ていたが「特に危険はない」と認識してしまった。	特になし	児童に危険と思われる行動が見られた場合には即座に注意。保育の時間内では、遊びの輪に職員が入っていなくとも、何をしているか誰と遊んでいるかを常に把握して見守りをする。	
167	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	84							84		8	6	20.8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折とひび	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	事故予防に関する研修を不定期ではなくケガの多い時期前に行う等、定期化していく必要がある。	2.不定期に実施	実施頻度(1～2)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1～2)回/年	特になし	遊具の不具合がある時は小学校へ伝えてはいるが、安全点検も小学校と一緒に行っていく必要がある。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	外遊びの見守りは必ず複数体制で支援員が一か所に集中しないよう気をつけているので、現段階ではこれ以上の改善策はない。	1.いつもどおりの様子であった	春休み中のため朝から学童へ登所。新年度も迎え多少の環境の変化はあったが、いつもどおりの様子であった。	4.対象児の動きを見ていなかった	近くにはいたが手を差し伸べられる距離ではなく、他児と遊んでいたため事故が発生してから気付いて駆けつけた。他の外遊び担当職員へケガをした児童を室内へ連れていくことを伝え、代わりに中遊び担当の職員1名に外へ出てもらった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	距離が離れていたため、動きは見ていない。	新1年生が入所してから日が浅く、要見守りの対象が1年生向きがちなところがあった。	タイヤ跳びはケガをしやすい遊具であるので、至近距離での見守りを行う必要があった。	
168	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	34							34		3	3	22.10歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	正式なコート（10m×10m）を確保できない施設でのドッジボールクラブの練習を行った。	守備練習と攻撃練習とに分けて行うなど、施設の面積に合わせた練習方法を導入する。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(250)回/年	正規のドッジボールコートの面積を確保できない施設だったため、縮小したコートで活動した。	片面だけのコートにするなど、施設の面積に合わせた活動領域を設定する。	1.集団活動中・見守りあり	上級生と下級生の体格差によるもの。	上級生が下級生にボールを投げる場合は、加減するように指導する。	1.いつもどおりの様子であった	体格差のある６年生の強いボールを、体の正面ではなく左腕のみで受けた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	職員はドッジボールの指導・審判も兼ね近傍で指導していた。ボールの受け方、逃避の方法について実践と口頭で指導した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ドッジボール以外の活動に従事していた。	上級生が下級生との体格差を考慮した力加減をしなかったことによる。	ソフト面の改善策同様、練習方法を工夫し、試合形式に慣れてない間は下級生が混合チームとなっている際、力を加減するように指導する。	
169	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	27							27		2	2	20.8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		1.意識不明	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	無熱性けいれん	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	職員は基準配置で，本児が倒れた際の対応も迅速に行うことができたが，てんかん発作等の緊急対応について改めて全職員に周知する必要があった。	てんかん等の発作が起きた時の緊急対応について全職員で確認する機会を定期的につくる。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	－	継続して安全点検を行い，危険個所がないか確認する。	1.集団活動中・見守りあり	－	全体の様子を把握し，緊急時にもすぐに対応できる体制を継続する。	1.いつもどおりの様子であった	ふだんどおり登館し，友達と遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	室内で卓上ゲームや読書等と軽い運動している様子を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員，子どもたちから当該児童の様子を聞き，対応した。	－	担当職員と他の職員での迅速な連携，情報共有ができていたので，継続して行う。	

No	初回掲載年月日	概要：認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時：月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制：発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳：0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故：年齢	性別	特記事項	事故状況：発生時状	事故の転帰	死亡：死因	負傷：負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面：マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面：施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面：教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面：対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
170	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	81							81		9	5	22.10歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕若木骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	各部屋の見守りはできていた。鬼ごっこ等の運動遊び時に起き得る怪我とその予防策，対処法について職員間で共有しておくと良かった。	職員会議や事故が起きた時，起きそうだった時等に運動遊びで起き得る怪我の事例を職員間で共有し，予防策や対処法について考える機会を作る。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	−	施設の安全点検等は徹底しているため，継続して実施する。	1.集団活動中・見守りあり	準備運動等，運動あそび前に体の準備をする時間を取ると良かった。	運動遊び前に準備運動の時間を設ける。また，休憩は現在もこまめにとるように促しているので今後も継続し，怪我を予防する。	1.いつもどおりの様子であった	いつものとおり、元気に来館してきていた。げんぺいもいつものとおり行っていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	遊戯室の全体を見れるように、職員2人を別々に配置し、げんぺいの様子を見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	遊戯室の全体をみれるように配置し、げんぺいの様子を見ていた。	おにごっこ等の運動あそびの前に，怪我をしないように注意喚起すべきだった。	運動遊びを始める前に，おにごっこは転倒や人とぶつかる危険性があると事例を交えて伝え，怪我のないような遊び方について話す。	
171	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	5	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	64							64		4	4	20.８歳	2.女児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	橈骨遠位端骨折・右尺骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置	登館途中に起こりうる怪我や事故の想定をする必要があった。	全職員で登館ルート上の危険箇所の把握、共通理解を図り，集会等で子どもたちに危険箇所や登館中の事故例などについて伝える。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	登館ルート上の危険箇所を再度把握する。	職員による登館ルートの確認。危険箇所を把握し，共通理解を図る。	7.その他	登下館中の怪我についての注意喚起が不十分だった。	登館途中は大人の目が届かない状況になるので，怪我に注意して帰ってくるよう子ども達に声がけを徹底して行う。	1.いつもどおりの様子であった	友人と会話を楽しみながら歩いていた。荷物を持った状態では動きにくい服装であった。	4.対象児の動きを見ていなかった	順次登館する児童の受け入れを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各居室で子どもたちの見守りを行っていた。	登下館中に起こりうる怪我や，周りを見ながら安全に登下館を行うことについての周知が不足していた。	子ども達が安全に登下館できるよう登下館中どんな怪我が起きやすいか，どんなことに気を付けるべきかを定期的に伝える機会を作り，声がけをする。	
172	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	83							83		11	8	20.８歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右第一中足骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	子どもたちが遊びに夢中になった時も落ち着けるような声がけや休憩を促す声がけが不足していた。	ボール遊びの際は，常に複数名で子どもたちの様子を見る。子どもたち一人ひとりの状況も確認しながら，適宜声がけ等を行えるよう全職員で共有する。	1.定期的に実施	実施頻度毎日2回	1.定期的に実施	実施頻度１回/月	1.定期的に実施	実施頻度毎日１回	特になし	改めて遊具の点検，起こりうる怪我や事故の想定をし，全職員で共通理解を図る。	1.集団活動中・見守りあり	遊びの間や終わりの際に，子どもたちが落ち着けるようにするべきだった。館内では上靴を使用していないため、遊戯室で遊ぶ際には安全面から裸足で遊ぶことにしていた。	遊びの前に事故防止の諸注意を行い裸足で遊ぶ場合どんな事故が起こり得るか、事故の可能性について周知を図る。ボール遊び前にウォーミングアップを行い，遊びの間に休憩を入れ都度落ち着く時間を作る。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	春休みで制限の多い中で過ごしていたこともあり，遊戯室でのボール遊びを心待ちにしていた様子だった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	審判1人，見守り1人で対応していた。突発的な個人の動きには対応できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各居室で児童の見守りをしていた。	ボール遊びの前にウォーミングアップをして，動ける体にするように声がけすべきだった。	遊びの前や遊びの途中などにも子どもたちに頻繁に声を掛け，安全に遊びを行えるよう徹底する。	
173	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	99							99		9	7	18.６歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置	遊具の正しい使い方や注意点についての周知が不足していた。	現在実施している研修や事故の振り返りを継続して行いながら，職員間で遊具の使い方や注意点，児童への声がけについて共通理解を図り周知する。	1.定期的に実施	実施頻度２回/日	1.定期的に実施	実施頻度１回/月	1.定期的に実施	実施頻度１回/日	特になし	改めて遊具の点検，起こりうる怪我や事故の想定をし，全職員で共通理解を図る。	1.集団活動中・見守りあり	当該児童は入学してまだ間もないこともあり，遊具を使った遊びに慣れていなかった。	一人ひとりの状況を確認しながら必要に応じて声がけを行い、楽しく安全に遊べるよう支援する。遊具での遊び方，怪我の危険性について児童と確認する機会を設け，適宜声がけも行う。	1.いつもどおりの様子であった	１年生の外遊び開始後，1人チェーンクライムに登り遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	１年生40名ほどの児童を，間隔を空けて4人の職員で見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各居室で児童の見守りをしていた。	子どもたち全体を見守る方に意識が集中していた。	全体を見守るだけではなく，子どもたち一人ひとりの状況も確認するよう，全職員で共通理解を図る。	
174	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	42							42		9	6	19.７歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(10)回/年	2.基準配置	ヒヤリハットに加え，実際の事故事例についても随時共有する必要があった。	これまでの話合いに加え実際の事故事例の共有を行い，事故を防ぐための解決策や事故が起きた時の対応についても確認する機会をつくる。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	−	安全点検を継続して実施し，安全に遊べるようにする。	1.集団活動中・見守りあり	1～４年生まで体格差のある児童が一緒に運動遊びを行っていた。また，気温が高く外遊びが難しかったため，遊戯室で多くの児童が遊んでいた。	激しい動きのある遊びでは学年を分ける等の対応をする。また，一度に遊ぶ人数を制限したり時間で交代する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	体は小さいが運動遊びを好み，上学年と一緒に遊ぶことが多い	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児より指を踏まれた報告を受けたため患部を確認し，腫れや痛みはないため様子を見ることにした	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	遊戯室全体を見守っていたが，対象児が手を踏まれた瞬間は見ていない。	児童への事故事例の共有や事故防止のための声がけが不十分だった。	運動遊びを始める前や集会時等に事故事例を共有し，遊んでいる時も怪我をしないための声がけをこまめに行う。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項
175	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	20							20		3	2	21.9歳	1.男児	
176	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	24							24		4	2	19.7歳	2.女児	
177	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	110							##		8	5	22.10歳	2.女児	
178	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	8.学童	120							##		6	6	18.6歳	1.男児	
179	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	5	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	49							49		6	4	18.6歳	2.女児	

No	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】
175	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯牙脱臼	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	外遊びに出る際,児童より先に見守りに出る職員の数が少なかった。	外遊びの際は，職員を先に配置してから児童を外に出す。	1.定期的に実施	実施頻度(14)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年
176	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	脾損傷	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	2.基準配置	タイヤ付近に職員の配置がなかった。	こどもたちの遊びの危険予知訓練を定期的に行なうとともに、職員同士声がけを徹底しケガを未然に防ぐ工夫をする。	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年
177	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手薬指剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	効果的な見守りの配置について、機会を捉えて協議していく。	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	3.未実施	実施頻度(–　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年
178	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	2.基準配置	夏休み開始直後で館内には児童クラブ登録児童，自由来館児童等多数の児童がおり，職員それぞれがトラブル等の対応にあたり，見守りの職員配置が薄くなってしまった。	館内の利用人数が増えた場合の子どもたち動きとその際の職員の動きをシミュレーションし，考えれる事故を想定して対応策を講じる。	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年
179	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1.基準以上配置	登下館中の事故について職員間で確認し，共通理解を図る必要があった。	登下館中の事故事例の共有を定期的に行い，予防策・改善策を話し合う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年

No	ハード面 その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
175	–	これまで行ってきた点検を継続して行い，怪我を防ぐ。	1.集団活動中・見守りあり	外遊び前に，怪我無く安全に遊ぶための注意喚起が不十分だった。	外遊びの前に怪我なく安全に遊ぶための約束を話し，落ち着いた状態で児童に注意事項を伝える。	1.いつもどおりの様子であった	仲良しの児童とはしゃぎながら遊具に遊びに行ったので気持ちが高ぶっていた様子	4.対象児の動きを見ていなかった	遊具で遊んでいる姿は見ていたが，遊具に顔をぶつけた瞬間は見ていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊具で遊んでいる姿は見ていたが，遊具に顔をぶつけた瞬間は見ていなかった	新1年生の見守りに職員を多く配置した。	状況に応じてバランスよく職員を配置してすべての児童の状況を把握できるようにし，安全に遊べるような声がけを行う。	
176	タイヤが滑りやすい素材で、子どもの身長とのバランスが合わなかった。	今後も滑ったりすることがあると思われるので、子どもたちと危険予知等丁寧に行なっていく。	3.個人活動中・見守りあり	タイヤ付近に職員の配置がなかった。	こどもたちの遊びの危険予知訓練を定期的に行うとともに、職員同士声がけを徹底しケガを未然に防ぐ工夫をする。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り元気に外遊びをしていた。タイヤ跳びが上手に出来るようになってきていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	見守りで近くにスタッフはいたが、転ぶ瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	危険箇所付近に職員を配置し、巡回しながら見守っており、本児がタイヤ跳びで遊んでいるのを把握していたが、転ぶ瞬間は見ていなかった。	タイヤ跳びは飛び損ねると大きなケガに繋がることの認識を改め、見守りを手厚くする必要を考慮していく	子どもたちの遊びの危険予知訓練を定期的に行なうとともに、職員同士声がけを徹底しケガを未然に防ぐよう工夫する。	
177	特になし	多目的ホールは障害物等全くないため	1.集団活動中・見守りあり	特になし	最適と思われる場所で見守りを行っていたが、今後も効果的な見守りの配置を協議していく。必要に応じ掌の開閉等準備運動を行わせ、子ども達自身へも怪我に気をつけるよう十分な意識づけを行う。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおり楽しんでゲームに参加していた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	主審はコート中央に立っていたため	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	指を突いた瞬間は見ていたが、至近距離ではなかった	特になし	引き続き注意深く見守ること。怪我の予防に努め、万が一怪我等が発生した場合は迅速な対応を心掛ける旨一同で共有する。	
178	特になし	今後も継続して安全点検を行う。	1.集団活動中・見守りあり	館内の利用人数が多かったので接触の可能性を考えて細心の注意を払う必要があった。また，児童への声がけが不十分だった。	職員同士声を掛け合い，きちんと見守りができるようにする。館内の利用人数が多い時は児童が他児とぶつからないよう自ら意識し，走らず周りに注意して動けるように注意喚起する。	1.いつもどおりの様子であった	対象児の動きは普段と変わった様子は見られなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児がいた場所を見ていた職員も他児の対応で，その場を離れざるを得なくなり，本児がぶつかった場面を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	職員はそれぞれ遊戯室の見守りやトラブル対応，電話対応等で本児の近くにおらず気付けず，本児からの誰かとぶつかって足が痛くなったという訴えで発覚した。	児童が他児とぶつかった際にすぐに確認，対応できる位置に職員がいなかった。	その場を離れる際には職員同士声を掛け合い，見守りの目が無くならないように対応する。	
179	特になし	特になし	4.個人活動中・子どものみ	登下館中の事故や怪我について，児童への注意喚起が不十分だった。	登下館中の事故や怪我について，事例を伝えながら児童に注意喚起する機会をつくる。	1.いつもどおりの様子であった	受傷部位よりも、擦り傷等を痛がっていた	4.対象児の動きを見ていなかった	下校時（来館途中）のため	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	下校時（来館途中）のため	安全に登下館するための児童への注意喚起が不十分だった。	登下館中の事故や怪我，安全に登下館するための注意点等を児童に伝える機会をつくったり，日ごろから声がけをしたりする。	

No	初回掲載年月日	概要: 認可・認可外	概要: 施設・事業所種別	事故発生時: 月	事故発生時: 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳: 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故: 年齢	性別	特記事項	事故状況: 発生時状
180	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	21							21		2	2	20.8歳	2.女児		8.その他
181	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	89							89		13	11	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中
182	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	109							##		7	6	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中
183	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	69							69		10	10	20.8歳	1.男児		2.室内活動中
184	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	36							36		7	4	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中

No	事故の転帰	死亡: 死因	負傷: 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面: マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面: 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策
180	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	安全面の確保を行いながら引率していたが，移動中の事故や怪我についての事例、予防策を職員間で共有しておくと良かった。	移動中の事故や怪我について事例を共有し，予防策や改善策について職員間で共通理解を図る。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし
181	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	特になし	安全管理に関する研修を受講する機会を積極的に設けるとともに、職員の安全に関する意識を高める。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１３)回/年	2.不定期に実施	実施頻度毎日	小学生用のドッジボールを使用していたが、3年生以上が使用するものとしていた為、本児はまだ扱いに不慣れであった。	学年が上がり、3年生以上用のボールを使用したが、ボールのキャッチの仕方等ゲーム形式の前に経験する場を設ける。
182	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	特になし	遊具の遊び方について再度指導が必要である。	1.定期的に実施	実施頻度(50)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(50)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(50)回/年	特になし	今後もより一層安全点検を実施する。
183	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の損傷（口腔内)	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置	図書室に移動したら座って落ち着いてテレビや本を見ることになっているが，このときは児童が移動して来たばかりで立った状態でテレビを見ていた。支援員が座るよう声掛けをしていたら事故は起こらなかったかもしれない。	図書室では座って落ち着いてテレビを見たり読書したりする約束を児童に伝え，児童がいるときは必ず職員１名が室内に入り約束を守るよう声を掛けることにする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	安全点検または活動中に施設内に異常を発見した時はすぐに他の職員に伝え対応策を講じる。職員が対応できない異常があった場合は，館長から委託会社に報告し修理を依頼する。	安全点検表の見直しをするとともに，未然防止のため定期点検を確実に行い必ず対応を講じる。また，日常の活動中の目視確認を必ず行うことを徹底する。
184	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折（左腕肘部)	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置	日頃遊んでいた雲梯であるが、遠くに飛ぶ遊びは当該児童の身長や発達段階と雲梯の高さを考慮すれば、多少の無理があったのかもしれない。	今後はさらに学年や発達段階を考慮し、無理のない遊びであるかどうか判断し、声がけを徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	遊具(ジャングルジム)によっては１年生に利用を制限しているものもあるが、雲梯については特に制限を設けていない。	雲梯本来の遊び方については適切に指導する。

No	環境面: 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面: 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
180	7.その他	移動中に起こり得る事故や怪我についての周知が不十分だった。	移動中の怪我について，危険性や事例を伝える機会を定期的につくる。移動前に安全な移動について声がけをする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	本館に早く戻りたい気持ちが強かった様子。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児が目の前でバランスを崩し転倒した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の引率児童の様子を見ていた。	移動中に走り出した児童への声がけ，注意喚起が不十分だった。	移動中は安全に移動することを優先し，走り出した時や怪我の危険性がある場合はすぐに声がけをする。	
181	1.集団活動中・見守りあり	特になし	個人差があまりにもある場合は、ボールを柔らかいものに交換したり、安全に遊べる配慮、工夫をする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	進級して気持ちが昂り自信がついて、ボールに対して逃げるだけでなくキャッチしてみようとする姿がみられていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	相手チームの投げたボールをキャッチしようとして、うまくキャッチできなかった。指が当たったように見えたので大丈夫？と声をかけた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当職員からの伝達を受け、室内に入ってから保冷剤と氷のうで患部を冷やす。	特になし	保護者の判断で受診が3日後となったが、アプローチの仕方を工夫し、早めの受診を促すようにする。	
182	1.集団活動中・見守りあり	特になし	児童たちへ遊具の誤った使い方をさせないよう指導するとともに職員がより一層安全面に配慮して見守る。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	いつもより活発にブランコ遊びを楽しんでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	児童の近くにいたが、ブランコを漕いでいる最中に突然手を離して跳び下りるとは思わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	おやつの時間となり他の児童を室内入るよう誘導していたため見ていなかった。	特になし	全職員で遊具の遊び方を再確認し、危険な遊び方をしている児童には事故や怪我をしないよう未然に声がけをする。	
183	1.集団活動中・見守りあり	自由来館児童は16:30に１人帰りをするが，それ以降残っている児童は17時までに保護者が迎えに来ることになっている。17時を過ぎても迎えが来ていない加害児童については，話を聞いたり事務室で待たせたりする等配慮が必要だった。	夕方の迎えを待つ時間帯は児童が落ち着かなくなるので，特に図書室は複数の職員で見守りをするように改善する。特に落ち着かない児童には側に付いて話を聞き，安心させたり事務室で待たせる。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	本児は周囲の雰囲気や様子に合わせる傾向があり，図書室に立っている子がいたので，それに合わせて立ってテレビを見ていたと考えられる。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	担当職員は図書室入り口で見守りをしているが，役割交代の時間になり次の担当職員が来るのを待っていたため，室内だけ見守るのではなく時々廊下を見る等，図書室の様子に集中できない状況だった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当職員と交代する職員は急いで遊戯室から図書室に移動し，入るとすぐにDVDの操作をしたので室内の児童の様子はよく見ていなかった。	図書室の担当者は室内の児童の様子を見守ることに専念し，交代職員が来るまで移動しないこと。交代職員が来たら児童の様子を伝え，必ず児童の様子を見守らせる。少しでも様子が気になる児童がいたら声を掛けて話を聞く。	児童と職員のよりよい関係づくりを心掛け，落ち着きのない傾向の児童に対しての関わり方を学ぶ研修会の実施や参加の呼びかけをしていきたい。	
184	1.集団活動中・見守りあり	普段、雲梯遊びはしていたものの、遠くへ飛ぶ遊びは、本児の発達段階には合っていなかったかもしれない。	雲梯の高さには問題はないと考える。雲梯本来の遊び方について適切に指導することが大切であると考える。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	活発な本児は、４年男児二人といつも通り元気に遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	事故直前に気を付けて遊んでねと本児に声がけした後死角ができない位置に移動して見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の２名もそれぞれが死角ができない位置に立ち見守っていた。	いつもしていることと油断していた可能性があるかもしれない。	最悪を想定した意識でこまめに声がけしていく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
185	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	41							41		6	4	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.基準以上配置	特になし	提供する遊びの予想される怪我についてや遊びに対しての適切な人数などを話し合い、事故予防に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	砂が乾いた状態で、滑りやすい状態になっていた。	砂の状態を確認し、乾いたり滑りやすい時は水で湿らす等の対応を行う。レーキ等でならし砂が減らないよう一定の量を保つ。砂の入れ替えを行い滑りにくい状態を保つようにする。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	遊び始める前にルールの確認とともに、ケガに繋がるような危険な動きについて子どもたちへ伝え、注意して遊べるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	昨年度から児童館を利用してる児のため、いつも通りサッカーをやりたいと友だちと誘い合って遊び始めた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体に向けて声がけをし、サッカーの審判的役割をしながら見守りを行った。児の転倒後はすぐに気が付き声掛けを行い、事務室にいる職員へと引き渡した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊具付近での見守りを1名、スクーターを正しく乗れているかの見守りを1名、それぞれの場所で行っていたため、グラウンド付近の見守りは出来なかった。	特になし	職員間で声をかけ合いながら子どもたちの遊びの様子を見守り、危険な場面を見逃さずに適切な対応が出来るようにしていく。	
186	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	75							75		7	6	22.10歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足中指骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	見守りの職員が2人同時にボールを取りに行った時点でぶつかるリスクも予見できなかった	事故予防に関する研修を定期的に実施していなかったので、あらためて開催を検討し実施していく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	1.定期的に実施	実施頻度（毎日）	ボールが当たっても痛くないように柔らかく、弾みやすくボールを使用していた	ボールが当たった衝撃を考えつつ、使用するボールを少し重みがあり取りやすいもの変える	1.集団活動中・見守りあり	部屋のスペースに対してや子どもの体格、体力面など適正ではなかった	体格や体力面など学年に応じて1回に使用する人数を明確に示す	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	同学年の遊びだったので、男女がお互いに負けたくないと気持ちが熱くなっていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	横方向から全体の見守りを行う	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	横方向から全体の見守りを行う	子どもたちが大好きな運動遊びゆえに始まる前から、気持ちが高ぶっていた。	-	
187	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	27							27		3	1	21.9歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
188	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	5							5		2	2	20.8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	鼻骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	マニュアルがなくしっかりした研修も行っていなかった。	事故防止に関する研修を職員内で行う。	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	遊具の使い方によっての危険性もあった。	見回り点検などを行い気を付けていく。	1.集団活動中・見守りあり	子どもが少なくなり外遊びの時間も間もなく終了だったため、使っていない遊具を片付けていて背を向けていた。	できるだけ子どもたちに背を向けない。	1.いつもどおりの様子であった	いつものように元気に友達と遊んでいたが、友達が帰ってしまったので、その後は１人で遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	子どもの人数も減り、遊んでいない遊具（道具）を片付けしていて背を向けていた瞬間だった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内での見守りをしていた。	職員が1名休みだったため、基準は満たしているがいつもより手薄になっていた。	手離しで乗ることの危険をもっと細やかに周知していくことが必要である。	
189	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	5	5.おやつ時（学童）	1.施設敷地内(室内)	8.学童	25							25		3	2	21.9歳	1.男児		5.食事中(おやつ含む)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	マニュアル作成やしっかりした研修を行っていなかった。	事故防止に関する研修を職員内で行う。	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	今回の事故は施設・設備等とは関係ないが、畳などの段差もあるので今後も気を付けたい。	見回りの点検など気を付けていく。	6.食事(おやつ)中	好きなお菓子をおかわりしたくて、気持が焦ってしまった。	焦らず走らないように、注意喚起する。	1.いつもどおりの様子であった	職員や友達と楽しくおしゃべりし、気持ちがいつもよりは少し高ぶっていたかもしれない。	4.対象児の動きを見ていなかった	転んだところはみていたものの、勢いよく飛び出した瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子と接していたり、見ていたりした。	楽しい雰囲気でもあり、その子の気持ちや性格まで目を向けられていなかった。	個別に焦らないように声掛けする。	
190	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	29							29		5	4	19.7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	マニュアル等を再確認し安全面の確認をする	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	床の上につまずきやすい物が置かれていないか確認してから遊ばせる	1.集団活動中・見守りあり	特になし	床には何もなかったため、環境面での改善はなし	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおり元気に過ごし、友達と遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	突発的な事故で、防ぐことができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1階の遊びを見守っていた。	子ども達への声がけが足りなかった。	子ども達への声かけを今まで以上に行うとともに、けがのリスクを下げるため当該スペースで同時に遊ぶ子どもの人数に制限を設けることを検討する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
191	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	27							27		5	3	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左踵骨骨折・左足打撲	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	施設外の公園で遊んだ為、危険箇所の把握ができていなかった。	児童に注意を促す。支援員同士危険箇所を共有し、見守り指導する。	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	危険箇所について市へ報告し確認してもらう。	危険個所にカラーコーンを置き、児童の認識を促す。	1.集団活動中・見守りあり	遊びに夢中になっていたため危険箇所に気づかず、転倒してしまった。	園外活動の際は繰り返し指導する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	鬼ごっこに夢中になっており、走ることに集中していた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児から離れたところで見守っていたので転倒する瞬間に間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童への対応をしていた為、手が回らなかった。	支援が必要な児童であったが、同時間帯に他児の対応を行っており対応しきれなかった。	支援員を増員する。本児の特性、発達状況を共有する。	
192	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	22							22		5	3	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右中指骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(4) 回/年	1.基準以上配置	ブランコから降りる時に手をついた。降り方に問題はなかったか（ブランコは止まっていたか・ジャンプして降りていないか）	ブランコの乗り降りについて日頃より見守り声掛けしていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	いつも遊んでいる学校の校庭で、本児は変わらない姿で遊んでいた。	1.集団活動中・見守りあり	支援員は、支援児について見守りは出来ていたが、固定遊具（ブランコ）に付き見守る支援員がいなかった。	支援員は、子ども達が遊ぶ姿を見守る配置について配慮していく。	1.いつもどおりの様子であった	宿泊学習から帰って来てからの利用であり、外遊びを選択し遊んだが、気持ちの高ぶりや体が疲れていたのではないか。	4.対象児の動きを見ていなかった	支援児に付き遊びを見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	築山や土手に登りそうな子がいたため見守りと声掛け、雲梯などの遊具の見守りの付いていた。	外遊びに付く支援員の人数は十分ではあったが、見ていた支援員がおらず、事故の状況を把握できていなかった。	事故防止について再度確認し、適切な対応を目指す。	
193	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	50							50		3	3	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	足首（右）剥離骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(４)回/年	2.基準配置	特になし	職員間で情報共有をし、再発防止のため、児童の見守りや注意の声掛けを行う。	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/月	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/月	1.定期的に実施	実施頻度（1）回/日	特になし	引き続き施設や設備の安全点検を実施し、損傷は修繕する。	1.集団活動中・見守りあり	子ども同士のボールの取り合いの為、力の加減が出来なかった。	事前に怪我への注意を子どもへ周知し、子ども自身にも安全意識を植え付ける。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り活動に参加していた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	講師が主導でサッカー教室を行い職員は見守りはしっかりと行っていたが、当該児童の怪我を予測できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	役割分担（サッカー全体や室内に残った児童の対応）をして見守りを行っていた。	なし	事前に怪我への注意を子どもへ周知する。職員間で見守りのエリアを分担し、全ての児童を見守れるようにする。	
194	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	33							33		4	3	20.8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	職員が一定児童の対応に集中しており、他の職員も一定作業を行っていたため、走ってくる児童に対して危険性の意識が欠けていた。	職員が一定の児童を対応する際に、他の職員は全体を見るようするなどチームワークを強化する。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	特になし	今回の事故でハード面での分析はないと考える。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	登所直後は児童も落ち着かないため、活動に入る前にはじまりの会を実施し、本日の流れを児童に伝えてから活動に入る。	1.いつもどおりの様子であった	おやつをもらうために座って並んでいたところ、加害児童が被害児童の後ろに並ぼうと思い走りこんできた。	4.対象児の動きを見ていなかった	一定児童の対応、下校した低学年の対応、出欠確認の対応、おやつ配付の対応。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	一定児童の対応、下校した低学年の対応、出欠確認の対応、おやつ配付の対応。	特になし	並ぶ場所を変更し、児童が密集しないようにする。	
195	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	25							25		2	0	21.9歳	2.女児		2.室内活動中	2.死亡	6.その他	0.死亡	0.死亡	ー	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/数年	2.基準配置	特になし	緊急時の対応について、危機管理マニュアルにより再確認するとともに、必要な備品の設置、講習会などを受講する。	ー	ー	ー	ー	ー	ー	特になし	ー	1.集団活動中・見守りあり	特になし	不測の事態にも対応できるよう引き続き注意を怠らず児童の見守りを行う。	1.いつもどおりの様子であった	登室時の体調不良もなく、昼食・おやつとも変わった様子はなく通常通り食べ、事故発生時は他の児童と一緒に室内で過ごしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	すぐ近くにいたが、キッチンで麦茶の用意をしており、児童が倒れる瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	屋外で遊ぶ児童の見守りをしていたため、室内にいなかった。	特になし	当該児童は登室時特に体調不良もなく、倒れる直前まで普段と変わりない様子であったが、不測の事態が起こる可能性は常にあることを意識し、児童の見守りに従事するよう日頃から備える。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
196	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	8.学童	19							19		3	1	19.7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨近位骨幹部骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	特になし	ソフト面に要因は見られないが、再度基準やマニュアルを職員間で確認する。	2.不定期に実施	実施頻度(適宜)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(適宜)回/年	特になし	ハード面に要因は見られないが、再度点検方法等について職員間で確認する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	育成支援の状況環境面に要因は見られないが、再度育成支援状況の環境について職員間で確認を行う。	1.いつもどおりの様子であった	職員が各部屋を見守っていたが、活動室担当の職員(支援員)が突発的な来客対応のため目を離した時に事故が起きてしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	最も活発な行動をしている部屋を見守る職員が、来客対応に出てしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ担当の部屋を見守っていた。	最も活発な行動をしている部屋を見守る職員(支援員)が来客対応に出てしまった。また、自由活動とはいえ、室内での活動として活発過ぎる内容だった。	各部屋の見守り担当割等の見直し及び活動内容の見直し。該当部屋への入室制限。	
197	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	29							29		3	1	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左腓骨遠位裂離骨折、捻挫	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	特になし	すぐわかる場所にマニュアルを備え付ける。児童に対し、遊んでいる時に痛み等がある場合は速やかに職員に伝えるよう話をした。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	施設や遊具に問題なし。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	環境面に問題なし。	1.いつもどおりの様子であった	健康状態も良好であったため、他の児童と一緒に園庭でサッカーをしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	サッカーをしている児童たちのすぐそばで見守りをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	１名は室内の児童の見守りを行っていた。もう１名は屋外の他の児童に対応していたため、対象児は見ていなかった。	特になし	退所後、児童に痛みなどがある場合は速やかに連絡して知らせるようクラブの月刊誌に記載し、保護者への周知を図った。	
198	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	22							22		3	2	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘の脱臼・ひび	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度(1~2)回/年	1.基準以上配置	特になし	早急に事故防止マニュアルを作成、いろいろな場面を想定・再確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	特になし	踏み台を使用しないと手が届かない児童には支援員がすぐ近くで見守るようにする。	1.集団活動中・見守りあり	対象児が乗った踏み台が支柱から離れていたため両手がフリーになり、バランスを崩した際、左腕から落下した。	踏み台を支柱の近くに配置し、片手は支柱を掴み、もう片手で雲梯を掴めるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	雲梯をする際、踏み台に上って右手を上に伸ばした時バランスを崩し、左腕が体の下敷きになる形で落下した。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	園庭にて各自自由に遊んでいるのを2名の支援員などで見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内で他児に対応していた。	支援員などが雲梯の近くに2名いたが、対象児に手が届く距離にいなかった。	起こりうる危険を予測して事前の防止に努める。この子だったら大丈夫など過信せず、低学年への見守りは特に配慮していく。	
199	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	25							25		5	4	19.7歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕の頭骨と尺骨の骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	児童本人の不注意	遊具を使う際の使い方を声掛ける	2.不定期に実施	実施頻度(２)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(２)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(２)回/年	児童本人の不注意	遊具の撤去、使用する学年の改定	1.集団活動中・見守りあり	児童本人の不注意	使用する際の声掛け	1.いつもどおりの様子であった	活発に遊んでいた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児童を含め、３人程度の児童も同時にみていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	体育館、学習室、庭に一人ずついてそれぞれ対象児童以外の見守りをしていた	児童本人の不注意	使用する際の声掛け	
200	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	4.昼食時（学童）	1.施設敷地内(室内)	8.学童	27							27		5	5	19.7歳	2.女児		5.食事中(おやつ含む)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	小指末節骨骨折及び小指爪下血腫（右手）	8.その他	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	なし	全支援員等へのマニュアルへの再共有、更にミーティングにて事故事例の検証を行う。	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	なし	なし	6.食事(おやつ)中	これまで昼食時（おやつ）の水筒の置き場所が様々であった事が今回の事故の要因の一つと考えられる。	水筒の取り扱いについて、子ども達及び支援員等も水筒の設置場所を決めて、事故の再発防止に努めたい。	1.いつもどおりの様子であった	お弁当を食べ終えて、テーブルを拭く為に布巾を取り行く時に、四つん這いになり取りに行った。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	約1m位の所で椅子に座って見ていた。2年の男児が支援員の目の前を通り過ぎた途端事故が起きた。とっさの出来事で身動き出来なかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	約1m位の所で椅子に座って見ていた。2年の男児が支援員の目の前を通り過ぎた途端事故が起きた。とっさの出来事で身動き出来なかった。	通常より支援員の人数が少なかったため、とっさの女児及び男児の行動に対応できなかった事が要因の一つと考えられる。	なし	
201	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	51							51		6	2	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	下唇の下に傷	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.基準以上配置	特になし	研修内容を周知徹底させて運営を行いマネージャー・統括巡回時に都度状況確認をする。	1.定期的に実施	実施頻度(開所日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(開所日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(開所日)回/年	特になし	遊具・施設等の確認は、毎日指導員が実施する。また、児童が遊ぶにあたり危険な場所はないか、見えづらい場所がないかを確認しながら見守りを実施する。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	児童の見守りをする際は、全体を見られる配置につくように指導、改善する。また、死角がないかを意識しながら見守りを行う。	1.いつもどおりの様子であった	特段変わった様子もなくいつも通りだった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	鉄棒付近におり、対象児の事も認識はしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	鉄棒からは離れた場所で対象児と他の児童の見守りを行っていた。	危険だという認識をしていたが、危ないからやめよう等の声掛けをしなかった。自分の身長よりも高い所の鉄棒なので万が一落ちた時のケガの深刻さの指導員の予測が甘かった。	事故を全体で共有し、様々な場面で事故が起きうることを認識して、児童の見守りにあたる。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項
202	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	35							35		3	1	18.6歳	1.男児	
203	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	8.学童	80							80		10	5	19.7歳	2.女児	
204	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	10							10		1	1	18.6歳	2.女児	
205	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	43							43		4	4	19.7歳	1.男児	
206	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	106							##		13	7	19.7歳	1.男児	

No	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策
202	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕単純骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	新規職員への研修等が不十分であった。	支援にあたる職員の安全管理に対する意識等、共通認識を持つための会議を定期的に実施する。
203	2.室内活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	左足 踵骨のひび	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	事故発生時及び発生後の保護者への連絡など、即時対応の徹底を各職員へ促す。	ミーティングにて事故の状況・原因の全職員への周知の徹底。及び職員の時間等の制限はあるが、研修等の受講の推奨。
204	8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨折	8.その他	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	長期休暇中の為、人員不足であった。	特に長期休暇時の増員が望まれる。
205	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指基節骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	その他特記事項なし	危機管理意識の向上に努め、緊急事態の際は的確な対応を実践し、児童の安全確保に関連する研修を継続実施する。
206	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	2.基準配置	特になし	見守り方の見直しを検討する。学童クラブ利用児童に対して、遊ぶ際の注意点を再度指導する。

No	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策
202	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	遊具の危険性の認識と、児童の年齢や発達に応じた利用についての認識共有がなされていなかった。	利用前の安全点検、各遊具に対する危険性の確認を会議内等で行っていく。
203	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	学校側が設置している冷蔵庫のコードがたわんでいることが要因	冷蔵庫のコードがたわまないよう壁に密着させる等の対策が必要。教室内でどこが危険個所となりうるかを配置職員が極力注意・指導を徹底する。
204	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	特になし	清掃時に積み上げる机の位置を窓側から壁面に変更。清掃後は必ず元の配置に戻す。（実施済み）
205	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	その他特記事項なし	施設、設備等による原因の事故を防止するため、今後も継続して点検・安全確認を実施する。
206	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	他学童クラブ、児童館、区担当課と情報共有をし、同じような事故が起こらないように心がけていく。

No	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
202	1.集団活動中・見守りあり	児童の発達に応じた遊びの時間、遊具の利用、説明が不足していた。	対象児童の発達に応じた遊びの提供や遊具の利用、声掛け、見守り方をしていく。	1.いつもどおりの様子であった	動き回ることはあったが、特に注視する児童であるという意識がなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	丸太の遊具の近くには居たが、遊具を背にして外遊びを見守っていたため、事故の瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	校庭に30人程の児童が遊んでおり、2人の支援員が間隔をとって見守りしていたので対象児童の近くには居なかった。	保育者の配置位置について認識が不足していた。	一番事故の起こる環境の校庭には必ず保育経験者を配置する。室内対応は他の支援員に任せられるよう時間配分を考えて活動を行っていく。	
203	1.集団活動中・見守りあり	保育人数も多く、角椅子に座っているため、家庭科室の通路はとても狭く歩きにくい。	コンセント付近は気を付けて通るようにする、またはコンセント付近は通らない。	1.いつもどおりの様子であった	通路に椅子が出ており、歩きにくい状態であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	作文の個別指導を行っていた為、対象児童から離れたところにいた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	作文の個別指導を行っていた為、対象児童から離れたところにいた	個別に指導をしていた為、対象児童から離れていた。通路の確保が出来ていなかった	ミーティングにて事故の状況・原因の全職員への周知の徹底。及び職員の時間等の制限はあるが、研修等の受講の推奨。	
204	4.個人活動中・子どものみ	特になし	外遊び中はAB合わせて２名以上で室内保育にあたる様にする。（実施済み）	1.いつもどおりの様子であった	活発な児童で外で鬼ごっこを楽しむ姿はあるが、普段室内では静かに室内遊びを楽しんでいたが、広いスペースができたことにより走り回れる環境であったことが大きな要因である。	4.対象児の動きを見ていなかった	玄関にてお迎えに来た保護者対応をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	外遊び中のため、校庭にでていた。	おやつ後の清掃のために積み上げていた机を、いつもは元に戻していたが当日は積み上げたままにしており、児童にとっては走り回れる状況にあった。	固定された柵・バーの設置。（設置に向けて調整中）	
205	3.個人活動中・見守りあり	支援員が走らない等の危険行動について注意をしていたが、指示や指導が児童へ的確に伝わらない状況になってしまったことが考えられる。	児童への安全対策として、児童ホーム室内外での過ごし方やルールについて、引続き周知徹底していく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	翌日に体育祭が予定されており、全体的に児童の気持ちが高揚している雰囲気であった為、全児童に対し落ち着いて過ごすよう話したが、一部児童はその後も活発に活動していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	見守りの支援員は全体の行動を確認しながら、対象児童への対応、室内玩具の運搬や他児童からの声掛け等に応じていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	カウンターでの作業や保護者対応をしており、注視していなかった。	児童の危ない行動を注意した際一時的に静止したため、その後は当該児童から目を離し、全体の様子を気にかけていた。	室内での行動について基本的な安全対策走らない等を徹底し、児童の注意行動に関しては、一時的に静止しても暫く動向を継続注視しながら全児童への見守りを行う。	
206	1.集団活動中・見守りあり	特になし	校庭遊びの際の見守り職員の配置について見直しを検討する。	1.いつもどおりの様子であった	バスケットボールに夢中になっていた。シュートの際勢いが余って転んでしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	一人で遊んでいることは確認していたが、転んだ際の手の付き方までは声をかけていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	バスケットボールで遊んでいることは把握していたが、各自決められた場所の見守りを行っていた。	特になし	見守りの仕方の見直しを検討する。学童クラブ利用児童に対して、遊ぶ際の注意点を再度指導する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
207	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	8.学童	34							34		3	3	19.7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	遅番職員の出勤直後という事もあり、事故時の遊戯室は職員1名の配置となり、全体を見渡せる場所に立ち遊びの見守りを行っていた。	遊戯室の職員配置数を増やすなど改善を行った。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	遊具玩具等での怪我ではなかったが、ボール遊びの際は大きさや空気の入れ過ぎ（固くなってしまう）に注意していく。	遊具玩具等での怪我ではなかった為、改善策は特になし。引き続き、施設等の点検などを行っていく。	1.集団活動中・見守りあり	遊びを決める際は子供達が主体的に決められるよう話し合いを行っていたが、学年の違いによる体格差などの職員側の配慮が足りていなかった。	遊戯室にて活動的な集団遊びをする際の、児童数や学年分けを適切に行い支援し、引き続き見守りをしていく。	1.いつもどおりの様子であった	朝学習、朝の会に参加後、自主的に遊戯室での運動遊びに参加。顔色も良く、食欲もあり、いつも通りであった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	児童約12名に対し支援員1名で全体を見渡せる場所に立ち、遊びの見守りを行っていた。人数に対し空間の広さは適切に取れていた。事務室、遊戯室と隣にあることから何かあった際は、状況に応じて応援体制が速やかに取れる様にしている。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	こどもクラブ職員早番2名/遅番1名/事故時は、クラブ職員はクラブ室内にて保育及び引継ぎ中。児童館職員日勤5名/遅番3名/事故時、遊戯室は職員1名の配置となり、全体を見渡せる場所に立ち、怪我やトラブルが無いよう遊びの見守りを行っていた。	小学校1年生から高校生が一緒にボール遊び（天下）行っていた。小学生と高校生では明らかな体格差があった。	児童数を考慮し、遊戯室の職員配置数を増やすなど改善を行った。	
208	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	45							45		5	4	21.9歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	乗る前に降り方や転倒時の注意喚起をする	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	一輪車の点検を行う	1.集団活動中・見守りあり	特になし	子供の数に合わせた見守りをしていく	1.いつもどおりの様子であった	17:00過ぎクラブ室内で他児と共にごっこ遊びをした後、児童館の遊戯室にて一輪車で遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	児童館職員が本児を含めた遊戯室全体を見守り	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	クラブ職員はクラブ室にて全体を見守り	特になし	特になし	
209	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	70							70		8	5	20.8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足小指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度約(1～2)回/年	2.基準配置	自らの転倒・衝突による怪我のため特記事項なし。	自らの転倒・衝突による怪我のため特記事項なし。	1.定期的に実施	実施頻度約(500)回以上/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回程度/年	1.定期的に実施	実施頻度(50)回以上/年	自らの転倒・衝突による怪我のため特記事項なし。	自らの転倒・衝突による怪我のため特記事項なし。	2.集団活動中・子ども達のみ	自らの転倒・衝突による怪我のため特記事項なし。	自らの転倒・衝突による怪我のため特記事項なし。	1.いつもどおりの様子であった	心身共に健康であったが，ボールを蹴ろうとしたところ空振りをし床に小指を強打した。	4.対象児の動きを見ていなかった	児童館遊戯室で発生した事故のため，巡回をしていた児童館職員が対応しその後学童担当職員に情報共有をした。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	児童館を巡回していた児童館職員が，怪我をした児童本人の申し出により事故発生時の詳細な状況を認識し対応をし、学童職員に情報共有をした。	自らの転倒・衝突による怪我のため特記事項なし。	自らの転倒・衝突による怪我のため特記事項なし。	
210	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	8.学童	63							63		14	7	20.8歳	2.女児		6.水遊び・プール活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	口腔内裂傷・顎の上の部分の裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	多様な事態に備えて改めて研修資料等を見直す	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	更衣室を1階に変更し、階段を児童の動線から外す	3.個人活動中・見守りあり	特になし	階段を上っている際、プールタオルを首から被っていた為、腕を出すように指導する	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子で、特別に注意する事項は無かった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	2階の更衣室内に職員はいたが、階段に職員は配置していなかった為、対象児童の動きは見ていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各部屋で児童育成と着替え対応をしていた	特になし	職員間で今回の情報を共有し、怪我防止に努める。児童にも危機管理意識を周知する	
211	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	101							##		15	9	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし。	研修に関しては、毎年意識して職員が受けていけるとよい。	1.定期的に実施	実施頻度(200)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(200)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(200)回/年	丸椅子が柔らかいマットの上に置かれていた為、バランスが崩れやすかった。	椅子は育成中に座る用途で使うことがあるので育成室から排除することはしない。環境面で対応していく。	1.集団活動中・見守りあり	室内には他にも子どもが複数人いたため、対象児のすぐそばにはいられなかった。	このような事故が起きた事は常に頭に入れ、子どもが丸椅子を使う時は気に掛ける。子どもたちと怪我について共有し声掛けをする。	1.いつもどおりの様子であった	お気に入りのぬいぐるみを持ちながら丸椅子の上に立っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	丸椅子の上で立った姿は見ておらず、転倒後に気づき駆けつけた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子どもたちを見守っていたため、対象児の動きは見えていなかった。	特になし。	物を持ちながら椅子の上に立つ危険性を改めて子どもたちに伝えていく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
212	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	118							##		14	9	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし。	研修に関しては、毎年意識して職員が受けていけるとよい。	1.定期的に実施	実施頻度(200)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(200)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(200)回/年	特になし。	特になし。	3.個人活動中・見守りあり	室内には他にも子どもが複数人いたため、対象児だけを見守れる環境ではなかった。	各グループの集合時、子どもたち全体へ今回の出来事を周知すると共に、部屋でのじゃれ合いには危険が伴う(骨折する場合がある)事、部屋での過ごし方を再確認した。	1.いつもどおりの様子であった	仲良しの友達と一緒にじゃれ合う。くすぐり合う、ちょっかいを出し合う。	4.対象児の動きを見ていなかった	室内でのじゃれ合いは危険な場合もある為、担当職員がやめるよう何度か声を掛けた。落ち着いた様子を受けその場を離れたが、再度じゃれ合いをしていた為止めることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子どもたちを見守っていたため、対象児の動きは見えていなかった。	特になし。	特になし。	
213	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	48							48		6	4	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右ひじ骨折（ひび）	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	危険個所の把握、事故の起こりうる場面を想定し、共通認識できるように職員間で再確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	公園の遊具のため直接設備を改善することは難しい。遊具から飛び降りたりしないよう、また危険個所の把握を職員間で共有しておく。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	安全に遊具を使用できるよう職員の配置位置を再確認する。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り登所し、宿題も済ませおやつも全量食べた。戸外遊び前の室内遊びも変わった様子はなく積み木で遊んでいた。戸外遊びに出る際は、片づけを済ませて皆と同じように準備をしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	遊具は危険を伴うため、職員が必ず1名ついて見守りを行っている。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	近くにいた職員もたまたま遊具の方向を見ており、本児が視界に入っていた。	特になし	鬼ごっこの場所を決めて遊ぶ。遊具の上では鬼ごっこをしないよう見守る。	
214	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	60							60		9	7	20.8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	児童に対して怪我の予防となる声掛けが不十分であった。また、準備体操等で効果的な予防を行うことが出来ていなかった。	体を動かす遊びを行う際には必ず必要な声掛けや準備体操などを行わせる。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	体を使う遊びに関する注意事項等を記載した張り紙などは行っておらず、児童自らが事故防止に関する情報を確認できていなかった。	ドッジボール等の事故の多い種目に関しては、目に見える形でけがの予防ができる掲示物等を使用する。	1.集団活動中・見守りあり	児童に対し、けがの防止に取り組む適切な声掛けや様子を観察する部分が不足していた。	個々の児童に応じて状況や周りの環境に合わせて、けがが起きないよう声掛けをしていく必要がある。	1.いつもどおりの様子であった	ドッジボール大会に向けて、ボールをキャッチする練習に熱心に打ち込んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	遊戯室中央に立ち全体を見回せる状態にあった。対象児がけがをした際も至近で見守りを行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	遊戯室内の職員は1名のみであった。	至近から目視していたが防ぐことができない事故であった。	あまりに近すぎる場合は強すぎるボールは投げないよう声掛けを行う。	
215	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	119							##		13	10	20.8歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(３)回/年	2.基準配置	特になし	ボールを追いかけ始めた際、早めの児童への声掛けをする。事前に注意事項を確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	3.未実施	実施頻度(０)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(１００)回/年	特になし	これまで通り準備運動などをしっかりと行う。遊び中も職員が子ども達の動きを予測し声掛けを行う。	1.集団活動中・見守りあり	他児童と一緒にボールを取りにいってしまった。遊びに夢中になり、周りの状況が見えていなかった。	これまで通り準備運動などをしっかりと行う。遊び中も職員が子ども達の動きを予測し声掛けを行う。夢中になり過ぎないようクールダウンの時間を設ける。	1.いつもどおりの様子であった	久しぶりに三歩当てをした。転がったボールを他児も追いかけていたため、先に取ろうと走っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児童がボールを追いかけるのを見ていたが、危険性は感じなかったため静止などの声掛けはしなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	各自配置箇所付近から児童の見守りをしていた。	どういったときに怪我がおきやすいのか、子どもたちへのリスクマネジメントが不十分だった。	子どもの特性を捉え、動きを予測しながら見守りを行うよう、職員を指導する。	
216	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	13							13		3	1	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	屋外遊びを好む児童ではあるが、突発的な行動をするような性格ではなく、普段の遊び方にも問題はない。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	引率の支援員(1名)が見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の支援員及び補助員(計4名)も各々持ち場の遊具のある場所から遠目に引率の様子を見守っていた。	特になし	特になし	
217	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	32							32		5	1	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足脛骨らせん状骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	なし	2.不定期に実施	年に１～２回	3.未実施	なし	2.不定期に実施	月に１回	特になし	なし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	なし	1.いつもどおりの様子であった	同左	2.対象児の至近で対象児を見ていた	同左	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	同左	特になし	なし	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
218	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	48							48		5	5	19.７歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	特になし	なし	2.不定期に実施	実施頻度 毎日チェック	3.未実施	ー	2.不定期に実施	実施頻度(週一回チェック)	特になし	なし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	なし	1.いつもどおりの様子であった	同左	2.対象児の至近で対象児を見ていた	同左	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	同左	特になし	定員に対して不足なし	
219	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	110							##		8	5	20.８歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	右２趾靭帯損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3～5)回/年	2.基準配置	ケガへの危険度が高いものの研修が中心になっている	子どもは思ってもいない行動をとると思うこと	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	遊具以外の物でのケガ、事故	今回のように木や遊具以外のものへの注意喚起	1.集団活動中・見守りあり	危険行為としての優先順位が低いと思われるため巡回に留まっていた	静かに遊んでいる児童にも大丈夫だろうと思わず、積極的に声がけをする	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り虫好きな本児童は、友だちと虫探しをしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	時に近くに時に離れたところから見守る（1ヵ所留まって見守ることなく常に動きながら見守るので)	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	外遊びに出た職員全員が外遊び担当として動くため、本児童に専属でつくような配置ではない。基本的には危険性の高い遊具で遊んでいる児童の所を重点的に見守る。	危険行為としての優先順位が低いと思われるために、他の児童よりも目に入りにくかったことが考えられる	常にケガの危険があることの言葉がけをしながら巡回する	
220	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	49							49		5	3	18.６歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	特になし	外遊びで気をつけることをより細やかに職員や児童と共有する	1.定期的に実施	実施頻度(４)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	遊具や器具で起こりえる怪我や事故について職員で想定認識の徹底を行う	1.集団活動中・見守りあり	特になし	定期的に全児童に安全で正しい遊具などの使い方を伝える	1.いつもどおりの様子であった	代わった様子もなく過ごしていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	校庭の中心で児童全体を見守っていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体の児童の動きを把握するため距離を置いて見守っていた	特になし	職員間で児童の様子や起こりえる怪我や事故について共有の徹底を行う	
221	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	28							28		6	3	19.７歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	特になし	外的要因がなく、本児自身の転倒によるため	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	外的要因がなく、本児自身の転倒によるため	1.集団活動中・見守りあり	上級生がルール説明や進行等きちんと行っていた。リレーを行うのが久しぶりだったため、児童の気持ちが高ぶっていた。	全体の見守りを行うと同時に、気持ちが高ぶっている児童に対して落ち着かせるような声掛けが必要だ。	1.いつもどおりの様子であった	他児たちとリレーをしようということになり、本児も参加した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児が校庭に座っていたため声をかけたところ、リレーで足を痛めたと訴えたため、児童とともに先にクラブ室へ戻った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	クラブ室に戻るため、遊具の片づけや児童たちへの声掛けを行い、クラブ室へ引率した。	普段は児童が多いためリレーは行っていないが、当日は児童数が少なかった為リレーを行った。	児童が落ち着くような声掛けを行い、更に徹底していく。校庭での職員配置を熟慮する。	
222	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	43							43		6	4	20.８歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(11)回/年	1.基準以上配置	特になし	開室前のミーティングで事故状況をスタッフ全員に説明した。入念な準備体操やストレッチを行い、無理な動きをしないように声掛けの徹底を再確認	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	バランスよく身体を使えるよう基礎体力を向上する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	こんにちはの会で、日頃から無理な動きをしないよう周知し、スタッフはできるだけ声掛けをして見守る。	1.いつもどおりの様子であった	前年度に怪我をした部分と同じ個所だったので動きの癖があるのかもしれない。ボールを追いかけるあまり無理な体勢になってしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	瞬間的な動きで転んだわけではなかった。足を気にしていた為、近くに走り寄り声掛けをして一緒に部屋に戻り幹部を冷やす等の簡易的な処置を行った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当以外の部分にも目を向けてスタッフ同士でも声掛けをしていく。	特になし	準備体操を更にしっかり行う。体調面などに不安が残る児童には声掛けをし、右足首に気を付けるよう促す。	
223	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	80							80		3	5	20.８歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特別な配慮を必要とする対象児童の行動を予測できなかった。	特別な配慮が必要な児童対応について優先順位が刻々と変わることに迅速に対応する。一人で対応せずに経験者とペアで行い、困った事があればすぐにリーダーへ伝え対応する。特別な配慮を必要とする児童についてスタッフ間で共有し研修を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	アリーナ（体育館）での遊びを対象児童が理解していなかった。	利用前後に窓を開け、床や壁、舞台の上、倉庫の扉等、安全確認を継続して行っていく。	1.集団活動中・見守りあり	遊ぶ前に児童全員に対して注意事項を伝えたが、アリーナ（体育館）での遊びを対象児童が理解していなかった。	体育館（アリーナ）での約束を都度口頭で伝えるだけでなく、模造紙に約束を記入し、目で見てわかるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	対象児は今年度初めての利用だった為、遊びの前にドッジボールをする約束を伝えて参加したがすぐに離脱した。アリーナからプラザ室に戻ろうとした時、側転をしてみようと思い立ち初めて挑戦してしまった。	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児童が両手を上にあげたところを見たスタッフが危険な行為をしないように注意したが、その後スタッフが目を離すと側転をしてしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	体育館（アリーナ）で高学年と低学年に分かれて２面を使ってドッジボールをしていて、それぞれ支援員１名を含む２名ずつで見守りをしていたため、対象児童の動きを見ていなかった。	ドッジボールから離脱し、部屋に戻るところを見守れなかった。対象児童の突発的な行動を予測できなかった。	危険な行為を注意するだけでなく、児童の側に行き声を掛けて見守るなど、もう一歩進んだ対応を行っていく。また他のスタッフに応援を頼むなど、迅速な対応をするようにしていく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
224	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	65							65		7	5	19. 7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	考えられる要因・分析は、バランスを崩すことを予見できなかった。	遊びのルール変更及び今年度、事故対応研修を実施予定。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	引き続き、日々の点検を徹底する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	個々の運動能力の把握に可能な限り努め、適切な声かけ等をおこなっていく。	1.いつもどおりの様子であった	ジャンプボールをしてバランスを崩し左肘から地面に落下した。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ジャンプボールを上げた。対象児転倒後、すぐに応援を呼び支援員と一緒に傷害状況を確認した。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	少し離れたコートの端で全体を見守りしていた。対象児転倒後、その他児童の見守りをした。	ジャンプボールは目線がボールにいき、地面（着地）を見ないことから、バランスを崩すことが考えられる。	ミーティングで事故状況を共有し、児童の運動能力差もあるため今後はジャンケンでボールの保持を決めることとした。体育館や校庭で遊ぶ際は準備運動をしっかり行うことを再確認した。こまめに声をかけ見守りを強化し、何かあればすぐに支援員に伝えるよう確認を行った。子ども達に対して今後はジャンケンでボールの保持を決めること、準備運動をしっかり行ってから遊ぶように周知した。	
225	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	90							90		7	3	20. 8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	鼻の骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(15)回/年	2.基準配置	特になし	ミーティングで事故の経緯をスタッフ全員に説明し、見守りの強化と共に子ども達への声かけについて確認を行った。注意しながら遊ぶことの大切さを伝えるために数々の事故、怪我についてのヒヤリハットについて子ども達と一緒に考えた。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	ミーティングで事故の経緯をスタッフ全員に説明し、見守りの強化と共に子ども達への声かけについて確認を行った。注意しながら遊ぶことの大切さを伝えるために数々の事故、怪我についてのヒヤリハットについて子ども達と一緒に考えた。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	ミーティングで事故の経緯をスタッフ全員に説明し、見守りの強化と共に子ども達への声かけについて確認を行った。注意しながら遊ぶことの大切さを伝えるために数々の事故、怪我についてのヒヤリハットにつて子ども達と一緒に考えた。	1.いつもどおりの様子であった	体育館でバスケットボールをしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	近くで子どもたちの様子を見守りをしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	近くで子どもたちの様子を見守りをしていた。	特になし	ミーティングで事故の経緯をスタッフ全員に説明し、見守りの強化とともに子ども達への声かけについて確認を行った。注意しながら遊ぶことの大切さを伝えるために数々の事故、怪我についてのヒヤリハットについて子ども達と一緒に考えた。	
226	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	100							##		10	5	19. 7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右鎖骨	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	特になし	スタッフ会議やミーティングにて、怪我を未然に防止するため準備運動、遊び場の安全確認、人数に合わせた広さの設定、児童への安全な遊び方の声掛けを徹底することを話し合った。	1.定期的に実施	実施頻度活動日毎日	1.定期的に実施	実施頻度活動日毎日	1.定期的に実施	実施頻度活動日毎日	ドッジボールの参加人数が途中から増え、コートが人数に対して手狭になっていた。	集団遊びをする際には、その都度参加人数に合わせた広さの設定を行う。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	日頃から周りをよくみて人との距離を適切に保つことを繰り返し伝える。	1.いつもどおりの様子であった	ドッジボールで遊んでいたところ、一緒に遊んでいた関連児童の足に当事者の足がひっかかり転倒した。その際に右肩を地面に強く打ち付けた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ドッジボール担当のサポーターがいたが、ボールの進行方向を中心に見守りをしており対応ができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊びの見守りをしていたため、その瞬間は見ていなかった。	特になし	担当する遊びの様子、児童のを観察し、必要に応じて休憩をとるなどクールダウンの判断を各々が行えるようにする。	
227	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	29							29		4	4	23. 11歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘関節脱臼、上腕骨内側上顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	乗り終えた一輪車を玄関前に集めて横倒しに置かれていたことが危険要因を作ってしまった。	使用後は各自、倉庫近くのフェンスに立てかけておくことで、遊び場の安全スペースを作ることとする。	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(10)回/年	特になし	危険回避策が必要と判断した時には学校や所管自治体の担当課に相談し、改修することも視野に入れる。	1.集団活動中・見守りあり	他児童が乗り終えた一輪車を玄関前に集めて横倒しに置かれていたこと。	使用後は倉庫（一輪車保管場所）近くのフェンスに一列に立てかけておくことで、遊び場の安全スペースを作る。	1.いつもどおりの様子であった	一輪車遊びの後、ブランコをしてトイレに行くため、玄関より入室しようとした。	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児童の一輪車の練習を見守っていたが、他児から大縄に誘われ対象児に背中を向ける位置に移動したため、玄関に向かう前を確認できなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	おやつ担当1名、室内担当1名、外遊び担当2名の配置に分かれていたが、もう一人の外遊び担当は別の位置にいた。	大縄の児童しか目視できない立ち位置にしてしまったこと。	個々人の判断だけでなく保育現場での伝え合いを事例をもとにリスクとハザードについて検証も必要。	
228	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	35							35		5	2	21. 9歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	ヒビ	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	怪我等についてのマニュアルを見直して、全職員に周知徹底をする。	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(13)回/年	遊具の直下にソフトマットが設置されていたら、防げた可能性がある。	遊具の直下地面に衝撃吸収マットの設置する	1.集団活動中・見守りあり	低い場所からの落下の為、また激しい動きをする児童ではない為の油断。	今回の低い場所でも事故になることを全職員に周知して予防に努める。	1.いつもどおりの様子であった	落ち着きのある行動をとる児童	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	当該児ひとりで低い場所で足をかけているだけなので、事故につながる認識はなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の場所の配置の為その場にはいなかった	低い場所からの落下の為、また激しい動きをする児童ではない為の油断。	低い場所でも事故になることを全職員に周知して、配置人数を増やす。または全員が遊具の環境を把握するようにする。	

No	初回掲載年月日	概要：認可・認可外	概要：施設・事業所種別	事故発生時：月	事故発生時：時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳：0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故：年齢	性別	特記事項	事故状況：発生時状	事故の転帰	死亡：死因	負傷：負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面：マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面：施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面：教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面：対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
229	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	39							39		7	4	22.10歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足関節外果骨折（全治まで２か月程）	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(2~3)回/年	1.基準以上配置	指導員も子どもも慣れていないスケートというイベントで、骨折を想定していなかった。	スケートに関するリスクを考え、もっと準備や練習をする。	2.不定期に実施	実施頻度(3~4)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3~4)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3~4)回/年	今回はリンクに出る際の段差に躓いたのが、滑って転んだきっかけだったとのこと。	スケート靴を履いた状態での段差等やリスクを子どもと話しておくべきだった。	3.個人活動中・見守りあり	練習専用の小さなリンクが、今回使用中で最初に使えなかった。	次回は最初に使える時間も確認しつつ予約する。	1.いつもどおりの様子であった	怪我をするまでは笑顔で元気に過ごしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	痛みを訴えた対象児をベンチに誘導しすぐにスケート靴を脱がし冷やす。手当をした後は暖かい部屋で見学させる。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全児童に声をかけながら回っていた。対象児童がケガをした後は合流し協力して対応。	怪我や様子の対応がしやすい見守り専門の指導員の割合を増やす。	今後はスケートでのリスク・事故や怪我の可能性を洗い出し、職員と子ども共同で準備や練習をする。	
230	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	29							29		3	1	19. 7歳	2.女児		7.登園・降園中（来所・帰宅中）	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折（右くるぶし）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	登所中の事故のため該当なし	事故発生時、迅速に対応できるよう、マニュアルを振り返る。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	登所中の事故のため該当なし	施設内・施設外の危険個所がないか、点検を行う。	7.その他	登所中の事故のため該当なし	クラブへ来る際は足元に気を付けるよう声掛けをする。	1.いつもどおりの様子であった	小学校からクラブへの登所中	4.対象児の動きを見ていなかった	保育室内で児童対応をしていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室内で児童対応をしていた	登所中の事故のため該当なし	該当なし	
231	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	15							15		3	1	18. 6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上顎骨折・歯の破折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	当該児は死角になる場所で危険な動きをしていたが、職員はそれぞれ他の児童の対応をしており注意の声掛けができていなかった。迅速に救急車を要請する判断・対応をすべきであった。	迅速に対応できるよう、マニュアルや研修を振り返る。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	該当なし	危険個所がないか保育前に確認を行う。	1.集団活動中・見守りあり	当該児童は死角になる場所で危険な動きをしていたが、職員全員がそれぞれ他の児童の対応をしていたため、注意の声掛けができていなかった。	危険な動きはしないように普段から声掛けをする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	遊びで楽しくなり気持ちが高ぶった状態のまま片付けの時間となっていた。普段しないような動きをしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	他の児童の片付けを手伝ったり、帰りの準備を促していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童と一緒に片付けをしていた。	職員全員がそれぞれ他の児童の対応をしていたため、玄関のスペースが死角になり当該児童を見ることができていなかった。	該当なし	
232	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	34							34		4	2	19. 7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	該当なし	該当なし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	段差があり足元が安定しない場所で鬼ごっこをしていた。	足元が安定しない場所での外遊びは、怪我に繋がるリスクが大きいため行わず、校庭等児童にとって見通しが利く場所で外遊びを行う。	1.集団活動中・見守りあり	鬼ごっこを楽しんでいて周りの児童もかなりヒートアップしていた。	足元が安定しない場所での外遊びは、怪我に繋がるリスクが大きいため行わず、校庭等児童にとって見通しが利く場所で外遊びを行う。	1.いつもどおりの様子であった	友達と鬼ごっこして遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	外遊びの担当だった職員が見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の職員も全体が見えるところにいたため、当該児童の様子を見ることができる状況であった。	足元が安定しない場所での外遊びは怪我に繋がるリスクが大きいことを職員が認識できていなかった。	該当なし	
233	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	38							38		4	3	20. 8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折、左肘関節脱臼	8.その他	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	職員は十分配置されていた。今回は木登りをしようとしたわけではないが、木に登るときには必ず指導員が一緒にいる時にするように伝えているので、今後も徹底したい。	再度、子どもたちには木登りについての約束などを確認する	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	ぶら下がった木の枝が見た目以上に子どもを支えるほどの強度がなかった	ある程度子どもがつかまりそうな木は定期的に強度を確認する	1.集団活動中・見守りあり	目に見えて危ない場所については保育前に確認はしていた	確認の際に目で見てわかりずらい箇所についても意識する	1.いつもどおりの様子であった	セミ取りをしている最中、木の枝にぶら下がった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	至近で対象児童を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児童の動きを見ていなかった	職員の配置は十分にされていた	事故やケガについて防げることについては徹底する	
234	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	8.学童	77							77		5	3	19. 7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨の骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(52)回/年	2.基準配置	職員配置の基準が明確にされておらず配置が良くなかった。動く遊びを行う遊戯室２の方が児童数が多かったが、遊戯室１に2人配置していたため（遊戯室2：40名程、遊戯室1：20名程）に怪我の発見ができなかった。	部屋に配置する職員の基準を設ける。部屋に子どもが19人以下の場合は支援員を1人、20人以上になる場合は支援員を2人配置する。ただし遊戯室２は動く活動の部屋なので、職員配置の優先度は遊戯室2が一番高いものとする。	1.定期的に実施	実施頻度(52)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(52)回/年	人気の遊びでもあるフリスビードッジをするということで、遊戯室2で活動する児童が20名ほどから40名ほどに増えて子どもの動けるスペースが狭くなっていた。	人数制限を設ける。フリスビードッジをする際、40名を超える場合は参加できる人数を制限（30名まで参加可能）し子ども達の遊ぶスペースを確保する。	1.集団活動中・見守りあり	真剣に遊んでフリスビーに集中してしまい児童が周りをみたり、力を加減することが難しい状況だったと考えられる。	長期休みは全クラブが一緒に過ごすことが多くなり（登館予定人数95名程）部屋で遊ぶ人数が増えるので、朝の会で怪我が起きやすい場面を支援員から子どもに伝えて怪我の予防に務める。	1.いつもどおりの様子であった	フリスビーを投げたいという気持ちが強くあり、フリスビーしか見えていない様だった。怪我をした後も支援員に伝えず、迎えがくるまで遊戯室1で将棋等をして過ごしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	遊戯室２の入り口付近に立ち、全体を見渡せる位置で保育をしていたが本児が他児とぶつかった時に怪我をしたと気づけなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊戯室2で遊ぶ人数が増えた（40名程）が遊戯室1で保育をしていたままだった。保育室も支援員を1名配置して保育を行っていた。（児童数10名）	いつも行っている活動なので、事前に注意事項を伝えていなかった。動く遊びを行う室の方が児童数は多かったが、遊戯室１に2人配置しており怪我の発見ができなかった。職員配置の指示を出す者が曖昧だった。	長期休みで朝から動いて遊ぶ場合は、準備運動をしてから活動をする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
235	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	27							27		2	1	20. 8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	特になし	マニュアルの作成や研修の受講等を行い、事故防止に努める	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	子ども会の部屋には大型の遊具はなく、傷んだおもちゃはその都度撤去	椅子や机の上には絶対に上がらないように声掛けをする	1.集団活動中・見守りあり	遊び疲れてきた頃でもあり、子どもたちの人数が減りつまらなくなってきた	16：30以降は帰る準備として教室内を走り回らず読書等で静かに過ごす	1.いつもどおりの様子であった	活発に身体を動かすことが好きなため、友達が静かな遊びを始めるとつまらなくなったと思われる	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	2～3m離れたところから対象児を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	指導員2名で子どもを見ていたが、事故当時は指導員1名は清掃中で子どもに背を向けていた	特になし	事故予防のため、普段から気を付けるよう児童に声掛けを行う	
236	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	94							94		6	6	19. 7歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	特になし	事故を防ぐための研修を行い、予防に努める	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	今回は他児童の足につまずいたが、転びやすいところはないか確認する	1.集団活動中・見守りあり	特になし	他の児童と近い場所で活発な運動はしないよう声をかける。	1.いつもどおりの様子であった	室内の人数が少なくなり活発な活動ができるようになったので、おんぶ鬼ごっこを始めた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	２～３ｍ離れた場所で後片付けをしながら見守り。転んだ瞬間は見ていない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	受付で事務処理をしながら見守り。他児のトラブルが多く事務処理が遅れており作業に集中していた。	室内は歩く（走らない）側転や逆立ちはしないと指導していたが、おんぶは容認していた。	児童への声掛けによって普段から気を付けてもらう。	
237	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	22							22		5	3	20. 8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	無し	児童全員にもう一度危険な事はしないように話し合う	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	窓の近くで遊ばせない	窓ガラス破損防止をクッションシートに変更。	1.集団活動中・見守りあり	窓ガラス破損防止のためにウレタンを紐で固定していたのが要因	ウレタンマットを紐で固定していたため撤去しクッションシートに変更した	1.いつもどおりの様子であった	ウレタンマットは児童が乗れる位の大きさで高さが1.2m程ある。好奇心からか遊んでいる最中に登ってしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	児童同士で遊んでいるためすぐ隣ではなく少し離れたところで見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は別の児童を見ていないといけないため、事故当時も違う児童と遊んでいた	無し	無し	
238	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	111							##		6	4	19. 7歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕部肩下付近骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(5)回/年	2.基準配置	特になし	職員会議での見守りのポイントの確認と周知	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	施設設備については問題なし	なし	3.個人活動中・見守りあり	特になし	見守り方法の再確認	1.いつもどおりの様子であった	センター1階にて鬼ごっこをして遊んでいる際に発生。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	通常の活動であったので特別な見守りはしていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	通常の活動であったので、特別な見守りはしていなかった。	特になし		
239	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	23							23		6	1	18. 6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(5)回/年	2.基準配置	特になし	職員会議での見守りのポイントの確認と周知	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	施設設備については問題なし	なし	3.個人活動中・見守りあり	特になし	見守り方法の再確認	1.いつもどおりの様子であった	多目的室（プラザ室）にて他児童と遊んでいる際に発生。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	通常の活動であったので特別な見守りはしていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	通常の活動であったので、特別な見守りはしていなかった。	特になし		
240	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	155							##		8	5	19. 7歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(5)回/年	2.基準配置	特になし	職員会議での見守りのポイントの確認と周知	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	施設設備については問題なし	なし	3.個人活動中・見守りあり	特になし	見守り方法の再確認	1.いつもどおりの様子であった	センター2階にて他児童と走って遊んでいる際に発生。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	通常の活動であったので特別な見守りはしていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	通常の活動であったので、特別な見守りはしていなかった。	特になし		
241	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	46							46		3	2	19. 7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	（今回は特に危険な遊びをしているわけではなかった）	より児童の遊びを注視し、こまめに声掛けをする	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	現状通りの点検継続	1.集団活動中・見守りあり	特になし	要配慮児童を中心に、よりこまめに声掛けと見守りをする	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこ遊びの後、鉄棒遊びをしていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	外遊び児童を３名で見守っていた。けがをした際すぐにトランシーバーで連絡を入れる	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	いつ連絡が入ってもいいようトランシーバーを持ち、室内遊びの児童の見守りをしていた	特になし	今回は違うが、要配慮児童の動きを中心に見守りと声掛けをした方がよいのかもしれない	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
242	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	11							11		5	4	22.10歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		1.意識不明	1.頭部	外傷性くも膜下出血	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	事故予防に関する研修等が未実施であり、各職員の危機管理レベルや緊急時の対処法、危ない時に子どもに注意する感覚に違いがあった。	事故予防に関する研修等を定期的に実施し、職員の危機管理能力の向上を図る。危機管理に関する職員間での考え方の見直しや統一を図る。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	特になし	ハード面の整備・点検の不備などが要因で発生した事故ではないが、引き続き施設、設備の管理を適切に実施していく。	1.集団活動中・見守りあり	最後に残った逃げ役のA児童を鬼役2人（当該児童を含む）で追いかけ、Aを挟み撃ちする状態になった。正対した片方の鬼役から逃げるため、Aが反転したところ、Aの背後から迫ってきた鬼役の当該児童と衝突した。	公園でのルールや遊び方を子ども達と一緒に考え、危険のないルールに変更する。施設前にある公園（事故発生場所）では狭いため走る遊びを禁止し、走って遊びたい場合は近隣の広い公園へ行くこととする。	1.いつもどおりの様子であった	いつものように午前中は漫画を読んだり、他児と遊んだりしていた。午後からは虫取りに行った。夕方になって児童数が減り、室内で走り回っていたが、外で遊んでいる子がいるのを見て外に出ていった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	子ども達は鬼ごっこで動き回っていたため、外遊び全体を見渡せるように、対象児から距離をとって遊び全体が見えるところにいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内にも児童がいたため室内で保育していた。	外遊びを見守る職員を複数配置していたが、ともに遊具の内側に配置する形となっていた。	周囲に注意しながら活動できるよう、引き続き、放課後児童支援員等が子どもたちに声掛けをしていく。	
243	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	15							15		2	1	22.10歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指ひび	8.その他	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	国から示されたひな形を参考に屋内・屋外等場面に添ったマニュアルの作成をしていく。	2.不定期に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(48)回/年	特になし	今後も引き続き点検を行っていく。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	児童各々の遊びの見守りができるよう支援の配置を考える。	1.いつもどおりの様子であった	２人で室内でキャッチボールをしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	数人でボールを投げ合っていたが、柔らかいボールだったので突き指等の心配はしていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援室内で他の児童の見守りを行っていた。	ないであろうという考えではいけなかった。	室内（支援室等十分なスペースの取れない所）でのボール遊びについては控える。	
244	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	20							20		4	2	19.7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	—	怪我をした際の処置の仕方やマニュアルを再度確認していく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度（毎日）回/年	—	引き続き施設内の管理に気を配っていく。	1.集団活動中・見守りあり	—	職員に周知し安全面の再確認・共通理解を促していく。	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこをして遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	全体の様子を見ながら、鬼ごっこをして遊んでいる姿を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	違う場所にいる子どもたちを見守っていたため、見ていなかった。	—	無理な行動はしないことや周りを見ながら遊ぶように子どもたちに声をかけていく。	
245	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	74							74		8	8	20.８歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(３)回/年	2.基準配置	職員配置を9人体制にできれば、3部屋すべてに支援員を3人ずつ配置することができ、充実した見守りに繋がるものと思われる。	運動を伴う集団遊びを行う場合には、原則として支援員が複数配置となるよう、マニュアルの見直しを図る。	2.不定期に実施	実施頻度（１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４)回/年	2.不定期に実施	実施頻度（１２)回/年	遊戯室は運動を伴う活動をするため、床面や壁面の状態、コーナーガードの状態等について日常の安全点検を行う必要がある。	遊戯室においては、特に遊具等の置き方や壁面の突起部を覆うクッションの状態等、細部を入念に点検する必要性を改めて認識した。	1.集団活動中・見守りあり	児童が活動に夢中になり、危険を伴うような激しい動きが見られがちである。	安全に活動するために事前にルールや心構え、活動中における支援員の声掛けの仕方等を工夫する必要がある。活動人数については今後も安全に活動できる適正な人数での実施を心がけたい。	1.いつもどおりの様子であった	対象児は日頃から活発な動きをしているが、事故当日、特に変わった様子は見られなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	児童の動きが遊戯室内の広範囲に広がり、動きも早いため、近くで見ることはできていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	職員それぞれが担当場所の見守りを行っていたため、１名の担当者以外に対象児の動きを見ることはできなかった。	できれば複数での見守りが望ましい場面であったが、事故発生時には活動場所が遊戯室と集会室に分かれたため、１名での見守りとなっていた。	運動を伴う活動の前は支援員と児童でルール確認するとともに、危険な動きをしないよう指導が必要。活動中は児童の活動の様子を注意深く観察するとともに、児童同士が交錯する等心配される場面があった時は、活動を止めて状況を確認する。児童に対して、痛み、けが等の異常があった際はその場ですぐに申し出ることを約束する。	
246	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	54							54		6	5	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	ボールを追いかけ躓き転んだので、今回は近くに指導員がいてもどうしようもなかったが、外遊びに出る時一言充分気をつけて遊ぶよう声掛けが必要と思った。今後、研修で共有し改善に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	特になし。	運動場の安全を確認してから利用する。	1.集団活動中・見守りあり	早く遊びたいという、我先に外へと思う子供の思いがある。	自由にする前に事故・怪我を起こさないようにする為の声掛けが必要。	1.いつもどおりの様子であった	学童以外の遊びに来ている友達と遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	運動場の真ん中で遊んでいる様子を、外遊び担当の支援員が一緒にサッカーをして、見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	一輪車やドッチボール等他の遊びをしている児童を見守っていた。	特になし	子ども達全体に慌てない・気をつける等注意喚起をすることを毎回する必要がある。	
247	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	20							20		3	3	22.10歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘ひび	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	戸外遊びの際に遊具の使い方、注意事項をその都度喚起することを職員間で周知する。	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	今回の事故と関連性が低いため、特になし	今回の事故と関連性が低いため、特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	事前に児童の遊ぶ範囲を決め、遊びエリア毎に見守り視点を再確認し、実践する。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおりの様子であり、鉄棒で遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	鉄棒を含む遊具で遊ぶ児童らを見守っていたが、ケガをした場面は他児童を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童の動きを見ていたため、鉄棒で遊ぶ児童らを見ていなかった。	特になし	正しい遊具の使い方や注意事項について児童に再度注意喚起する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
248	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	70							70		7	3	19．7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	—	今回の事故と関連性が低いため、改善策なし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度（毎日）回/年	—	引き続き施設内の管理に気を配っていく。	1.集団活動中・見守りあり	各々好きな遊びをして支援員が見守っていた。	職員に周知し安全面の再確認・共通理解を促していく。	1.いつもどおりの様子であった	遊戯室でボール遊びをしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	トイレに行く本児の後ろ姿を見送った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	トイレに行く本児の後ろ姿を見送った。	—	何が起こるか分からないため、早めにトイレに行くように児童全員に周知した。	
249	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	28							28		2	1	21．9歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	—	今回の事故と関連性が低いため、改善策なし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度（毎日）回/年	—	引き続き施設内の管理に気を配っていく。	1.集団活動中・見守りあり	各々好きな遊びをして支援員が見守っていた。	職員に周知し安全面の再確認・共通理解を促していく。	1.いつもどおりの様子であった	館内を走ったり好きな玩具で遊んだりゴロゴロと寝ていたりしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児が館内を走り回っている様子を見て、声をかけ止めに入ったり遊びに誘いかけたりした。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	声をかけた職員以外は他の児童を見ていたため対象児を見ていなかった。	—	館内で走り回ったり暴れるとけががに繋がることを伝えた。人員配置の都合で入室できる部屋を制限する時は、入室できないと分かるよう掲示する。	
250	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	20							20		3	3	21．9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	引き続き基準以上の職員配置を守って見守りを続けていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	特になし	引き続き定期的に施設の安全点検を実施する。	1.集団活動中・見守りあり	外遊びで遊んでいた場所の床がウッドデッキの様なものであるため、湿気で滑りやすかった可能性がある。	該当の場所では遊ばない。	1.いつもどおりの様子であった	転倒するまでは元気にケイドロの遊びに参加していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	9人を二人の指導員で見守っていた。転倒した場面も見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	9人を二人の指導員で見守っていた。転倒した場面も見ていた。	特になし	児童が転倒しやすい場所などを指導員間で共有し、児童の転倒が無くなるよう注意して保育を行っていく。	
251	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	40							40		3	2	18．6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	外遊び時の職員配置に対して遊び場（グラウンド）が広いため目が離れた瞬間があった。	職員数を増やせない場合、遊び場を目の届く範囲に絞る。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	雨上がりでなく、鉄棒に不備もなかったが多少足元に凹みがあった。	足元にも目を向け、凹み等ないかチェックする。	1.集団活動中・見守りあり	ちょうど当該児童を見れていない場面で事故が起こった。	グループ分けをし、職員の見守れる範囲で遊ぶよう促す。	1.いつもどおりの様子であった	通常の遊びの一環としての鉄棒遊び	2.対象児の至近で対象児を見ていた	いつも通り二手に分かれ大まかなグループごとに全体を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ほかのグループの見守りをしていた。	事故は他の児童に目がいっていた瞬間だった。	低学年の場合特に高さに関係なく怪我の要因に繋がるため、気を付けて目が届く範囲で見守る。	
252	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	83							83		6	4	20．8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左示指中指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	3.個人活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	とくに変化はなくいつも通りの様子だった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	遊びを見守ることのできる位置で見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	離れたところにいる指導員からは死角になる場所であった。	特になし	児童一人一人の行動を見守り、適切に声掛けをしていく。	
253	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	83							83		7	4	21．9歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	口腔内裂傷	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1～2)回/年	2.基準配置	特になし	迅速な対応はできたが事故発生時後は支援員間での内容の共有が必要だった。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	ケガに繋がる行動をとっていないか、危ない場所がないかを確認し、安全に遊べる環境作りが必要である。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	見守る範囲が広いので、児童に背を向ける形にならないよう支援員が立ち位置を考えて見守り、事故が起きる間に防げる声掛けをする必要がある。	1.いつもどおりの様子であった	友達とふざけてすべり台を逆走して遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	児童がすべり台から落ちる前、高い鉄棒に登っていた別の児童の対応をしている際に、児童がすべり台から転落した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故のあったすべり台から離れたグランドでサッカーをしていた他の児童を見ていたためすべり台の方は見ていなかった。	特になし	すべり台、ブランコ、鉄棒のところにいる児童をすべて見渡せる位置に職員が立ち、事故が起こる前に児童本人に危険を声掛けするべきだった。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
254	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	22							22		2	2	18. 6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(３)回/年	1.基準以上配置	安全マニュアルの整備に努める。職員配置は適正である。	事故の要因等を分析し、職員会議等を活用して安全意識を高め、支援に反映させる。人気のある遊具で職員が約束事を伝え、危険な状況を回避するよう声を掛ける。	2.不定期に実施	実施頻度(１２)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(３)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(４８)回/年	遊具（遊具）の高さ、設置の間隔を検討。	高さの調整、ぐらつき防止のため遊具（丸太）を掘り起こし調整。間隔を狭く設置。また、丸太の角を電動サンダーで削る。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	見守り位置の再確認。	1.いつもどおりの様子であった	たくさんの人数で丸太あそびを楽しんでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	丸太あそび全体を見ていたが、遊具の長さがあり対象児童の動きは見ておらず、落下を防げる位置にはいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	外遊びの見守りは常時複数体制だが、落下の場面は見ていなかった。	特になし	職員の見守り位置の確認とともに児童の動きを見守りつつ、場を捉えて安全に遊ぶためのルールの確認を行う。	
255	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	24							24		4	4	20. 8歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足剥離骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	下校する際の注意事項について、児童へ周知出来ていなかった。	下校の際には、人と人の距離を十分にとり無理な追い越しをしない。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	ソフト面の事故なのでハード面は問題なかったと考える。	ソフト面の事故なので、改善する予定なし。	7.その他	正門を出てからの児童の行動について見ていなかった。	下校途中に事故が発生しないように、注意喚起を行う。	1.いつもどおりの様子であった	普段通り、集団下校をしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	下校途中（学校の敷地外）のため、指導員は対象児童の動きを見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	下校途中（学校の敷地外）のため、指導員は対象児童の動きを見ていなかった。	集団下校で正門を出てからの事故のため、指導員の目が行き届いていなかった。	下校時等指導員の目が行き届かない場面での児童の行動を予測し、事前に危険と思われる行動について児童へ指導を行う。	
256	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	21							21		4	2	22. 10歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	予期しないことで怪我をすることが有る為、危険な可能性が有る場面について職員間で検討し注意喚起を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	今回の事故については特に問題はなかったと考える。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	各児童の動きを注意深く見守り、声掛けを行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	特になし	2.対象児の至近で対象児を見ていた	遊んでいる児童の見守りを行っていた。転倒後直ぐに声を掛け、怪我の状態を確認し手当てを行った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の場所で遊んでいる児童の見守りや、一緒に遊んでいたため事故の状況を見ていない。	特になし	今回の事故については特に問題はなかったと考える。	
257	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	18							18		2	2	21. 9歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	職員は児童の見守りをしていた。	危険な可能性がある場面を想定した研修を強化する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	運動場に凹凸はなかったため、今回の事故については特に問題なかったと考える。	特になし	3.個人活動中・見守りあり	特になし	児童の骨折に気づかなかったので、見守りを強化していく。	1.いつもどおりの様子であった	３年男児と追いかけっこをしている際に自分で転倒しそうになり、態勢を立て直そうとして左足を捻る。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	主にドッジボールの輪の中でコートの中心に立って審判をしながら対象児童も含め全体を見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	1名はコート審判と対角線上の位置に立ち全体を見ていた。1名はドッジボール近くの縄跳び台で他の児童を見ていた。	活動中の児童の見守りを行っていたが、児童がこけそうになった際にはフォローできなかった。	今回の事故については特に問題なかったと考える。	
258	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	19							19		2	2	21. 9歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	打撲	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	今回の事故については、振り向き様に自ら転倒したため転倒を予期することは出来なかった。	研修の機会等を通じて、事故につながりそうな行動について事例をあげて情報共有する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	今回の事故については、特にハード面の問題はなかったと考える。	特に必要はない。	1.集団活動中・見守りあり	今回の事故については、自ら足を滑らせ転倒したため転倒を予期することが出来なかった。	活動中の児童の見守りを強化する。	1.いつもどおりの様子であった	友達と「ままごとごっこ」をする為の準備をしようと思い歩いていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児童のすぐ横で見守りを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室入口付近で、5時帰りの児童たちの対応をしていた。	怪我をした児童の横で見守りを行っていたが、障害物等がない中で転倒することは予期できなかった。	今回の事故については特に必要はないと考える。	
259	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	71							71		9	5	20. 8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	1.基準以上配置	特になし	事故が起こった時に職員が連携して対応できるように話し合い研修をしていきたい。	1.定期的に実施	実施頻度(３)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(３)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(３)回/年	特になし	指導員の死角を減らす。何でどのようにして遊ぶかを考えるように促す。	1.集団活動中・見守りあり	高い遊具に上っている時は、特に気を付けるように見守り声をかける必要がある	自分が出来るかできないかをよく考え遊びに参加するように見守り声をかける。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わりない様子で友達との活動を楽しんでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	虫取り、ボール遊びなどを見ており遠目で活動の内容を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの場所で子どもの活動を見ていた。	高い遊具に上っている時は、特に気を付けるように見守り声をかける必要がある	子ども達がどのような動きに発展しているかをよく見守る。遊び方について日頃から意識できるように話をしていく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
260	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	52							52		10	6	21.9歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	事故発生時に職員が連携して対応できるよう、話し合い研修をしていきたい。	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	特になし	指導員の死角を減らす。何でどのようにして遊ぶかを考えるように促す。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	人的環境・物的環境を整えて活動できるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	普段通り元気に入室しおやつを食べて、体育館で遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児童が遊んでいるのを確認しつつ、子どもたちの遊びを見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の場所で遊んでいる児童を各場所で見守っていた。	特になし	子どもたちがどのような動きに発展しているかをよく見守る。	
261	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	62							62		9	4	19.7歳	2.女児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足小指付け根の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	下校中寄り道しないように指導。	下校中寄り道しないように指導。	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	特になし	ハード面の事故ではないので改善する予定なし	2.集団活動中・子ども達のみ	特になし	集団下校中の在り方の指導	1.いつもどおりの様子であった	1日通して普段通り過ごしていた	4.対象児の動きを見ていなかった	児童クラブ終了後の下校時の事故であるため	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	児童クラブ終了後の下校時の事故であるため	特になし	集団下校中の在り方の指導	
262	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	39							39		5	3	20.8歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	児童を注意深く見守り、再発防止策を支援員間で検討し共有する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	プレイルームで遊ぶ子どもの数、支援員の配置を考える。	1.集団活動中・見守りあり	2年と3年がプレイルームを半分に分け別の遊びをしていた為、遊ぶ場所が狭かった可能性もある。	支援員は児童をもっと注意してみておく。低学年だけでなく、高学年にも配慮する。	1.いつもどおりの様子であった	最近この5人で遊ぶ事が多く、今日も何をするか考えて遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	子ども達の考えた遊びをさせたかったし、3年生だから大丈夫だろうという思いもあった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童を見ていた。	フラフープを投げる役があることに気がつかなかったので、気がつけば早めにやめさせる事ができた。	特になし	
263	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	25							25		2	1	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	特になし	職員配置については規定人数を配置しているが、送迎時の職員配置についても工夫し、安全に見守れるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	点検に応じての対応をしており、改善策は特にないため今後も引き続き行っていく。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	個人活動中はそれぞれが好きな活動をしてバラバラの動きをしているため、その場の職員は状況を見ながら環境構成を考え、見守りの体制を整える。	1.いつもどおりの様子であった	特になし	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体の見守りを行っていた為対象児から離れたところにおり、転倒する際に手を差し伸べることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故発生場所に支援員が1人しかいなかった。	特になし	送迎の関係で職員配置が手薄な状況での事故だった為、職員が揃うまでの活動を見直し、児童の近くに職員が配置できる環境を作る。	
264	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	43							43		7	5	20.8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手親指骨折（保護者から聞いた内容）	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	特になし	安全管理マニュアル（市作成）をもとによりきめ細かな安全計画を策定する。支援員等に研修を実施し、徹底を図る。	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年 遊具がない	2.不定期に実施	実施頻度(250)回/年	特になし	当児童クラブは貸しビルの2階にあり外遊びや遊具で遊ぶ環境に乏しいため、近隣の広場や公園の利用を進める。その際、交通事故等がないよう十分に配慮して取り組む。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	児童たちの遊び方をルール化する。当面のこととして、室内では「走りまわらない」「飛びついたり、おんぶ、だっこ禁止」「ボール禁止」とした。	1.いつもどおりの様子であった	３年生児童と室内で遊んでいる最中、振り回された格好となり倒れた。その際、左手親指を床（畳敷）に強打する。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	主任が当該児童の大きく痛がる様子に気付き、親指付近が腫れがっていることをこと確認した。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	主任の指示で他の支援員等が直ちに救急病院に連れて行った。	特になし	児童たちの遊び方を見直す。特に室内での遊びに配慮する。	
265	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	36							36		4	4	20.8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足人差し指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	3.基準以下	事故発生時間は職員が３名しかおらず、４．５部屋に分かれていたため各場所につくことが出来なかった	職員が少ない中では、個々での遊びを制限をして、集団での遊びに切り替え、目が行き届くように努める。	1.定期的に実施	実施頻度(250)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(250)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(40)回/年	特になし	ボール遊びをする部屋の床にマットを敷き、足指への衝撃を和らげる様改善した。	1.集団活動中・見守りあり	他の職員を呼ぶ前に、パーテーション裏でボールを蹴ったため、一時的に職員から死角になり、怪我を防ぐことが出来なかった。	他の職員が来るまで待たせるなど、安全に遊べるよう配慮する。衝動的な行動が多い子供であるため家庭でも行動に関して話し合ってもらう。	1.いつもどおりの様子であった	同じ部屋で野球をしていたが、当該児は野球のルールが理解できないため集団に馴染めず、ボールを蹴りたくなった。違う遊びをするためパーテーションを使った。	4.対象児の動きを見ていなかった	職員は野球の審判をしており、当該児がパーテーションで仕切ってすぐは見ることが出来なかった。仕切って間もなく泣き声が聞こえ、すぐ駆けつけたがすでに足を床に打ち付けていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	活動毎にクラブ内4つの部屋を分け、基本的に職員は各部屋に１名いるようにしているが、加配児童に手が取られることもあり、当該児一人のために職員がつくことは不可能だった。各部屋からは他の部屋が見えず死角が多くある。	特になし	ボールを使う部屋をパーテーションで仕切る場合、必ず2人以上の職員で関わるようにする。	

No	初回掲載年月日	概要: 認可・認可外	概要: 施設・事業所種別	概要: 事故発生時期 月	概要: 事故発生時期 時間帯	概要: 発生場所	発生時の施設・事業体制: 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故: 年齢	性別	特記事項	事故状況: 発生時状	事故の転帰	死亡: 死因	負傷: 負傷状況	負傷: 受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面: マニュアルの有無	事故予防研修	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面: 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面: 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面: 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
266	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	24							24		4	2	21.9歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(２)回/年	2.基準配置	環境の安全だけ注視し、学校では高学年体育科で行う走り高跳びの危険性に支援員が気付けていなかった。	室内遊びにふさわしい遊びをリスト化。職員で共通認識をもつ。	2.不定期に実施	実施頻度(２)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４)回/年	室内で行い、着地場所にクッションがない部分があることを見過ごしていた。	クッションの使い方を、本来の休憩場所として使うように児童に周知。	1.集団活動中・見守りあり	走り高跳びを遊びとして、するべきではなかった。	事故防止研修を受講し、職員の意識改善に努める。	1.いつもどおりの様子であった	数回は上手に走り高跳を跳んでいた。事故発生時は着地点に転ぶように落ちていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	当遊びをしていない児童にぶつかる危険はないか、周りにぶつかるような障害物はないかを確認していた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	机で事務作業をしながら、時々周囲の安全を見守っていた。	走り高跳び等、室内遊びに動きが伴っていないものはさせない。	走り高跳びは今後しないが、激しい遊びの時は至近距離で安全確認し事前に注意点を子どもに伝える。	
267	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	31							31		4	1	20.8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足中足骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	児童への声かけの強化	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	児童数が多いため、机の数（本数）が多い。	できるだけ机の配置の間をあけるようにする。遊ぶ時間などは机をかたずける。	1.集団活動中・見守りあり	夏休み中の気温が高く、外遊びがほとんどできず体力を持て余していたかもしれない。	落ち着いて過ごせる環境づくりの工夫する。また、靴下をはいて走ると滑りやすいのでワックスを滑りにくいものにする、上履き利用も検討する。	1.いつもどおりの様子であった	室内で走り回ることが多い児童。今回も走りトイレに行こうとした時にぶつけている。	4.対象児の動きを見ていなかった	おやつの後の片づけのため、見ていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	おやつの後の片づけのため、見ていなかった	トイレに行きたいため、走っていた	忙しくしていても支援員が４人いたので、1人は児童の動きを見ていればよかった。今後は予想される事故や怪我の防止に万全を尽くす。	
268	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	25							25		2	2	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手薬指骨折	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	特になし	事故予防に関する研修を行い、児童の見守りを強化していきたい。	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	ミーティング等で危険箇所の確認をしていたが、使用禁止等の措置をとらなかった。	危険個所の点検とその後の対応を徹底していきたい。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	児童の見守りを強化していきたい。	1.いつもどおりの様子であった	虫取りをしていて休憩のためベンチに座った。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	複数のグループで遊びをしていたので、公園全体が見える位置で見守りをしていた。対象児がベンチに座ったのを見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	複数のグループで遊びをしていたので、公園全体が見える位置で見守りをしていた。対象児と担当者のやり取りを見ていた。	特になし	公園管理所管課との一層の連携を図り、児童が安心安全に遊べるようにしていきたい。	
269	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	44							44		7	6	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨骨幹部骨折（全治２か月）	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	なし	緊急事故対策職員会議を開催し、事故防止徹底を図った。毎日の職員ミーティングでも危機感と緊張感を持って業務を遂行するよう指導している。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	数日前からの晴天続きで、中庭の地面が乾き滑りやすくなっていたかもしれない。	児童が安全に遊べるよう、毎日中庭の様子を確認する。中庭で走る遊びを禁止した。	1.集団活動中・見守りあり	なし	中庭で遊ぶ日は児童の遊びの内容を制限し、それぞれの遊ぶスペースが交わらないよう遊ぶ場所を決める。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り通所していた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	外遊びは支援員３名で見守り、事故当時は2名で2方向に分かれていた。中庭全体が見られる場所で見ていたが、鬼ごっこをしていた他児と接触し、本児の転倒した瞬間は気づかず、他児の報告で事故に遭ったことに気づき、すぐに児童を介抱しながら館内に連れ戻った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	児童館玄関前で離れた他の児童の遊びを見守っていた。転倒した瞬間は、事故箇所から離れており他児童の動きに注意しており気づかなかった。	なし	なし	
270	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	27							27		3	2	20.8歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右腓骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	安全に下校することを促す。特に階段の上り下りを注意することを伝える。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	点検時に不備が発見された場合は、学校等に報告する。	7.その他	特になし	安全に下校することを促す。特に階段の上り下りを注意することを伝える。	1.いつもどおりの様子であった	通常通り決まった時間に下校した。歩道橋の階段も慌てず降りたが、最後の一段で転んだ。	4.対象児の動きを見ていなかった	下校後のため未確認だった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	下校後のため未確認だった。	自宅が歩道橋を下りてすぐなので、気が急いてしまったことが考えられる。	歩道橋では1段1段注意して下りるよう指導した。当面保護者の車での送迎となった。	
271	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	6							6		3	3	23.11歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右母趾末節骨骨端線損傷及び右母趾外傷性趾爪甲剥離	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	遊びの内容に危険因子があったと考えられる。	児童の発達段階に応じ運動機能等を考慮した遊び方を検討し、児童へも注意を呼び掛ける。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	玩具の不備ではなかったが、日頃から危険な箇所がないか点検時以外にも意識をして確認をする。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	児童の行動すべてを監視するのは困難な為、日頃から遊び方・気を付けるように話をする等して注意を促す。	1.いつもどおりの様子であった	落ち着いてルールを守って遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児を含み同じ遊具で遊んでいる児童たちを見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の遊具で遊んでいる児童を見守りながら対象児も見ていたが、事故発生時は見ていなかった。	特になし	あらゆる状況を考え、児童の動きを予測し危険を防ぐことができるよう見守っていく。	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面							環境面			人的面								
				月	時間帯		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	死因	負傷	負傷状況	受傷部位	診断名	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
272	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	15						15		3	1	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨頭骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	今回の事故は不慮の事故であったが、見守りをより強化する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	遊具の不備ではなかったが、日頃から危険な箇所がないか点検時以外にも意識をして確認をする。	1.集団活動中・見あい守り	特になし	児童の行動すべてを監視するのは困難なため、日頃から遊び方・気を付けることについて話をする等して注意を促す。	1.いつもどおりの様子であった	一人でボールをドリブルして遊んでおり、転んで負傷した。	2.対象児の近で対象児を見ていた	ボール遊びをしてそばで見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の補助員2名は、他の児童の見守りをしていた。	特になし	あらゆる状況を考え、児童の動きを予測し危険を妨げられるよう見守っていく。	
273	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	32						32		5	3	19.7歳	2.女児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首橈骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	今回の事故は不慮の事故であったが、見守りをより強化する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	遊具の不備ではなかったが、日頃から危険な箇所がないか点検時以外にも意識をして確認をする。	1.集団活動中・見あい守り	特になし	児童の行動すべてを監視するのは困難なため、日頃から遊び方・気を付けることについて話をする等して注意を促す。	1.いつもどおりの様子であった	日頃から体を動かすこと、外遊びが好きなため、いつも通りあそんでいた。	2.対象至対象児の近で対象児を見ていた	すぐ近くで見守っていたが、あっと思った時には転落し、手を差し伸べるのは難しかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	広い範囲での外遊びのため、各場所で見守りをしている。そのため見ていなかった。	特になし	あらゆる状況を考え、児童の動きを予測し危険を妨げられるよう見守っていく。	
274	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	26						26		2	1	18.6歳	2.女児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	特になし	支援員のミーティング時にヒヤリハット事例や、事故防止マニュアルを再度確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	桜の木の根っこが広範囲に張り出しているため、伐採含めなども担当課と協議する	3.個人活動中・見あい守り	特になし	木の近くでは遊ばないように声かけを行う。	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこしていて、桜の根っこでつまり足を取られ、木の根っこづき首を捻る	3.対象児離れたところ対象児を見ていた	グラウンド全体の見守り	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	3支援合同でグラウンド全体を4名の支援員が見守っていた。	特になし	他クラブであった事故も情報を共有し、同じような事故が起こらないように支援員一人一人が見守りを強化する。	
275	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	15						15		4	4	19.7歳	1.男児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	特になし	その日の子どもの人数や動き方を見て、職員配置を行う。	2.不定期に実施	2回程度/週	2.不定期に実施	3回程度/年	2.不定期に実施	12回程度/年	吊り輪は落下の可能性があるある子どもたちは常にスリルを求めてしまう。	落下の可能性のある遊具(吊り輪、ブランコ、鉄棒、震棒等)を使う時の注意点をもたちと確認し、遊び方を考えるようにしたい。	1.集団活動中・見あい守り	広い運動場の中で、子どもたちはそれぞれ希望の遊具で遊ぶので、全てを把握することは困難。	落下の可能性のある遊具(吊り輪、ブランコ、鉄棒、震棒等)を使う時の注意点をもたちと確認し、遊び方を考えるようにしたい。	1.いつもどおりの様子であった	仲良しの子と一緒に吊り輪で遊び、吊り輪の一つを両手でつかみ身体を押してもらった。飛び降りた際着地に失敗した。	3.対象児離れたところで対象児を見ていた	吊り輪から落下した男の子は以前遊びをしていたため、太鼓橋とブランコの低学年の子の見守りを優先していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	運動場全体を見渡せる位置にいた。広い運動場にはそうとも必要。	落下の可能性がある遊具で遊んでいる子には、たとえ遊び慣れていたとしても一言注意を喚起をするべきだった。	支援員の人数に限りがあり、傍にいられない時も、外に出る前に全児童に対して遊び方の注意点を伝える。	
276	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	9						9		3	1	19.7歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	左目眼窩底骨折、結膜下出血、角膜上皮損傷、網膜振盪	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	これまで走る児童に対して注意や制止を行っていたが、今回のように走り回ることで事故につながることについて児童に浸透しきれていなかった。	ガイドラインを基に職員で改善策検討を行った。併せて今後事故防止マニュアルの作成を進め、職員で共有を図る。	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	施設内玄関ホール、和室、手洗い場、会議室が抜けることができる状態であった。	玄関ホール、手洗い場の出入口を締め切り、走り抜けができないようにし、会議室、和室、玄関ホールの通路につ いては児童と一緒に警告を促す色付きテープを張ることで意識づけを実施。	3.個人活動中・見あい守り	事故発生前に体育館で1時間程度遊びを行っていたが、施設に戻り静かに遊ぶとの習慣づけが不十分であった。	室内遊びを工夫し、室内遊びに興味を持たせ、低学年の児童にすぐに飽きないよう見守り・支援を行う。	1.いつもどおりの様子であった	お絵描き帳に描いた絵を支援員に見せ、別室に歩いて返すところで引きとあった。特に異常はなし。	3.対象児離れたところ対象児を見ていた	和室入口で和室内と玄関ホールを見渡せる場所にいた。会議室方向から歩いてくる児童も見えていたが、手洗い場方向から走ってくる児童が速く、制止する時間がなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1名は別室内で死角となっていた。また、もう1名についても別室で活動している児童を見守っていたため死角となっていた。	別死角となっていた。	特になし	室内での走る、ふざけるなど第三者への事故に繋がる行為を禁止し、そういった際は体育館や外遊びなどで体を動かすようルールを作る。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
277	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	14							14		2	2	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	特になし	なし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(40)回/年	特になし	なし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	なし	1.いつもどおりの様子であった	他児4名とそれぞれブランコを漕いでおり、ブランコが動いている状態でジャンプして着地。着地を失敗し右腕が体の下敷きとなった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	従来通り子どもたちの外遊びを見守り、様子を伺っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員と二手に分かれ外遊びの子どもたちを見守り、様子を伺っていた。	特になし	外遊びの前に危険行為をしないよう注意事項を説明する。遊具遊びを禁止する。	
278	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	23							23		3	2	20.8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左ひじ骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	難しいところではあるが、遊びの要素、危険かどうかの判断を支援員間で深く考え、共有し合うことで防止できる。	今回は床が板張りのところであったため起きたとも考えられる。畳かマットを準備して遊ばせることで改善する。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	遊びの種類によってはマットを準備する必要がある。	今回のプロレスごっこは畳かマットでさせる。今後室内での遊びの危険な事をもっと見極める必要がある。	1.集団活動中・見守りあり	危ないのではという認識で２回程止めに入っていて起きた事故だけに止められなかったことが悔やまれる。気をつけることをもっと丁寧に話すべきであった。	プロレスごっこについてはたたみ部屋か板張りではしないことを決まりごとにする。	1.いつもどおりの様子であった	いつもじゃれ合ったりケンカしたりしている二人で遊び感覚でやっていたが力が入りすぎ、同時に倒れて起きた事故。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ケガをしないよう見守りしていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	外の活動の見守りに出ていた	怪我しないよう机等引いてスペースを作ったが床が板張りであったことが事故の要因と思われる。	支援員会議の中で危険な遊びについて認識を深める。研修等に積極的に参加して児童が怪我無く安全で安心できる環境、居場所を作るよう努める。	
279	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	41							41		4	3	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘頭骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	特になし	室内遊びに危険が伴わないよう指導し、支援員も今後同じようなことが起こらないよう十分注意して見守る。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	特になし	机等の配置について支援員で話し合い、改善点がないか検討します。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	室内で遊んでいて起こってしまった事故で、もう少し児童にわかるように注意し、見守り時十分注意を払うよう徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	机の周りをグルグル追いかけっこをしていた時にバランスを崩した。楽しかったので怪我をするとは思ってなかった様子。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ふざけてはいたので、注意したらやめたが又始まってしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ自分の近くにいる児童を中心に、屋内全体を見守っていた。	特になし	緊張感をもって見守りすることを心がける。	
280	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	34							34		4	3	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右第一指基節骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	職員の配置はしていたが見守りが行き届いていなかった。	見守りを行き届かせるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度（1）回/週	特になし	今まで以上に施設、設備面で危ないところがないか点検する。	1.集団活動中・見守りあり	気が付きにくいところでおんぶごっこをしていたようだった。	今まで以上に全支援員が心して見守りを強化したい。	1.いつもどおりの様子であった	普段から気の合う友達と遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	二人で室内を見守っていたが、対象児が仲良くしていることは見えていたが、倒れる瞬間は気づかなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	4人のうち2人は外遊びの見守りをしていた。	支援員の気付きにくいところでおんぶをしてバランスを崩して倒れたため。	支援員同士の連携を図り、事故に繋がりそうな状況について情報を共有し対策を考える機会を増やす。再発防止に努めたい。	
281	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	32							32		3	3	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右第５手指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2～3)回/年	2.基準配置	特になし	遊び方の指導をする	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(週１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	石ころを取り除いたりして、滑りにくくする	1.集団活動中・見守りあり	特になし	広い校庭で、見落としがないよう支援員を配置する。	1.いつもどおりの様子であった	キーパーだったので両手でボールを止めようとしたが、止められずボールが手からすり抜けた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	サッカーをして遊んでいる子どもたちの妨げにならないよう少し離れて見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	校庭で遊ぶ他の子供たちを見守っていた。	特になし	緊張感をもって見守りすることを心がける。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項
282	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	32							32		3	2	19.7歳	2.女児	
283	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	44							44		4	4	19.7歳	1.男児	
284	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	27							27		3	－	19.7歳	2.女児	
285	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	5	1.朝(始業～午前10時頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	26							26		3	3	24.12歳	2.女児	
286	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	25							25		5	3	20.8歳	2.女児	
287	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	41							41		4	2	18.6歳	2.女児	
288	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	187							##		22	9	21.9歳	2.女児	

No	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策
282	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左側関節外果剝離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2～3)回/年	2.基準配置	特になし	遊び方の指導を行う	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(週1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	外遊びする場所を定期的に点検する。
283	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	骨折はしていないが経過観察中	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	特になし	外遊び前に注意事項を子どもと確認しているが今後は雲梯の事も追加し、無理しないよう声かけする。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/月	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	特になし	点検はしっかりとする。
284	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	姉と帰宅していたが，なぜ転んだかわからない。足元・周りの注意をしていなかった。	クラブ退所前に注意して帰るよう声掛けしていたが，退所時にも再度声掛けをする。	－	－	－	－	－	－	特になし	－
285	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足　親指　骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし
286	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第２中骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	竹馬をする場所は、手薄になり目が届きにくい	竹馬をしている児童がいる場合は、時々声掛けや見守りを職員一同心掛ける。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	排水の水の痕があった。	排水の水の痕の清掃をする、または排水口を移動。
287	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手　人差し指骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	子どもたちの動き、危険行為の回避ができなかったため。	危険行為を予測し、声掛けだけでなく回避するための方策を考えて実施する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	人数に対して広さが足りなかった。	備品等(テーブル)を片付ける。人数制限を行う。
288	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	開放骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	学童から帰宅途中の出来事であり、子どもの動きを把握を把握することは困難である	子どもが下校するときは、その都度交通ルールを守ったり、正規の登校道路を帰るよう声をかける	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	特になし	引き続き実施する

No	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
282	1.集団活動中・見守りあり	特になし	広い校庭で見落としがないよう支援員を配置する	1.いつもどおりの様子であった	外遊びの時間、何人かの児童と鬼ごっこをしている時に、一段高い所で転んで左足を捻って擦りむいた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	校庭で遊ぶこどもたちを見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	校庭で遊ぶこどもたちを見守っていた	特になし	怪我は室内でも起こりうるので室内外に関わらず声掛け指導を繰り返す。保護者にも注意喚起して、家庭でも怪我をしないよう指導いただく。クラブだよりにてお願いする。	
283	1.集団活動中・見守りあり	特になし	外遊びでは各々好きな遊びをするため、特に注意を要する遊具で遊ぶ子たちにはしっかり声かけをする。	1.いつもどおりの様子であった	校庭の遊具で一人だけで遊んでいた	4.対象児の動きを見ていなかった	特にその子の担当の職員はいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	外遊び開始直後であり、いろいろな場所で遊ぶ子どもたちを見守っていた。	特になし	子どもたちにも危ない遊具で遊ぶときは気を付けるようにしっかりと声かけする	
284	－	特になし	－	－	－	－	－	－	－	－	児童クラブ退所前に，安全に注意して帰るよう声掛けをする。	
285	1.集団活動中・見守りあり	全員が裸足の状態で練習。	今後はシューズを着用するなど改善を考えていく。	1.いつもどおりの様子であった	相手チームに対しアタックをする際に、足の指に負荷がかかり負傷。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	痛がる様子を確認したあと。すぐに応急処置。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童の安全管理をしていた。	ドームを利用する際は、全員シューズ着用を義務付ける。	ドッジボール等激しい運動の場合はシューズの着用を義務付ける。	
286	4.個人活動中・子どものみ	竹馬も上手に乗れる児童なので、大丈夫だと過信していた。	上手に乗れる児童でも、見回りをする。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの遊びをしている	4.対象児の動きを見ていなかった	他児童と遊んでいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭外へいたので、対象児童は見ていない	竹馬を上手に乗れる児童なので大丈夫だと過信していた。	上手に乗れている児童でも、無理せず危ない乗り方しない様に声掛けや目をかける。	
287	1.集団活動中・見守りあり	子どもたちと遊びに夢中になっていた。	ルールの改善、こどもたち同士での配慮	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	寝そべったり、座ってドッジボールに参加していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	危険を察知し声掛けをした。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	秘密基地で遊ぶ児童の見守り。事務作業。	危険を察知し声掛けをしたが、立つまでの様子は見ていなかった	こどもたちの動きをしっかりみる。	
288	7.その他	近くに信号付きの横断歩道があり、道路を渡るときは必ず横断歩道を通るように指導している	子どもが下校するときは、その都度交通ルールを守ったり、正規の登校道路を帰るよう声をかける	1.いつもどおりの様子であった	学校帰りは普段通りで、おやつを貰って帰ると施設長に元気に答えていた。担任には普段と変わらなく応対していた。	4.対象児の動きを見ていなかった	おやつを持って帰宅していたので、道路を横切る様子までは把握できていない	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	下校中のため指導員は見ていない。一人は教室前で子どもの受け入れを行っていたが、道路まで距離があり横断を確認できなかった。	学童からの帰宅途中の出来事であり、子どもの動きを把握することは困難である	子どもが下校する時は、その都度交通ルールを守ったり正規の登校道路を帰るよう声をかける	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
289	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	37							37		4	2	18. 6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首剥離骨折、左足関節外果骨折、左足外側外副じん帯損傷、左足外果離断性骨軟骨炎	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	ケガをしたり、捻ったときの手当ての対処法の確認	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	周囲に気を付けながら遊ぶよう声掛けを行う	1.いつもどおりの様子であった	ドッチボール中で元気に逃げ回っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	目の前で転び、立てなかったので抱えて安全な場所に移動し、応急措置	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの持ち場で他の子たちを見守っていた。	ドッチボールのスペースが人数に対して狭いときがある。	足に合ったサイズの靴を履くように話す。ボールを使った遊びの経験を重ねられるように見守る。	
290	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	20							20		2	1	20. 8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(11)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	ボールをどのように捕球すればよいかの判断が難しかった。	全体でも個別でもドッヂボールの安全な遊び方(投げ方、捕球の仕方等)を再確認する。怪我に繋がりやすいことは支援員でも話し合い、全体に周知する。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子	2.対象児の至近で対象児を見ていた	見守りをしながら声掛けをしていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体を見ていたが対象児の動きまでは見ていなかった。	特になし	特になし	
291	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	55							55		5	3	23. 11歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	サッカーゴールのポール上に帽子をおいていた。	外遊びの時は水筒置き場所を用意しているので、帽子等もそこに置くように子ども達に伝える。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	今回は、施設、遊具はなし	施設や遊具を活用する際にはリスクを考え、共有する。	1.集団活動中・見守りあり	帽子をサッカーゴールのポールの高い所にかけていた。ジャンプしないと取れない位置であった。	高い場所には置かないよう、子どもたちに集団指導を行う。	1.いつもどおりの様子であった	外遊び中、ドッジボールをしていて帽子が邪魔になり近くのサッカーゴールのネット上に置いた。帰るよと言われて慌ててしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	傍で見守りをしていたが17：00の音楽がなり他の子ども達が帰りの準備を始めた為、そちらに目が行き見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	帰りの準備対応で見ていなかった。	基本外遊びの際には帽子着用は必須にしているが、曇りだったので帽子を取って下に置くと汚れるのでサッカーゴールネットにかけた。	帰りの時間間際だったこともあり、支援員が他の子ども達の方ばかり見ていた為、気づくのが遅かった。	
292	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	138							##		15	10	22. 10歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手中指第二関節骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1-2)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(―)回/年	―――	引き続き定期的に安全点検を行う。	1.集団活動中・見守りあり	―――	見守りが必要な場面では引き続き支援を行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	集団活動中見守りを行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	集団活動中見守りを行っていた。	―――	今後も危機管理の手引きを用い，迅速な対応を行っていく。	
293	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	106							##		8	5	18. 6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手薬指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1-2)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(―)回/年	―――	引き続き定期的に安全点検を行う。	1.集団活動中・見守りあり	―――	見守りが必要な場面では引き続き支援を行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	集団活動中見守りを行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	集団活動中見守りを行っていた。	―――	今後も危機管理の手引きを用い，迅速な対応を行っていく。	
294	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	149							##		11	6	18. 6歳	2.女児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕部骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1-2)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(―)回/年	―――	支援員が転倒した箇所の段差に簀子を敷いた。引き続き定期的に安全点検を行う。	1.集団活動中・見守りあり	―――	児童の誘導の仕方を支援員間で再度共有し、引き続き見守りを行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	集団活動中見守りを行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	集団活動中見守りを行っていた。	―――	今後も危機管理の手引きを用い，迅速な対応を行っていく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
295	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	146							##		11	6	22.10歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1-2)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(ー)回/年	―――	引き続き定期的に安全点検を行う。	1.集団活動中・見守りあり	―――	見守りが必要な場面では引き続き支援を行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	集団活動中見守りを行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	集団活動中見守りを行っていた。	―――	今後も危機管理の手引きを用い，迅速な対応を行っていく。	
296	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	4.昼食時（学童）	1.施設敷地内(室内)	8.学童	39							39		5	2	20.8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		6.その他	1.頭部	脳しんとう	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	夏休み期間で保育時間が長いため、昼食の時間帯は職員の交代等を行っていて支援員等が手薄になった。	職員が交代する時は児童の様子等申し送りをし、手薄な時間帯となる12時代は支援員同士の声掛けでカバーする。	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	3.未実施	実施頻度(-)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	-	3.個人活動中・見守りあり	昼食の片づけ後はフリーの時間となり様々な遊びをするため、安全に遊んでいるか確認をしている中で事故が発生した。	それぞれの児童に対応する職員以外に、個々ではなく全体の状況を把握する職員を配置する。	1.いつもどおりの様子であった	昼食後児童同士で遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	次の活動の準備をしていたため。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の対応をしていたため。	夏休みから入所した児童でもあり、学童の友達と過ごすことに慣れてきて、ついからかってしまったと思われる。	相手が嫌がる発言や行動をしないよう指導する。	
297	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	59							59		7	4	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1～2)回/年	2.基準配置	特になし	児童に施設の危険箇所について周知を行う。	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	3.未実施	実施頻度(-)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	指を挟んだトイレ自体に不備は無かったが定期的に点検は行う。	4.個人活動中・子どものみ	トイレのドアを強く閉めた。	トイレのドアでケガをすることが有ると児童に周知をする。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り落ち着きのない状態だった	4.対象児の動きを見ていなかった	トイレに行くときだったので見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	トイレに行くときだったので見ていなかった。	トイレに行っているからと当該児童を注視していなかった。	トイレの出入りの時も目を配る。	
298	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	188							##		16	8	23.11歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨頚部骨折・左手関節捻挫	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1-2)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(ー)回/年	―――	特になし	1.集団活動中・見守りあり	―――	見守りが必要な場面では引き続き支援を行っていく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	休憩時は座るよう支援員が何度も注意を促すも、聞き入れない状況だった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	集団活動中見守りを行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	集団活動中見守りを行っていた。	―――	今後も危機管理の手引きを用い，迅速な対応を行っていく。	
299	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	14.学童	182							##		9	6	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	成長骨軟骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1-2)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(ー)回/年	―――	特になし	1.集団活動中・見守りあり	―――	見守りが必要な場面では引き続き支援を行っていく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	いち早くボールを確保しようと急いでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	集団活動中見守りを行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	集団活動中見守りを行っていた。	―――	今後も危機管理の手引きを用い，迅速な対応を行っていく。	
300	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	17							17		5	3	19.7歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	学校の規模が大きく、沢山のデイサービスや児童クラブ利用者で混雑するため、児童の見守りが弱いと反省してタクシー送迎時の職員配置を2名～3名の現状から常時3名の職員を配置に変更する。	職員配置を見直して密な連携が取れるよう情報交換をする。保護者の協力をいただきながら児童の様子等の情報交換を徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	集合場所で躓いて怪我をしている事、ランドセルの扱いと待つ姿勢にも問題が有ったが、見守る体制にも不備があった。	見守り強化の為、タクシー送迎集合場所での職員の人数を増やし、タクシーを待つときはランドセルや荷物を降ろして待つ、座って待つ事を徹底する。	1.集団活動中・見守りあり	学校におけるタクシー送迎の見守りでは、マンモス校のため下校時の校庭が賑やかになることを認識し、職員の配置と見守りの人員を増やす必要があった。	人員配置を改め、待ち時間の体制を改善する。保護者にも協力をお願いし児童の意識向上を目指して、自分の命を守る大切さを身に付けられるよう指導する。	1.いつもどおりの様子であった	いつも遊んでいた友達が集合場所に先に移動していたため、少し焦っていたと思われる。職員が声かけを行った。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	タクシーが集合場所に到着しておらず、児童達は集合場所で落ち着いて待っていた。少し遅れて当該児が合流し、お友達に駆け寄った時に躓いて転んだ。起き上がり手が痛いと言うので座って待った。同時にタクシーが到着し児童クラブについた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の校舎から出てきた児童と共に集合場所に行った。当該児が座っていて、事情を聴き転んだことが分かった。本人が直ぐにタクシーに乗ってたので詳しい事は分からなかったが、芝生の上で転んだようだった。なお、集合場所は雨が降るとぬかるむ場所であるが当日は乾いていた。	見守りをしていた支援員は別の児を見ていて、本人が転んだ所は見ていないが、転んだ後は大丈夫？と声掛けをした。本人が手が痛いと訴えたため、座って待たせたところタクシーが到着したためそのまま乗せた。	職員研修を行い、担当者が利用学童の発達や素質等をふまえた見守りができるよう資質の向上を図る。また事故を想定した配置の見直しも行う。利用学童にも事故についての理解を深めてもらえるよう働きかけを行っていく。	

No	初回掲載年月日	概要：認可・認可外	概要：施設・事業所種別	事故発生時：月	事故発生時：時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故：年齢	性別	特記事項	事故状況：発生時状	事故の転帰	死亡：死因	負傷：負傷状況	負傷：受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面：マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面：施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面：教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面：対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
301	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	58							58		6	4	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わりなく外遊びへ行った。ブランコに座り、ブランコを漕ごうと地面を蹴った際に蹴り損ねてしまい、ブランコの前方に向けて転倒した。	4.対象児の動きを見ていなかった	サッカー、鬼ごっこ、バトミントン、ブランコ等の外遊びを5人で見守っていた。ブランコについていた支援員は他児を探している保護者に気づき対応のため、その場から離れていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内にて保護者対応、室内遊びの見守りを行っていた。	特になし	特になし	
302	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	30							30		3	3	19.7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	前歯打撲	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし。	事故の発生状況について職員間で情報共有を行い、再発防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(不定期)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(不定期)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/週	特になし。	定期的に施設内の点検をし、故障・破損等の危険個所がないか確認していく。	1.集団活動中・見守りあり	特になし。	危険行為等を発見した際は、随時、注意・呼びかけを行う。	1.いつもどおりの様子であった	学童内で友達と仲良く遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	当該児童を含む3名を近くで見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の児童の様子を見守っていた。	児童の様子に注意を払っていたが、怪我の発生が一瞬で起きたため発生を防ぐことが間に合わなかった。	随時、職員間で安全保育の意識共有・情報共有を徹底していく。	
303	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	27							27		4	2	19.7歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	右手人差し指の靭帯損傷	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	2.基準配置	特になし。	マニュアルに沿って迅速に対応し、事故の分析を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	ハード面は問題なし。	ハード面は問題なし。	1.集団活動中・見守りあり	特になし。	今回の事案と同様に、事故が発生した際には迅速な対応を心がける。	1.いつもどおりの様子であった	バスケットボールを友達と一緒に楽しんでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	近くで、児童の遊びを見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	体育館には職員が３名おり、それぞれ子どもたちの動きに合わせて動きながら見守っていた。	特になし。	特になし。	
304	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	53							53		6	4	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	雲梯で遊ぶ時のルールは決められていたが、児童は決められた場所以外から雲梯に登り、雲梯の上に座りこんでしまった。	雲梯で遊ぶ際は西側から登り東側へ進むこと、それ以外の場所からは登らないこと等、遊具の正しい使い方を再度児童へ周知する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	ハード面は問題なし。	ハード面は問題なし。	1.集団活動中・見守りあり	グラウンドでは運動会の準備が行われており、邪魔にならないよう他児の誘導をすることに専念しており、細部まで目が行き届いていなかった。	職員配置や役割分担を再確認し、グラウンド状況が日頃と異なる場合は情報共有し状況に合わせた支援を行う。また、児童を含めて事故のリスクについて考える時間を設ける。	1.いつもどおりの様子であった	日頃から他の児童より元気に過ごしており、当日も変わりない様子だった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他の児童を含め全体を見ていたが、事故の瞬間を目撃していなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	約50名の児童が外遊びに出ており、5名の職員が外遊びの見守りをしていた。室内には児童20名が残り、3名の職員が見守りをしていた。	見守る児童やエリアを事前に打合せし、状況が変化しても見落としのない見守り体制を維持できるようにする。	特になし	
305	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	32							32		6	4	22.10歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨折(全治30日以上)	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(20)回/年	2.基準配置	特になし	遊具傍に職員1名いたが、他児のケアをしており事故の詳細は見ていなかった。バランスを崩し転倒の恐れがある遊具であるため、職員の配置を増やすか利用を短時間に制限して遊ぶ改善が必要。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(その都度)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	持ち運び可能な遊具で、設置の際は職員が行っていた。強度がある道具ではあるが、遊ぶ前の点検、使い終わった後の破損の有無について都度行うよう徹底する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	スラックラインの特徴としてバランスをとって遊ぶ遊具なので常に転倒の危険が伴う。設置場所は土や草がある柔らかい地面に限る。	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わらず元気であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	職員1名配置していたが、他児の補助についており職員は背中を向けていたため転倒した瞬間は見ていなかった。目撃していた児童から状況を伝え聞いた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	公園は道路を挟んでボールで遊ぶエリア、遊具で遊ぶエリアに分かれている。遊具側のエリアも木や遊具があり他の職員は事故状況を見ていなかった。	特になし	特になし	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故			事故状況						事故発生の要因分析																												掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面				人的面								
				月	時間帯		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																							死因	負傷状況	受傷部位																												
306	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	4.昼食時（学童）	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	5						5		2		2	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢（足・足指）	足問接捻挫による右足首靭帯損傷、及びそれに伴う剥離骨折。（全治30日以上）	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度(０)回/年	1.基準以上配置	事故予防マニュアルが無く、事故予防に関する研修も未実施。	上記について今後検討していく。	2.不定期に実施	実施頻度(５０)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(５０)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(５０)回/年	特になし。	屋外保育（遠足に出かけた公園）で発生した事故のため、施設設備等の要因ではないため。	1.集団活動中・見守り	児童に変わった様子は見られなかったが、前週の週末に運動会を終えたばかりで身体的疲労が残っていた可能性はあった。	単独転倒なので事故発生を防ぐのが難しい事案ではあるが、学校行事の後等は児童の身体的疲労を考慮し、走って遊ぶ場合は足を取られやすい場所ではなく平坦な場所で行う等、支援員が活動場所の配慮するよう職員間で共有した。	1.いつもどおりの様子であった	午前中は元気に走りボール遊びをしていた。昼食の時間になり、遊びを終了しようとしていた矢先、支援員と遊具周辺の砂場をおいかけっこをして遊んでいて、滑り台下のラバーマットような部分で右足首を捻って転倒。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児にはいた）	当該児とマンツーマンで遊具周辺を追いかけっこをして遊んでいた。振り返った時はすでに転倒した後で、当該児がその場に座り込んでいた。痛がる様子を見せていたので介助に行った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	昼食準備のため他児4名と移動していたことと、当該児が別の支援員と遊んで遊具の向こう側にいたため、対象児の動きは見えていなかった。３人目の支援員が現地に到着した直後だったので４名の児童を任せ、当該児の救護に行った。	児童に変わった様子は見られなかったが、前週の週末に運動会を終えたばかりで身体的疲労が残っていた可能性はあった。	特になし。	
307	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	45						45		2		2	22.10歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢（腕・手・手指）	左手小指骨折（小指基節骨骨頭骨折）	5.他児から加えられたもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置	特になし	全支援員参加の事例研修を実施するとともに、全児童を対象とした集会等の場を活用し安全意識の向上を図る。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(８)回/年	特になし	安全点検を引き続き計画的に実施する。	1.集団活動中・見守り	特になし	全支援員が参加しての事例研修を実施するなど、より組織的な安全確保の取組を推進する。	1.いつもどおりの様子であった	特になし	2.対象至近で対象児を見ていた	遊戯室内で見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他室の児童を見守っていた。	特になし	見守りとともに声掛けや注意、具体的な安全指導を行う。	
308	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	38						38		2		2	19.7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	裂傷	5.他児から加えられたもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置	特になし	全支援員参加の事例研修を実施するとともに、全児童を対象とした集会等の場を活用し安全意識の向上を図る。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(８)回/年	特になし	安全点検を引き続き計画的に実施する。	1.集団活動中・見守り	特になし	全支援員が参加しての事例研修を実施するなど、より組織的な安全確保の取組を推進する。	3.いつもより活発で活動的であった。	すべり台の遊ぶ順番をめぐって数名の児童との間で不満があったかもしれない。	4.対象児を見ていなかった	すべり台少し離れた場所で鬼ごっこで遊ぶ集団を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他室の児童を見守っていた。	特になし	職員側の見守り体制の改善と児童の遊びルールの指導を徹底する。	
309	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	18						18		2		2	22.10歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢（腕・手指）	上腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置	特になし	子どもが足を滑らせて落下した為改善策が難しい	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	室内、屋外で支援員が分かれており、常時その子どもの側で様子を確認することは出来なかった	遊具の遊び方に関して常時子ども達への声かけが必要	2.集団活動中・子ども達のみ	当該児童が高学年だったためその場を任せていた	支援員の人数に限らず見回り必要だった	1.いつもどおりの様子であった	いつものように遊具で元気に遊んでいた	4.対象児の動きを見ていなかった	その他の子どもの様子を見守っていたため	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内に待機していた子ども達を見守っていた為	特になし	特になし	
310	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	16						16		4		3	21.9歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢（腕・手・手指）	左橈骨尺骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施	実施頻度(毎朝)回/年	2.基準配置	特になし	事故発生時はマニュアルに沿って必要な支援を要請し迅速な対応ができたと考えるが、予防的な措置について再度指導員会議等で確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(毎朝)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎朝)回/年	特になし	今回の事故においては設備の不備による事故ではないが、今後起こりうるリスクを想定し、点検等を行っていく。	1.集団活動中・見守り	特になし	遊具での遊び方を再度、児童と確認し、危険な遊び方や乗り方をしないように指導していく。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおり、他遊児と外遊びをしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	鉄棒で遊んでいる様子は把握していたが、落下は一瞬の出来事であったことから対応できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童の対応をしていた。	特になし	指導員を遊具の近くに配置し、遊ぶ際はその都度児童に声掛けをして、注意喚起を徹底する。	
311	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	29						29		4		2	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢（腕・手・手指）	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度不定期	2.基準配置	死角になる場所に児童がいた	死角になる場所に児童が近寄らないよう指導	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	-	フローリングでの転倒だった為、緩衝材になるようカーペットを敷く範囲を広げる。（事故後実施済）	1.集団活動中・見守り	-	-	1.いつもどおりの様子であった	室内での活動中。特記事項なし。	4.対象児の動きを見ていなかった	死角になる場所だったため事故発生時の様子は見ていない	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	死角になる場所だったため事故発生時の様子は見ていない	なし	なし	

No	概要					発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面					改善策	ハード面								環境面			人的面										
				月	時間帯				0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	死因	負傷	負傷状況	受傷部位	診断名	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項		施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
312	令和5年12月15日	1.認可	5.幼稚園	2	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	50									4	4	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	右目瞼の裂傷	2.自ら転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1回/年	2.基準配置		保育中に園児の動きを把握できる教職員の立ち位置も含めての見直しを行った。	1.定期的に実施	3回/年	1.定期的に実施	3回/年	1.定期的に実施	毎日		つまずいたはスロープを設置し、ぶつけたと思われる箇所には全クッションを設置した。	1.集団活動中・見守り		保育室内と廊下からトイレが見える位置で園児を見守るように指示を出した。	1.いつもどおりの様子であった		4.対象児の動きを見ていなかった	活動後の園児にトイレに行くよう促し、活動中の園児の見ていたため、トイレ周辺での園児の動きは見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	5保育室に5名の担任と2名の補助教員がいたが、それぞれの保育室で活動中であったため当該児の動きは見ていなかった。		保育室内と廊下からトイレが見える位置で園児を見守るように指示を出した。	
313	令和5年12月15日	1.認可	5.幼稚園	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	102				29	30	43			16	12	16.4歳	2.女児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	鼻骨骨折	2.自ら転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1回/年	2.基準配置	ブランコ使用時は必ず保育者を配置しているが、ブランコ周りに柵があるためすぐに助けに行けない状況にあった。	引き続きブランコ使用時には必ず保育者を配置し、ブランコの乗り方、飛び降り禁止の再確認を子ども達と行う。	1.定期的に実施	毎日目視	1.定期的に実施	毎日朝点検	1.定期的に実施	毎日清掃の時に点検	遊具、床のゴムマット、柵には特に問題なし	今後も毎日の点検を徹底する	1.集団活動中・見守り	着地場所に砂があったこと、靴底や滑りやすかった可能性	ブランコ下マットにゴムマットを敷いているが、マット上の砂利で滑った可能性があるため、毎朝掃除を行い遊ぶ前にも砂や落ち葉等を取り除く。	1.いつもどおりの様子であった	他児が飛び降りを着地しているのを見ることがあり、自分でもと思って行った。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	ブランコ柵の外で、園庭全体の安全を見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	5保育室に配置されている職員（1名）はいたが、他児の見守りも行っていたため着地の援助は行えなかった	ブランコから飛び降りはしないように伝えているが、きちんと着地ができると思ってしまった	飛び降りはしないように伝えているが、きちんと着地ができると思ってしまった	ブランコ飛びから降りない約束を徹底する。危険な遊び方を見つけたら注意をする	
314	令和5年12月15日	1.認可	5.幼稚園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	15									13	12	16.4歳	1.男児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左すね骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	適時	2.基準配置		引き続き必要な研修等を実施する。	1.定期的に実施	24回/年	1.定期的に実施	24回/年	1.定期的に実施	毎日点検	雲梯下の緩衝材により硬化し、着地時の衝撃が緩和されなかった。	雲梯周辺の緩衝材の交換及び 定期的な点検	1.集団活動中・見守り		引き続き戸外遊び時の見守りを行う。	2.いつもより元気がなかった(理由を記載)	家庭より左手親指を怪我し、傷テープを巻いていた。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	雲梯俯で見守っていたが、他児の対応で目を移した瞬間に落下し泣いたため、すぐに駆け寄った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児の見ていた遊びを見ていたが、落下の瞬間は見ていなかった。		引き続き戸外遊びでの見守りを行う。	
315	令和5年12月15日	1.認可	5.幼稚園	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	164				22	42	##			9	9	17.5歳	1.男児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	左腕開放骨折	3.子ども同士突の衝によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1回/年	2.基準配置		職員配置に問題はなかったため、引き続き見守りを行い強化していく。	1.定期的に実施	12回/年	1.定期的に実施	1回/年	1.定期的に実施	1回/年		遊具等での事故ではなかったため改善策なし。点検は今まで通り行っていく。	1.集団活動中・見守り		戸外活動中の園児数や職員配置に問題はなかったため、引き続き見守りを強化していく。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおりであった。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	対象児から離れたところで対象児を見ていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)		職員配置に問題はなかったため、引き続き見守りを行い強化していく。	
316	令和5年12月15日	1.認可	5.幼稚園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	50									4	4	17.5歳	2.女児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	右上腕骨骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1回/年	2.基準配置		園庭で複数の活動をさせている際の教職員の立ち位置に関して指導した。	1.定期的に実施	3回/年	1.定期的に実施	3回/年	1.定期的に実施	保育室の玩具は毎日、消毒時に安全点検を行っている。		ブランコ侵入防止用コーンとゼブラバーを増やし、ブランコ周りのスペースを広げた。	1.集団活動中・見守り		園庭での自由遊び中の監督は幅広い視野で園児の活動を見られるように指導した。	1.いつもどおりの様子であった	ブランコに乗っており、降りる際に飛び降りの際にバランスを崩して転倒した。	4.対象児の動きを見ていなかった	かけっこが終わり自由遊び時に起きた事故である。他園のかけっこを指導しており、ブランコを背にしていたため事故発生状況を見ることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当該クラスは園庭の待ち時間であったため園庭で活動を行っていた。他クラスは待ち時間でないと室内活動であるため園庭で活動していたこのクラスの様子を見ていなかった。		他クラスも含めて遊具の使い方につい再度指導するように指示を出した。	
317	令和5年12月15日	1.認可	5.幼稚園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	25				1		24			1	1	17.5歳	1.男児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	上腕骨通過骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	1.定期的に実施	1回/年	2.基準配置		もう一度固定遊具方の使い方について話し合いをした。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	朝の掃除のとき毎日	1.定期的に実施	使用前、毎回		引き続き点検を実施する。	1.集団活動中・見守り	遊具の一部は年長のみ使用するので、担任が約束事をしてから行ったが、後ろの園児が押してしまった。	もう一度約束事を守る様に指導した。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおりであった。	2.対象児の近で対象児ていた	当該児は遊具を使う順番待ちをしていた。担任は前の園児をサポートしていた為、すぐ横にはいていなかった。後ろの園児に押されて落下する瞬間手を差し伸べたが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員はいなかった		もう一度、遊具の使い方について話をした。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
318	令和5年12月15日	1. 認可	5. 幼稚園	4	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	20									2	2	16. 4歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左第5指基節骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1回/年	1. 基準以上配置	子どもが走り出したらけがをする可能性があることを認識する必要がある	子どもが走っていたら注意をする。	1. 定期的に実施	3回/年	1. 定期的に実施	3回/年	2. 不定期に実施	50回/年	堅い壁面に、足をぶつけたため怪我をした	走り回ると危険な個所があることを子どもたちに伝える	3. 個人活動中・見守りあり	走り出したことを、急に制止できなかった	教室内で走ると危ないことを伝える	1. いつもどおりの様子であった	ままごとをしてあそんでいた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	子どもたちの様子を見ていた	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	子どもたちの様子を見ていた	ぬいぐるみを持って走っていたため、洗い場の様子が良く見えていなかったと考えられる。	教室内で走らないよう注意を促す。	
319	令和5年12月15日	1. 認可	5. 幼稚園	4	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	3					2	1			3	1	16. 4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	1. 頭部	開放性外傷性くも膜下出血後頭骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	3回/年	2. 基準配置	保育時間終了後は、保護者の見守りで活動をしている。	より安全に子ども達が活動できるよう安全確認と安全対策をしながら、保護者の見守りの指導を強化する。	1. 定期的に実施	3回/年	1. 定期的に実施	3回/年	1. 定期的に実施	3回/年	不意の時に、捕まることが出来る場所が少なかった。	上り台から誤って落下することがないようクリアパネルを設置し、安全対策を実施した	7. その他	森の中の広い敷地、園内も教室がないオープンスペースのため、安全対策と保護者の見守りが必要。	より安全に子ども達が活動できるよう、安全確認と安全対策をしながら保護者の見守りの指導を強化する。	1. いつもどおりの様子であった	いつも通り、園内で過ごしていた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	保育時間外なので、保護者の見守りの下で活動していた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育時間外なので、保護者の見守りの下で活動していた。	保育時間終了後は、保護者の見守りで活動をしている。	より安全に子ども達が活動できるよう安全確認と安全対策をしながら、保護者の見守りの指導を強化する。	
320	令和5年12月15日	1. 認可	5. 幼稚園	4	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	-	1									0	0	17. 5歳	1. 男児		8. その他	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左前腕骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	12回/年	2. 基準配置	話し合い及び園児への指導は行っている。	引き続き定期的に事故防止について職員で話し合い指導していく。降園後の遊び方について保護者にも注意を促していく。	1. 定期的に実施	12回/年	1. 定期的に実施	12回/年	1. 定期的に実施	12回/年	現時点で施設に不備はない。	今後も定期的に点検を実施し、危険箇所等はすぐに修理、修繕していく。	7. その他		引き続き遊具の点検及び子供たちへの指導、保護者への注意喚起を行う。	1. いつもどおりの様子であった	できることが増え、様々な遊びに意欲的に挑戦しようとしていた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	対象児の動きを見ていなかった	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	降園後に保護者と遊んでいた。		引き続き遊具の点検及び子供たちへの指導、保護者への注意喚起を行う。	
321	令和5年12月15日	1. 認可	5. 幼稚園	5	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	8					3	5			2	1	16. 4歳	1. 男児	雲ていの一番初めの棒を掴む際の事故だった為、いつもより勢いがついてしまっていた。	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨遠位骨端線損傷	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	3. 未実施		2. 基準配置	なし	マニュアルの周知ができていない為、定期的に事故防止の研修に取り組む。	2. 不定期に実施	3回/年	2. 不定期に実施	3回/年	2. 不定期に実施	3回/年	雲梯に問題はなかったが、雲梯での遊び方に気を付ける必要があった。また、安全点検の回数が少なく不定期に行っていた。	雲梯の遊び方をもう一度園児に伝え、月に一度は各点検を行うよう徹底していく。雲梯の下は地面だった為、衝撃を和らげるようグリーンマットを2枚重ねで敷いた。	1. 集団活動中・見守りあり	自由遊びが終わり園児達は職員から部屋に入るよう促されていた。当該児は雲梯を止めず怪我に至った。雲梯の近くにいた職員は別の園児の対応をしていた。	多くの園児が室内に入っていた為、ほとんどの職員は室内へと移動していた。全園児が室内へ入るまで園庭の様子も見守るよう、職員に周知した。	1. いつもどおりの様子であった	普段から活発な園児で雲梯でもよく遊んでいた。自由遊びが終わり、室内へ入るよう促されたが聞こえていなかったのか、職員が雲梯から離れたタイミングで怪我をしてしまった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	当該児の近くにいたものの、他児同士で片付ける遊具を取り合うけんかがあり対応していた。話が終わり振り向くと、当該児が雲梯下に倒れていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	朝の自由遊びの際は職員が見守りを行っている。しかし、事故の起きた時には全園児を室内へ誘導する方へまわっていた。	遊びに夢中になっていた園児に声掛けができていなかった。職員の目も園児が動く方に注目してしまった為、園庭での遊びに気づけなかった。	園児と共に動く職員とは別に全体の様子を見守る職員を配置し、すぐに声をかけられる体制を作る。	
322	令和5年12月15日	1. 認可	5. 幼稚園	7	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	-										8	8	16. 4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	2. なし	2. 不定期に実施	3～4回/年	2. 基準配置		子どもの動きに合せ園庭の使用スペースを分割し、進行方向を揃えて遊ぶようにする。常に子ども達の動きをみて事故を未然に防ぐ声かけを増やす。	1. 定期的に実施	12回/年	1. 定期的に実施	12回/年	1. 定期的に実施	毎日		今回の怪我では特に問題点がないため、定期的な安全点検を継続していく。	1. 集団活動中・見守りあり		異年齢の子ども達が遊んでいるため、体格差や運動能力の違いにも配慮して職員が一緒に遊ぶ、仲介するなど保育上の配慮を増やしていく。	1. いつもどおりの様子であった	保育後、外に出てお友達一緒に楽しく遊び過ごしていた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	担当職員は定位置につき見守りをしていた。遊具の安全を配慮しながら園庭側を見ているので、すぐ手がでる状況ではなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	降園準備、順次降園となる時間でそれぞれ担当に入っているため外遊び担当以外は対象の園児の動きを把握できていなかった。		フリーで動ける職員を増員し、動きながら子ども達の遊びを見守れるよう配慮する。	
323	令和5年12月15日	1. 認可	5. 幼稚園	7	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	87				14	38	35			6	6	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	2. なし	2. 不定期に実施	3～４回/年	2. 基準配置		個別の運動能力や身体の動きを把握し、個別の声かけをより的確にできるよう日頃から見守るよう努める	1. 定期的に実施	12回/年	2. 不定期に実施	12回/年	1. 定期的に実施	基本的に毎日		今回の怪我では特に問題点がないため、定期的な安全点検を継続していく。	1. 集団活動中・見守りあり		朝の時間帯は身体が慣れていないため、よく動かしてから遊びに入る工夫をする。	1. いつもどおりの様子であった	通常通り元気に登園し、友達と外遊びを楽しんでいた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	担当の職員が配置につき子ども達の遊びを見守っていたが、一瞬のことで手が出せなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	外担当の職員は担当場所が決まっているため、持ち場の安全確保と園児の見守りに努めていた。		子ども達が遊んでいる場面ではいつでも素早く補助ができる準備と予測を心掛ける。子ども達の動きについて意見交換を行い情報共有しておく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	概要 施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
324	令和5年12月15日	1. 認可	5. 幼稚園	6	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	60					30	30			2	2	17. 5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左肘骨にひび	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1回/年	2. 基準配置	転倒した際左側方に倒れ、肘に体重がかかってしまった。	遊び方や園児の様子など状況に応じて、職員の配置を考えたりすぐに手を差し伸べられるようにする	1. 定期的に実施	12回/年	1. 定期的に実施	12回/年	1. 定期的に実施	週1回消毒	安全点検の更なる徹底	これからも引き続き定期的に安全点検を行う	3. 個人活動中・見守りあり		遊具使用上のルールや注意点の更なる指導の徹底	1. いつもどおりの様子であった	いつも通り遊んでいたが転んでしまった。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児から離れたところで対象児を見ていた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の場所で他児と対応中で直接的には見ていなかった	戸外遊び時の職員人数	戸外遊び時の職員の数や配置を見直す。	
325	令和5年12月15日	1. 認可	5. 幼稚園	9	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	85									3	3	17. 5歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	若木骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	3回/年	1. 基準以上配置		職員の配置場所の確認と、子どもたちへの遊び方の指導	1. 定期的に実施	週1回	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日		チェックシート等を作成し、確認を実施	1. 集団活動中・見守りあり		人数等をグループ分けをすべきだった	1. いつもどおりの様子であった	活発に遊んでいた	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	他のところに意識が向いており、対象児には目が行き届いていなかった	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他のところに意識が向いており、対象児には目が行き届いていなかった		職員配置の見直し等により改善に努める。	
326	令和5年12月15日	1. 認可	2. 幼稚園型認定こども園	9	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成				1	14					2	2	15. 3歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	手首骨折(右)	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	3回/年	1. 基準以上配置	転倒した園児を後続の本児が避けきれず覆い被さるように転んでしまった	集団でかけっこ等をするときは、間隔をあけ順番にスタートするよう配慮する	2. 不定期に実施	1回/年	2. 不定期に実施	2回/年	2. 不定期に実施	3回/年	園庭に躓きの原因になりうる凹凸がある	毎朝の受け入れ準備時に砂を入れるなどして凹凸を減らすようにする	3. 個人活動中・見守りあり	練習を始めて間もないため、子どもたちが張り切り全体的に気分が高揚していた	始める前に、順番を守って落ち着いて走るなどの約束を子どもたちとする	1. いつもどおりの様子であった	年少クラスに所属する満3歳児であり他の3歳児に比べて体格や体力に差があるが、同じように活動しようとしている	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	ゴール地点で園児のゴールを確認した後、次のスタートの合図を送っていた	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	ゴール地点の保育士からの合図を見て、スタート地点で並んでいる園児にスタートするように促していた	ラインを引かず走っていた為、子どもたちが一箇所に集中してしまった	かけっこをする時はコースのラインを引き、まっすぐ走れるようにする	
327	令和6年3月27日		15. 放課後児童クラブ	5	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	38							38		2	2	19. 7歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	2. 顔面(口腔内含む)	裂傷	5. 他児から危害を加えられたもの	2. なし	2. 不定期に実施	実施頻度(１２)回/年	2. 基準配置	特になし	全支援員が参加しての事例研修を実施するとともに、全児童を対象とした集会等の場を活用し安全意識の向上を図る。	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(8)回/年	特になし	安全点検を引き続き計画的に実施する。	1. 集団活動中・見守りあり	特になし	全支援員が参加しての事例研修を実施するなど、より組織的な安全確保の取組を推進する。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	すべり台の遊ぶ順番をめぐって数名の児童との間で不満があったかもしれない。	4. 対象児の動きを見ていなかった	すべり台から少し離れた場所で鬼ごっこで遊ぶ集団を見守っていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他室の児童を見守っていた。	特になし	職員側の見守り体制の改善と児童の遊びルールの指導を徹底する。	
328	令和6年3月27日		15. 放課後児童クラブ	7	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	26							26		4	3	19. 7歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	3. 未実施	実施頻度(0)回/年	1. 基準以上配置	特になし	支援員の人数は十分に足りているが、ケガのないように保育することができていなかった。子どもたちを安全に遊ばせられるよう研修に参加し、支援員の保育力向上に取り組んでいる。	2. 不定期に実施	実施頻度(０)回/年 未実施	3. 未実施	実施頻度(0)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(３)回/年	特になし	ネットは取り外すより設置した方が安全であるためそのままとしたが、ネットに近づくことを防ぐため、床に黄色い線（ここから先危険）と赤い線（絶対に入らない）を貼り、子どもたちに説明した。	1. 集団活動中・見守りあり	特になし	ルールを守ること、ケガをしないように節度をもって遊ぶことを子どもたちに伝えている。	1. いつもどおりの様子であった	体調が悪いなどはなく、いつもどおりにホールで遊べる時間に他の子どもたちと活発に遊んでいた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	場所ごとに割り振りされた支援員が児童を見ていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は、別な場所で児童を見ているため、ケガをした児童を見ていなかった。	特になし	支援員が、子どもたちに対して危険な遊び方をしないように、適正な指導ができるようになった。	
329	令和6年3月27日		15. 放課後児童クラブ	10	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	8. 学童	11							11		1	1	23. 11歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		6. その他	4. 上肢(腕・手・手指)	右小指骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(24)回/年	2. 基準配置	キャッチに関する事前対策・対応知識の不足	キャッチに関する事前指導を周知していたが、より実技に近い形で指導を行う。指も含めた柔軟体操の時間を増やし、キャッチボール等の基礎練の時間をしっかりと設ける。技術の差が大きい時には別メニュー対応も考える。	1. 定期的に実施	実施頻度(250)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(250)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(250)回/年	特記事項なし	引き続き施設等の安全点検を徹底し、管理不備による事故発生の防止に努める。	1. 集団活動中・見守りあり	審判をしながらの支援だったのですべての児童の細部まで見守ることができていなかった。	児童の表情や様子の変化に気を配り、異変があれば活動を止めて確認する。	1. いつもどおりの様子であった	練習開始後、痛めるまではいつも通りの様子で参加していた。痛めたあとは迎えまで指を気にする様子があった。また痛みを感じた時すぐに抜けず違和感を感じながら試合が終わるまで参加したようだ。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	審判を行いつつ児童を見守っていた。本児がキャッチミスをした時はボールが抜けていっただけのように見えたので試合を止めたり声をかけたりしなかった。試合終了後全体に痛い所がある人は知らせてほしいと伝え、本児からの訴えで気づいた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	活動場所にいなかったため記載事項なし。	特記事項なし	痛みを訴えた時点で参加を止めさせるべきだった。	

No	初回掲載年月日	概要：認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時：月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制：発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳：0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故：年齢	性別	特記事項	事故状況：発生時状	事故の転帰	死亡：死因	負傷：負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面：マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面：施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面：教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面：対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
330	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	8.学童	37							37		3	2	21.9歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足骨折（ヒビ）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	事例の共有とともに対応策や予防策を考え，備えておく必要がある。	事故事例やヒヤリハットの共有・マニュアルの確認を継続して行い，事故が起きた際の対応や予防策についても職員全員で考える機会をつくる。	1.定期的に実施	実施頻度(１２　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２　)回/年	-	遊びを始める前に危険物等がないか目視で確認。遊戯室の床をモップで清掃する。	1.集団活動中・見守りあり	本児は普段体を動かして遊ぶことが大好きで運動能力も高いため，怪我の予防策が不十分だった。	遊びを始める前に怪我につながり得る行動や事例を児童と確認する。各部屋に１～２名職員を配置し見守りを強化する。準備運動を行い，怪我をしにくい体の状態をつくる。	1.いつもどおりの様子であった	体を動かして遊ぶことが大好きで運動能力も高い活発な児童。この日もいつも通りドッジボール（源平）で遊んでいて，夢中になってボールを取りに行く姿が見られた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	遊戯室でドッジボール（源平）の審判役で見守りをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	児童クラブの受け入れと，出欠確認を行っていた。	ドッジボール（源平）が白熱し，本児も夢中になって積極的にボールを取りに行こうとする様子が見られた。	全体、個別の様子を確認して、興奮しすぎている時は一度落ち着けるよう促す。児童の様子を確認できるよう、全体の見守りを行う。	
331	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	18							18		2	1	21.9歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	門歯（左下１番）外傷性歯牙亜脱臼、歯の破折C、門歯（左下２番）Hys	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	館内研修時に、実際に起きた事故の共有と合わせて事故が起きた要因・背景まで細かく分析し、具体的な事故防止策を考えられると良かった。	事故が起きた際の振り返りを継続して行い，事故が起きた要因や背景を共有し，防止策を考えることで今後の事故防止につなげる。	1.定期的に実施	実施頻度（ 2）回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/月	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	-	週1回ロッカーや座卓等の細部にわたる安全点検を実施する。	3.個人活動中・見守りあり	児童が落ち着けるような声がけや働きかけが不十分だった。	児童の様子を見て，特に登館後すぐは注意をしながら落ち着いて活動ができるように働きかける。	1.いつもどおりの様子であった	座卓を囲んで学習やテーブルゲームを行っており、立ったり座ったりを何度か繰り返していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	児童全員に目が届くように見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員はサテライト1,本館にいた	見守りはしていたが，児童の状況や動きに合わせた注意喚起の声がけが不十分だった。	児童の様子や状況に合わせて、普段通りの動きをしていても怪我をしないように声掛けを行う。また、実際にけがに繋がった事故の事例について児童に伝える機会を作る。	
332	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	7							7		7	4	19.7歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	1.頭部	骨折（第一頸椎、顎、後頭骨、前頭眼窩）挫傷（左目付近、肩、腰、背中）	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度（1）回/年	2.基準配置	—	—	1.定期的に実施	実施頻度(60)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(60)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(60)回/年	—	—	7.その他	暗くなり車の運転手からは見えにくい時間帯に母親は付き添っていたが、交通量が多い道を渡って、忘れ物を取りに児童館に向かったため	忘れ物については電話で児童館に確認してもらう（実際は忘れ物は児童館に無かった）	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り友達と折り紙で作品を作ったりして遊んでいた。17：50頃に母が児童館に迎えにきて17：55頃帰宅した。	4.対象児の動きを見ていなかった	迎えが来るまでは、いつものように友達と工作をしたり作った物で遊んでいる様子を見守っていた。事故が帰宅後のため、また起きた場所は児童館館外（建物より200m位離れた所）であり発生当時は見ていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童の支援を行っていた。帰宅後の事故のため見ていなかった。	—	児童クラブを利用している児童に、再度横断歩道の渡り方や暗くなった時の安全確認、服装や反射板で知らせる等大切なことを集めて話し、周知した。	
333	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	29							29		4	4	19.7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕肘部内側不全骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度（4）回/年	2.基準配置	遊具で遊ぶ際に起き得る怪我について職員間での共通認識が必要だった。	定期的に遊具を使う際に起き得る怪我・事故の事例や予防策について話し合い，共通認識を持つ機会をつくる	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	-	特に外の遊具に対して、破損箇所がないか等の他に水滴がついていないか、高温の部分がないか等、その都度事前に確認することを継続して行う。	1.集団活動中・見守りあり	一人ひとりの運動能力や発達に合わせた遊びを考える必要がある。	継続して遊びの前にケガをしないよう具体的な助言を行い、必要以上に気持ちを高ぶらせないように支援していく。また，子ども個々の運動能力、同学年間や異学年間での発達段階を考慮し，より安全で楽しい活動ができるよう工夫していく。	1.いつもどおりの様子であった	特に体調に問題はなく、精神的にも落ち着いていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	大型遊具で遊ぶ児童の見守り役として職員1名を配置、さらにすぐ近くに大型遊具と周辺を見守る職員１名を配置していた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	この時、大型遊具１名、ボール遊び１名、全体確認１名の、全３名体制で外遊びを見守っていた。	気持ちが高ぶって怪我につながらないように，遊びの最中にも声がけや落ち着けるような働きかけをする必要があった。	見守り体制を維持していく。危険な行動が予知、予感される事態を感じたならば、速やかに活動を中止し、クールダウンさせながら落ち着いた活動ができるように支援する。	
334	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	20							20		4	4	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	5.下肢(足・足指)	挫創、打撲	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度（5）回/年	1.基準以上配置	ケガの状況判断について、職員によって差があった。	マニュアルの見直し、職員の心構えについても確認し明記した。	1.定期的に実施	実施頻度(20)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(20)回/年	3.未実施	実施頻度（0）回/年	自然の風化、天候	一級建築士と今回点検を行った。定期的に専門家と点検する。	1.集団活動中・見守りあり	なし	職員は危険に対しての声がけを行っていく。子どもたちにそういう心構えを持ってもらう。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	職員の注意を聞けないほどかなり高揚し活発に動き回っていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	初めからはしゃいでいたので、職員は気を付けて見て声がけしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児の安全も見守りながら、本児の動きも見ていた。	本児自身の危険に対する考えが全くないようだ。職員が注意してもなかなか聞けなかった。	子どもとの信頼関係の見直しを行い、職員のあるべき姿についても共有する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項
335	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	79							79		6	6	21.９歳	1.男児	
336	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	7	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	60							60		8	5	22.10歳	1.男児	
337	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	16							16		9	4	21.９歳	2.女児	
338	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	8.学童	40							40		6	4	21.９歳	2.女児	
339	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	7							7		2	2	19.７歳	1.男児	

No	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策
335	2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	歯ぐき裂傷	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	本児・加害児童含め，児童の普段の様子やその日の様子，興奮した時の傾向などを職員間で共有し，すぐに対応できるようにしておくと良かった。	児童の様子について共有する時間を作る。遊びの中でも職員間でこまめに情報共有を図り対応する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	–	施設等の安全点検を継続して行い，危険個所があれば迅速に対応できるようにする。
336	2.室内活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	骨端線離開（骨折の一種）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	特になし	危険予知と具体的事例についての情報共有	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	体育館の床の状況と本児の精神的なコンデションはどうだったか。当日特別滑りやすさは感じなかった	事前に施設の点検を行う
337	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	左ひざ捻挫	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(24)回/年	1.基準以上配置	足場の安定しない山の斜面を一人で重い（10kg超）丸太を引き上げようとして起きた事故であった。	子どもの自発性を尊重していた活動中だったので、声がけが必要だったかもしれない。	2.不定期に実施	実施頻度(２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	この活動では、のこぎりを使って木を切ったりする活動を人を配置して実施している。さらに何人かで同じ木を丸太に切り分けることもしていた。	このエリアでの活動は、●●小児童クラブだけでなく他市の児童クラブで実施している。そのため、切り分けられた丸太があちこちにある状況であった。今後この場を利用している他の児童クラブと連絡を取り合いながら、安全に留意していく必要がある。
338	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	なし	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.基準以上配置	なし	提供する遊びの予想される怪我について、また遊びに対しての適切な人数や学年などを話し合い、事故予防に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	なし	遊戯室の床の状態を定期的に目視や触るなど確認を行い、必要箇所については修繕を行うようにする。
339	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右の鎖骨骨折	8.その他	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	年齢に応じた声かけ見守り支援の位置、方法について配慮する。	配置基準に合わせて人数を配置しているため、特になし。	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/日	特になし	遊ぶ前に遊具に不具合や危険箇所がないか確認を行う。

No	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
335	4.個人活動中・子どものみ	以前から仲の良い本児と，加害児童が久しぶりに児童館で遊べるということで登館直後から興奮気味であった。	本児と加害児童に対して注意喚起は行っていたが，遊びの最中にも休憩を挟む等気持ちが落ち着くような働きかけを行う。また，児童の様子を見て活動内容を設定する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	登館時から興奮気味で館内を走る等安全面で心配な行動が見られた。	4.対象児の動きを見ていなかった	事故が起きた瞬間は見ておらず，怪我をした後すぐに気づき対応した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	怪我の発生を受けてから迅速に処置，保護者への連絡に当たった。	事故が起きた際に職員の目が届いていなかった。	児童の登館時の様子や日頃の情報を職員間で共有し、連携を取りながら児童を見守る。	
336	1.集団活動中・見守りあり	体育館という限られた空間で児童14名くらいで思い切り走り回った	活動前開始前にルールの説明や安全面について具体的に伝え、児童自身が安全に遊ぶ意識を持つよう配慮する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	暑さでめったにしない鬼ごっこができることがとても嬉しい様子であり、興奮気味だった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	児童たちが王様陣取りをしている様子を時間を測りながら審判をしている職員と別な角度から児童を見る職員の２名で担当していた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故は館外（小学校体育館）で起きたので、担当職員以外は児童館にいた。担当職員から応援要請があったため１名すぐに駆け付けた	特になし	活動前、開始前にルールの説明や安全面について、今後より一層具体的に伝え、児童自身が安全に遊ぶ意識を持つよう配慮する。	
337	1.集団活動中・見守りあり	特になし	人的配置に問題があったとは思わない。今後このような行事を実施する際も同じような人員配置をと役割分担をしていきたい	1.いつもどおりの様子であった	この場所での活動が大好きで通算４回目の参加だった。そのため場所に慣れている感じで一人でいろいろなことに取り組んでいた。今回は丸太を引き上げ、別の木に登るための足場にしようとしていたらしい。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	その動きをする際には、引率責任者である室長が「気を付けて」の声がけはしていたが、その動きにはついて行っていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	その子の動きを把握していなかったようだ。その子からの申し出で事故発生に気付いたスタッフが、事情を聞きテーピングの措置を行い「あまり動かないように」と指示をした。	特になし	特になし	
338	1.集団活動中・見守りあり	体力や体格差を考えて2年生以上の男女としていたものの、男女の体力や体格差も検討する必要があった。	遊び始める前怪我に繋がる危険な動きについて子どもたちへ伝え、注意して遊べるようにしていく。遊びによっては学年別だけでなく男女別で行うようにしていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも2年生以上の男女での活動に混ざって遊んでいた児のため、その日も自分からドッチボールへと参加した。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	審判をする職員とコートを挟んで向かうように立ち、真ん中付近で全体の子どもたちの動きを見守っていた。児が他児と衝突した後、すぐに気が付き声掛けを行い、事務室にいる職員へと引き渡した。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当職員と向かい合うようにして全体の児童の動きを見守りつつ、審判を行っていた。ボールを行方を目で追っていたため、児童同士の衝突もすぐに気づいた。	なし	なし	
339	1.集団活動中・見守りあり	出来ない側転に挑戦した。	激しく動いているときは、落ち着かせるように声をかける。	1.いつもどおりの様子であった	利用登録はしていたが実際の利用は事故当日が初めてであり、興奮気味であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	事故発生時の利用児童は７名。勉強やトランプで遊ぶ児童を見ながら当該児童の様子を見守り。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の児童とオセロをしていた。	怪我をした児童を見ていたが、他の児童を見た時に怪我につながった。	怪我などの可能性が高いことをしている児童への目配りや寄り添いを心がける。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
340	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	134							##		11	7	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折、右ひじ打撲	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	特になし	事故予防マニュアルを早急に作成し、職員全体で事故防止のための対応を共有する。	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(開館日)/年	特になし	遊具について定期点検を行い安全を確認しており、今回は遊具起因の事故ではない。ただし、遊具自体が徐々に老朽化しているため、事故につながらないよう引き続き注意する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	館庭で遊ぶ際は、引き続き学年ごとに時間を区切る等で人数を調整し、支援員の目が行き届くようにする。	1.いつもどおりの様子であった	健康状態に異常はなく、言動も普段と変わりがなかったため。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担当している学年の児童の動きを全体的に監視していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各職員が、担当している学年の児童の動きを全体的に監視していた。	雲梯にぶら下がり、体を振ってそこから飛び降りようとする動作は、着地が上手くいかなかった場合は事故につながることが予想できる。	児童たちに外遊びで起こりうるケガ・事故について考えてもらい、安全を意識するよう機会を設ける。	
341	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	82							82		10	10	21.9歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	見守り時に死角がないよう対角線配置で見守ることは理解できているが、実際の場面での臨機応変な対応や支援員間の連携については課題がある。	全体を見守る時の支援員の立ち位地や支援員間の連携について、再度共有を図っていく。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	和机の角部分にはクッションを貼って対応しているが、長辺部分にはクッション対応をしていない。	室内遊びの時は机を寄せる等して遊びの空間を確保し、和机に乗ったりぶつかったりすることが少なくするよう工夫する。	1.集団活動中・見守りあり	室内でついつい走ってしまう子もいて、支援員が注意するも場面もあった。	室内で走ること、和机をまたぐ等の行為が危険であることを繰り返し子供たちに伝え、実践的な態度が身につくようにしていく。	1.いつもどおりの様子であった	友だちによばれたことに気持ちが集中していたので、走って和机をまたごうとした。	4.対象児の動きを見ていなかった	他の児童の遊びを見守っていたため対象児童の動きを見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員にはそれぞれの分担があり、分担された見守りをしていて、担当者や対象児童を見てはいなかった。	支援員が3名配置されていたが、他の児童対応をしていたり分担して業務に当たっていて、対象児童の急な動きを把握できなかった。	個別に児童対応する支援員と、全体を見守る支援員等で声を掛け合いながら、全体の把握に努めていく。	
342	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	28							28		5	4	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	安全点検等日頃から徹底していたが、グランドのロープが緩んでいたり児童の脚が引っ掛かかる可能性までは想定していなかった。	声掛け、見守りの強化。更なる危険予測をし全体で共有する。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	遊具などの点検はしていたが、地面に張られているロープまでは意識していなかった。	危険だと思われる箇所の見直しをする。	1.集団活動中・見守りあり	外遊び時のグランドの地面に張られているロープのたるみの危険性を予測出来なかった。	外遊び時の見守りの強化。児童が遊ぶ範囲は定期的に点検を行う。	1.いつもどおりの様子であった	屋外活動中でボール遊びをしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児童を近くで見てはいたが、動きを予測出来なかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の児童の見守りをしながら対象児童も見てはいたが、ロープの危険性まで予測出来なかった。	グランドのロープが緩んでいた。注意して遊ぶよう声掛けが不十分であった。ロープに足が引っ掛かり転倒してしまうという事が予測出来なかった。	全職員が危険行為、危険個所、起こりうる事案を予測及び把握をし、児童全体にもしっかり説明し共有していく。	
343	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	22							22		3	3	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位骨幹端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	ゆるやかではあっても、坂道では転倒するリスクが大きい。	坂道を走るのは危険が伴うため、鬼ごっこは平坦な広い場所で行うよう指導。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	外遊び担当の支援員は、距離をとり全体が見まわせる場所で声掛けや目配りで見守っていた。今後も配慮をして支援していく。	1.いつもどおりの様子であった	朝、登校時から下校時まで体調は問題無し。元気な様子であった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	事故が発生した坂の中程に立って周囲を見ていた。児童は支援員の前を走り過ぎ、1.5m程離れた場所で転倒した。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当職員とは5～6m離れた、坂の上の平坦な場所で全体を見守っていた。	特になし	坂を上ったり下ったり、走って鬼ごっこをするのは危険が伴うため、平坦な場所でのみ活動をさせる。声掛けと目配りでより注意を払う支援をする。	
344	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	27							27		3	1	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	支援員が全体をに守る。	見守り個所になるべく早めに行く。	1.いつもどおりの様子であった	一番初めに遊具を取りたかったから走ってしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	先に走って行ってしまったため、追いつくことが出来ず離れたところだった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	先に走って行ってしまったため、追いつくことが出来ず離れたところだった。	子どもがいつも通り出来ると思ってしまった。	特になし	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
345	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	47							47		6	5	20.8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右ひじ骨折(全治3か月)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	なし	マニュアルの確認	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	床が棘だらけでケガ防止の為にマットと畳を使用している。	市と協議し、床の改善等を検討する。	1.集団活動中・見守りあり	自分の体力にあった活動が必要。	事故を予測する力を育む。	1.いつもどおりの様子であった	新しくなったフロアマットから畳へ他の児童と共に飛び越える遊びをしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	痛がる声を聞きケガの状況確認をした。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内にいる児童が少なかったため支援員一人が室内保育をし、他の支援員は外遊びの保育をしていた。	室内にいる支援員が一名だったため、見守りの目が不足していた。	身体にあった活動を行って行くように児童に指導を行う。支援員の配置について検討を行う。	
346	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	17							17		4	4	22.10歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	戸外保育のため2支援あわせて8人体制。事前に6人で下見。	子どもたちの普段の様子から遊具等の正しい使い方をしてほしいことは伝えていたが、周知の徹底。	2.不定期に実施	実施頻度(-)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(-)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(-)回/年	安全マットが全体に敷いてあったが、裸足で過ごすスペースだったためボールを蹴ろうとした時に足の指がとられて負傷	遊具等の正しい使い方を下見の際に施設職員さんから指示を受け子ども達と共有していたが、ボールに関しては下見の際になかったこと、大人側の予想外の使い方をしたことから、児童への日常的な注意喚起の声かけを徹底していく。	1.集団活動中・見守りあり	猛暑の影響で例年より夏休みの外遊びの機会も減り、遊具等の正しい使い方の周知共有が日常的にできなかったこと。	遊具等の正しい使い方を下見の際に施設職員さんから指示を受け、子どもたちと共有していたが、ボールに関しては下見の際になかったこと、大人側の予想外の使い方をしたことから、児童への日常的な注意喚起の声かけを徹底していく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	戸外保育（アスレチック施設）での活動	2.対象児の至近で対象児を見ていた	エリアごとに指導員を配置し注意喚起の声かけをしていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれが担当のエリアにいた	下見後に指導員全体で再度危険が予想されるエリアの共有、子どもへの周知内容の確認もしたが、予想外の使い方をしたため。	普段とは違う環境での自由時間だったため遊具等の使い方の共有。児童への注意喚起の声かけ	
347	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	14							14		3	3	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	事故予防に対して外部講師の研修が足りなかった。	各職員が事故予防研修に参加をする。また、参加した職員は他の職員と共有をし、マニュアルの見直しも検討していく。	2.不定期に実施	実施頻度(-)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(-)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(-)回/年	遠足先の公園だったので、普段の保育とは違う環境で遊んでいた。事故が起きた遊具は園のグラウンドにはない遊具で高さもあった。	園のグラウンドにはない遊具や、ある遊具でも極端に大きさや形状が違う場合は、必ず職員がすぐ近くで見守り声掛けをする。	3.個人活動中・見守りあり	全体での活動が終わり、帰園する前の時間に起きた事故だった。疲れ等が出ていたことも考えられる。	遠足の後半等疲れが出やすい時間には遊具遊びを行わない。	1.いつもどおりの様子であった	登室時から遠足に行くことを楽しみにしている様子だった。歩いている時はたくさん話し、遊具で遊んでいる時には特に興奮している等の様子はなく通常通りだった。	4.対象児の動きを見ていなかった	2クラスで遠足に行き、当日は6名の放課後児童支援員がいた。職員は分散して児童を見守っており、担当職員は少し離れた所にいた児童を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	すぐ近くに2名の職員がいたが、1名は別の方向を見守り、もう1名はその近くの遊具で遊ぶ児童の動きが大きく危険だと感じて注意をしていたので、落下の瞬間は見ていなかった。	遊ぶ前に遊ぶ場所の範囲や注意事項は話したが、一つ一つの遊具の使用の仕方については確認をしておらず、注意喚起の声が足りなかった。	園外活動時は、子どもたちに各遊具の使用の仕方、注意喚起等の声掛けを行う。	
348	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	85							85		10	9	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	打撲、剥離骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	特になし	支援員全員で、定期的にマニュアルを確認し、危機管理についての共通認識を行う。	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	一緒に遊びたかったが、混ざれない児童がいた。	支援員は、子どもたちが一緒に遊べるよう促していく。	1.いつもどおりの様子であった	対象児は、ボールを取りに行くことに夢中になっており、周りが見えていなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	近くで全ての様子を見ていたが、突然起きたため止めることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の見守りをしていたので、見ていなかった。	児童がバスケットボールを蹴る事を想定していなかった。	危険な行動を予測して早めに声掛けしていく。見守りをする際は、遠くにいる支援員でもトラブルになりそうな動きを早めに見つけられるよう全体を見守る。子ども達にもどんな事が危ないか普段から話し注意を促す。	
349	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	31							31		4	3	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脚小指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	特になし	室内での過ごし方のルールの徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	ロッカーは木製のため角がとれている。また、備え付けのため壁面から飛び出ておらず、現状より改善は難しい。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	室内での過ごし方のルールを指導する。	1.いつもどおりの様子であった	特に目立つ様子がなく、クラブ来所後は友達と遊び始める。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	近くで走っている児童に、複数回注意した。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の児童と会話しながら同じ室内にいた。	特になし	児童は事故後も課外の運動教室に参加し走っていたとのこと。また、保護者からも過ごし方について指導するとの話があった。室内での過ごし方について職員間でも再度周知し、指導を続けていく。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制												事故			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
350	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	29							29		3	2	22.10歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小菱形骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	特になし	屋外での遊び方を指導する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	園庭は障害物もなく見通しも良い。遊ぶスペースもゆとりをもって確保でできているため、改善の必要はない。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	屋外での遊び方を指導する。	1.いつもどおりの様子であった	特に目立つ様子がなく、クラブ来所後は友達と遊び始める。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児を含め、全体を見渡せる場所から見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児を含め、全体を見渡せる場所から見守っていた。	特になし	児童は事故後も遊び続けていた。屋外での過ごし方について職員間でも再度周知し、指導を続けていく。	
351	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	35							35		5	2	20.8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	下前歯脱臼	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	本児の変化への対処不足や校庭到着後すぐに活動を始めてしまったこと。	いつもと様子の違う児童への対処を職員間で話しておく。到着後すぐ遊び始めないよう職員が配置についてから活動をすることを約束として話をする。	2.不定期に実施	実施頻度(２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	3.未実施	実施頻度(０)回/年	本児自身の服（幅広のズボン）にひっかかったとのこと。	当日の児童の服装に危険がないかの確認。	1.集団活動中・見守りあり	配置前に遊びたい場所へ走って行ってしまう（校庭へ行くまでに時間がかかり遊び時間が無くなってしまうため到着後まとめてから遊ばせていなかった）	遊び時間に余裕を持ち活動をしていく	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	普段外遊びは好んでいかないが、その日は得意に外へ行きたがった。わくわくそわそわした様子であった。	4.対象児の動きを見ていなかった	配置につく前だったため、一緒にいた児童が気づき声をかけてきた。配置担当は向かう列の後方にいたため校庭についていなかった。その日は向かう列も長くなってしまっていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの配置場所につくところだった。	職員が全員配置場所・校庭につく前に遊びだし人員が足りないなりの体制が取れなかった。	普段外遊びに出ない児童への配慮。学年関係なく注意をしてみていく。	
352	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	8	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	108							##		10	8	19.7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足踝の骨にひび	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	落ち着きに欠ける子どもであった為、もう少し注意して見ておくべきであった。	児童の些細な発言でも職員で共有し、保護者に伝える。児童が処置しなくても大丈夫と言っても処置する。	2.不定期に実施	実施頻度(３)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(３)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(３)回/年	特になし	危険個所を点検し支援員同士で共有し確認する。	1.集団活動中・見守りあり	落ち着きに欠ける子どもであった為、もう少し注意して見ておくべきであった。	階段の近くは歩くよう指導する。	1.いつもどおりの様子であった	ボール遊びをしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	他児童と遊んでいたり、体育館内の児童を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	近くにはいたが個人的には見ていなかった。	特になし	児童の些細な発言でも職員で共有し、保護者に伝える。児童が処置しなくても大丈夫と言っても処置する。	
353	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	136							##		9	7	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	事故発生時の支援員の体制、配置、連携が良く適切に対応してくれる。（ケガをした児童への対応、保護者への連絡、その他児童への対応、状況確認等）これからも連携して対応していくことの大切さを改めて確認する機会とする。特に今回は危ない遊びをしていた訳ではないが、児童の安心安全を守るため支援員全員が常に全体の状況や様子を把握することの大切さを再認識する。（高い所に上らないなどの声掛け）	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	今回のケガと直接的な関係にはないが、落ち葉、小枝、樹木の刈込みなどケガの要因になりうる状態ではある。	子どもたちが安心安全に活動できるよう、環境整備に努める。	3.個人活動中・見守りあり	遊具の後ろに茂み部分があり、見えずらい環境にある。ケガやトラブルなどの早期発見、早期対応に支障がある場合も想定される。	支援員は常に全体を把握するよう流動的に動くこと、また支援の目が行き届くよう樹木の伐採などの環境整備を行う。	1.いつもどおりの様子であった	普段通り、他の児童と外遊びをしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	事故現場となったブランコ付近に1名職員が配置されていた。対象児童の動きは目で追う程度だった。該当児童と一緒に遊んでいた児童がすぐ近くにいた職員に声をかけてくれ、対応するに至る。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	校庭にいた職員が気付き、現場近くにいた職員と一緒に対応する。校庭にいた他の職員に、校庭にいる児童の部屋への誘導をお願いする。施設前に該当児童を搬送後、部屋にいた職員に保護者への連絡と病院に行く手配をお願いする。	今回は職員の体制、配置が適切になされていたので、みなが連携し対応することができた。	救急車を呼ぶ判断について再検討し学校にも意見を聞いて見る。（以前、救急車を要請した際に受け入れ先の病院を探すのに30～40分以上かかったことがある。直接病院に連れて行った方が治療が早いことがあるので、救急車要請の判断は迷うところ。患者を動かせないような病状であれば救急車の要請は必須だが、ケガなどは救急車任せにすると悩ましい面もある。）	
354	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	31							31		7	4	21.9歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手人差し指　粉砕骨折　（爪・皮膚の損傷あり）	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	特になし	事故やケガの防止に向けた対策や発生時の対応を職員間で共有する	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	3.未実施	実施頻度(０)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(開所日数)回/年	特になし	非常口の張り紙、安全カバー（緩衝材シートで扉蝶番側の隙間全面を覆う）を付ける	1.集団活動中・見守りあり	特になし	児童が危険を回避できる力『安全対応力』を身に着けられるように話をしていく	1.いつもどおりの様子であった	室内（非常口近く）で遊んでいた。外から何度も非常口を叩く音が聞こえ、扉越しに注意するが続く。非常口を開け注意しドアを閉めようとした。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	保護者対応中、「開けないよ」と声がけする	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員に対応を任せ、他児の見守りをしていた	日常的にクラブ生活のルールを守るよう、繰り返し継続的に支援をしていた。保護者にもその件で相談していた。なかなか改善が見られなかった。	『資質向上研修』で怪我発生の際の対応の知識・環境整備等の安全対策を学ぶ	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
355	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	70							70		6	3	19.7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨頭骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(２)回/年	2.基準配置	特になし	児童の転びやすさやこれまでの骨折歴などの情報を予め把握し，安全面への配慮と事故防止を徹底していく。	1.定期的に実施	実施頻度（1）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（1）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（1）回/年	特になし	支援員の配置人数に問題はなく，怪我の状況のみを考慮すると防ぐことが可能な事故であった。	1.集団活動中・見守りあり	地面とコンクリートの土台とのわずかな段差だが転倒に繋がり，受け身の体制を取ることが出来なかった。	固定遊具の近くで鬼ごっこをしないように改めて注意，指導する。	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこに夢中で，足元に注意がいかなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	児とは少し距離があったので，転倒時を見ていない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの場所で見守りについていたので，転倒時を見ていない。	特になし	他に考えられる要因がないため。	
356	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	75							75		7	3	20.8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(２)回/年	2.基準配置	特になし	児童が遊びの中で予期せぬ怪我をする危険性を孕んでいることを，事故防止対応マニュアル等で再度確認し対応を徹底していく。	1.定期的に実施	実施頻度（1）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（1）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（1）回/年	特になし	支援員の配置人数に問題はなく，怪我の状況のみを考慮すると防ぐことが可能な事故であった。	1.集団活動中・見守りあり	鉄棒で空中逆上がりをしようとして，落下した。	鉄棒を含め固定遊具は落下しケガに繋がる可能性も含め，遊び方の注意喚起をしていく。	1.いつもどおりの様子であった	活発だが落ち着きがあり理解も早く運動神経も良い。事故当日は鉄棒の練習に熱心であり，水分補給休憩後もいち早く鉄棒に向かい練習を始めた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	水分補給休憩後，本児が先に鉄棒へと走っていったのですぐに追いかけた。本児がうずくまっているのを見つけた。落下の瞬間は見ていない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの遊具の見守りについたので，落下時を見ていない。	泣いていたが保育室に戻った時には泣き止んでいた。落下時を見ていないので，念の為に病院へ行った方が良いという認識だった。通院したか保護者に確認をするために電話を入れた。	他に考えられる要因がないため	
357	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	32							32		3	1	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手薬指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(２)回/年	2.基準配置	特になし	打撲等のケガは30分ごとに腫れや痛みを確認する。保護者と受傷部位を確認する際は，可能な範囲で湿布を外して行うようにする。	1.定期的に実施	実施頻度（1）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（1）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（1）回/年	特になし	支援員の配置人数に問題はなく，怪我の状況のみを考慮すると防ぐことが可能な事故であった。	1.集団活動中・見守りあり	芝生にはマンホールの蓋や埋設表示物が置かれており，校庭との行き来に通っていたが，特に注意を促すことはしていなかった。	埋設表示物（給水）にコーンをかぶせ注意を促す。	1.いつもどおりの様子であった	校庭から集合場所へ地面に注意することなく走ってきた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	児とは少し距離があったので，転倒時に手を差し伸べることが出来なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの場所で見守りについていたので，転倒時を見ていない。	特になし	他に考えられる要因がないため。	
358	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	15							15		3	3	20.8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	マニュアルの共有を引き続き行う。日頃から基準配置、またはそれ以上の職員配置を行っているため、引き続き見守りを徹底していく。	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	特になし	引き続き必要な点検を行う。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	活動の内容や児童数に合わせて必要な職員数で見守りを行う。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わらず元気に遊んでいた。遊びの内容も日頃から遊んでいるもので、参加児童もいつもと特に変わりはなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	動きが活発な児童であり衝動的に行動してしまうこともあった為、当日も至近で対象児の見守りを行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	動きのある活動だった為、目を離すことがないよう活動全体の見守りを行っていた。対象児・担当者の動きも全体の動きの中で一緒に見守っていた。	特になし	体を十分解してから運動遊びを行えるよう準備運動を徹底する。遊びの中での危険に気付き回避出来るよう普段から児童に話し、準備運動等安全に遊ぶための体づくりの必要性を伝える。見守り時には今まで以上に危機意識を持ち、対応出来るよう職員間で共有する。危険に繋がる行動について施設全体で注意喚起する。	
359	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	23							23		3	3	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施	実施頻度(０)回/年	1.基準以上配置	最初は鉄棒の下の砂場で複数の児童で砂遊びをしており、鉄棒をしていなかったため注視はしていなかった。	今後も更に全体を見守りながら、遊具を使っている児童がいたら声かけをしてから遊具を使ってもらう。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(36)回/年	施設面に関しては特に要因は見当たらなかった。	施設面に関しては問題はなかった。	1.集団活動中・見守りあり	最初は鉄棒の下の砂で複数の児童で砂遊びをしており、鉄棒をしていなかったため、その時は注視していなかった。	児童は鉄棒を使用する際は、職員に声かけをするようにする。	1.いつもどおりの様子であった	最近、1年生は体育の授業で鉄棒に取り組んでおり、一生懸命練習をしている。当日対象児童は鉄棒をした際に手を離してしまった。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた)	すぐに室内に戻り、冷やす処置を行った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童を見守っていた。	普段から鉄棒で楽しく遊んでいる児童が多いが、この日は当該児童が手を放してしまったために起った。	怪我があった際の連絡を保護者・弊社へ速やかに行えるように再度確認をする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
360	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	25							25		2	1	18.６歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	左足関節外果不全折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1～２)回/年	2.基準配置	特になし	事故予防に関する研修への参加を更に徹底し、職員一人ひとりの意識を高めていく。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(0.5)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(適宜)/年	特になし	該当児は遊具は使用しておらず、校庭に障害となる物も落ちていなかったため、ハード面の瑕疵はなかったと考える。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	児童自身が自分の体調に気を配れるような声掛けを行う。また、疲れている様子があるか体調面をよく観察し、静と動の活動に配慮する。	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこが白熱しており、自身の身体能力についていけなかった面が見られた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	少し離れた所から、該当児を含めた複数の児童の遊びを見守っていた。該当児の側で一緒に並走している状況ではなかった為、体勢を崩した児童を抱きかかえことはできなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	外遊び中であった為、他児童の見守り中であった。鬼ごっこの場面は見ていたが、他児を見ている間に該当児童が転び、うずくまっているのを目撃した。	週の終わりであった為、該当児の疲れが溜まっている状態の配慮にかけていた。	特になし	
361	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	33							33		5	2	18.６歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左ひじ骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１～２)回/年	2.基準配置	今回怪我人発生時のマニュアルに沿って迅速な対応はできたものの、救急車要請に至る対応の有無の判断は難しかった。	転倒や落下の恐れのある遊具に対しての見守り職員の常駐。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	鉄棒の下に落下によるケガ防止のマット設置なし	鉄棒からの落下に対し、マットレス等(衝撃を緩和)の設置を講じる。	1.集団活動中・見守りあり	一年生の授業が今鉄棒を行っており鉄棒で遊ぶ児童が増えている。また、一輪車やボール遊びをする児童もいるため見守りしながら声掛けをしなければならない状況。	短時間でも子どもたちに休憩をするよう声をかけること。職員が鉄棒の側に行見守りを行う事。	1.いつもどおりの様子であった	体調不良もなくいつも通りに学童に登所していた。	4.対象児の動きを見ていなかった	一輪車やボール遊びをする児童もいるため見守りしながら声掛けをしている状況だった。校庭が狭いため一つ一つの遊びのグループが近いので子ども同士の接触を避けるため声掛けをしている。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の場所で対応や見守りを行っていた。特別支援学級の児童もいるため、対応に時間がかかることもある。	特になし	鉄棒に限らず、怪我が起こりやすい場所には集中して職員を配置し見守りを行う。	
362	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	48							48		5	5	20.８歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	左鼻骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	各部屋にいる際には、廊下にも目を配るようにし、走ることがないよう注意喚起を行う	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	蝶番にクッションカバーを取り付けた。階段、廊下の床にテープを貼り、右側通行が出来るようにした。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	子供達の数に合わせた見守りをしていく	1.いつもどおりの様子であった	廊下の角を曲がった際、向かい側から来た他児の手が自分に当たると思い避けた	4.対象児の動きを見ていなかった	職員がそれぞれの部屋で見守りを行っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他のクラブ職員は別の場所で行事を行っていた。また、クラブ室内にて全体を見守っていた	特になし	子供達全体へ廊下を歩く際には周りに気をつけて通行するよう注意喚起を行う	
363	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	3							3		2	1	21.９歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	転倒した際捕まるものや支援員が手の届く所にいなかったため	加配対応に戻し職員を増やし常に手の届く範囲で見守り、職員ミーティングで当日の配置について細かく確認を行う	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(52)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	通路が当該児童にとっては若干狭いため、通る際には障害物になりえる物(テーブル等)を端に寄せ可能な限り広くする	1.いつもどおりの様子であった	特になし	2.対象児の至近で対象児を見ていた	目の届く場所にはいたが手は届かなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童の対応をしていた	加配対応にしていなかったため付きっきりにできていなかった	ー	
364	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	30							30		5	4	20.８歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨端線損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	1.基準以上配置	事故当時、対象児は上履きを履いていなかった	片付けでは児童が机を移動しない事とし、上履きを履くことを徹底する	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/日	特になし	児童が１人で移動するのは難しい机であるので、環境面、人的面での改善策をしっかり行う	3.個人活動中・見守りあり	特になし	児童の片付けは椅子のみとし、机は職員が片付けることとする	1.いつもどおりの様子であった	職員の片付けを手伝いたいという気持ちを普段から持っている	4.対象児の動きを見ていなかった	職員が机と椅子の片付け作業中に対象児が声がけせずに入室し、職員の背後で机の移動を始めたため気づくことが出来なかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児が手伝いを始めていたことに気づいていなかったため、声をかけることも出来なかった	特になし	今後、事故が発生しないよう、帰りの会などで定期的に子どもたちに周知するとともに、常に声掛けをする	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
365	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	10							10		7	5	18.６歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	特になし	子ども達が分散しないよう延長時間は図書室に集め見守っているが、夕方の職員数を増やし、他所を掃除している間も見守れるよう手厚くした。	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	特になし	夕延長の時間に一部の職員が掃除をしている際に起きた事故だったので、児童の導線になる箇所の掃除は18時以降に行うことにした。	1.集団活動中・見守りあり	マットの掃除のためモップがけをしていたので、滑った可能性もある。	モップがけは児童がいない時間帯に行うことにした。	1.いつもどおりの様子であった	普段から室内で走ってしまうことが多かったので、しばしば職員が注意をしていた。事故当時も直前に危ないから走らないでと職員が何回か声をかけていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	延長利用の児童が10名おり2名の職員が児童を見ていた。児童が転んだ瞬間を見ていた職員はいなかったが、鳴き声がしたので振り向くと児童がうつぶせに倒れていた。職員が駆け寄り痛いところはないか声をかけた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	図書室内で別の児童を見ていた。その他3名は掃除をしながらトイレや水飲みに行く児童を見守っていた。	夏休みの体制のため延長時間の職員が少なかった。施設長は出張のため不在だった。	怪我を軽く考えず、常に最悪の状態を想定して動くよう職員間で確認した。	
366	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	88							88		12	6	21.９歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	鎖骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	遊びの際に加減や危険予測(接触)について、指導がしきれていなかった。	事前に遊びに混ざっている児童全員を止めて、指導と注意喚起を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	校庭で遊んでいるため、勢いよく走ると砂で滑りやすい。	普段から滑り込まないよう声をかける。ぶつかりそうな場面では、ボールを取り合うのではなくジャンケンで決めるようにする。	1.集団活動中・見守りあり	人数変化に応じた遊びの広さを調整行っていなかった。	人数、年齢などに合わせてその都度範囲の調整を行う。	1.いつもどおりの様子であった	同級生と共に、自ら遊びに参加していた。	4.対象児の動きを見ていなかった	見守りの職員が学校用務員から落とし物を渡されて、しまうために持ち場を離れていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	見守りの職員が、その場から離れたことに気づかず他児童の見守りを行なっていた。	見守りの職員が持ち場から離れる際に他職員に伝達が行われず、接触前に注意喚起ができなかった。	地域児童も含めて、力の加減や危険予測、距離感について指導を行う。	
367	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	8							8		1	0	20.８歳	2.女児		8.その他	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足小指ヒビ	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	3.基準以下	当動作を行う際、顔面保護の為マットを使用していたが、体全体を覆うマット上で行うことも必要であった。	当動作は着地の際、当該児童自身の足を踏んでしまったことにより発生したが、事前に当動作には負荷がかかることを伝えることが必要である。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	動作の内容を踏まえ、必要に応じて靴の着用を促す。	1.いつもどおりの様子であった	いつ通り、講師の指示を聞いていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	通常の体育プログラム時間と同様全体を見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	外部委託のプログラムのため放課後支援員は対応せず。	特になし	体育プログラムであるが、動作一つ一つにある危険を伝える。	
368	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	25							25		3	2	20.８歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(２)回/年	2.基準配置	事故発生時、校庭見守り職員（放課後児童クラブ職員+校庭開放スタッフ)⇒放課後児童支援員４名　補助員３名※その他職員は各育成室・●●配置	事故予防に関する研修を年数回でなく定期的に行う。安全管理マニュアルに基づいた支援体制だった為、職員配置の改善点は無し。	2.不定期に実施	実施頻度(３)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(３)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(３)回/年	なし	事故発生場所の校庭は、学校の設備を利用しており、点検等は学校の基準に準じて行っている。従って、当事故においては改善策無し。	3.個人活動中・見守りあり	本児を含む集団の見守りを近くでしている大人がおらず、事故発生の瞬間を見た大人がいなかった。	子ども達のみで遊びが成立している場合でも、常に大人の視界に入るような大人の配置をする。	1.いつもどおりの様子であった	サッカークラブに所属しており、毎日校庭ではサッカー遊びをしている。本日もいつもと同じメンバーで校庭にてサッカーをしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	他児童と長縄(回し手)を校庭で行っていた。⇒サッカーをしている方向に対して、背を向ける形で行っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	ドッチビーやブランコ等をしている児童を見守っていた。⇒サッカーをしている児童の近くで見守っている支援員はいなかった。	普段児童が校庭で遊ぶのはおやつ後１回のみ。しかし、この日は４時間授業であり、おやつ前後で２回校庭遊びの時間があった。また、学校授業では運動会練習が始まっており、疲れが見える児童もいた。	技能や身体能力に差がある子ども達が一緒に遊ぶ際は、適度に力を調整しながら遊ぶ必要性を適宜伝えて行く。	
369	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	78							78		9	5	18.６歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(10)回/年	1.基準以上配置	事故発生当日は、小学校の全校遠足で疲労が溜まっているであろう予見が不足していた。	疲れが予想される場合には、全体に注意喚起を行ったうえで、職員も意識をしていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	発生日に遊具の異常は見られなかった。	引き続き遊具等に異常がないかを点検していく。	1.集団活動中・見守りあり	鉄棒付近で職員が様子を見ていた。上手に遊べていたため、職員が目を離している間に起きてしまった。	直前まで遊びの様子を確認しており、安全と判断できたため別の場所を見るために目を話したので、改善策はない。	1.いつもどおりの様子であった	遠足だったが、通常通り元気に遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	鉄棒付近で職員が様子を見ていた。上手に遊べていたため、職員が目を離している間に起きてしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は、ドッジボールや一輪車、野球などそれぞれの遊びを見ていた。	事故発生当日は、小学校の全校遠足で疲労がたまっていたと考えられる。	特にないため、改善策なし。	

No	概要					発生時の施設・事業体制												事故			事故状況							事故発生の要因分析																												掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰				事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面				人的面								
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡		負傷			マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】															
370	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	60						60		6		5	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	特になし	マニュアル順守・研修実施・職員体制を基準配置は行えているため、ソフト面に関しての改善策は特になし。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(週1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(週1)回/年	特になし	施設・設備等に問題はないため、ハード面での改善策は特になし。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	支援員が3名で見守っており、あそび方についてもルールを守って遊んでいたため、改善策は特になし。	1.いつもどおりの様子であった	2,3年生男児とサッカーをして遊ぶ。一緒に遊んでいた3年生男児がボールに夢中になりボールを取ろうと体を入れた際に対象児がバランスを崩し転倒、左肩付近を地面に打つ。	2.対象児の近で対象児を見ていた	対象児の近くで校庭の全体の見守り、他の児童と関わっていた。対象児うすくまって泣いていることに気が付き、すぐに駆け寄り室内へ移動し冷却する。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は他の児童や、各配置場所で児童を見ていたため。	特になし	特になし	
371	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	77						77		8		5	20.8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の脱臼、亜脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(15)回/年	1.基準以上配置	学童職員も外に出ていて見守り活動をしていたが、把握できていなかった。	目の前の子どもだけを見るのではなく全体を見るという事をクラブミーティングで確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	遊具や木など物が乱立している場所では不意も起きやすい。	改めて職員が危険箇所を認識し事故の情報を共有する。	1.集団活動中・見守りあり	子どもはいついかなる時でも大人が考えもしない行動をとる。	子どもが危険をとっていた場合はすぐに注意する。	1.いつもどおりの様子であった	変わったなもも様子くいつもとおり元気だった。	4.対象児の動きを見ていかった	マンションショ側遊具にそばいたのでいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	昇降口付近にいたので見ていなかった。	校庭内で職員がいる場所は決められているが、そこだけを見ているという意識だと異変を見逃してしまう。	子どもたちへ今まであった事故を伝え危ない場所はどこなのかを考えてもらう。	
372	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	44						44		11		9	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	特になし	危険な躾し方をしないように注意喚起	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	今回の事故はハード面での問題はなかったと考えている。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	今回の事故は環境面での問題はなかったと考えている。	1.いつもどおりの様子であった	見たとこころも様子通りであった	2.対象児の近で対象児を見ていた	対象児のそばでドッジボールを見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内での保育を見ていた	特になし	その他の要因がないため特になし	
373	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	127						##		16		9	21.9歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	児童に対しては運動をする前には十分な準備運動を行うよう注意喚起を行った。職員に対しては子ども達の準備運動の状態を把握するように伝えた。	1.定期的に実施	実施頻度(10回)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(10回)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(10回)回/年	特になし	今回の事故はハード面での問題はなかったと考えている。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	準備運動に関して、今後も児童一人一人に伝えていく。	1.いつもどおりの様子であった	ドッジボールでパスをしていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	当該児童含め児童の見守りを行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	当該児童含め児童の見守りを行っていた。	特になし	その他の要因がないため特になし	
374	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	40						40		9		8	20.8歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	左手小指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	少人数でも他の階へ行くときは職員が先頭に立ち、並んで連れて行く。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	今回はハード面問題はなかったと考える	3.個人活動中・見守りあり	特になし	少人数の移動でも、きちんと並んで移動する。	1.いつもどおりの様子であった	階段の登り降りで躓いた	2.対象児の近で対象児を見ていた	3階のトイレに連れていくために一緒に移動中であった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の活動場所で児童の対応に当たっていた	特になし	その他の要因がないため特になし	
375	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	21						21		8		5	21.9歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	右手小指骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	特になし	児童に対し運動前に十分な準備運動をするよう注意喚起を行った。職員に対しては異学年が集まる練習時にそれぞれのレベルに合わせるように気をつけることとした。	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	特になし	今回の事故はハード面での問題はなかったと考える	1.集団活動中・見守りあり	特になし	どんな活動でもケガにつながることよいように今後も十分に配慮していく	1.いつもどおりの様子であった	いつもと同様ドッジボールの練習をしていた	2.対象児の近で対象児を見ていた	試合形式の練習をしていたので審判をしていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの持ち場で他の児童を見守っていた	特になし	運動前に十分な準備運動をする。無理な練習はしないように指導する	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面					改善策	ハード面							改善策	環境面			人的面									
				月	時間帯		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項		施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項		教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項		対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項		
																							死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
376	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	21						21		3	2	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	職員間での情報共有を行い、再発防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	今回の事故はハード面での問題なかったと考える。	3.個人活動中・見守り	転落前に同じ体勢を取ることができて、違成感を得ていた。	注意を促す声かけをする。	1.いつもどおりの様子であった	特にいつもと変わらない様子だった	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	当該児童含め児童の見守りを行っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	それぞれ持ち場で他の児童を見守っていた。	当該児童以外も周りで遊んでいたため、側についていることが出来なかった。	鉄棒の使用方法について再検討し、危険な方法での使用はさせない。	
377	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	21						21		6	4	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首剥離骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	外遊びや運動をする前には必ず準備運動をしているが、寒くなってきたためより念入りに準備体操を行うよう注意喚起を行った。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	今回の事故はハード面での問題はなかった。	1.集団活動中・見守り	特になし	転倒等があった場合にも、すぐに応急処置ができるよう十分に配慮していく。職員間で速やかに連絡がとれるようトランシーバーを増設した。	1.いつもどおりの様子であった	準備運動後、バスケットコートでシュートを打っていた。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	当該児童含め児童の見守りを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ持ち場で他の児童を見守っていた。	特になし	外遊びや運動をする前には必ず準備運動を行うよう注意喚起を行った。	
378	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	65						65		8	7	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	児童に対し運動前には準備体操を充分行うように注意喚起を行った。また、人の近くでボールを蹴ると大きい事故に繋がることもあるので気を付けるように話をした。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	ハード面での問題はなかったと思われる。	1.集団活動中・見守り	特になし	ボール遊びでは、当たり所によっては大きな事故につながることを認識し、見守りや声掛けを行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	普段通り校庭で集団遊び（サッカー）をしていた	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	当該児童含め児童の見守りを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ持ち場で他の児童を見守っていた。	特になし	その他の要因がないため特になし	
379	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	144						##		14	12	22.10歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	準備運動を十分に行い、初めから強いパスを行うのではなく徐々にパスは強くゆっくり行うように注意喚起を行う。	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎回)回/年	特になし	今回の事故はハード面での問題ではなかったと考えている。	1.集団活動中・見守り	特になし	今後も準備運動を十分に行い、ケガ防止を行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	ドッジボールのパスを練習していた	2.対象児の近くで対象児を見ていた	ドッジボールコーチをしていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	ドッジボールコーチをしていた	特になし	その他の要因がないため特になし	
380	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	12	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	50						50		8	5	20.8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	成長軟骨という部分が欠損	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	特になし	児童に対して運動をする前には、十分な準備運動を行うよう注意喚起を行った。職員に対しては職員同士でなるべく児童が視界に収まるように気を付けることとした。	1.定期的に実施	実施頻度(使用時毎回)	1.定期的に実施	実施頻度(使用時毎回)	1.定期的に実施	実施頻度(使用時毎回)	特になし	今回の事故はハード面での問題はなかったと考えている。	1.集団活動中・見守り	特になし	用具をソフトにしていても怪我につながることがないよう、今後も充分に配慮していく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りドッジボールをしていた	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	当該児童含め児童の見守りを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ持ち場で他の児童を見守っていた。	特になし	その他の要因がないため特になし	
381	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	22						22		3	2	18.6歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	8.その他	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	本クラブは目の前が芝生広場で見通しが良いので、下校時間は外の様子を気にしつつ保育室から外を見ている。しかし、怪我が起こった場所は死角になる所だった。	保育室から死角になる場所になるので、下校時間には側に立ち見守る。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	安全点検の項目に漏外の項目がない。	安全点検の項目に項目を取り入れる。	7.その他	特になし	保育室から死角になる場所になるので、下校時間には立ち見守る。柵の開閉は職員で行う。	1.いつもどおりの様子であった	当施設の敷地に入ったところで体勢を崩し、柵に掴まる、後から帰ってきた他児が柵を閉めた際、本児の右手中指を挟んだ。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	学校から徒歩で帰ってきた所を窓から目撃。右手を左手で押さえた状態で怪我したことを訴えきた本児にすぐガーゼで止血、看護師を呼び、看てもらい保護者に連絡する。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	怪我をさせてしまった子、他の子が動揺しないように児童たちを室内に集め、いつも通りの努めた。	特になし	保育室から死角になる場所になるので、下校時間には立ち見守る。子ども達に、柵の開閉は職員で行うことを伝える。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
382	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	36							36		5	3	21.9歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指の剥離骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	体育館で30人程の児童がドッチボールやバスケ等分かれて遊んでいたが、職員は３人の配置だったため見るところが多く注意が散漫になってしまっていた。	一つのゲームに必ず一人は職員を配置する	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	無し	無し	1.集団活動中・見守りあり	無し	無し	1.いつもどおりの様子であった	仲のいい４人組でバスケをしていた。怪我をした際も痛がる様子はなく、そのまま遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	他の児童のグループを見ていたため見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童グループを見ていたため。	児童が数グループに分かれて違う遊びをしているのを一人の職員が交互に見ていたため事故にあったときは見れなかった。	職員一人で見るのが厳しい場合は、グループを合併して遊ぶ等児童を見守りやすくする様に対応を変えていきたい。また、児童にも誰かとぶつかったり転んだりした際は職員にすぐに伝える様お願いする。	
383	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	10							10		2	2	21.9歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足中足骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(0　)回/年	2.基準配置	特になし	支援員研修の際に当該事故の状況と、その対応策を他教室の支援員等にも周知していく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	特になし	対象児童が単独で側転を行い、着地の際に足のつき方を誤ったために骨折した事故であるが、今後他の要因により事故が起こらぬよう定期的に安全点検を実施するよう支援員に依頼した。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	教室を利用している児童には禁止事項(前転をしない、側転をしない、叩かない、引っ張らない)を伝えてはいたが、今回のことがあったため、教室全員で禁止事項を再確認した。	1.いつもどおりの様子であった	来室時も帰宅時もいつもどおりの様子であった。	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児に背を向けており、対象児を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	迎えに来た保護者と会話をしており、対象児の方を見ていなかった。	特になし	体調に変化があった時や、けがをしたかもしれない時には支援員に報告するよう教室内の児童に改めて周知した。	
384	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	30							30		4	3	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘上腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	1.基準以上配置	特になし。	本年度内に安全計画を策定し、定期的な安全点検が実施できるよう計画する。また、平時からも危険な箇所・玩具を発見した場合は速やかに報告・対処するよう職員へ共有する。	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	特になし。	定期的に施設内の点検をし、故障・破損等の危険個所がないか確認する。	1.集団活動中・見守りあり	児童が遊びに夢中になっている際には、ケガに気をつけるよう声掛けをする。	職員同士の連携で危険個所から目を離す時には引継ぎで見守り、全体フォローができるようにする。地面が湿っている時は靴の裏に土がつき遊具から滑りやすいので、そのような日は使用しない等の約束を決める。その他使用ルールを徹底する	1.いつもどおりの様子であった	小学校グラウンドのタイヤ遊具で友達と仲良く遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ケガをした児童を含め、児童数名を近くで見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童の動きを見守っていた。	特になし。	職員が危険と思った行動には声掛けをして止める。児童へなるべく「気をつけて遊ぶ（使う）ように」と繰り返し声掛けをする。	
385	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	36							36		5	4	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘付近骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１　)回/年	1.基準以上配置	特になし	毎日の児童の健康状態を的確に把握することを一層心がける。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	遊具を利用するのにふさわしい技量と体力を持っているか掌握する。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	年齢学年、体格、技量によって遊具の利用を制限する。	1.いつもどおりの様子であった	平常日課通り、外（グラウンド）での遊び時間になり友達と遊具（雲梯台）に向かい利用した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	グランド外遊びの小学校グラウンドは広いため職員は全体が俯瞰できる三箇所の地点を決め見守りをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	グランドが広く、職員それぞれ分担して児童を見守るため該当児童を見ることが出来なかった。	特になし。	学校との連携をより密に行い安全確保に努める。	
386	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	6							6		2	2	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨頭骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(随時　)回/年	2.基準配置	特になし。	事故発生状況について職員間で情報共有を行い、再発防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(不定期　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(不定期　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	特になし。	定期的に施設内・運動場の整備を点検し、故障・破損等の危険個所がないか確認する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし。	危険行為等を発見した時は、随時注意・呼びかけを行う。踵を踏んで靴を履いている時には転倒防止のためしっかり声掛けをする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	学童内で友達と仲良く遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	当該児童を含む６名を近くで分散して見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の児童の様子を見守っていた。	児童の様子に注意を払っていたが、一瞬の出来事であったため発生を防ぐことができなかった。	随時、職員間で安全保育の意識共有・情報共有を徹底する。事故発生時には速やかに事務局へ報告を入れるよう連絡体制の再確認を実施する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項
387	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	31							31		4	2	20.8歳	1.男児	
388	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	28							28		4	3	19.7歳	2.女児	
389	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	27							27		4	2	18.6歳	2.女児	
390	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	24							24		3	1	19.7歳	2.女児	
391	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	17							17		2	2	21.9歳	1.男児	
392	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	44							44		5	3	19.7歳	1.男児	

No	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策
387	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足関節外果骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	2.基準配置	特になし	研修を定期的に実施し、事故発生時の対応を職員間で共有する
388	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	職員ミーティング等で定期的に確認する時間を設ける。また、オンラインにて研修を受講できるため、主任だけでなく他の職員にも研修の受講の時間を設ける。
389	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手中指付け根の骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	特になし	マニュアルに沿って迅速に対応すると同時に、事故の分析をする
390	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし。	職員配置を再確認し、児童の身体能力や以前のけがについて職員間で把握する。
391	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	外遊びの職員の立ち位置を確認する。
392	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕　右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	児童に遊び前の注意・危険に対する意識付けが不十分で、職員も事故に対して危険を予知出来なかった。	職員配置は園庭に3名配置したが、雲梯で落下する事が想定出来なかったので注意する様に言葉掛けが必要であった。

No	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策
387	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	他団体管理の遊具を使用	ハード面は問題なし
388	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	特になし	現状の対応（運動場の石や木など、目に見える部分の整備）に加えて定期的に遊具の点検を実施。
389	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	児童の来会前及び遊びの前には必ず遊ぶ場所、環境を確認をする。
390	2.不定期に実施	実施頻度(数)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	特になし。	外遊びの前に、運動場において滑りやすい・躓きやすい箇所がないか確認を行う。
391	2.不定期に実施	実施頻度(数)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	特になし	ケガをしやすい場所について、こまめに確認を行う。
392	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	定期的に点検がなされており、問題はなかった。	小学校にて点検されており雲梯に問題はなかった。引き続き点検をしていただき、結果について確認し遊具そのものの状態を共有していく。

No	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
387	1.集団活動中・見守りあり	特になし	事故の発生が予測される場合は、特に注意深く見守る	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わりなく、過ごしていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	少し離れた場所から見守りをしていたが、事故には気づかなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	外遊びをしていた、他児童の見守りをしていた	ケガをした児童は外遊び後も変わった様子もなく、支援員も怪我に気付かなかった	外遊び後には、ケガや痛みがないか声掛けをして児童が伝えやすい環境を作る	
388	3.個人活動中・見守りあり	環境面は問題なし	環境面は問題なし	1.いつもどおりの様子であった	普段から活発に行動し、1つの物事に集中するタイプであり、事故当日も雲梯に熱心に取り組んでいる様子だった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	雲梯傍で見守りをする職員が1名いた。繰返し取組んでいたため、疲れている可能性を考慮し、職員は休憩するよう声かけをしていた。他の児童もいたため事故の瞬間は見ていない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	すべり台に1名、ブランコに1名、登り棒などの複合遊具に1名、東門付近に1名、全体の見守りに2名配置。	特になし	児童の意思を尊重しつつ、休憩時間が適切に取れるよう、給水の時間を設けるなどの対応を検討する。	
389	1.集団活動中・見守りあり	特になし	椅子の使い方について児童と確認をし、適切な使い方をするように伝えた。	1.いつもどおりの様子であった	テーブルに着いて好きな遊びを楽しんでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児が遊んでいる様子を離れたところで見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	おやつの準備、他児の荷物の片付け等を見守っていた。	3.4年生が登所してくる時間であり、所在確認で目を離した時に椅子を跳び箱代わりにして跳んだ。	椅子の使い方について児童全体に周知すると同時に、物の使い方について職員間で話し合い周知した。	
390	1.集団活動中・見守りあり	特になし。	以前のけがを配慮しながら見守りをする。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの体調で、特に目立った不調は見られなかった。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	当該児が台を上り下りする際に、職員が近くにおり様子を見ていた。ケガをした際は以前の骨折を考慮し対応した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の外遊びをしている児童を見ていた。	特になし。	特になし。	
391	2.集団活動中・子ども達のみ	特になし	保育室から出るときは支援員が先導し、児童を先に出させない。	1.いつもどおりの様子であった	体調は通常通りだった。	4.対象児の動きを見ていなかった	いつもは職員が先に外に出てから児童が外に出るが、この日は先に児童が出てしまった。別のクラブ室にいる職員もおやつの時間がずれたため外にいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別のクラブ室にいる職員も、そのクラブ室にいる児童のおやつの時間が後だったため外にいなかった。	特になし	特になし	
392	3.個人活動中・見守りあり	見守っている職員が不足している認識は無いが、職員の育成向上を図り、児童の遊びの向上を図れる様にする事が出来なかった。	職員3名に対して、遊んでいる児童が多かったので支援が出来るように遊びを制限する事も必要であった。	1.いつもどおりの様子であった	うんていで移動していたが、手が滑って落下した。	4.対象児の動きを見ていなかった	ブランコと雲梯の間に職員がいたが、ブランコの方を見ていたので、落下した時の音で振り向いた状態であった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童が遊んでいるので、外に出ている主任支援員を呼びクラブ棟に移動させた。	配置上、職員が広く見守れる様に打合せ等で確認が出来なかった。	支援員がブランコと雲梯を同時に見る設定では、前と後ろの両方で見なければならないため、配置や立ち位置を変える必要がある。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
393	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	115							##		8	6	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	ケガをした時の対応についてはマニュアル記載があるが、ボール遊び時に発生しやすい怪我や注意点については、記載がなかった。	遊びの内容により起こりやすいケガや注意事項に対して検討し、ヒヤリハット事例に追加する等、日常で起きる怪我に対する職員の共通理解を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	使用していたボールは、目視による日常的な点検をしており、特に問題はなかった。	定期的な安全点検を行う事と日常的にも気にかけている結果、特段対応する事はないが、引き続き安全管理に努めていく。	1.集団活動中・見守りあり	特になし。	引き続き児童の安全が確保されるよう適切に支援員を配置していく。	1.いつもどおりの様子であった	普段と同じように遊んでいて、事故の原因となる動きは、特になかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	普段と同様にドッヂボールで遊んでいる児童を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ドッヂボールで遊んでいる子から離れた場所で他の児童を見守っていた。	特に問題なし。	今回の事故について特段考えられる要因等はないが、引き続き安全に遊ぶよう児童に声をかけていく。	
394	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	56							56		7	7	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左くるぶし剥離骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	人数配置においては問題がなかった。今後も子どもの個々の動きを見ることができる配置を考えていく	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	1人で点検を実施していた	複数での点検を行うことで、詳細箇所の気づきを増やしていく	3.個人活動中・見守りあり	特になし	見守りは適切であったが、今後も運動場で遊ぶ鬼ごっことは違う危険性について伝えていく	1.いつもどおりの様子であった	タイヤを使用した鬼ごっこをしていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	室外の児童が5人でタイヤを使用した鬼ごっこを見守っていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	遊びの状況を見守っていた	特になし	特になし	
395	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	21							21		5	4	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右尺骨近位部位骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	今後も外遊びを行う際には怪我を防ぐために遊び方と注意点を伝えていく	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)	1.定期的に実施	実施頻度(随時)	特になし	今後も児童が使用する遊具の点検を適切に実施し、遊びの内容に適した場所で遊ぶ・指導していく	1.集団活動中・見守りあり	走り回るスペースが狭い所で遊んでいた	人数によって適さない場所もあるため、参加する人数に応じた場所で遊ぶよう、他の遊びで使用するスペースと共に調整していく	1.いつもどおりの様子であった	友だちと鬼ごっこのため広場を走っていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	屋外で児童の遊びに加えて近くにある遊具の使用状況を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の場所で遊んでいた他の児童を見守っていた	特になし	特になし	
396	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	45							45		6	4	24.12歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指第2関節骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	支援員間でいつもと同じという気持ちが少しでもあった	遊びの中で起こりうる怪我を改めて確認し、引き続き事故予防に努める	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)	1.定期的に実施	実施頻度(随時)	1人で点検を実施していた	複数での点検を行うことで、事故につながる恐れのある箇所の気づきを増やしていく	3.個人活動中・見守りあり	ドッジボールで遊ぶ人数が多く、遊ぶためのスペースが通常より狭かった	参加人数に適したスペースで遊ぶか、グループ分けを行い時間設定を設けながら実施していく	1.いつもどおりの様子であった	たくさんの人数でドッジボールで遊んでいた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	屋外で児童の遊びに加えて近くにある遊具の使用状況を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の場所で遊んでいた他の児童を見守っていた	特になし	特になし	
397	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	27							27		3	1	24.12歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1，2)回/年	1.基準以上配置	なし	各部屋に配置された職員が、立ち位置や子どもへの声掛けについて確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(24)回/年	なし	ハード面が要因の事故でなかった。	1.集団活動中・見守りあり	下校後の児童館では子どもの気持ちが開放的になるため、危険に対する意識が学校よりも低下する。子どもに意識してもらう工夫が必要と考える。	遊びを始める前に、危険行為について確認して行う。	1.いつもどおりの様子であった	遊戯室で運動をするなどいつも通り、元気に過ごしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	危険な行動をとることが多いため本児の近くで見守り、必要に応じて声をかけたり本児に遊びを一時中断してもらい、何が危険か伝えたりした。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	本児と担当者の反対側の見守りをしていた。	なし	その他の要因は考えられなかった。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
398	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	35							35		6	5	20．8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左間指中節骨頸部骨折	8.その他	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	特になし	ドッチボールを楽しむ中でも怪我に気を付けるよう、投げ方や受取り方について子どもたちと話し合った。事故防止マニュアルや安全計画の作成を検討し研修に務める。	1.定期的に実施	実施頻度毎日	2.不定期に実施	実施頻度(数)回/年	1.定期的に実施	実施頻度毎日	使用しているボールは目視による日常的な点検をしており、特に問題はなかった	引き続き、児童の安全が確保されるよう点検を実施していく	1.集団活動中・見守りあり	特になし	引き続き、児童の安全が確保されるよう適切に支援員を配置していく	1.いつもどおりの様子であった	本人の様子も変わりなく、身体をよく動いておりドッチボールを楽しんでいた中でボールを取り損ねてしまった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	子どもたちが投げるボールの勢いが強いので怪我のないように近くで見守るようにしていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の支援員は他の子どもたちの遊び、動きをそれぞれの場所で見守っていた	特になし	集団での遊びを楽しむなかでも安全には気を付けるよう児童全員に話す	
399	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	54							54		5	5	19．7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首若木骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	1.基準以上配置	なし	事故予防に関する研修を定期的に実施し、予測できる危険を回避するため、常時他の職員と連携し全体を見守る支援員と児童の近くにつく支援員で役割分担する	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度毎日	特になし。	ハード面の点検等の不備などが要因で発生した事故ではないが、引き続き施設・設備の管理を適切に実施していく。	1.集団活動中・見守りあり	本人が鬼ごっこの鬼から逃げ気を抜いて歩いていた所へ鬼から逃げていた友達に不意に後ろからぶつかり避けようがなかった。その勢いで体勢を崩し前に転倒した際強く左手をついた。	児童が活動する前に事故・怪我を起こさないようにする為の声掛けが必要。	1.いつもどおりの様子であった	学童以外の遊びに来ている友達と遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	子ども達と一緒に遊んだり移動しながら鬼ごっこの集団の外側で子どもの見守りをしており、別の児童を見ていたため転んだ様子は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童と鉄棒で遊んでいたり野球で遊んでいる子を見守っていたため、転んだ様子は見ていなかった。	特になし	子ども達全体に慌てない・気をつける等注意喚起をすることを毎回する必要がある。	
400	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	7	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	24							24		2	1	20．8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	なし	子どもの人数や職員の立ち位置など必要な事項は定めており、当該事故はソフト面の不備に起因したものではないと認識している。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	なし	定期的な点検も行っており、危険個所も見受けられなかった。当該事故はハード面の不備に起因したものではないと認識している。	1.集団活動中・見守りあり	なし	遊んでいた部屋やルール、参加人数等マニュアルに沿って適切に行っており、環境面に通常と違った点もなかったことから当該事故は環境面の不備に起因したものではないと認識している。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り、ドッジボール遊びを楽しんでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児の近くで見守っていた。即座に対象児が体勢を崩したことに気付いたが支えられなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児のやや近くで見守っていた。即座に対象児が体勢を崩したことに気付いたが、支えられなかった。	転倒は突然起こるものなので、職員、児童とともに予防的な意識が必要である。常に児童への声掛けは心掛けているものの、やや抽象的な声掛けで職員の考えが子どもに伝えきれていなかった可能性がある。	職員間で予め危険個所や注意点を共有し、子どもへ具体的な声掛けをするよう心掛ける。	
401	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	60							60		8	4	18．6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	1.基準以上配置	なし	今回だけでなくタイヤ遊具で足を滑らせる事が有る為、再度十分気をつけて遊ぶよう児童に話をした。また職員間で共有し予防に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度（毎日）	今回遊んでいたタイヤ遊具は目視,触診による日常点検はしており特に問題はありませんでした。	運動場は使用する時はチェックシートを作成し毎日の安全を確認してから利用する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	自由にする前に事故・怪我を起こさないようにする為の声掛けが必要。	1.いつもどおりの様子であった	一人でタイヤからタイヤへ移動していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	遊具周りを中心に指導員1名が見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	サッカーやドッチボール等他の遊びをしている児童を分散して見守っていた。	特になし	子ども達全体に慌てない・気をつける等注意喚起をすることを毎回する必要がある。	
402	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	9	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	106							##		11	2	20．8歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(２)回/年	2.基準配置	特になし	児童からの聞き取りに重点を置き、異変を迅速に察知し、行動する。	1.定期的に実施	実施頻度(２５０)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２５０)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２５０)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	遊びを楽しみながらも、一定の冷静さをもてるよう声かけをおこなう。	1.いつもどおりの様子であった	普段通りの過ごし方をしていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	体育館にて他の児童をみていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	施設にて他の児童をみていた	特になし	コロナ禍で暑さ指数もあり、外で体を動かして遊ぶ機会が不足していたため、少しずつ体を慣らしてから活動を開始する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況						事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷		診断名	事故誘因	ソフト面					ハード面							環境面				人的面									
				月	時間帯		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡						マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
403	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	59						59		6	6	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	口腔内受傷	2.自らの転倒・衝によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	安全管理マニュアルの予防対策の部分の復習を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(250)回/年	特になし	施設の定期点検の実施をすること。	3.個人活動中・見あ守り	特になし	見守り中時間にも時間と共に変化する子どもの様子に気を配ること。	1.いつもどおりの様子であった	危険な動きはなかった。	2.対象児の近で対象児を見ていた	対象児の全体を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当対象児の動きを見ていなかった	室内での遊びで見落としがあった。	特になし	あそび場所の事前の安全確認を行う。	
404	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	77						77		8	5	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指基節骨裂離骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	外遊びの際には、遊びの内容に上って職員の配置を考慮する。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	危険性が低い遊具であっても、安全性に考慮して遊具を選んだりする。	1.集団活動中・見守り	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	とくに変化はなくいつも通りの様子だった	2.対象児の近で対象児を見ていた	遊びを見ることろの見守った位置で見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当対象児の動きを見ていなかった	全体の動きを見守っていた為、対象児童だけを見ていなかった。	特になし	遊びに入る前に考えられる要因を注意事項として児童に伝える。	
405	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	141						##		17	8	24.12歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	1年生から4年生までは人数が多いため、学年別、男女別などで分けて、出来る限り少人数で遊んでもらっている。	見守りをしている支援員が児童に対して、事前に危険性の声掛けが出来れば良かった。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度毎日	特になし	日々の設備や玩具の安全点検を徹底する。	1.集団活動中・見守り	体育館等で活動する際は学年に応じて、人数等制限等を行っている。	特になし。	1.いつもどおりの様子であった	元気に帰ってき、宿題をすませおべやっを食べた。いつもように身体を動かす遊びをしていた	2.対象児の近で対象児を見ていた	2～3メートル離れたところで見ていたが、危険は感じなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当対象児の動きを見ていなかった	その他の職員は、別の活動場所で保育をしていた	当該児童は自信過剰になりすぎるところがある。	児童の特性を理解し、声掛けをする必要があった。	
406	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	58						58		5	5	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足捻挫及び腓骨遠位端骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2,3)回/年	2.基準配置	事故後、普通に登所していたため重症と判断しなかった。	怪我をした際は保護者への共報告と病院を受診した場合は報告してもらうようにする。	—	—	—	—	—	—	—	特になし	1.集団活動中・見守り	特になし	外遊びは危険が伴うことを児童に徹底し、支援員が目配りの範囲を決めグループ分けをする等、常に全員が見渡せるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	—	4.対象児の動きを見ていなかった	—	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	—	ケガをしたことは把握できていたが、その後の経過を確認すること、保護者どちらにも出来ていなかった。	ケガをした際などは、その後もケガの状況を確認するように心掛ける。	
407	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	81						81		9	5	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	左足首の捻挫	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	特になし	どの場面で・場所が多いのかミーティングで共有しヒヤリハット事例の報告をする。	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	特になし	どの場面で・場所が多いのかミーティングで共有しヒヤリハット事例の報告をする。	1.集団活動中・見守り	特になし	周辺を見る意識、死角を作らないように視野を広く持ち意識するよう声掛け。	1.いつもどおりの様子であった	普段通り元気よく登園し、外で遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	校庭で別の児童の対応をしていたため十分に見守りができていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	様々なあそびを児童たちとしていた。	特になし	どの場面で・場所が多いのかミーティングで共有しヒヤリハット事例の報告をする。	
408	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	19						19		2	1	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	特になし	外遊び前に、全体にケガをしないように注意事項を伝えるなどの声掛けを行う。	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	特になし	引き続き点検等を行っていく。	1.集団活動中・見守り	特になし	日頃から児童に遊びの中の危険について話をする	1.いつもどおりの様子であった	本人がボールをキャッチした際に当たったもので、他児童との接触等によるものではない。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体の見守りを行っており、児童本人からの申し出により応急処置（湿布を貼る）を行った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊びに一緒に参加していたが、ケガが起きた時の児童の動きは見ていなかった。	特になし	RICE処置を含む応急手当が適切であったか、負傷した指の腫れ、色、など児童の様子を注意深く観察する必要がある。負傷後の処置の仕方で経過も変わってくることを知っておく必要がある。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
409	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	41							41		7	6	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	事故、ヒヤリハット事例の共有及び分析の強化	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	小学校施設・遊具で発生した事故について小学校と情報共有を行う。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	今後は事故防止のため、サッカーの規模縮小や児童にプレー時の注意喚起・指導を行う。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおり元気に通所し、大好きなサッカーをしていた。サッカープレー中に接触事故が起きた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	館長が対象児の様子を見ていた。サッカープレー中に接触事故が起きた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援員は接触事故の様子は見ていなかったが、支援員2人が事故後直ぐに現場に駆け寄り館長と共に迅速に応急措置を行った。氷で患部を冷やしたり代用三角巾を作り患部を支えたりした。	特になし	支援員を含め職員に、事故防止の注意喚起を行うよう徹底する。支援員を含め職員に、事故後の応急措置・介抱・保護者連絡等の重要性を再認識させる。	
410	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	33							33		4	2	21.9歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	橈骨近位端不全骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	一輪車遊びを含めた園庭での支援員配置は支援員1名、補助員2名体制	補助員も多いことから、けがをした時の応急処置等の研修や訓練を行い、情報共有をする。	2.不定期に実施	実施頻度(６)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(６)回/年	地面に敷かれているゴム製のマットにわずかの段差やずれている箇所もあり、地面もアスファルトであるためバランスを崩しやすい。	こまめにゴミや小石を取り除き、マットのずれや段差を失くす。	1.集団活動中・見守りあり	途中で止まった時に捕まる箇所が少ない。	手すり以外にもコーン等で捕まれる箇所を増やす。	1.いつもどおりの様子であった	体調もよく仲の良い友達とも楽しそうに遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児のそばにはいたが、一瞬のことだった為その瞬間に手を差し伸べようとしたが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の補助員はその他の遊びの見守り（ゴムとび）をしていた為、同時に見ることはできなかった。	2名の補助員は一輪車以外の遊び（ゴムとび）の見守りや児童の持ち物等の確認などをしていた。	外遊びのけがのリスクを考慮し、経験豊富な支援員を配置する。	
411	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	22							22		3	2	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	1.基準以上配置	子どもたちの特性を把握することが必要だった。	遊びの前にルールを確認することを更に強化していく。	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	特になし	なし	1.集団活動中・見守りあり	広い運動場で遊んでいた。	遊びの範囲を考えて、制限する。	1.いつもどおりの様子であった	複数の鬼がいる鬼ごっこで、背後も警戒しつつ後ろ向きに走っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	追いかけ合っている児童が一ヶ所に集まる状態になっており、近くにいた児童が「こけました」と知らせて来てから本児の元に駆け寄った。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	迎えに来た保護者の対応や他の児童の見守りをしていた。	子どもたちの遊びに夢中になった時に力加減ができなくなったり、安全に配慮できなくなったりする。	子どもたちの特性を常に把握しておくことや子ども同士の力加減に注意する必要があった。支援員同士の連携を図る。	
412	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	16							16		2	1	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足剥離骨折	8.その他	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	外から全員が帰って来ていない状態で、トイレに行っている児童の状態が把握出来ていなかった。	部屋に入っていない児童に対しても最後まで何をしているのか把握すること。	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	追いかけられる児童が階段を走って降りてしまった。	部屋の前の階段は歩いて降りるよう徹底する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	夕方の保護者への引き渡しなどで職員の見守りが手薄になる時間帯であるが、注意して児童を見守る。	1.いつもどおりの様子であった	トイレに行っていたA君を部屋から見た別のB君が「A君が女子トイレを見てた」と言って追いかけだした。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	スロープを駆け上がってきた児童を止めたが、そのまま階段を駆け下りた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	部屋遊びの子どもの見守りをしていた。	特になし	児童が施設を走ったことに起因して生じた事故であるが、活動は職員で協力して見守り体制を堅持する。	
413	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	1							1		4	1	18.6歳	2.女児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	何もないところでの転倒は予測ができない。	なお一層の注意と声掛けをしていきたい。	1.定期的に実施	実施頻度(開設時)/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)/年	特になし	今後も継続して点検をしていきたい。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	ケガをしそうな場所はないか、支援員で点検し相談していきたい。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わらず落ち着いていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	入口付近で、児童と一緒に話をしながら見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	児童の至近距離で一緒に保護者のお迎えを待っていた。	特になし	なお一層の注意と声掛けをしていきたい。	
414	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	4							4		2	2	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	受けでの体制までは、予測出来なかった。	支援員も十分配慮して見守っていたが、より一層安全面に努める様に気をつける	2.不定期に実施	実施頻度(毎)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎)回/年	柔らかいボールを使用していて、スピードも出ておらず高く上がる事を想像出来てなかった。	ボールも柔らかい種類を使用しているが、尚検討する。	1.集団活動中・見守りあり	ボール遊びをしている時は、人数に関わらず注意が必要。	個人差がある事もふまえ、より慎重に見守る必要がある。	1.いつもどおりの様子であった	2年生の男子2人と仲良く遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ボールの行方と児童の動きを見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	児童3人を1人の支援員が注意深く見守っていた。	激しいドッジボールではなかったので骨折事故が起こるはずないと思ってしまった	外遊びの前にはより一層注意を促す。過度になったら休憩をさせる。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時		発生場所	発生時の体制											年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面								ハード面								環境面				人的面								
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事者							死亡		負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等							死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																
415	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	17						17		3		2	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	肘頭骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(毎)回/年	2.基準配置	支援員の見守りが足りなかった。	日頃より全体の見守り、見回りを再度意識し、全体に注意が行き届くよう努める。	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	正しい遊び方の指導が徹底できていなかった。	正しい遊び方、遊具の使い方の指導する。	1.集団活動中・見守り	正しい遊び方ができていなかったが注意が足りなかった。	正しい遊び方が出来ない場合は遊具は使えないようにする。	1.いつもどおりの様子であった	いうことかなをいい	4.対象児の動きを見ていなかった	付近で見守っていたが当該児童から目を離していた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各自分散して他の児童を見ていた	正しい遊び方をしていなかった。	支援員一人ひとりが子どもたちの行動を把握できるよう努め、正しい遊び方ができていなかったらやめさせる等意識を統一させる。	
416	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	184						##		16		5	22.10歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨頚部骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1-2)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	———	引き続き定期的に安全点検を行う。	1.集団活動中・見守り	———	見守りが必要な場面では引き続き支援を行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子であった。	2.対象児の近で対象児を見ていた	集団活動中見守りを行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	集団活動中見守りを行っていた。	———	今後も危機管理の手引きを用い、迅速な対応を行っていく。	
417	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	176						##		16		6	22.10歳	2.女児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右遠位橈骨末端骨折・左膝擦過傷	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1-2)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	———	引き続き定期的に安全点検を行う。	2.集団活動中・子ども達のみ	———	見守りが必要な場面では引き続き支援を行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子であった。	4.対象児の動きを見ていなかった	集団下校中のため、見守りなし	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	集団下校中のため、見守りなし	———	今後も危機管理の手引きを用い、迅速な対応を行っていく。	
418	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	77						77		7		3	20.8歳	2.女児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	首・肩・ひざの打撲および裂傷	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1-2)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	———	引き続き定期的に安全点検を行う。	7.その他	———	下校前の指導を引き続き行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子であった。	4.対象児の動きを見ていなかった	下校中の事故であるため、見守りなし。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	下校中の事故であるため、見守りなし。	———	今後も危機管理の手引きを用い、迅速な対応を行っていく。	
419	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	65						65		11		3	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1-2)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	———	引き続き定期的に安全点検を行う。	1.集団活動中・見守り	———	見守りが必要な場面では引き続き支援を行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子であった。	2.対象児の近で対象児を見ていた	集団活動中見守りを行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	集団活動中見守りを行っていた。	———	今後も危機管理の手引きを用い、迅速な対応を行っていく。	
420	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	100						##		9		3	19.7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1-2)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	———	引き続き定期的に安全点検を行う。	1.集団活動中・見守り	———	見守りが必要な場面では引き続き支援を行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子であった。	2.対象児の近で対象児を見ていた	集団活動中見守りを行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	集団活動中見守りを行っていた。	———	今後も危機管理の手引きを用い、迅速な対応を行っていく。	
421	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	15						15		2		1	21.9歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手示指中節骨骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1-2)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	———	引き続き定期的に安全点検を行う。	1.集団活動中・見守り	———	見守りが必要な場面では引き続き支援を行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子であった。	2.対象児の近で対象児を見ていた	集団活動中見守りを行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	集団活動中見守りを行っていた。	———	今後も危機管理の手引きを用い、迅速な対応を行っていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面				人的面									
				月	時間帯		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	死因	負傷	負傷状況	受傷部位		マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
422	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	33						33		4		4	19.7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛部骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	実施頻度(-)回/年	1.基準以上配置	以前上級生が昇り棒で危険な遊び方をしていたのを見ていて、自分もやられると思い真似をした。	事前指導を行い、危険な遊び方をしていたら直ちに注意をする。それでも改善が見られなければ、その遊具で遊ぶこと自体を禁止する。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(-)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(-)回/年	登り棒の2本の支柱を支える横棒(高さ2m50cm)があるため、そこに座ることが可能となっている。	2本の支柱の頂上(3m)から横棒(2m50cm)の間にスペースをテープで塞ぐ等して物理的にできないような対策を学校と協議する。	1.集団活動中・見守りあり	まさか1年生がそんなことはしないだろうという先入観があった。	日頃どんな風に遊具で遊んでいるか、間違った使い方をしていないか支援員間で周知し、危険な遊び方をした場合は個人指導及び集団指導にて注意をする。	1.いつもどおりの様子であった	しばらく室内で遊んでいたが、あと10分程で自由遊びが終わるという時に外へ出た。他の児童はそれぞれ数人で遊んでいたが、その中には入らず一人で登り棒で遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	登り棒で遊んでいる様子は確認していたが、他の児童が鉄棒で危険な事をしようとしていたので、そちらに注意がいった隙に落ちてしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	男子がサッカーで遊んでいたので、ボールが駐車場や他の児童が遊んでいるところへ行かないよう、そちらを注意して見守っていた。	当日は支援員4名が勤務しており、最外は2名の支援員で見守りをしていた。児童は運動場全体で遊ぶので、何かトラブルが発生すればいちばんちらの方に注意が行ってしまう。	特になし	
423	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	8	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	33						33		5		1	19.7歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨内顆骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	特になし	危険そうな遊びを見た時は声かけをする。注意する。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(250)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	室内、室外とも遊びを見守る。声かけ注意する。	7.その他	特になし	遊びではなく休息(お昼寝)準備の方をするよう声かけ見守りをする。	1.いつもどおりの様子であった	特になし	4.対象児の動きを見ていなかった	休息(お昼寝)準備をしていたので見守りが十分でなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	休息(お昼寝)準備をしていたので見守りが十分でなかった。	特になし	休息(お昼寝)準備をしていても、常に全体を見守る。	
424	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	9						9		4		2	19.7歳	2.女児		8.その他	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足第四指骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(11)回/年	1.基準以上配置	特になし。	特になし。	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(その都度)回/年	水筒を置いた棚が水筒を置いておけるような棚ではなかった。	廊下に並ぶ際には、水筒を自分の足元に置くよう指導する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし。	児童の見守りを強化する。	1.いつもどおりの様子であった	廊下に並んでいた。	2.対象児の近で対象児見ていた	整列している児童を全体的に見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の場所で活動している児童の見守りをしていた。	特になし。	特になし。	
425	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	20						20		4		4	21.9歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(0-1)回/年	2.基準配置	特になし	マニュアルの再確認及び新規作成「●●児童クラブ事故防止・事故対応マニュアル」	2.不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3程度)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3-5)回/年	特になし	点検記録の整備。安全点検を定期的に年間計画に入れる。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	支援体制の在り方を見直す。	1.いつもどおりの様子であった	早く遊びに戻ろうとして急いでいた。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	転倒場所の側面での他の児童3名に対応中。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童と活動中、保護者対応中。室内児で他の児童と活動中。	対象児童に口頭説明を聞くだけで、転んだ時の状況を現場まで行き、詳細に聞いて判断すべきだった(何処で、どんな風に、どんな体制で、転んだか)	事故発生後の経過を保護者に確認	
426	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	55						55		9		7	18.6歳	2.女児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右尺骨近位部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	特になし	来所・帰宅時の注意事項について児童に呼び掛け行う。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(週0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	来所・帰宅中の事故のためなし。	7.その他	特になし	来所・帰宅中の事故のためなし。	-	-	-	-	-	-	-	児童クラブへの来所・帰宅時も安全に注意するよう声掛けをする。	
427	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	19						19		3		3	20.8歳	2.女児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨折・顔面打撲	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	学童クラブへ帰ってくる際の交通ルール等を徹底する	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(週1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	来所・帰宅中の事故のためなし。	7.その他	特になし	来所・帰宅中の事故のためなし。	-	-	-	-	-	-	-	児童クラブへの来所・帰宅時も安全に注意するよう声掛けをする。	
428	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	6						6		3		2	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	危険個所に対する認識不足。	確認作業研修回数の頻度を増やす。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	遊ぶ箇所が屋内から屋内かなっている。	見守りの増員による安全性を高める。遊ぶ時間帯の変更。	1.集団活動中・見守りあり	遊ぶ時間帯を検証する。	見守り箇所を一か所にまとめ、死角がないところで遊ぶように場所を決める。	3.いつもより活動のあった(理由を記載)	宿題を素わ早く終わらせ、早く遊びと落ち着きを抑えられない様子だった。	2.対象児の近で対象児見ていた	技量が足りないのを把握していかった。手を差し伸べたが、間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	職員の見守り分散し、監視が手薄になっていた。	児童の技量の把握不足、遊ぶ箇所の危険度の察知の認識不足。	各児童の怪我事故歴を職員と共有し、一人一人の個性の把握と事故の予防に努める。リスクを減らすノウハウを高め職員間で共有する	

No	初回掲載年月日	概要・認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
429	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	8	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	58							58		6	3	19.7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	右前歯を破損	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	事故発生後、予防マニュアルを作成し職員間で共有する。	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	特になし	事故発生後、安全点検を実施、今後は学期始めの年3回実施する事とした。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	改めて職員の人員配置を検討し、危険が予測される場合は、事前に注意指導を行う。	1.いつもどおりの様子であった	-	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	職員は、ドッジボールの様子を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	学童ルーム・学習室の児童の様子を見守っていた。	特になし	予防マニュアルの作成、全児童対象にかかりつけ医の登録をしている。	
430	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	5							5		5	2	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕上腕部骨折	8.その他	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	お迎え時に親と今日の様子等のコミュニケーションを取っている時に子ども達の荷物の管理、声掛け等がおろそかになっていた	遊び場に怪我につながる状況を作り出さないこと	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	遊び場に怪我につながるものが置いてあるとすぐに片付ける	遊び場に怪我につながるものが置いてあるとすぐに片付ける。声掛けをする	1.集団活動中・見守りあり	薄暗くなってきた時刻とも重なりランドセルが見えずらかった	お迎えに来た保護者と話す支援員、子ども達の見守りや一緒に遊ぶ支援員等の振り分けをしっかりする。ランドセル等あそび場に事故の原因になるような物を置かない。気づいたらすぐにどかす	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り元気に遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児とは別の保護者と話しながら遊びを見守っていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	片付け、掃除に入っていたので子ども達の見守り担当がいなかった	お迎え時親と話す指導員子ども達の安全を見守る指導員等の配置を再確認すべき	特になし	
431	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	5	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	23							23		2	1	19.7歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	右頬部裂創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	転倒して角にぶつけるところ予想しえなかった。	事故予防に関する研修頻度を増やし、マニュアルの周知徹底を図る。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に点検等しているが見落としがあるかもしれない。子供の目線での注意がもっと必要だった。	全てにおいての安全点検を増やし細部まで実施する。改善が必要な場合は最短で対応するよう努める。	1.集団活動中・見守りあり	中の荷物を出そうとしていた他児童のリュックサックが、たまたま床に置いてあった。	他児童が踏んでしまわないような場所で荷物の出し入れをさせるよう徹底し、また速やかに出し入れするよう促す。	1.いつもどおりの様子であった	複数の児童での遊び中であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	他児童を見ながら、本児童と遊んでいる複数の児童に対して気を付けるようにと声掛けしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	同じ室内にいたが少し離れた所で他児童を見ていた。	急な児童の動きに対応できなかった。	児童に対する注意喚起、見守りの職員の増員に努める。	
432	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	22							22		5	2	22.10歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指骨折	8.その他	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	事故発生場所である多目的ホールに厚生員1名・学童室前に放課後児童支援員1名で見守りを実施。	事故防止マニュアルの作成が必要。職員の配置として、運動遊びを行う際は2名体制で見守りを行うようにする。ただし、他の部屋を見守り・巡回もしなければならないので、臨機応変な対応が必要。	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(48)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(48)回/年	施設・遊具・玩具の安全点検表を作成し、1日1回点検を行う。職員全体で把握できるように掲示または管理ファイルに綴る。	安全点検表を作成し、職員で共通理解を行う。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	なし	1.いつもどおりの様子であった	本人への聞き取りをもとに普段通り過ごし、多目的ホールでドッヂドッヂへ参加。相手が投げた柔らかいフリスビーをキャッチするはずが、うまくとる事が出来、思いっきり自身の手を強打した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	事務室前にて見守りをしていた支援員が多目的ホールから手を押さえて、打ったと言いいながら笑って出てくる対象児に気づく。すぐに声をかけ、学童室へ移動し手当てや保護者への連絡を行った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ドッヂドッヂは12名で行っており、対象児だけではなく他の児童の動きを見ていた。	自損事故ではあるが、支援員として運動遊びを行っている児童を重要視するべきであった。	早急に事故時対応のマニュアルを作成し、職員での共通理解が必要と考えられる。また、日々の見守りの中で子どもたちが安心・安全に過ごせるよう環境の見直し、毎日の施設・遊具・玩具の点検を欠かさず行う必要がある。	
433	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	9.夜間・早朝（泊り保育）	1.施設敷地内(室内)	8.学童	22							22		3	1	19.7歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘の骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	怪我や事故に繋がる可能性がある場合も想定し、改めて保育施設内での適切な遊びについて職員間でミーティングを行います。	支援員・補助員全体で大人に対して遊びも求めてくる児童に対し、保育や配慮、対応等よりこども達同士で遊びをつくりあげることが出来るような保育、関わり方について職員間のミーティングを行う。	1.定期的に実施	実施頻度(毎回)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎回)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎回)回/年	保育施設内の床には、ジョイントマットを使用し衝撃等の吸収、角などにはクッション材で対応していますが、消耗している部分もあるため環境整備を怠ってしまいました。	事故防止の為にもジョイントマットも買い替えを行い、環境の改善に取り組みます。危険個所について再度職員間で協議を行い、確認を行いたいと思います。	1.集団活動中・見守りあり	保育施設内での育成支援としての適正な遊びではなく、事故に繋がってしまった。	職員間で自分達の保育、支援、遊び等、充分に行き届いているか俯瞰して確認を行い、子供達の過ごしやすい保育環境・支援体制が整えられているか、話し合いをもつ場を設けたいと考えております。	1.いつもどおりの様子であった	子ども達同士の遊びにも参加はするものの、支援員や補助員など大人との1対1の遊びを求めておりました。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	事故当日、支援員におんぶやだっこをしてほしいと学童来所時より頻繁に要求をされていた。支援員は夕方以降、児童人数が少なくなった時に一緒にジャンプする遊びの対応を行った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他補助員はお迎え保護者対応や、他児童の対応を行っておりました。	支援員が児童の要求してくるマンツーマンの遊びに対して、事故を想定することが出来ませんでした。	研修等を通して学童クラブの遊びについて職員間で学び、子ども達同士が関係性を築けるよう声掛けや遊びの提案が出来るよう職員間で動いていきたいと思います。	

No	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	負傷 受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
434	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	29							29		3	2	21. 9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右撓骨遠位端骨折、右尺骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	レクレーション前に無理な体制や行動にならないように楽しむこと伝える	遊びやレクリエーションの中でも危険な行動を行っていないか注意が必要	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	事故場所は広大な（土）芝生状であり周囲へ配慮も行われていた	レクレーションに見合った施設設備なのかを考え行う	1.集団活動中・見守りあり	転んでも怪我の無い敷地なのかを事前察知能力を活かす	地面などにガラス、石など危険物が無いかの事前確認	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子で登園。外遊びの際もいつも通り元気よく遊ぶ。運動神経が良い子の為、反射的にボールをよけたときの姿勢と着地のタイミングが重なってしまい思わぬ手の付き方をしてしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ボールをよけた後に対象児童が手首を痛がる様子が見られたので、保冷材で冷却した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遠くから全体を見守りをしていたが、他の児童虫取りの安全の見守りも行っていた。	児童達が楽しむ中で興奮を抑える声掛けに気をつける	全体活動を見渡し、遊具等の横には必ず職員を配置する	
435	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	15							15		3	3	20. 8歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指骨折	8.その他	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	－	安全計画の策定と安全管理マニュアルを作成する	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	特になし	体育館という広い場所でボールを使って普通の行動・運動だったため、ハード面における要因はないと思われる。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	指導員と一緒に遊んでいて、危険なことをしていた訳ではなかった。今後さらに注意を払い児童を見守っていく	1.いつもどおりの様子であった	シュート練習後、バスケットボールでキャッチボールをしている支援員と他児童に加わった。初めは1対1（支援員：他児童）でキャッチボールをしているところに該当児童と他児童（2名）が加わり1対4でキャッチボールをした。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	初めは１対１（支援員：他児童）でキャッチボールをしているところに該当児童と他児童（２名）が加わっていき1対４でキャッチボールをした。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	近くにいる職員もいれば、離れて他の児童も見守りしている指導員・支援員がいた。	キャッチボール前に指を痛めていたことに気付かなかった。4対１だった為、児童それぞれに合わせた力加減がしづらくなっていた。	ボールの種類や数を調整する	
436	令和6年3月27日	1.認可	5.幼稚園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	54									9	9	18. 6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	高い段を跳べる園児ほど跳び方は安定しているが、地面からの高さがあるので、落ちたときのリスクが高いこと。	高く跳べる子ほど落下距離があることを考慮したり、落下した時のことを考えてて配慮をしていく。そばにつき、落下の際は必ず止める気持ちを持つ。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	シートやマットを敷いているが、外ということ。	周りに敷くマットを増やす等。	1.集団活動中・見守りあり	特に危険な個所に配置を集中させる。	子どもに対する教員配置を増やした際、増やした人数に対応できる資金がしっかり出せるシステムにしてほしい。	1.いつもどおりの様子であった	運動会に向け張り切っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体把握をしていたため、落下に気づいてもすぐ手を差し出せる距離ではなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	様子は見ていたが、突発的に起きた落下には対応できなかった。	運動会が近づくと、保護者の期待が高まり、跳ばせたい・跳ばせなくてはという意識が強くなってしまいがちになる。	「跳べるよ」と励ますことは大切だが、「失敗するかもしれない」との意識を常に忘れず接していく。	
437	令和6年3月27日	1.認可	5.幼稚園	10	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	28									1	1	17. 5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	右頬部挫滅創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	ピアノに激突する可能性があることを認識する必要がある。	子どもがピアノの近くを走っていたら注意をする	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	2.不定期に実施	50	ピアノがあることを認識するべきだった。上部はカバーがあるが、下部はカバーが無いためむき出しの部分がある。	ボールがピアノの近くに行ったら気を付けることを伝える	3.個人活動中・見守りあり	ピアノに走っていくことを阻止できなかった	ボールがピアノの近くに行ったら気を付けることを伝える	1.いつもどおりの様子であった	ボールを使って遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	子どもたちの様子を見ていたが、ちょうど他の子どもたちと縄跳びの相手をしているときに怪我をした。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	なし	どこに飛んでいくかわからないボール遊びをする際には注意をする必要がある。	ボールがピアノの近くに行ったら気を付けることを伝える	
438	令和6年3月27日	1.認可	5.幼稚園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	115			8	38	27	42			16	12	17. 5歳	2.女児	天気：晴	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左示指基節骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置		遊具で遊ぶ際、近くに行き見守り、声かけをおこなう。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	特になし	当該園児の手を友達が誤って踏んでしまったことから、ハード面に対する改善策は不要と考える。	3.個人活動中・見守りあり	歩いていて、しゃがみ込んだところを近くの子が誤って踏んでしまった。	近くに友達がいるときには、周囲に気を付けて行動するように園児に声掛けを行う。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り、仲良しの年長児の仲間と園庭のウッドデッキ上で遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	該当遊具の近くで、当該児の遊びを見守りつつ、記録用の写真を撮影していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭の様々な場所で子どもが遊んでいたため、それぞれのエリアに分かれて子どもの安全を見守っていた。	立て続けに起きた要因分析：いずれもケガをした園児の意識外で起きている。	危険につながりそうなことを想定し、職員による注意喚起を行う。また、園児には、事故に関しての状況等を伝え注意喚起を行う。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
439	令和6年3月27日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	10	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	23									16	3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肩挫傷、左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置	当日は研修日だったため、外部の人が10名ほど参観していた。いつもと違う雰囲気に気持ちが高揚していたことが考えられる。	いつもと違う環境の時は、園児たちの様子をよく見ながら遊び方をその都度知らせていく。また、職員間の声かけや職員の配置も配慮していく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	マット設置場の芝生の凹凸の確認やマット運動スペースを十分確保する。	マットの枚数を増やし、着地点を増やす。	1.集団活動中・見守りあり	マット運動の自分の番で出るタイミングが早くなってしまった。	運動遊びの前には、注意点を伝え、園児にも注意を促す。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	外部の人がいたことにより気持ちが高揚し、いつもより動きの多さが見られた。	4.対象児の動きを見ていなかった	他の園児の対応中で目を離していた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児の遊んでいる場所にいたが、他の園児の対応中で目を離していた。	前日に雨が降り、芝の一部がしめっていた。いろいろな場に行き遊んでいたため、靴が湿っていたことも考えられる。	マット運動の前に滑らないか確認する。	
440	令和6年3月27日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	28	1	1	3	6	7	5	5		4		17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左下肢骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	上記に記載したとおりマニュアルや研修については取り組んでおり、職員配置も基準を満たしていたが、事故の現場を目視していた保育者がいないことから、職員の配置や役割分担が不明確なことで当該児の危険に気付き、対応することができなかった	戸外での活動の際は、固定遊具などの危険個所には必ず保育士が付くようにする。保育者の配置と役割を明確にし、それぞれが責任をもって対応する。子どもの行動を予測し、危険が回避できるような対応・声掛けを行う。	1.定期的に実施	1回/日	1.定期的に実施	1回/日	1.定期的に実施	1回/日	ブランコの周辺に柵などの侵入防止のものがない。	ブランコの前を横切ることができないように、物理的に侵入を防止できるようなものを設置する	1.集団活動中・見守りあり	異年齢児の活動のため戸外活動時のルールや約束の理解に差があった。いつもは理解しているルールでも環境等の違いや変化で抜け落ちることがある。	園庭で活動する前に、子ども達に活動の際の注意事項やルールなど各年齢が理解できるよう丁寧に再確認する。その日の子ども達の状況に合わせた活動の提供を心掛ける。	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭内全体を見渡せる場所に配置し、危険があった場合声をかけるなどしていたが、当該児の動きには気付かなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	砂場付近で、子ども達の様子を見ていたため、当該児の動きには気付かなかった。	保育者2名で対応するには、活動内容や範囲が広かったのでは？保育者の配置や役割分担が曖昧だった。	その時の人数や年齢によって、子どもの活動内容や範囲を保育者の対応が可能な範囲に設定する。保育者の配置場所や役割について事前に話し合い、決定しておく。異年齢児保育の場合加配の職員を配置する。	
441	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	62	12	28	22						15	15	13.1歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	4	1.基準以上配置	テンションが上がってしまうと危険につながる。	一人一人の遊びをしっかり把握し、安全面での対応をしっかり行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		引き続き、安全管理を定期的に行い、年齢に応じた遊びの配置を行うようにする。	1.集団活動中・見守りあり		一人一人の遊びをしっかり把握するともに、危険を回避できる距離に職員が付くようにする。	1.いつもどおりの様子であった	普段から元気な本児であり、いつものように活発に遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	職員間で立ち位置を連携していたが、こけた本児に手を出すことが出来なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの場所で、それぞれの園児を見ていた。		遊具の数を減らす等の対応を行い、安全に遊びを楽しめるようにする。	
442	令和6年3月27日	1.認可	5.幼稚園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	35			3	9	12	11			3	3	15.3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左肩の骨折（全治2か月）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置		園児個々の運動能力を十分見極め、安全第一の活動を行う。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	10	1.定期的に実施	3		今回の事故は設備等は関係していない。	1.集団活動中・見守りあり		今回の事故に教育環境は関係していない。	1.いつもどおりの様子であった	マラソンに参加し、目標の周に取り組んでいた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担任1名、マラソンの様子を応援しながらスタート地点で周を数えていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担任1名が対象児の後ろから一緒に走っていた。		運動機能の向上をはかる関わりを持つ	
443	令和6年3月27日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	61									6	6	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	8.その他	1.あり	3.未実施		1.基準以上配置		今後は園外での事故やケガが起こるリスク等について、定期的に教職員研修を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	250		園庭の遊具等については日頃から複数の目での安全確認を徹底し、チェック項目などで全職員に向けて可視化する。室内の玩具等についてはこのまま継続して安全確認をする。	1.集団活動中・見守りあり		園外の公園ではあるが、園児の怪我等が起こりやすい場所等を教職員で話し合い、見守りの足りないであろう部分に職員配置をできるように改善する。	1.いつもどおりの様子であった	対象児は、友達と楽しそうに元気よく遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	担当職員は対象児のすぐそばにいたが、事故がおこった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員が、対象児の事故にすぐ気づき助けを求めたため、他の職員がその声を聞きすぐに駆け付けた。		今回は至近距離で見守っていたにもかかわらず、怪我を防ぎきることが出来なかった。園外の公園での活動であったため、普段から遊びなれている遊具ではないため、より見守りの目が必要であると感じた。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
444	令和6年3月27日	1. 認可	5. 幼稚園	10	1. 朝(始業〜午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	113				47	17	49			16	11	16. 4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	1	2. 基準配置	近くの遊具の援助を行っていたため、高いところに上ろうとする園児の側についていることができなかった。	高い遊具に上る場合は、必ず保育者が側につき援助する。他の保育者との連携を強化し、声を掛け合いながら子どもが一人で高い遊具に上ってしまうことがないよう援助することを話し合った。	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日	特になし	持ち手などが砂などの汚れで滑らないように毎日の点検を徹底する。	1. 集団活動中・見守りあり	近くの遊具の援助を行っていたため、保育者が側で見守ることができなかった。	高さのある遊具は必ず保育者の見守りのもと行う。児の援助を行っており他児の援助が難しい場合は、順番で遊具に取り組むようにしたり他の職員に援助を求める等更なる工夫を意識し、必ず側で見守りをする。遠くからでもひとりで上ろうとする児の姿を見つけた場合には、大きな声で一番近くにいる職員に声を掛け、援助を行うよう求めるようにした。	1. いつもどおりの様子であった	いつも通り元気に遊ぶ。いつもはそれほど遊具に上るより走っていることが多い。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	担任は、他児の世話の為、保育室に戻っていた	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	すぐ隣の遊具に職員はいたが、他の園児の様子を見ていたため、落下の援助はできなかった。	本児は普段あまり上まで登る経験は少なかった。遊具の上から、棒にぶら下がって下りようとした際に、保育者が近くにいることができず、勢いが付き手が滑ってしまった。	高さのあるものを行う時には、保育者が近くにいない場合、子ども達にも保育者に声を掛けるよう再度指導し、保育者は必ず近くで見守りを行うようにする。また他児の援助などですぐに見守り援助が行えない場合には、必ず他の職員に声を掛け、子ども達が一人で行わないようにする。	
445	令和6年3月27日	1. 認可	5. 幼稚園	10	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	22									2	2	16. 4歳	1. 男児		7. 登園・降園中(来所・帰宅中)	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	1〜2	2. 基準配置	特になし	園児保護者に対し、挨拶後は速やかに降園することや子供から目を離さないように伝えた。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	特になし	職員で事故現場を確認し、以後気をつけるよう共通理解をした。	4. 個人活動中・子どものみ	特になし	保護者に対しての声掛けを増やし、自分のクラスのみではなく、近くにいる子には声をかけたり目を配ったりするようにする。	1. いつもどおりの様子であった	一人で遊具に登り、遊ぼうとしていた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	降園中であったため、母親に引き渡すまでは把握していたもののその後の動きについては、把握していなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故発生直後は、保護者に引き渡した後であったことから職員は近くにいなかった。	普段から遊んではいたが、事故発生時は慌てたと思われる。	園児や保護者に対しての声掛けをこまめにするよう話し合いをした。	
446	令和6年3月27日	1. 認可	2. 幼稚園型認定こども園	10	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	1									1	1	17. 5歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足首剥離骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	3〜4	1. 基準以上配置	特になし。	マニュアル有り、研修実施、職員配置基準もみたしているため、特になし。	2. 不定期に実施	1〜2	1. 定期的に実施	5〜6	2. 不定期に実施	3〜4	特になし。	階段には手すりと滑り止めを設置。勾配は緩やか。安全点検も行われているので特に改善策はなし。	1. 集団活動中・見守りあり	担任教諭がその場にいて気を付けるように声掛けをしていたが、直後に足を挫いた。	全園児に階段を昇降する際の約束等、安全確認の指導を行う。	1. いつもどおりの様子であった	手すりを持ち、ゆっくりと階段を降りていたが、一段飛ばしでバランスを崩した。	1. 対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	近くで声掛けをしながら見守っていたが、バランスを崩した瞬間は支えられなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の複数の園児と共に保育室に居た為、気付けなかった。	階段を一段飛ばしで降りる事を禁止していなかった。	安全な階段の昇降方法について、再度職員で確認し、こども達に指導を行う。	
447	令和6年3月27日	1. 認可	5. 幼稚園	11	1. 朝(始業〜午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	32				8	7	17			6	6	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	3	1. 基準以上配置	特になし	高さのある遊具からの飛び降りへの危険性を園児に知らせる	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	6	1. 定期的に実施	12	特になし	安全点検の際、修繕や障害となるもの、危険なものを取り除くようにする。	1. 集団活動中・見守りあり	特になし	職員配置に配慮。子どもへの危険行動の指導。	1. いつもどおりの様子であった	運動会を経験し、体を動かすことや自分の力を試すことが楽しくなっていた	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	他児の指導にあたっていた	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	同じ場で他児とかかわっていた	特になし	子どもへの危険行動への指導。職員間では、怪我事故予防対策や起こった時の対応について共有していく。	
448	令和6年3月27日	1. 認可	2. 幼稚園型認定こども園	11	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	51									18	15	17. 5歳	1. 男児	加配対象児(自閉症スペクトラムの診断有)	2. 室内活動中	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	2. 顔面(口腔内含む)	下顎挫創	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	3	2. 基準配置		引き続き、子どもの動きを予測し、職員体制や保育環境を見直し工夫する。	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	24		引き続き、子どもの動きを予測し、職員体制や保育環境を見直し工夫する。	1. 集団活動中・見守りあり	担当保育者が休憩時間のため、休憩代替え職員が本児を対応中であった。本児の特性と当日の様子が大まかにしか引き継げていなかった。本児への対応が不慣れな職員に担当を任せてしまったという采配ミスも要因の一つである。	日頃から園全体で加配児の特性を共有しておく。また、担当保育者以外が加配児を担当する場合は、当日の様子を細かく引継ぎ、本児の行動を予測しながら対応する。	1. いつもどおりの様子であった	いつも通りではあったが、知っている保育者を見かけて瞬時に興奮気味になってしまった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	対象児にマンツーマンで付いていたが、本児が着席しているのを確認して、一瞬だけ場を離れてしまった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	給食準備中であったため、学級全体やそれぞれの担当児への対応をしていた。対象児の動きを遠方から見ていた職員もいたが、一瞬の出来事で止めに行けなかった。	園全体における職員の慢性的な欠員状況に加え、事故当日は他にも２名の欠員がいたため、勤務している職員で何とかカバーし合っている状況であった。また、園の行事も重なり慌ただしかったのも要因の一つだと考えられる。	行事や欠員が重なっている時ほど慎重に、また、丁寧に子どもを見守っていく。職員間での声のかけ合いや、加配対象児への対応の共通理解を重ねていく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
449	令和6年3月27日	1.認可	5.幼稚園	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	45									3	3	17．5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨骨幹部骨折、右尺骨骨幹部骨折、右橈骨尺骨骨幹部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	遊具の使い方について正しい使い方の確認をする。	職員全員が正しい遊具の使い方を子ども達に伝える。	1.定期的に実施	毎回	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	正しい遊具の使い方について確認をする。	子ども達に遊具の使い方を伝える。	1.集団活動中・見守りあり	異年齢の子ども達が遊んでいる環境の中、子ども達は個々に好きな遊びをみつけて遊んでいる。遊びの変化に気が付きにくい。	怪我が起こりやすい遊具で子どもが遊び始めたら職員が近くで見守る等、子どもの遊びに応じて職員の配置を変えていく、声を掛け合うようにする。	1.いつもどおりの様子であった	雲梯が上手にできるようになり、戸外遊びで自ら進んで雲梯で遊ぶ姿があった。雲梯の前進ができたので、バックで進みたいと挑戦していた。	4.対象児の動きを見ていなかった	自由保育時間の戸外遊びだったので、園庭にいる他の子ども達と遊んでいた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	雲梯を含んだ遊具の近くで子ども達を見守っていた。(雲梯をする子に手の届く範囲ではなかった)	本児のできることが増え自信がつき、さらにやってみたいという挑戦する気持ちから怪我に繋がってしまった。	雲梯の落下による怪我を防ぐため、雲梯をする園児がいた場合は職員が雲梯をする園児のそばで見守ることを徹底する。	
450	令和6年3月27日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	36									4	4	15．3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準配置		落下の危険を速やかに察知し対応できるようにする。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	走ってブランコに飛び乗ったため、勢いがつきすぎて鎖をきちんと握れず、後ろへ落下してしまった。	遊具で遊ぶときは急がず、安全に使用できるように保育士が声をかけ、事故を未然に防げるよう職員の配置をする。	1.集団活動中・見守りあり		落下の危険を速やかに察知できるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	午後の戸外遊びにおいて、砂場で遊んでいたが戸外遊び終了の声かけを開き、最後にブランコに乗ってから保育室に戻ろうと走ってブランコに向かい、その勢いで飛び乗ってしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	園庭には４名の保育士がおり、大型遊具の滑り台付近に２名、園庭奥のブランコの付近、アルミ遊具付近で子どもを見守っていた。砂場から対象児がブランコに走って飛び乗ろうとしたのを見ていたときに対象児がブランコから後方に落下。同時に駆け寄ったが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	大型遊具の滑り台付近で他の園児を見守っていたため、対象児の事は見ていなかった。	落下の危険箇所が死角にならない場所での見守りを徹底する。	落下の危険を速やかに察知し対応する。	
451	令和6年3月27日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	6		1	5						2	2	14．2歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	①肘頭骨折(左腕)②尺骨近位部骨折(左腕)	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	上記に記載したとおりマニュアルや研修については取り組んでおり、配置基準も基準を満たしていたが、配置箇所において責任をもった対応をしていなかった。	それぞれの職員が配置箇所での役割を理解し、責任をもった対応を徹底する。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	遊具の素材がツルツルしていて滑りやすいものであった。	座る部分に滑り止め加工ができるか業者と検討し、安全対策として適当であれば実施する。※滑りにくくなることで新たな危険に繋がらないか、遊具の特性から検討し判断する。	1.集団活動中・見守りあり	1・2歳児には自分で乗り降りできない遊具であり、足がつかないことからも遊具が年齢や発達に合っていなかった。2人乗りにしたことでバランスを崩しやすかった。	当該遊具配置の保育者は使用している児童が降りるまで責任をもって対応し、目を離さない。足が届かない未満児に対しては、そばで補助できない際は利用を制限する。（乗せない）	1.いつもどおりの様子であった		4.対象児の動きを見ていなかった	対象児の近くには立っていたが、対象児から目を離していた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の園児と関わりながら全体を見ていた。対象児が落下する際にも気付き、声を出したが離れていたため支えたりすることができなかった。	遊具の特性を理解した上で遊具を提供したとは言えず、足の着かない1歳児にとって補助がなければ落下に繋がりやすかった。2人乗りでさらにその危険性が増した。	遊具の特性や、正しい提供の仕方について全職員で理解・情報共有を徹底する。遊具が児童の発達や身体能力と合っているか判断した上で責任もって対応する。落下の危険を予測し、落下に備えてすぐに対応可能な状態で提供する。未満児について子ども2人のみでの2人乗りは禁止する。	
452	令和6年3月27日	3.その他	5.幼稚園	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	37	0	0	0	51	47	44	0		13	13	17．5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置		事故予防に対する教職員の危機管理意識の向上を徹底する。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3		鉄棒の下に人工芝マットなどクッション性のあるものを敷設する。	1.集団活動中・見守りあり	日常、鉄棒は教師の見守りのもとで遊ぶ約束事となっていたが、幼児が近くに教師がいない状況で鉄棒で遊んだ。また、園庭にいた４人の教師は、それぞれ他の幼児の対応をしていて鉄棒で幼児が遊んでいることに気が付かなかった。	園庭で好きな遊びの時間帯を見守る教師のうち一人は、必ず園庭全体の見守りをすることを徹底する。幼児には、鉄棒で遊びたいときには必ず教師に声をかけることを指導する。	1.いつもどおりの様子であった	棒に居合わせた他児が当該児に「これできる？」と言って、鉄棒に腰かけた。当該児はそれに応えて自分でも、鉄棒に腰かけようとして落下した。	4.対象児の動きを見ていなかった	他の幼児の対応をしていて、当該児が鉄棒に腰かけようとするところを見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の幼児の遊びの見守りをしたり、近くにいる幼児に話しかけられてその対応をしたりしていて、事故発生の瞬間を見ていなかった。		幼児に安全な鉄棒の遊び方について再度指導する。	
453	令和6年3月27日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	13									3	3	17．5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第３中足背頸部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	4	1.基準以上配置		保育者が園児に対し、鉄棒につかまり地面を蹴る際の動作を指導する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	200		当該遊具（鉄棒）直下の地面の状況を日々確認し、凹凸などが有る場合は平面になるよう整備する。	1.集団活動中・見守りあり	高さの有る遊具で遊ぶ、鉄棒で技に挑戦するなどの行動特性がある。	子どもたちの行動や遊びを全体俯瞰できるよう、見守る体制が取れるよう再確認する。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおり母親と機嫌よく登園し、保育を受けていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体を俯瞰して見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	数名が交代で鉄棒遊びをしていたため、そばで見守っていた。	特になし	子どもたちの行動や遊びを全体俯瞰できるよう、見守る体制が取れるよう再確認する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
454	令和6年3月27日	1. 認可	2. 幼稚園型認定こども園	11	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	16				4	9	3			6	6	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	2. なし	2. 不定期に実施	2	2. 基準配置		様々なケースを想定した事故に対応できるよう研修を実施する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	毎日		今後、田で遊ぶ際には田の状況を事前に確認し、大きなくぼみや段差がある場合にはならす等の対応を行う。	1. 集団活動中・見守りあり		環境面での不備による事故ではないため、施設・環境面での改善策は考えていない。	1. いつもどおりの様子であった		2. 対象児の至近で対象児を見ていた		2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	田にはおらず園庭で活動している園児の動きを見ていた。		普段から安全指導を徹底する。	
455	令和6年3月27日	1. 認可	5. 幼稚園	12	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	17									1	1	17. 5歳	1. 男児		8. その他	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右肘内側骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	5	1. 基準以上配置	特になし	職員配置に問題はないが、手が足りないと感じたときは補助の先生に声かけをする	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	3	玩具の箱が出しっぱなしになっていた	玩具の量を減らし、更に日によって玩具を限定して出す	1. 集団活動中・見守りあり	特になし	玩具は決められた場所にあるか、整理整頓できているか日々確認する	1. いつもどおりの様子であった	友達に追いかけられ逃げていた	4. 対象児の動きを見ていなかった	同室で他の児童と話をしていた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ担当の部屋にいた	室内で走っていた。走らないよう声かけをしていなかった	室内では静かな遊びをする。走っている子には声かけをする	
456	令和6年3月27日	1. 認可	2. 幼稚園型認定こども園	12	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	32					14	18			2	1	16. 4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		6. その他	5. 下肢(足・足指)	右足首靭帯損傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1	2. 基準配置	特になし	マニュアル有り、研修実施、職員配置基準も満たしているため、特になし	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	特になし	施設、遊具、玩具の安全点検を定期的に行っているため、特になし。	1. 集団活動中・見守りあり	特になし	園庭にはつまずくような窪み等はなかった。また、見守り体制があったため、特になし。	1. いつもどおりの様子であった	活発に戸外遊びを楽しんでいた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	他の職員と役割分担し、子どもたちの様子を見守っていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当職員と役割分担し、子どもたちの様子を見守っていた。	特になし	今後も、職員同士連携を図りながら見守りを行っていく。	
457	令和6年3月27日	1. 認可	2. 幼稚園型認定こども園	9	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	125				45	41	39			16	16	16. 4歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		6. その他	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	頚椎捻挫	3. 子ども同士の衝突によるもの	2. なし	2. 不定期に実施	1	2. 基準配置	安全対策マニュアルの欠如	安全対策マニュアルの作成	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	死角になっている	死角になっている場所の使用を許可制にする	7. その他	自由遊び中は、移動が自由で保育室外でも遊べる状況にある	自由遊び中の保育体制の確認、検討	2. いつもより元気がなかった(理由を記載)	友だちとごっこ遊び中だったが、いつもより元気がない様子だった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	教師は保育室担当であった	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭担当は配置しているが、保育室外のフリースペースの担当は配置がされていない	園児のケガの要因をその場で把握できなかった	自由遊び中の保育体制の確認、検討	
458	令和6年3月27日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	4	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	21									2	2	17. 5歳	1. 男児	無し	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	6	1. 基準以上配置	特になし	職員配置も基準以上であり、事故防止に関する研修も実施しており、改善策は特にない	1. 定期的に実施	36	1. 定期的に実施	36	1. 定期的に実施	12	特になし	施設・遊具に問題はなく、定期的に安全点検を実施しており、改善策は特にない。	1. 集団活動中・見守りあり	登り棒に登る励みとして鈴をつけていたが、総合遊具のデッキから子どもが鈴を触ろうとする可能性を予測できていなかった。	子どもの行動をできる限り予測し環境構成を行う。登り棒の励みとして鈴をつける必要性の有無、付ける場合は時期や配慮事項について検討する。	1. いつもどおりの様子であった	特に変わった様子はなく、いつも通りに遊んでいた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	近くにいたため落下の瞬間は見ていたが、手が届く距離ではなかった。落下後すぐに対応した。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	少し離れたところで他児を保育していた。	登り棒をしていた時に、近くにはいたが見守りが十分でなかった。	子どもが登り棒をしている時には側で見守るようにし、子どもの様子にすぐに対応できるようにする。	
459	令和6年3月27日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	3	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4. 3歳児クラス	12									1	1	16. 4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	大腿骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年 他随時	2. 基準配置	八角ジムの辺りに、他の学年の担当者がいて、落下したことに気付いた。	八角ジムを使用している園児がいる場合は職員が側につく。複数のクラスが同時に園庭で遊んでいる場合は、各担当場所を決め、園庭全体に目が行き届くようにして戸外遊びを見守るようにする。また、3歳児以下が1クラスしか園庭に出ない場合は、2名以上の職員を配置し見守りを行う。	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	52	1. 定期的に実施	52	園庭が砂の為、高い位置からの落下の際は衝撃が強かった。	運動器具の下には、マットや芝生を敷くなど、誤って落下した際にも衝撃が少ないように対策をとる。	3. 個人活動中・見守りあり	八角ジムの4段目に園児が登っていることに職員が気付かず、止められなかった。	八角ジムの4段目を3歳児が使用する際には、職員が側で見守る。	1. いつもどおりの様子であった	運動能力が発達してきて、より活発に遊ぶ姿が見られるようになっていた。八角ジムに上ることにも慣れ、より高い所に登ってみたいという意識が芽生えていた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	園庭内で他の場所の遊びの様子を見守っていた為、対象児が八角ジムの4段目まで登っていたことに気が付かなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他のクラスの担当者が八角ジム付近で他の園児の対応をしており、職員の後ろで音がして対象児が落下したことに気付いた。	園児がどこでどんな動きをしていても対応できるように、園庭全体を見守れる体制をとる必要がある。	園児がどこでどんな動きをしていても対応できるように、園庭全体を見守れる体制を整える。外遊びの際は職員配置を増やす。	

No	初回掲載年月日	概要：認可・認可外	概要：施設・事業所種別	事故発生時：月	事故発生時：時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制：発生時の体制	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故：年齢	性別	特記事項	事故状況：発生時状	事故の転帰
460	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	3	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	13									2	2	16. 4歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷
461	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	3	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	6. 5歳以上児クラス	16									2	2	18. 6歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷
462	令和6年3月27日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	4	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	13				1	12				1	1	16. 4歳	1. 男児		8. その他	1. 負傷
463	令和6年3月27日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	2	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	10									2	2	17. 5歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷
464	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	4	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	2. 1歳児クラス	1											13. 1歳	1. 男児		7. 登園・降園中(来所・帰宅中)	1. 負傷
465	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	4	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	17									2	2	15. 3歳	1. 男児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷

No	死亡：死因	負傷：負傷状況	負傷：受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面：マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面：施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】
460		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左側鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	2	1. 基準以上配置	無し	日々の子供の活動等について情報共有をする。安全管理マニュアルの確認。環境構成の配慮、子どもへの注意注意喚起（3歳以上児）	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12
461		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	1	2. 基準配置	公園のハザードマップを作成していたが、今回の公園は未作成だった。	散歩で訪れる公園は、全て作成する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	12
462		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左尺骨遠位端骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	2	2. 基準配置		外遊びの時に先生が一人配置にならないように考える	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	3
463		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左肘橈骨頭頸部骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(12)回/年	1. 基準以上配置	生活の切り替わりの時間（延長保育）で見守り体制に死角が生じた。	保育者同士の声掛けと引継ぎを徹底する。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(12)回/年
464		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	8. その他	2. なし	3. 未実施	実施頻度( )回/年	2. 基準配置	子どもを抱っこしながらの階段昇降は足元が見えづらく注意が必要である。（朝の登所時は気持ちが急いでいる場合もある。）	声かけや掲示等で注意喚起を行うとともに、スロープの利用を積極的にすすめる。（送迎の多い時間帯には所務を配置しているが、保育中や職員勤務時間外の場合は人員配置が難しいので、掲示等での注意喚起となる。）	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度( )回/年
465		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	無	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	3	1. 基準以上配置	保育士が予想される子どもの行動について見守ってはいたが、とっさの行動に対処できなかった。	運動機能を高めたり、俊敏性を養う。また、子どもへの安全教育を行う。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12

No	ハード面：その他要因・分析、特記事項	ハード面：改善策	環境面：教育・保育・育成支援の状況	環境面：その他要因・分析、特記事項	環境面：改善策	人的面：対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
460	環境の整備が甘かったと思う。	事故状況の共有と何故発生したかを深堀し環境設定配慮を再確認	1. 集団活動中・見守りあり	危険場面では声掛けはしているが、元気な子で走り回っている中での転倒であった。	活動前の環境設定や子どもの予想される活動がしっかりと保育に活かされるようにしていかなければいけない	1. いつもどおりの様子であった	健康状態良好で元気に遊んでいた	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	全体が見える位置に立ち、遊びを見守っていた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	13人を２人でみていた。転倒後すぐに報告し、冷却材で幹部を冷やした	無し	遊びの中で予想される子どもの姿を共通理解していく	
461	子どもの遊具と大人の健康器具が混在していた。	公園内で使ってよい遊具を再指定する。	7. その他	低くても園児用の遊具ではなかった。	使用してよい遊具を明確にし、子どもに明確に伝える。	1. いつもどおりの様子であった	保育園の最終日ということもあり、テンションが少し高かった。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	園児の至近距離で見ており、対象児が落下する瞬間に手を差し伸べたが、間に合わなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊具に一人ずつ、ついていた。	自閉症児がたまたま当遊具の近くに来たため、一瞬反応が遅れた。	使用してよい遊具を明確にし、子どもに明確に伝える。	
462		環境面でも触れているが、人工芝の張り替えを行う。	7. その他	雲梯の高さは年長児がぶら下がっても足がつかない程度。人工芝がやや固くなっている。	遊具を新しくする予定なので、人工芝も改修する。	1. いつもどおりの様子であった	直前に友だちが雲梯をする様子を見ていた。その後、自分もやってみようと雲梯にぶら下がった。部屋へ戻る為に片付けを呼び掛けた後、雲梯から手を離してしまった。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	友だちの様子を見ていた本児に声をかける。違う遊びをしていた（のぼり棒をしていた）別の子の方に移動し、その後、片付けの時間になったため、片付けを呼びかける。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭に出ているのが該当クラスのみだったので他職員はその場にいなかった	園庭遊び終了を告げられたことで手を離してしまった可能性もある。	戻る時間を予告しておく。もうすぐ戻る時間だと子どもが意識できるようにしておく。本児がどれくらい雲梯ができるのかを見極め、そばについておくべきだったかもしれない。全体の遊びを把握し、危険が伴うところには側につくようにする。	
463	保育室前廊下のベンチは保育室に沿って設置しているが､保育室入り口へ15cm程度はみ出ていた	保育室入り口へはみ出ないようにベンチの位置を変える	7. その他	職員（保育者）がお迎えの時間帯に保護者対応をしており、子どもを見守る職員が手薄となった。	保護者対応をする人、子どもを見る人の役割分担で、もれのないように徹底する。	1. いつもどおりの様子であった	ベンチに座って製作していた。帰る直前のため上靴を脱いで片付けていた。靴下だったので滑ってバランスを崩し転倒した。	4. 対象児の動きを見ていなかった	担当職員は保護者対応をしており、子どもを見ることができなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭の園児を見ていた。	職員（保育者）がお迎えの時間帯に保護者対応をしており、子どもを見守る職員が手薄となった。	保護者対応をする人、子どもを見る人の役割分担でもれのないように徹底する。	
464	施設の構造上、安全対策の為にコーンバーを階段下に二本設置。昇降スペースを狭め子どもが飛び出していかないようにしているが、保護者がすれ違うことに関しては十分なスペースとは言えない。	階段横に設置してあるスロープ使用をすすめる。コーンバーを一本に減らし、昇降スペースを広げ保護者がすれ違う際のゆとりを持たせた。	7. その他		子どもを抱っこしての階段昇降の際の注意喚起を配信や掲示等で行う。また、スロープの利用の声かけを適宜行う。	1. いつもどおりの様子であった	特に変わった様子(泣いたりぐずったりするなど)はなかった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	子ども達の登所時は室内で保育中のため玄関外の子どもの動きを見ることはできない。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	登降所の際、時間帯によって保育所内駐車場の誘導に保育所所務が対応している。所務がすぐに転倒に気づき、親子の状態を確認後すぐに朝の打ち合わせ最中の所長・看護師に報告しに来た。		駐車場案内と登降所の見守りを同時に行うことが難しい場面もあるが、状況によって声かけやスロープへのご案内を適宜行っていく。	
465		つまずきやすいような物が落ちていないか、突起物は無いか園内を確認する。	3. 個人活動中・見守りあり	対象児や他児の運動機能を過信せず関わるべきだった。	安全な遊び方について、子どもと一緒に保育士も再確認する。	1. いつもどおりの様子であった	子ども数名で追いかけっこをしていた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	そろそろ保育室に戻ろうと全体に声を掛けながら、片づけを一緒に行っていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室で午睡の準備をしていた。	子どもの行動をきちんと確認し、危険な行動に発展するか予測することが出来なかった。	何事も大丈夫と思い込まず、子どもの行動には危険が伴うことを常に意識する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
466	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	4	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	41			10	10	10	11			6	6	17. 5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	2	1. 基準以上配置	職員は2歳児2名、3歳児2名、4歳児１名、5歳児1名。	転倒後の対応として、保護者への連絡等の判断を速やかにする。骨折かどうか不明な時はすぐ受診を勧める。	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施	随時	2. 不定期に実施	随時	友達と走り出してバランスを崩した。	遊具設定の工夫をしていたが、様々な事態が起こりうる予測が必要である。	3. 個人活動中・見守りあり	友達と一緒に、速く走ろうという思いがあったと思われる。	ぶつからないような間隔で広いところで走るよう伝える。	1. いつもどおりの様子であった	普段通り登園し、変わった様子はなく保護者からの連絡事項もなかった。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	ベンチで友達と水を飲む様子を確認している。そこから一緒に走り出し、バランスを崩して転倒した。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	異年齢の子どもたちが遊んでいたため、それぞれの担任は主に自分のクラスの子どもや近くにいる子どもを見守ったり、一緒に遊んだりしていた。	遊びの約束や遊具設定の工夫をしており、保育士一人一人が離れた場所で子どもと遊んだり見守ったりしていた。	遊具設定の工夫をしていたが、とっさのことに対応しきれなかった。様々な事態が起こりうる予測が必要である。	
467	令和6年3月27日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	3	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	14					0				2	2	16. 4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右脛骨骨幹部骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度（1)回/年	1. 基準以上配置		園児への指導の実施。職員へ事故に関する周知と保育環境の再検討	1. 定期的に実施	実施頻度（１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度（１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度（１２)回/年		引き続き、定期的な安全点検を実施を行い遊具・用具を適切に管理する。	1. 集団活動中・見守りあり		体を動かした遊びの充実により身体諸機能の発達と、園児を対象とした安全指導を実施し周囲の状況把握や安全な遊び方が身に付けられるようにする。	1. いつもどおりの様子であった	対象児は普段の様子と変わらなかった	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	担任は対象時児の近くで見ていたが、落下時に受け止めることができなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員以外は、それぞれの場で保育等を行っていたため発生時の様子は見ていなかった。		教師間で事故発生に関する共有を行い、指導に関して再確認を行った。	
468	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	4	3. 昼食時・おやつ時	1. 施設敷地内(室内)	2. 1歳児クラス	3									3	3	13. 1歳	1. 男児	入園時より、乳全般・卵アレルギーの既往歴があり、乳成分表示のもの全て提供不可、粉ミルクも乳成分なしのものにて対応。令和●年●月●日より、卵全解除との診断を受ける。	5. 食事中(おやつ含む)	1. 負傷		6. その他		食物アレルギー（乳全般）によるアレルギー症状	6. アナフィラキシーによるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1	1. 基準以上配置	緊急時の個別対応マニュアルは作成していたものの、食事時のマニュアルは口頭で全職員周知のみであった。	食事時マニュアルを文書化し、全職員の意識の徹底を行なう。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	6	2. 不定期に実施	10	本児固定の机と椅子が決まっておらず、他児のものとの区別がなかった。	本児固定の机と椅子として目印を付け、ランチルームに配置する。	6. 食事(おやつ)中	除去の無い時には、同じテーブルで食していたことが、混乱の一つにもなった。（他児と食せる時にはそうしてあげたい願いがあった）	給食・おやつ共に、除去の有無に関わらず、本児固定の机と椅子を設定する。	2. いつもより元気がなかった(理由を記載)	少し風邪のひき始めであった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	担任1名は、手洗いを済ませた子から机の席についていく受け入れをしたが、本児用の机や椅子の用意及び本児が他児に交ざって長机に座っていることに気付けなかった。もう1名は、一旦子ども達の元に来たものの、本児用の机や椅子がないこと、本児が長机に座っていることに気付けず、補助保育士の声掛けで部屋に戻ってお知らせボードを記入していた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児と共に本児が座っている長机の側に居たが、本児用の机と椅子や本児が他児と共に長机の席についていることに気付けなかった。	保育士間の意思疎通が出来ておらず、声の掛け合いが乏しい状態であった。（持ち上がり担任1名、4月より入職担任1名、副主任1名）	保育士間の連携を取りながら、人任せにせず、役割の明確な分担をすると共に、必ず「いただきます」時には保育士着席と、名前の確認をする。	
469	令和6年3月27日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	4	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4. 3歳児クラス	41									4	4	15. 3歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(4)回/年	2. 基準配置	保育担当とは別に駆けつけられる職員は園内にいが、園庭に配置されていなかった	研修は行っているものの、常に事故やケガを予測し事前回避することが必要	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(20)回/年	施設・設備に関する不備は見当たらなかった	園庭に向けた防犯カメラにより、事故後に状況の見直しができた	1. 集団活動中・見守りあり	年度始めで外遊びの慣れていない状態であった。遊具の正しい使い方が子どもたちにまだ浸透していなかった	学年全体の現状を把握し、職員が遊び場や子どもの遊び方をチェックする	1. いつもどおりの様子であった	久しぶりの外遊びで喜んで遊んでいた。遊具の使い方も理解しているはずだった	4. 対象児の動きを見ていなかった	対象児とは離れた場所で他の園児を見ていた。昨年度からの在園児より、新園児に対して注意を払っていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	早い降園の子がいたため、見送りのため園内に入っていた。	慣れない新園児もいて、職員も余裕を持って子どもを見ることができていなかった	どの職員も子どもの活動全体が見える位置で見守ることができるような配置をすることを心掛ける	
470	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	4	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	47				13	19	15			5	5	16. 4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	3	2. 基準配置	太鼓橋を安全に使用するための周知、確認	太鼓橋の下はくぐらない、子どもの発達を担任がしっかり周知してから使う等、安全に遊べるように使い方を職員間で再度話し合い、周知する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	太鼓橋の下にある安全マットが砂で滑りやすくなる。	安全マットを細目にほうきで掃いたり、場合によっては体育マットを使用する。	1. 集団活動中・見守りあり	手を離し着地しようとした際、バランスを崩して両肘を地面に着いたため。	太鼓橋で遊ぶ際には必ず保育者が側に付き、その子の力量によっては手を添える等援助をする。	1. いつもどおりの様子であった	太鼓橋に登って７段目からぶら下がり手を離し着地した際、バランスを崩して両肘を地面に着いた。涙をこらえる姿があったが腕に傷や腫れなどは見られなかった。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	両肘を確認するが腫れや出血がなく、自分で腕を動かすことが出来たため様子を見た。翌日、給食中左腕を庇う姿があったため、看護師、主任に報告(さほど痛みを訴えず自分で動かしていた)。翌々日、腫れや痛みが出たため受診する。(発生時より都度保護者には様子を伝達した)	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の子どもたちの見守りをしていたため(安全の為、点在し子どもの様子を見ていた為)	発生当日の報告・相談をしなかったこと。	自己判断せず、周囲の保育者や上司への報告・連絡・相談を細目に行う。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
471	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	4	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	24									5	5	16. 4歳	2. 女児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右ひじ骨折	1. 遊具等からの転落・落下	2. なし	2. 不定期に実施	3	2. 基準配置	年齢発達の認識不足だった	教育・保育施設等における事故防止及び事故発生の対応のためのガイドラインをもとに事故防止のためのマニュアルを作成し職員間で共通理解する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12		年齢発達に適した遊具であるか設置前に分析する必要がある。	3. 個人活動中・見守りあり	対象児の運動能力を過信せず関わるべきだった。	設置した遊具に保育士が必ず１名は配置できるよう、設置する遊具の数を考慮していく。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	遊戯室に設置してある遊具に興味をもって１つ１つ挑戦していた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	●●BOXの上で遊んでいる子がいなくなったので、子どもが密集しているところへ移動しようとしていると対象児が●●BOXの上を歩いていた。近づいていったが間に合わなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊戯室にある他の遊具で遊んでいる子と遊んだり対応したりしていたので見ていなかった。	以前から当該遊具で遊んでいたため、当日も危険がないと保育士が認識していた。	設置した遊具に保育士を必ず配置する。何事にも大丈夫だからと思い込みで判断せず、子どもの行動には常に危険が伴うことを常に意識して関わる。	
472	令和6年3月27日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	3	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	55				8	8	39			4	4	18. 6歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置	一瞬での転倒であったため、即座に対応ができなかった。	すぐに対応できる位置に職員を配置するようにする。	1. 定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(40)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎回)回/年	安全基準を満たした遊具であったが、事故が起こってしまった。	遊具の下にマットを設置する。	1. 集団活動中・見守りあり	保育士は近くにいたが、一瞬で転倒してしまった。	職員、子供の数に応じて、使う園庭の場所を限定する。	1. いつもどおりの様子であった	特に変わった様子はなかった	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	一瞬で転倒したので、その後すぐに当児の状態を確認し、職員室にて安静にした。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	自分の担当の場所を見ながらも全体を見守っていた。	特になし	園庭を見守る保育教諭の人数を増やし、より注意深く見ていく。	
473	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	4	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	10				3	4	3			2	2	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	3	2. 基準配置	子ども達が速く走っていた時でなかった為、このような怪我や事故につながることを予測していなかった。	子どもの発達や遊び方についてしっかり把握し、常に怪我や事故につながることを想定して職員の立ち位置や環境を整えいく。	1. 定期的に実施	100	1. 定期的に実施	100	1. 定期的に実施	50	大型遊具は点検前の為、まだ遊んでいなかったが、遊び方の把握ができていなかった。	普段遊び慣れている場所でも大きな事故につながる可能性があることを常に意識して保育する。	1. 集団活動中・見守りあり	大型遊具が点検前で遊べなかったので、活発な動きのある遊びで遊んでいる子が多く、環境整備が十分にできていなかった。	日々の活動の中で行動を予測して、遊び方について子ども達に事前に知らせていく。	1. いつもどおりの様子であった	友達とかけっこをしたり、だるまさんがころんだなど楽しんでいたが、ルールがわからず、虫探しやかけっこを楽しんでいた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	２歳児と保育士１名が園内に入った直後だったので、担任が１名と３歳以上児10名が園庭にいて、そろそろ園内に入ろうとしているところであった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	２歳児の担任が、５名の子どもの靴や帽子を玄関で脱がせて対応していた。	普段気持ちが高ぶると行動が荒くなり、抑えられなくなり注意されることが多い。危険な行為になり得るであろう子どもの動きを把握できず、怪我に繋がってしまった。	保育士の立ち位置の確認と、子どもの動きを把握し、職員同士で声を掛け合い事故防止に努めていく。	
474	令和6年3月27日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	4	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4. 3歳児クラス	12									2	2	15. 3歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨通顆骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	6	1. 基準以上配置	年度始まりの時であり、中でも本児の所属する新3歳児は生活拠点が１階から２階でになったばかりであった。個々の階段を下りてからの園庭に出ていく行動パターンや体の使い方、意識の変化が予想できていなかったのではないか	特に年度当初はゆとりを持っての職員配置を行う。担任と子どもの関係づくりを築くとともに、子どもの行動パターン、発達、育ちを再度丁寧に全担任と連携し活動を計画する。特に生活拠点が大きく変化する3歳児では、子どもたちと一緒に行動することや、ゆとりをもって行動する事。また園庭と二階にいる職員が声をかけあい連携を取りながら移動するように再度確認対応する	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守りあり	園庭が多少凸凹していたため走り出した時にバランスを崩したのではないか	園庭整備を行い、プレートで固めるとともに、凹凸に気づいたときには平らにならしていく	1. いつもどおりの様子であった	保育者や友だちと一緒に外階段を下りてきた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	対象児と一緒に外階段を下りて、園庭南側にある砂場の方に向かう。本児が他児とともに走って保育者を追い抜いていた直後、保育者の前で転倒したためすぐに近づき対応した	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	１歳児の職員1人は、子ども3人と園庭南側の砂場で遊んでいたため見ていない	特になし	園庭にいる職員と二階にいる職員が声をかけあい連携を取りながら移動するようにする。	
475	令和6年3月27日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	3	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	30									2	2	18. 6歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	尾てい骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1. 基準以上配置		特に改善策はありません	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年		特に改善策はありません	1. 集団活動中・見守りあり		特に改善策はありません	1. いつもどおりの様子であった	普段から活発な子で、いつも通りの様子であった	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	至近距離にいて、児童が玄関に向かって移動する様子をみていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	至近距離にいて、児童が玄関に向かって移動する様子をみていた。		しっかり準備を終わらせてから落ち着いて移動するように声がけをする。園児を目をはなさず見ておき、移動する際は気をつける。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項
476	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	32	2	2	6	10	10	2			6	2	18.6歳	1.男児	
477	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	25					13	12			2	2	16.4歳	1.男児	特になし
478	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	38	0	0	0	12	8	18	0		4	4	17.5歳	2.女児	日頃より、立体砂場にある丸太で組んだ枠の上に乗って遊ぶことが多かった。
479	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	72			18	18	16	15	5		6	6	17.5歳	2.女児	運動が得意ではない。
480	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	23									1	1	17.5歳	1.男児	特になし

No	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】
476	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘の骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	加配のついている園児の動きは予想していない動きをするので、見守るだけではなくその都度そばについてすぐ対応できるようにする必要があった。	子どもの動きの色々な場面を想定して動けるようにしていく。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	48	2.不定期に実施	
477	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	特になし	定期的な研修やマニュアル作成も行い、職員配置も基準以上を満たしていた。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12
478	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	左足くるぶしひび	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.基準以上配置	なし	マニュアルにそった対応を行っていた。今回の事故を契機としてマニュアルの見直しなども検討していく。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年
479	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1～2	2.基準配置	保育者の話を聞いていた分足元に注意をしていなかったと判断している。	他人の話を聞いていると注意が散漫になることをわかりやすく伝える。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12
480	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	基節骨骨折	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	2.不定期に実施	8	2.基準配置	遅番勤務の担任に代わっての保育中でのけががということもあり、代替職員との引継ぎを更にしっかり行う事	ヒヤリハットの意識を高め、事故防止に努める	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12

No	ハード面 その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
476	おもちゃ小屋の棚が子どもが登りやすい高さでおいてあり、すぐに登ってしまった。	危険が伴うので、おもちゃ小屋は人手の少ない朝夕の特例時間は子どもが入れないように鍵を閉める。棚に登れないようおもちゃを置くなどして対応する必要がある。	1.集団活動中・見守りあり	クラス担任がいない状況で、本児の動きや性格など詳しく把握できていない職員による保育だったため、丁寧な関わりができていなかった。	他の子よりも激しい動きをする本児の状況を、普段から、職員間で共有し、対応できるようにしておく必要がある。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	おもちゃ小屋に縄跳とびの縄をしまいにいった。普段保育士がしているのをまねして高い所に縄をかけようとして、棚に登り落ちてしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他の子どもの見守りが必要で、本児に対しては見守るだけで、近くにいくことができていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他のクラスの子どもの保育にあたっていて、本児の動きには気づいていなかった。	それぞれ担当している子どものことしか把握できていなかった為、危険な行為に気づくことができなかった。	担当職員だけではなく、他の職員も視野を広げて、全体の子どもの様子もみていくようにする。	
477	特になし	定期的に安全点検も行っており、鉄棒の下にもマットを敷いて安全対策をとっていた。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	固定遊具の危険性を知らせ、その都度約束をしてから遊ばせる事を徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	鉄棒の上に足をかけることに挑戦してみたかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	鉄棒の目の前で見守りを行っていたが、泣いている園児の対応に気を取られた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他園児の見守りを行っていた。	特になし	固定遊具で遊んでいる子どもを見守る場合は、見守りに徹し、他園児の対応は他保育士に任せる等、連携を図る。	
478	立体砂場の砂が少なくなっていた。	砂が流れ出ないような対策と砂を定期的に入れ込みを行う。	1.集団活動中・見守りあり	なし	屋外活動での注意点を児童に伝える。	1.いつもどおりの様子であった	仲良しの友だちとの遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	各児童の危険な行動がないよう、広く見渡せる位置で見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの担当の見守りの位置で見守りを行っていた。	想定外の事態であり、予測が困難である。	滑りやすい場所や行動に対して注意するよう声掛けを行う。	
479	砂場のへりは広く安定していたので昇り降りしても大丈夫と本児が無自覚に判断した。	バランスを崩すこともあるということを認識させる。	1.集団活動中・見守りあり	危険行為になってしまうという判断をできていない。	危険行為になる可能性もあると判断ができるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	心身の状態はいつもどおりであった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	転倒した本児を挟む距離で保育の見守りをしながら会話をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ほかの児童の保育に対応していたので、事故の現場は見ていなかった。	話を聞いていて保育者の間に入り、砂場のへりを昇り降りしていた。	事故が予想できなかったので、このような事故も転倒危険があると認識する。	
480	危険予知の意識をもっと高く持つ事。	ヒヤリハットの意識を高めることで、点検の見逃しを防ぐように努める	1.集団活動中・見守りあり	環境を整える上で、園の職員による手作りで設置していた。日頃の点検を含め、最善の注意・配慮が必要であった。	ベンチの修繕・見直し	1.いつもどおりの様子であった	変わらず、元気に過ごしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	自由遊びをしていた本児が、担当のところに泣いてきたことで気づく。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員はいなかった。	全体把握ができていなかった。	日頃の遊びの中でもヒヤリハットの意識を高め、危険性を早期発見、早期処置を心掛け、事故防止に努める。また、全体を把握しながらも一人ひとりの違和感に気づき、声掛けなどを行い未然に防ぐ意識を持つ。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項
481	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	33	1	3	9	7	4	9	0		10	8	16.4歳	1.男児	
482	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	14									2	2	17.5歳	2.女児	
483	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	1									1	1	16.4歳	1.男児	日常的に支援を要するため個別に保育士が対応していた。突発的、衝動的な行動あり。多動的な行動が見られる。
484	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	37				12	17	8			18	18	16.4歳	1.男児	乳・キウイのアレルギー有(3歳児まで卵アレルギー有り。現在は解除されている)
485	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	105	5	20	20	19	22	19			12	12	15.3歳	1.男児	

No	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】
481	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置		園庭遊び時の危険状況の再確認	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年
482	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折(左肘)	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施		2.基準配置		朝の打ち合わせで状況を報告し、何気ない行動でも怪我に繋がる可能性があることを知らせ、緊張感を持って保育するようにする	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	
483	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足脛螺旋骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	３～４	1.基準以上配置	29名の園児に対し２名の職員を配置しているが、様々な特性を持つ園児が多く、２名配置していても目が行き届いていないと感じられることがある。	個別対応時はフリーの保育士を配置する。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年
484	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	近年やっていない	1.基準以上配置	注意力や、気持ちと体が異なる場合がある	本児の体調や、気持ちの状態を見極め、更に行動を把握し、遊具の危険個所の安全を確保できるように保育教諭が連携を取る	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	目に見える玩具は毎日
485	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置		園庭での自由遊び時間は、園庭にいる職員全体で連携をとれるよう声を掛け合い、職員が同じ場所に重ならないような配置にする	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年

No	ハード面 その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
481	夕方だったが、暗くもなく視界は良好。やや風が強かった。本児は普段から対象の丸太付近にいることが多かった。丸太は通常他児も上に登ったりしているため、危険認識が低かった。	丸太にうつぶせで寝ることや、遊びの延長にそのような遊びに繋がる恐れがある場合は、注意しやめさせる。	1.集団活動中・見守りあり		低年齢の丸太遊びは常に保育者が付くようになっているが、本児の年齢では常についてはいなかった。体力・筋力面など考慮して遊びの内容を変えたり、違う場所へ誘う等していく	1.いつもどおりの様子であった	夕方、その丸太に乗って遊んでいることがよく見られる。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児の近くにいたが、他児と遊んでおり、常に対象児を見てはいなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の対応をしており、本児が丸太にいることは把握していたが、見てはいなかった	夕方ということもあり、本児も疲れていたのかもしれない。丸太から起ち上がろうとしたときにバランスを崩してしまったのかもしれない	普段と違う体勢をしていたり、バランスを崩してけがをしそうな場合には通常の見守りではなく、すぐに対応できるようにそばに保育者が付くようにする。	
482		定期的な点検を続ける	3.個人活動中・見守りあり		あらゆる場面で怪我や事故が起こる可能性があることを保育士自身も念頭に入れ、子どもたちにも更に伝えていく	1.いつもどおりの様子であった	運動会に向け逆上がりができるようになりたくて練習に励んでいた	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	本児から手伝ってほしいと言われ補助をしていた。お尻を持ち上げた後、胸の方へ手をかえようとした一瞬手を開いた時に事故が起きてしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の見守りをしていた		遊具の使い方、補助の仕方などをもう一度確認し合い、子どもたちにもその都度声をかける	
483	ウレタンマット（２㎝）の上に布団を敷いていたが、布団、マットの上は柔らかく足下が不安定であった可能性がある。	転倒に繋がる恐れがある時は声掛けや制止を行う。	3.個人活動中・見守りあり	床に直接布団を敷かずウレタンマット（２㎝）の上に布団を敷いた。周囲に足を取られるような物はなかったが、敷いてある布団に足を取られた可能性がある。	転倒につながる恐れがある時は声を掛ける。周囲に転倒の原因となる物を置かない。	4.具合が悪かった(熱発・腹痛・風邪気味等理由を記載)	腹痛の訴えがあり保育士と共に入室、トイレへ行く。排便なし。当日は午睡をしておらず眠気もあり不安定な状態であった。保育士が布団を敷くと一変し気分が高揚して掛け布団を手に持ち振り回しながら敷布団の周りをグルグルと回りだす。	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	一緒に入室後、トイレへ誘導する。本児が不安定な状態だったため、保育室に布団を敷く。本児が高揚していたため近くで見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭遊び中のため、他園児２８名の保育をしていた。	普段より突発的な行動を制止すると強い反動が出るため、本児のペースに合わせられるよう、個別に保育士を配置し見守るようにしていた。	園児の特性を理解し、普段と違った様子や状況の時にはより注意を払うようにする。室内は走らないようその都度伝え、興奮状態にある時は気持ちを抑えられるよう別室に移動したり、他の事へ興味を向けられるよう心掛ける。	
484	日頃より、破損、紛失を知らせるように早期発見、対応に心がける	遊具の点検を行っている。遊具としての不備はなかった。	3.個人活動中・見守りあり	以上児クラスで異年齢が混合していたので、年上児がする事を憧れ模倣、仲の良い友達と同じことをしたい等気持ちが高ぶる。	危険箇所には、見守る姿勢について話し合う。他クラスの子供を見ることがあるため、各クラスの子供の特徴を細かく知る。周知する。	1.いつもどおりの様子であった	最近になり●●の遊具で遊べることが増え、何度も楽しんでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	頻繁に同じ場所で遊んでおり、安全が確認した上で見守った	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の場所で他の子供を見ていた	本児が独自の遊びから、他児の遊びに興味を示し、他児のやっていることを模倣することが増えてきた時期であった。	本児はできるようになった自信がついてきたことも視野に入れてもう少し丁寧に配慮すべきと考える	
485	大人の援助なく一人で登り、降り出来る遊具であった。	大人の見える場所に移動した。	1.集団活動中・見守りあり	側にいたが他の子に対応していた。	高さのある遊具には職員を配置しておく。	1.いつもどおりの様子であった	体調も良く活発に遊んでいた。運動機能も発達し日頃の遊びの中でも「走る」「ジャンプする」「くぐる」「転がる」「ぶら下がる」動きが可能だった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	すぐそばにいて視野に入っていたが、他の園児が指さした方を一緒に見ていたため、ジャンプする前に止めることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭の別のところで、ほかの園児の対応をしていた。	運動能力や発達を把握していたが、着地に失敗してしまったため援助できなかった。	職員間で事故状況を共有し、同じような事故が起こるかもしれないと常に意識する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因
486	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	14									2	2	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	切り傷、じん帯損傷	3.子ども同士の衝突によるもの
487	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	12	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	11									1	1	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左拇趾開放性骨折、指脱臼	8.その他
488	令和6年3月27日	1.認可	3.保育所型認定こども園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	71			5	18	16	32			7	7	16.4歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨骨折	1.遊具等からの転落・落下
489	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	60									4	4	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕橈骨、尺骨骨折、左母指挫傷	3.子ども同士の衝突によるもの
490	令和6年3月27日	1.認可	3.保育所型認定こども園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	57				18	39				4	4	15.3歳	2.女児	発育状態：良好、両肘脱臼しやすく、昨年には園の3歳未満児用滑り台から飛び降りてバランスを崩し、左肘を骨折して手術している。発生時の天候：曇り	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下
491	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	16									2	2	18.6歳	2.女児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの

No	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策
486	1.あり	3.未実施	実施頻度( )回/年	2.基準配置	普段３歳児クラスは２人配置をしているが、当日急な職員配置の変更があり一人配置となった為、子ども達も落ち着きがなく１日過ごしていた。	子ども達が落ち着かない時や忙しい時は１人手伝いに行っていたが、それでも落ち着かない時は1対1で対応する等、少人数ずつ話をしたりする。	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年		玩具の片付けの際、玩具につまづいたり滑ったりするなどの事故ではなく、人対人の事故の為改善策なし。
487	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	保育用具における危険性に対する認識の不備	日常的に使用する保育用具対しての危険性を職員間で共通理解していく	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	机の縁は角が立たないよう面取りしてあるが、重さに対しての配慮に欠けていた	机をなるべく軽い素材(木材）で作れるか検討する
488	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	特になし	ベンチの上に乗っている時は傍について、落下しないように注意する。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	ベンチに乗っている時は傍に保育士がついて見守ることが必要	ベンチを撤去した
489	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	特になし	園庭見守りの強化	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	特になし	遊具等の点検を行っている
490	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	職員の異動で、昨年度の事故報告やヒヤリハット事例が共有できておらず、本児が経過観察中である認識が薄くなっていた。	年度当初から気をつけないといけない児童については、初日に情報共有を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	腰かけを適切に使用する分には問題がない。	遊具の安全な遊び方を再度確認する。
491	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	2.基準配置		今回の事例では、ソフト面での要因はないものと思われる。	1.定期的に実施	実施頻度(２６４)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２６４)回/年		今回の事例でのハード面での要因はないものと思われる。

No	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
486	3.個人活動中・見守りあり	片付けを行う際、たくさん片付けをしようと勢いよく片付けを始めてしまう子もいる為、他児との事故やトラブルが起きやすい。	周りを見ながら落ち着いて取り組むことができるように声掛けを徹底し、安全を意識できるよう職員が配慮・促しを行う。また、子ども達も意識できるように働きかける。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	朝から気持ちがたかぶっている様子が見られた。夕方も少し活発であり、玩具の片付けの際は、片付けに集中していて周りを見ていない姿もあった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体の子ども達に片付けの声掛けを行いながら、保育者も一緒に片付けを行っていた。走っている子には落ち着いて行うよう声を掛けていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	玩具の消毒を数名の子ども達と一緒に座って行いながら全体の様子を見ていた。もう一人の保育者がお迎えの対応をしている時は作業をやめて全体を見ていた。	片付けの際は、ほとんどの子どもが立って歩き回ったり走ったりしながら片づけをしており、その中でお迎えが来ると1人保育士が対応に出たり気持ちが高ぶったりする子もいる為、トラブルが起きやすい。	片付けに夢中になり、走って玩具を取りに行く子には、落ち着いて行うよう声を掛ける。お迎えの対応に出る際は、もう1人の保育者に伝えてから対応する。	
487	1.集団活動中・見守りあり		いつも使用している机が扱い方によっては危険物になりうるという事を職員間で共通認識としたうえで、園児にもその事を伝えていく	1.いつもどおりの様子であった	普段は一人で運びなれている机ではあったが、その時は寒さもあったのか長袖の袖で手を覆ったまま運び、滑って机の天板の縁を足の指の付け根に落とし怪我をする	4.対象児の動きを見ていなかった	台布巾やおしぼりを洗濯するためその場を少し離れる	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担任の代わりに当該児童の傍で全体を見守っていた		いつも使用している机が扱い方によっては危険物になりうるという事を職員間で共通認識としたうえで、園児にもその事を伝えていく	
488	1.集団活動中・見守りあり	直前まで加配保育士が児の傍について見守っていたが、他児のトラブルに対応し児から離れてしまい、その後周りの職員との連携が十分でなく、適切な対応ができなかった。	児の行動や遊びを把握し、職員で情報共有ができるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	機嫌よく異年齢の子と関わりながら、真似をして遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	加配保育士は少し離れた所で他児のトラブルに対応していた。担任は離れた所で児の様子を見守り、年長児の知らせと共に児の傍に駆け付けた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児以外の児童の対応をしていたため、対象児が落下した時に間に合わなかった。	ベンチの上に乗ってバランスを崩して落ちてしまった。	戸外遊びで遊具を使用している園児の傍から離れる際に周りの職員に声を掛けるなどの連携を十分に図るようにする。	
489	4.個人活動中・子どものみ	特になし	見守りの強化	1.いつもどおりの様子であった	園庭で戸外遊びをしている	4.対象児の動きを見ていなかった	他児の対応をしていたため気づかなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	泣き声に気づいて駆けつけた	保育者の見守りの人数	保育者間で連携をとり、全体を見守り、ケガや事故防止に努める	
490	1.集団活動中・見守りあり	自由遊びの活動範囲が広すぎた。	安全の確保が難しい状況の場合は遊ぶ範囲を決める。	1.いつもどおりの様子であった	ぞうの腰かけに座ったり、立ったりして遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	少し離れた総合遊具で遊んでいる子どもを中心に見ながら、腰かけ付近で遊ぶ子どもの様子も見ていた。落ちる瞬間も観たが、間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任以外の職員は、他のコーナーで遊んでいる子どもを見ていた。	担任２名のうち１名は振休で代替保育士が補助で入っており、いつもと違う雰囲気だった。	職員が複数いる場合は声を掛け合い、協力・分担して、子ども達の安全を見守るようにする。担任が休みの場合は子ども達の雰囲気も変わるため、特に気をつける。	
491	3.個人活動中・見守りあり	ほかの園児と関わっていて、本児の慌てた様子に気づくのが遅れた。	園児に慌てている言動が見られるときは、声をかけて落ち着かせるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	本児が遊んでいたおもちゃを他の子が使うのではないかと不安になり、離れたところから慌てて走ったことが原因おもちゃのところへ向かった。ステージの手前で転倒し、ステージの側面に肩を強打した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ほかの園児と遊んでいた。本児とは離れた場所にはいたが、本児が転倒する場面は見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ほかの園児と遊んでおり本児とは距離があり、本児が転倒する場面は見ていなかった。本児が転倒後、園長に報告にいった。		園児に慌てている言動が見られるときは、声をかけて落ち着かせるようにする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
492	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	4	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	15									2	2	17. 5歳	2. 女児		7. 登園・降園中(来所・帰宅中)	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	2. 顔面(口腔内含む)	裂創、挫創	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	12	1. 基準以上配置	降園時間帯で保護者対応のため、保育者の見守りと声掛けが十分ではなかった。	本児やクラス全体でも今回のケガについての話をし、座って待つことを約束する。安全に待つことができるよう、より一層気を付けて見守りや声掛けを行う。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施	12	近くに子どもが入り込みたくなる布付きのテーブルがあった。	降園を待つ時間帯には、布付きのテーブルを片付けておく。	7. その他	降園時間帯で保護者対応のため、保育者の見守りと声掛けが十分ではなかった。	本児やクラス全体でも今回のケガについての話をし、座って待つことを約束する。安全に待つことができるよう、より一層気を付けて見守りや声掛けを行う。	1. いつもどおりの様子であった	座って待つことが難しく、廊下を行き来しており保育者に声を掛けられ布付きテーブルの前に座る。しかし、その中に入り込んでしまい姿が見えなくなってしまった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	保護者対応のため玄関で対応したり、クラスの子ども達の声掛け・見守りをしたりしていたが、本児が入り込んだところまで確認することができなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	クラスの子ども達の声掛け・見守りをしていたが、死角となり本児が入り込んだところまで確認することができなかった。		本児のそばには保育士がつき、見守りと声掛けを行うようにする。	
493	令和6年3月27日	1. 認可	3. 保育所型認定こども園	4	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	24					0				3	3	16. 4歳	1. 男児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	特になし	保育士の配置等に問題はないと考える。	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	遊具の種類や高さ、保育士の配置の仕方等、危険な点はなかったと考える。	1. 集団活動中・見守りあり	特になし	年齢に合わせた遊具を選び設定していた為。	1. いつもどおりの様子であった	サーキット遊びで友達と関わりながらブロックを渡っていた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	鉄棒の補助をしながら、ブロックで遊ぶ園児の様子を見ていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	平均台と跳び箱の補助をしていたので、対象児の行動からは目を離していた。	ブロックを渡る時に後ろの友達の方を向き、話しながら渡ったので次のブロックにうまく乗れず踏み外した。	前を見て進むことなど、遊び方について活動の前に園児に再確認をする。職員は園児の様子を見守り、危険な遊び方をしている時はすぐに対応する。	
494	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	4	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	4. 3歳児クラス	12									4	3	15. 3歳	1. 男児	受傷後すぐに近医の整形外科を受診したが、その時は骨折なしとの診断あり、痛みが持続した場合は受診の指示あり。翌日に本児が痛みを訴えた為、総合病院を受診した結果、骨折が判明、病院名には骨折を診断した病院名を記載した。2歳10か月ごろ、病院で協調性運動障害の診断あり。支持の弱さ、左右差があり、訓練を定期的に受けている。	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右脛骨骨幹部骨折	8. その他	1. あり	2. 不定期に実施	3	1. 基準以上配置	沢山の保育士がいたが本児が担任の側にいたことは知っていたが、危険につながるという認識がなかった。	担任だけでなくそこにいる保育士が児童の安全を見守るよう心掛ける。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	事故現場は、3歳児には広すぎた公園だった。	3歳児には広すぎた公園だったため、児童は不安に思い保育士のそばにいたのかもしれない。今後は発達に応じた環境（公園）を選ぶことが必要。	1. 集団活動中・見守りあり	しっぽを渡すときには少し落ち着かせるような対応をすべきであった。	しっぽの配布の時は座らせるなど。危険がないようにする。	1. いつもどおりの様子であった	しっぽとりを楽しみにして集まってきた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	身体の動きに敏感な子だったので担任にぶつかるとどのような動きで転ぶなど予想がついていなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	本児の事は見ていたが、そのように転ぶという予想がついていなかったので声をかけることができていなかった。		病院で協調性運動障害の診断あり。支持の弱さ、左右差があり、訓練を定期的に受けているので、集団行動の際には気をつけてかかわっていく。	
495	令和6年3月27日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	2	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4. 3歳児クラス	46				0					4	4	16. 4歳	2. 女児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	剥離骨折（全治1か月）	2. 自らの転倒・衝突によるもの	2. なし	2. 不定期に実施	実施頻度(数)回/年	2. 基準配置	午前中の戸外遊びでは、会議の為保育教諭2人が抜け、４人で保育していた。	全体を見渡しながら過ごすことをより意識し、保育教諭も広がりながら保育を行っていく。	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守りあり	園庭の木など周りを見ておらず、足をぶつけた可能性がある。	周辺に砂場道具を置いているため、木との配置間隔を十分に取る。周りを見て行動することを意識できるよう、側で見守りつつ声を掛けていく。	1. いつもどおりの様子であった	いつも通り戸外で好きな遊びを楽しんでおり、泣いたり機嫌を悪くするなど変わった様子は見られなかった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	園庭で遊ぶ子どもたちを全体的に見ており対象児の動きもその中で見ていたが、木にぶつかった姿は見ていない。又、痛みの訴えや泣く様子もその日は見られなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員と同じく、全体を見ていたが、対象児が木にぶつかる姿は見ていない。	翌日の一度だけ保育教諭に痛みの訴えがあったが、見た目からは分からず、変わらずよく動けていたため、発見までに時間がかかってしまった。	痛みを一度訴えたことを保護者に伝え、家庭での様子を聞きながら話をし、病院への受診を進めたり、様子を見たりしていく。	
496	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	3	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	63	0	0	13	15	16	19	0		4	4	15. 3歳	2. 女児	令和●年●月に、肘内障で病院に行ったことがあり、今回も肘内障の疑いがあった。	8. その他	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	肘内障を疑い、腫れなども確認したが見当たらず。初診の際にレントゲンを撮ってもらえば良かった。	発達に合わせた遊びの提案、実践。肘内障疑いの時は、レントゲンも視野に入れる。	1. 定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/日	特になし	肘内障を疑う際は、レントゲンを視野に入れつつ、今回同様複数人で相談・受診検討を行う。	1. 集団活動中・見守りあり	特になし	発達に合わせたリズム体操の項目を選択して楽しむ。	1. いつもどおりの様子であった	いつも通りリズム体操を楽しんでいた。手を繋いで回っていた際、転んだか引っ張られたのか、左肘を痛める様子が見られた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	他児の近くで待機。次の番がくるのを一緒に待ち、本児が楽しんでいる様子を見ていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の動きや座っている様子を見たり、全体を見ていたが、怪我をする瞬間を見ることができなかった。	特になし	本児が遊びに参加した際、肘内障を懸念して本児の間に入って遊びに入る必要があった。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
497	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	17	0	0	0	3	14				3	3	17.5歳	2.女児	１か月程前から鉄棒で前回りをするようになり、進んで取り組む姿が見られた。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足関節外踝剥離骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	2.基準配置	特になし	インシデント、アクシデントレポートの活用の継続。OJT等で経験の浅い保育士への事故予防研修の実施。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	鉄棒の下に事故防止用人工芝を敷いていたが、勢いで人工芝のない前方部分に落下し、怪我をした。	児童の運動発達や状況にあわせ、マット等を敷いて鉄棒を使用する。	1.集団活動中・見守りあり	化繊の素材、防寒着をきたまま鉄棒をしていた。体を回転する際、動きにくかったり、鉄棒と体の間が滑りやすかったと考えられる。	運動する際の素材、服装に配慮する。	1.いつもどおりの様子であった	前回りができるようになって間がなく、意欲はあるが、動きにぎこちなさがあった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児の隣で鉄棒をしている児を補助しており、対象児が手を離した際に、手を伸ばしたが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊びをしている児の動きを見ていた。	本児の運動の運動能力にあわせた、見守りや運動補助が不十分だった。	児の運動能力にあわせ、状況により一人ずつ鉄棒をして補助を行う。	
498	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	26				7	11	8			3	3	17.5歳	2.女児	令和●年●月に、家庭で同じ箇所を骨折し、4週間ギプスをし、その後添え木で2週間過ごした後、完治した。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕（手首付近）骨折	8.その他	1.あり	3.未実施	実施頻度( )回/年	1.基準以上配置		危険箇所についての確認の時間を会議や部会等で取り、把握したうえで安全に過ごせる働きかけ等を行えるようにする。また、研修の機会を取り入れたい。	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(使用の都度)回/年		定期的な遊具や玩具の点検を継続して行い、危険箇所等の共有をもっとこまめに行うとともに、必要に応じて修繕や改善等を行えるようにする。	1.集団活動中・見守りあり		遊び方の確認を子ども、職員とともに行い、危険が少しでも減らせるよう目を配れるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	ブランコには一人で乗って遊んでいた。特別危険なことをする様子はなく、いつもどおりの様子であった。	4.対象児の動きを見ていなかった	複数の職員が、本児がブランコに乗っていたことは把握していたが、事故があった場面は確認できていなかった。担当という形でついてはいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	複数の職員が、本児がブランコに乗っていたことは把握していたが、事故があった場面は確認できていなかった。担当という形でついてはいなかった。		危険な箇所や子どもの状況など情報をこまめに共有するとともに、全体に目を向ける一人一人の意識を高めていきたい。	
499	令和6年3月27日	1.認可	3.保育所型認定こども園	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	7									1	1	15.3歳	2.女児	発育状態：良好、両肘脱臼しやすい。発生時の天候：晴天（前日雨）	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	子どもの発達段階と保育士の危険予測についての認識の差。職員が１名であった。	子どもの運動発達についての再確認が必要。ヒヤリハット報告の重要性。職員が複数で見守り対応できるようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	滑り台を適切に使用する分には問題がない。誤った使用による事故。	正しく使用することの指導。雨露等で濡れている時はふき取り、完全に乾いている状態で使用する。飛び降り遊びをする際には、クッションを敷くなど安全な環境を準備してから行う。	1.集団活動中・見守りあり	発達にふさわしくない高所からの飛び降りについての危険認識。	遊具の安全な遊び方を再度確認する。発達年齢にふさわしい活動計画。	1.いつもどおりの様子であった	過去にも同様の飛び降り遊びを行っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	至近での見守りではあったが、全体を見渡せるようにしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任以外の職員はそれぞれのクラスの保育中であった。	過去にも同様の飛び降り遊びをしていたがけがはなかったので、危険と感じていなかった。	リスクマネジメントについて理解する。保育士２名の場合は安全が確保できる範囲で遊ぶ。できるだけ、複数で安全を見守れるようにする。	
500	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	22		2	5	8	3	4			9	8	17.5歳	1.男児	無	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	6回/年	2.基準配置		事故防止や発生時の対応について職員間で周知徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年		今後も安全に留意し、確認や点検を行っていく。	1.集団活動中・見守りあり	太鼓橋で遊んでいてぶら下がって降りた時に、着地でバランスを崩し転んだ。	常に危険意識をもって見守る。遊具の安全な使い方を知らせ、危険な遊び方をしている場合には注意を促す。	1.いつもどおりの様子であった	太鼓橋で遊んでいてぶら下がって降りた時に、着地でバランスを崩し転んだ。左足を痛がり、激しく泣き、震えていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	遊具の傍に立ち、本児が遊具から降りるところを見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	傍で見ていた職員が２名いた。他の職員も５名近くにいたが、降所する子どもの対応をしたり園庭全体を見ながら、クラスの子ども達が園庭で遊ぶ様子を見守っていた。		保育者は、子どもが安全に遊んでいるように見えても危険な状態に陥ることがあるので、常に危険意識をもち補助が出来るような態勢で見守りをする。子どもたちにも遊びを通して安全についての心構えや、理解を深めることが出来るように話をしていく。	
501	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	11									1	1	17.5歳	2.女児	友達とはよく遊ぶが、戸外遊びでは活発に動きまわる事が少なく、身体の使い方が上手ではない。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置	鉄棒で遊んでいる時保育教諭は近くにはいたが落下を防ぐ間がなかった。	鉄棒で遊ぶ時は必ず保育教諭が横につき指導する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	足の届く鉄棒での事故を予測できず傍らでの見守りができなかった。	何気ないところで転んだりぶつかったり、いつ怪我をするか予測ができません。常に気を配り事故が起こるかもしれないという思いで、安全に過ごせるようにする。	1.集団活動中・見守りあり		事故の起きる要因は予見できない為日頃から、かもしれないを念頭に事故防止に努める	1.いつもどおりの様子であった	登園時の検温では36.7度。午前中は運動会に向けバルーン、遊戯の練習を行い、昼食後園庭で遊んでいた。平常時と変わらず過ごしていた。逆上がりの練習中、他園児が足を持ち上げる手伝いをしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	給食後の歯磨きで、使用したコップを洗いながら見守りを行うが、遊具からは2メートル程離れていたため落下を防げなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	当日4歳児担当の主幹保育教諭は室内から見守っており鉄棒からの落下に気づく。	事故当時の人員等園庭での見守り保育教諭数1名 園庭にいた園児数11名	室外での活動は園児数と職員配置に無理がある場合は取りやめる。	
502	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	10									2	2	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の打撲	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	2.基準配置	特になし	園全体でもう一度マニュアルの確認をする。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	今後も引き続き子どもたちの環境に配慮していく。	1.いつもどおりの様子であった	普段通りの様子であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児の至近で対象児を見ていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当者・対象児の動きを見ていた	特になし	どんな時でも怪我をすることがあることを念頭に置き、保育に努める。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
503	令和6年3月27日	1.認可	7.小規模保育事業	4	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	6		2	4						2	2	16. 4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折（ひび）	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	2	2.基準配置	手作り玩具の安全面が不十分だった。	手作り玩具を作る場合は、危険な所がないかをしっかりと確認しながら作製する。 また、事故予防マニュアルを作成し保育士で共有する。	1.定期的に実施	1	3.未実施		1.定期的に実施	1	牛乳パックで出来ているため、安定感が少なく倒れやすい。	乗り物の重さを重くしたり、着座する面積を広くしたりして安定感を増やし転倒しにくくする。	1.集団活動中・見守りあり	乗り物の使い方について子ども達に正しい乗り方を伝えきれていなかった。	遊ぶ前に、正しい乗り方をきちんと伝えてから遊べるようにする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	普段遊ぶことがあまりない遊びなので、楽しくなりふざけてしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	２歳児の保育室で３人の園児を見ていた。対象児が楽しくなってしまいふざける姿が見られたので、その都度正しく乗るように声をかけていたが、そのまま遊び続けていた。落下する瞬間に手を差し伸べたが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	すぐ隣で、もう一つのコーナーを見ていた。(園児３名・保育士１名)そのコーナーを見ていたため、対象児の動きを見れていなかった。	普段遊ぶことがあまりない遊びなので、楽しくなりふざけてしまった。保育士の注意で止めることができなかった。	保育士が正しく乗るように伝えても守れなかった時点で、一度遊びを中断し、再度約束をしてから遊ぶようにする。もう一人のコーナー遊びを見ていた保育士も、乗り物で遊んでる園児を気にかけ、注意ができるようにする。	
504	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	19				6	4	9			4	4	16. 4歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右第３指中節骨々折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	事故発生時の場所、時間など記録をし、共有化する	職員環境（場の配置人数）を整える	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	毎日	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	子どもの人数確認、保育教諭の配置	1.いつもどおりの様子であった	普段通り元気に登園してきた。	4.対象児の動きを見ていなかった	異年齢保育中、園庭全体を注意して見ていたところ、当該園児が泣いている様子で気づいた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児の遊具使用補助等をしていた	特になし	特になし配置人数的に問題なし	
505	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	5									1	1	18. 6歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	事故発生時の場所、時間など記録をし、共有化する	職員環境（場の配置人数）を整える	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	毎日	特になし	特になし設備利用をしている最中の事故ではないため	1.集団活動中・見守りあり	特になし	子どもの人数確認、保育教諭の配置	1.いつもどおりの様子であった	普段通り元気に登園してきた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	当該園児と他の園児のドッヂボールを至近で見守りしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児ら数名以外、室外活動をしていなかった。	特になし	特になし配置人数的に問題なし	
506	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	17	0	0	0	5	7	5			2	2	16. 4歳	1.男児	前方不注意が多かったり、自分の力量が分かっておらずケガをすることが多い	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上唇小帯裂傷	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	1.基準以上配置		職員会等で職員に周知する	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年		特になし	3.個人活動中・見守りあり	コーンの上に登っていた事と、たまたま横に鉄棒があった事	物の使い方の正しい使い方を教える（コーンの上には立たない）	1.いつもどおりの様子であった		4.対象児の動きを見ていなかった	他の園児もいたため見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児もいたため見ていなかった。	保育士同士の連携が取れていなかった。1人1人の子どもの遊び方など把握ができておらず、上に乗る行為などがケガに繋がる遊び方を止めることが出来なかった。	保育士が変わる時に全体、またはケガをしやすいこどもを集めて遊び方などを改めるようにする。子ども達に正しい道具の使い方を指導する	
507	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	27									1	1	17. 5歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	18	2.基準配置	—	全職員への事故の詳細の周知、環境の整備、子どもが自身の行動について意識できるような指導をおこなう。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	遊具の不具合による事故ではないため、改善策なし。	1.集団活動中・見守りあり	雲梯遊びをしているときに、目を離したことが原因と考える。職員配置の少なさも今後の課題と考える。	雲梯を園児が使用している間は、見守りを強化すること。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	登園時刻が遅く、身体も十分に起きている状態ではなく、固定遊具（雲梯）で遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	他児の問いかけに答えようと雲梯を離れた瞬間に転落。痛みを訴え激しく泣いたため、すぐに駆け寄り様子を見た。痛がり方が通常ではないと判断し、職員室へ連れていき処置・保護者への連絡を行った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	泣き声に反応し、数名の職員が駆け付けた。氷を用意し患部を冷やしたり、横になるための簡易ベッドと用意したりする対応を取った。	—	眠そうにしている園児については、特に注意して見守りを行う。	
508	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	30									3	2	17. 5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準配置		子ども達はゲームなどでテンションがあがってしまうので、しっかりルールの確認や準備運動をし、転倒防止に努めていくように注意する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		特に改善策はありません。	1.集団活動中・見守りあり	ゲームのルールの理解が出来ていなかった事も転倒の原因の１つなので、子ども達が理解出来るようにする。	活動中も子ども達がぶつかり合わないよう、十分距離を保ちゲームや活動を行うように改善策を考える。	1.いつもどおりの様子であった	ゲームの際中、より速く走りたいという思いが強かったか、慌ててしまったか、勢いよく走りぶつかってしまう	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ゲームの際中、３人の職員で見守っていたが、転んだ瞬間は、間に合わず手をさしのべる事が出来なかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	ゲームの際中だったので、少し距離を保って見守っていた。		ゲームのルール、走り方、方向などが的確だったか、けががにつながらない為のゲームの進め方はどうしたらよいかを話あう必要がある。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
509	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	58				19	20	19			3	3	17.5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左母指骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	特になし	余裕のある職員配置を行い、怪我等あれば速やかに対応する	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	特になし	すべり台に不具合なし	3.個人活動中・見守りあり	特になし	園内園外を問わず、体を動かしたり、粗大運動や微細運動を意識して取り入れる	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り、好きな滑り台をしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	少し離れた場所で、他児の遊びを見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	離れた場所で、他児の遊びを見守っていた	特になし	受け身が取れるように、運動機能を高める遊びをする	
510	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	20									1	1	17.5歳	2.女児	雨上がり後の、体を大きく動かしたいと思う時間帯であった。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指付け根の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	14	2.基準配置	おにごっこで逃げる時、園庭の外側を走る傾向がある。	園舎に近づかないで広い場所で遊ぶように予め知らせる。適宜、ウッドデッキ近くで見守る。	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	テラスのウッドデッキの隙間に少し指が入った。	テラスのウッドデッキの上にマットを敷く。隙間を埋める。	1.集団活動中・見守りあり	鬼がテラス寄りに追ってきたが、テラス手前で横に逃げられなかった。	おにごっこを始める前にテラス手前にライン等目印をつける。	1.いつもどおりの様子であった	逃げている本児がテラス付近を走っている時に後ろからタッチされ、転んで小指をつき全体重を支えてしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園児全体の動きを注意していたが、咄嗟の出来事だった。すぐに保冷剤で幹部を冷やし、応急処置をした。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は給食準備で各クラスの部屋にいたため見ていなかった。	ウッドデッキ近くに園児か保育者がいたならば、タッチされた時にウッドデッキに手をつかずに済んだかもしれない。	保育者の人数配置に余裕が必要。	
511	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	15									1	1	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	ずれのない骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置		ドッジボールや器具を使う活動の時は、職員を1人多く配置できるようにしていく	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎週月曜日	1.定期的に実施	毎日		芝生に物が落ちていないか、足が躓きそうなところがないかなど日々点検していく	1.集団活動中・見守りあり	普段からボールを取りたいという意志が強い	ドッチボールを行う際、ボールを取りに行くときはどう取ればいいのか確認していく	1.いつもどおりの様子であった	ドッチボールを行っており、外野にいた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ドッチボールコート中央で審判をしながら全体を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他学年の職員は同じグラウンド内にいたが、他の遊具にいる園児の様子を見ていた為、対象児の動きは見ていなかった	ボールを取りに行く事で、怪我をするとの危険予知ができていなかった	ボールを取りに行く際の約束を確認した	
512	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	59					30	29			4	3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	4	1.基準以上配置	特になし	職員会議等で事故予防について職員周知を図り、安全についての意識を高めていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	2	2.不定期に実施		特になし	安全点検、事故防止チェックリストなど職員におけるチェック方法の見直しを図る。（あり得るかもしれないことを予測したチェックの仕方の意識づけを行う）	3.個人活動中・見守りあり	鉄棒下に敷いているマットの大きさが不十分であった。	安全に遊ぶための環境を再検討し、改善を図る。	1.いつもどおりの様子であった	最近鉄棒に興味をもちだし、楽しむ姿が見られる様になっていた。この時も友達のように鉄棒をしたいという気持ちから、担任のいるそばで鉄棒に取り組もうとしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	担任は近くで他児を見ながら鉄棒で遊ぶ子ども達を全体的に見ていた。近くにいながらも本児の行動を把握できておらず、また本児の能力に対して適切な補助ができなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担任補助は近くで他児を見ながら鉄棒で遊ぶ子ども達を全体的に見ていた。近くにいながらも本児の姿を把握しておらず、本児の補助ができなかった。	特になし	安全について職員の意識を高めるために、職員会議や園内研修などに意図的に組み入れていく。また個々の子どもの姿など職員周知をしていく。安全が確保できないこと、危険だと思うことを常に言葉にし、職員周知と改善を図る。	
513	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	5									1	1	17.5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨頚部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	5歳児で、動きも活発になり、少しの油断が大きな事故につながる。	今回の事例を周知し、危険予知及び安全管理に対する意識を高める。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	木のベンチから飛んだため。	安全な用具で遊ぶようにする。	3.個人活動中・見守りあり	保育従事者は、隣でベンチに座っていたが、他児と関わっていたため、対象児を見ていなかった。	子どもの動きに気を配るようにするとともに、正しい用具の使い方を知らせていく。	1.いつもどおりの様子であった	園庭にて、友達と鳥になって遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	保育従事者は隣にいたが、他児と植物の種取りをしていて、対象児を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他のクラスの職員１名いたが、クラスの子どもと遊んでいたため、対象児に背を向けていた。	担任1名のため、全ての子どもの様子を把握していないことがある。	子ども全体を見るように意識する。また、他クラスの職員と連携していく。	
514	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	14				9		5			2	2	15.3歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	14	2.基準配置		職員でヒヤリハットを共有し、事故予防に対する意識の向上を図る。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	280		玩具の点検を行い、破損したものがあれば修理または処分する。施設、遊具等、安全点検をしっかりと行うとともに、必要に応じて早急に業者に依頼し修理する。	1.集団活動中・見守りあり	子どもたちが座るのを確認してから、DVDの準備を行わなかったため。本児が座ろうと走った先に、不意に他児が座ったため。	DVDの準備は子どもたちが座るのを確認してから行う。（複数の職員で行い、必ず子どもの様子を見守る）	1.いつもどおりの様子であった	本児は体の使い方が不器用な所があり（バランス感覚）、友だちにぶつかることがある。今回は不意に友達が現れ、転ぶ。	4.対象児の動きを見ていなかった	保育士一人はDVDの準備のため、子どもたちから目を離していた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	もう一人の保育士は保育室内だが、離れたところから対象児を見ていた。	本児の動きのぎこちなさについて配慮していなかった。	合同保育の時は担任以外の保育士が保育することも多い。園の職員全員が子ども一人ひとりのことを理解し、配慮できるようにする。（特に配慮が必要な子については、担任がしっかりと引継ぎを行う）	

No	初回掲載年月日	概要: 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時: 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制: 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳: 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故: 年齢	性別	特記事項	事故状況: 発生時状況	事故の転帰	死亡: 死因	負傷: 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面: マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面: 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面: 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面: 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
515	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	10				4	6				1	1	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左中指末節骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	13	1.基準以上配置	採用3年目の保育士であり、保育経験が浅い。	今回の事故内容を全職員に周知し、事故防止に努める。ヒヤリハットや主管課から情報提供される事故例を十分に活かした研修を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	4歳児8名、3歳児5名が一斉に安全に走ることができる広さではなかった。	人数を分けるなど、その時々の状況に合わせた対応をする。	1.集団活動中・見守りあり	休みたいと訴えた対象児を、ステージ上で休ませた。ステージ上で休んでいる対象児の側で、体を動かす児童がいた。	休憩場所を保育士の目が届き、他児の活動に影響のない場所に設定する。子ども達が、危険なく、落ち着いて活動できる場所の設定をする。	1.いつもどおりの様子であった	マラソンをしていたが休みたいと訴えたので、活動から離れ、遊戯室のステージ上に座っていた。走ることが苦手で、マラソンなどでは休むことが通常。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	急に止まったり、無理に追い越しをしたりすることを制止しながら一緒に走っていた。別の児童が転倒し対応していていたため、離れた場所から対象児を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室の清掃をしていたため、その場にいなかった。	複数の児童が同時に転倒するなどアクシデントの予測が足りなかった。転倒した児童への対応で、他児への働きかけが不十分であった。	単数で保育を行う場合、全体への目配りや対応が困難な場合には、活動の内容を変更したり、複数の保育士で対応できるよう配慮する。	
516	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	22				7	7	8			5	5	15.3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	尾骨腫れ	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	12	2.基準配置	異動した職員が多く、遊び、子どもの姿など把握できていない部分があった。	職員の配置、連携をとり、その都度話し合う。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	48	特になし。	特になし。	1.集団活動中・見守りあり	特になし。	特になし。	1.いつもどおりの様子であった	ジャングルジムが好きでいろいろな方向から登ったり下りたりして遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	複数の子ども達が同時に遊び始めたため、見れなくなり人数を減らしながら本児を見ていたが落下する瞬間に距離が届かず間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	砂場、園庭、草花等の遊びに分かれて職員がいた。	職員が異動し、園での遊具の約束、対象児の行動の把握ができていなかった。	遊具の約束を確認、保育士の位置確認を行った。	
517	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	19				7	5	7			1	1	17.5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	年長児男児。定型発達児。	事故予防研修は行っているので、職員もしっかりマニュアル通りに見守る事ができていた。一瞬でケガにつながる事になることを今一度周知していく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	365	鉄棒の下に衝撃吸収マットなどを敷いていない。	少人数で鉄棒はしていたが、まだ経験が浅い児童に対しては、個別についていきたいと思う。	1.集団活動中・見守りあり	雲梯・鉄棒を1人で見ていた。	鉄棒の時間、雲梯の時間と分けて遊ぶようにし、目をしっかり向けていきたい。また、フリー職員を配置し、鉄棒に1人、雲梯に1人の職員体制をとっていく。	1.いつもどおりの様子であった	雲梯と鉄棒でクラスの子どもたちと遊んでおり、前回りをしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	雲梯と鉄棒の時間を設け、雲梯の方に子どもが多くいたため、雲梯側にたち、本児に目を向け、次に雲梯の方に目を向ける。その時に落下した。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	クラスの子どもと遊んだり、他の遊具の見守り等をしていた。	1人で前回りをしていたが、転落の予想がつかなかった。	雲梯と鉄棒は体全身を使う運動なので、瞬間で危険も多い、遊び慣れていない児童に対しては、個別対応をしていく。	
518	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	36					16	20			4	4	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置		職員4名は、それぞれの遊び場に配置していたが、遊び場での子ども達との関わりになり、フリー（鬼ごっこ等）で遊んでいる園児の危険に気づくことができなかった。各遊び場の職員の立ち位置を見直し、職員間で声をかけ合っていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		定期的に点検をしているが、遊ぶ前に遊び場点検をし、遊びの環境を整備していく。	1.集団活動中・見守りあり	鬼ごっこで友達をつかまえることに夢中になり転倒したので要因はなし。	遊びに夢中になり体のバランスを崩し転倒となることもあるので、遊びの前後に子どもたちと話し合う場を設定し、危険のないように遊ぶにはどのように注意をしていくか等、考え・気づけるようにしていく。	1.いつもどおりの様子であった	健康面でもいつもと変りなく元気に遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	鬼ごっこに参加していることは確認していたが、転んだ場面は目視確認していなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	固定遊具や砂場等の各遊び場や個別対応の子どもに付き添っていた。		普段から遊びについて予測されるこどもの動きに、配慮しながら見守り、声かけをする。	
519	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	25				10	5	10			2	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左ひじ関節の骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	7	1.基準以上配置		遊具の使い方、遊び方を検討していく。	1.定期的に実施	12回/年	1.定期的に実施	1回/年	2.不定期に実施	12回/年		遊具を使用前にも点検を行っていく	1.集団活動中・見守りあり		異年齢で過ごす中で安全に遊べる環境を考えていく	1.いつもどおりの様子であった	ブランコが好きで日頃から他児と2人乗りをしていた。当日もよく一緒に乗っている友だちと2人乗りをしており、片手を離すことが危険だという認識が薄れていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	年長児はブランコの2人乗りを日頃から行っていたこともあり、保護者の対応の方に目を向けていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で他児のトラブルに対応していたため見ていなかった。		個別の対応に入る際は別の職員に声掛けをする等、必ず1人は全体を見ることができるよう、職員同士の連携を密にしていく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
520	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	68				31	37				5	5	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	右上Ａ打撲	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	子どもの発達状況を考慮し危険予知が十分にできなかった。	事故防止マニュアルの読み合わせを行い、安全保育の力を高める。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	ベンチが園庭の角にあったので子どもの突然の行動に対応できなかった。	ベンチの場所を変えて子どもが安全に遊べるようにした。	1.集団活動中・見守りあり	子どもの行動が予想外であり発達状況を考慮し危険予知が十分にできなかった。	子どもの行動特性について情報共有し、事故パターンを予想する。	1.いつもどおりの様子であった	対象児はかくれんぼをしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児から１ｍ程離れたところで対象児の様子を見ていたが、瞬時の出来事に事故を防ぐような動きがとれなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	長縄跳びや集団遊びで他児と遊んでおり見ていなかった。	対象児をＡ男が背中から押す行動を予想しなかった。	子どもの行動特性について情報共有し、事故パターンを予測する。	
521	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	17									2	2	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	特に問題はなかった。	園児の動きを常に把握し、危機意識を持つ。職員全員による事故予防研修を実施する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特に問題はなかった。	今後も危機管理意識をもって、安全に過ごせる環境面に気を配る。	1.集団活動中・見守りあり	絵本を交換するため、寝ころんで遊んでいた友達を跨いで本棚に行こうとした。	子どもの動きを予見して、安全に遊べる遊びの場の確保をする。	1.いつもどおりの様子であった	寝ころんでいた友達を跨ごうとした。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	一人は少し離れたところで見ていた。もう一人は他の子どもたちと一緒に遊んでいた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室には、担当保育士のみだった	寝ころんで遊んでいる子どもに声をかけ、座って遊ぶように促す。子どもの動きを予見し、安全な遊びの場を確保する。	可能な限り、危機が起こる前に予見し、安全管理・危機管理の視点に立って、子どもたちが安心して過ごせるように、また責任をもって保育していく。	
522	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	3	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	15		4	11						3	3	16.4歳	2.女児	片足を上げて座る癖がある。小柄である。	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の脱臼、外傷性歯牙亜脱臼、G・GA	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1　)回/年	2.基準配置	子どもに声をかけず、机を動かしてしまった。	職員会で、職員に共有し注意を促した。	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1　)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12　)回/年	子どもが不安定な姿勢でイスに座っていた。	職員会で、姿勢を正して座ることの重要性を確認した。机・イスの高さを低いものに変更した。	1.集団活動中・見守りあり	子どもの姿勢をよく見ずに、机を動かしてしまった。	丁寧に子どもを見る。職員会で、職員に共有し注意を促した。	1.いつもどおりの様子であった	当該児はいすに腰掛け、机の前に座っていた。左足は椅子の上で右足は降ろした状態で、両手を机につき前かがみの姿勢だった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	机を並べるため、側にいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	2名とも、自分の担当児の喫食のため自分の机の周りに注意を向けていた。机は保育士一人につき一台あり、そこに自分の担当児を座らせ喫食する。	机をずらすことで、手が外れて転倒すると思っていなかった。	職員会で、職員に共有し注意を促した。（丁寧にみて机の移動等の際は注意する。普段からお互いに声を掛け合う。）	
523	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	15									1	1	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	１人の保育者で見ていた。	外に出る時間を検討したり、保育者の人数を増やす。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	1		事故発生との関連性がなかった。	1.集団活動中・見守りあり	園庭に出た時間帯が夕方で疲れが出て集中力が切れやすかった。	静の遊び(砂場)や、職員が見きれる範囲内での遊びを取り入れる。	1.いつもどおりの様子であった	うんていで遊んでいる際、手を滑らせて落下。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児がうんていで遊んでいるところから少し離れた場所で、別の児童と関わっていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	少し離れたところで他児と関わりながら見守っている状況であった。		全体が見渡せる場所にいるようにし、遊び方を工夫する。必要に応じて人員を増やす。	
524	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	18									1	1	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指基節骨骨端線損傷	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(３　)回/年	2.基準配置	境内で鬼ごっこをしていた為、地面がアスファルトで硬かった。鬼ごっこに夢中になり、周りとの距離が近い中突発的に動いてしまった。	集団ができている際は、声をかけ周りと距離をとるよう声をかける。□	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	環境づくりが不足していた。	外に出る際は１名以上で保育士が細かな声がけや見守りができる環境を作る。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り、元気に鬼ごっこを楽しんでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	鬼ごっこをしている園児全体が見える位置取りをしていた。対象園児とは１０～２０ｍ程距離はあったが目視していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	クラスに残り汚物処理・消毒作業を行っていた。	子どもたちとのルール共有が不足していた。	まとまって逃げない。逃げる時は友達と距離を置いてぶつからないように逃げる。等の声がけやルール設定をする。	
525	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	5	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	33				10	11	12			3	3	17.5歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	子どもの主体性を尊重する中で、ある程度自由に遊ばせていた。	転倒のリスクがあることなど、二輪車を使用させる際の注意事項を再確認する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	2.不定期に実施	12	園庭に防球ネットが設置しており、少し手狭になっていた。	他の場所に防球ネットを移動した。	1.集団活動中・見守りあり	子どもの主体性を尊重する中で、ある程度自由に遊ばせていた。	朝夕の職員が手薄な時間には、職員が遊具を選定して遊んでもらうようにする。	1.いつもどおりの様子であった	年長児数名が二輪車で遊んでいて、そのうちの２名が衝突して１名が転倒した。	4.対象児の動きを見ていなかった	異年齢で園庭で過ごしていて、特に対象児を注視している訳ではなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	３才以上児と３歳未満児が別のエリアで遊んでいたため、それぞれの持ち場の園児を見守っていた。	登園した園児が順に遊びに加わっていく状況であり、また、自由に遊びを選択できる状況下での事故であった。	衝突を回避するような声掛けをしていく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
526	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	31				9	10	12			8	8	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	前歯（中切歯・側切歯）打撲	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	園内で危険個所やケガの報告等を随時行っているが、様々な活動時の危険予測について職員で検討すべきだった。	安全会議や活動内容検討時に安全面の検討を行う。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	遊戯室に3～5歳児のコットが積んである為、遊戯室を広々と使うことが出来なかった。	リトミックなど体を動かす活動で、尚且つクラスが合同で活動する際にはコットを廊下に出すなどして遊戯室を広く使えるようにする。	1.集団活動中・見守りあり	入ったばかりの新入園児がリトミックの動きを理解していない事を配慮しなかった。3クラス合同ということもあり、もっと遊戯室を広く使うべきであった。	新入園児が加わる時や新しい種目がある時は子どもの動きを予想し、配慮が必要な子どもには保育士がつく。また、遊戯室も広く使う。	1.いつもどおりの様子であった	ピアノの音に合わせ、走る、止まる、寝転がるなど体を動かしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	子どもの見本となるように子どもと一緒に体を動かしていた。前の週もリトミックをして問題なかったことから、プログラムも特に変更せず行ったが、新入園児の動きには配慮しきれていなかった。また、新入園だが活動に積極的に参加していることから、問題を感じていなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	子どもが内回りや逆回りをしないように要所に立ったり、動きの補助をしていた。しかし、新入園の動きを予想できなかった。	配慮が必要な子が複数いるため、新入園児の動きにまで気が回らなかった。	予想される子どもの動きを話し合い、参加する職員に周知し、必要な配慮をする。	
527	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	30			6	8	9	7			4	4	16.4歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	危険箇所に子どもはいなかったことや、付近の築山では2歳児数名遊んでいたが危険がないと認識、また、人数がいることで過信し雑務業務(玩具の片づけ等)を始めてしまったため危険箇所から目を離してしまった。	リスク要因の高い危険箇所の再確認をし、職員配置を徹底する。雑務等の業務は園児帰園後に行う。	1.定期的に実施	実施頻度(240)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(240)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった		4.対象児の動きを見ていなかった	遅番業務中、担任ではない職員が配置され、鉄棒横の築山にて本児と友達が仲良く遊んでいるところを確認。心配ないという状況だった為、他の園児の方へ見守りに行った。目を離した隙に気がつくと鉄棒付近にて本児が転倒しているところを発見した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	規程の人数以上の配置であったため、入室準備のため雑務（玩具等の片づけ）を付近の子どもたちと一緒に始めてしまい、危険箇所への見守りを怠った。	普段より危険箇所である鉄棒へは見守りを必ずするよう職員は意識し実践していたが、子どもがいなかったのでその場を離れてしまった。気がついた時には本児が転倒している形となってしまった。また、職員人数が減少する時間に合わせて雑務業務をこなそうとしてしまったことが要因と考えられる。	リスク要因の高い危険箇所の再確認をし、職員配置を徹底する。雑務等の業務は園児帰園後に行う。	
528	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	22									2	2	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	12	1.基準以上配置		職員間で事故について共有し、今後の事故防止について話し合った。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		凹凸部分がない場所のため、特別な改修等は考えていないが、これまで通り園庭整備を行う。	1.集団活動中・見守りあり		これまで通り年齢や人数に配慮し、安全に遊べるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	大型遊具の方から園庭中央に向かって走っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	事故の瞬間は見ていなかったが、遊んでいる様子は把握していた。後に防犯カメラで事故の様子を確認した。他児のトラブルの対応に１名、大型遊具付近にて見守り１名	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	クラス担任ではない職員が遊具付近で見守り		各大型遊具設置場所に１名以上の職員を配置する。	
529	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	21									2	2	17.5歳	2.女児	発生時の天候は晴れ、室内では子どもたちの間隔をあけて並び順番に跳び箱を跳ぶようにしていた。また、転倒の際に体を支えられるように保育者がそばについていた。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左中指基節骨骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	特になし	安全確保ができるよう人員配置ができていた。	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	特になし	安全を考慮し、室内用の跳び箱を使用し、安全確保をしていた。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	準備運動をし、怪我を未然に防ぐようにする。	1.いつもどおりの様子であった	運動会で跳び箱を跳んでみたいという子どもの希望を受け止め、跳び箱に取り組むことになった。	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	跳び箱を跳んだ時に転倒し怪我を防ぐよう跳び箱の着地付近に保育者が立っていた。子どもが跳ぶ際にどんな跳び方をしているか、手の位置はどこか、踏み切り台への着地について足の位置や踏み切りはできているか等、注意を払って補助をしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	自由遊び時であったため、跳び箱以外で遊んでいる子どもたちについていた。	特になし	跳び箱をしていくにあたり、手の位置や跳ぶタイミングなど再度個々に指導する。	

概要 / 発生時の施設・事業体制

No	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等
530	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	17					8	9			2	2
531	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	8									2	2
532	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	12			6	1	2	3	0		12	10
533	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	75				23	23	29			4	4
534	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	39				12	14	13			7	6

事故 / 事故状況

No	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	負傷 受傷部位	診断名	事故誘因
530	17. 5歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指中節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの
531	16. 4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	左上の乳前歯の歯根の破折	1.遊具等からの転落・落下
532	17. 5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下
533	17. 5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの
534	16. 4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨内側上顆骨折	1.遊具等からの転落・落下

事故発生の要因分析 ソフト面

No	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策
530	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	特記事項	ケガや危険の予測をし、事前の声掛けや遊びの内容を見直す。
531	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	遊具の対象年齢についての認識が甘かった	対象年齢を守り、子どもの発達に合わせた遊具や遊びの提供を行う
532	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	保育士は子どもの状況把握に努めるようにする。お迎えがあったとすぐ動かずに周囲を確認してから部屋に入る	新年度ということもあり、鉄棒あそびは時間を決めて遊ぶようにした。鉄棒の使い方の方法を聞く。子どもの状況（発達）を見て、手を支えたり保育士がそばにつく等確認をする。
533	1.あり	1.定期的に実施	18	1.基準以上配置	園庭に凹凸があったため足を取られた。子ども自身が怪我を回避できるように園庭に出る前に指導をしているが、危険回避の感覚を身に着けることと、実際の危険回避との線引きは難しいと感じる。	全職員への事故の詳細の周知、環境の整備、子どもが自身の行動について意識できるような事前、及び保育中の指導を行う。
534	2.なし	3.未実施		1.基準以上配置	すべての職員が全体の見守りをしているが、登園、所持品の始末をしている子がいたため、見守りの体制が通常時に比べて手薄となった。	職員会議や園内研修で、事故報告の情報を共有して、全職員の安全危機管理意識を高めていく。

事故発生の要因分析 ハード面

No	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策
530	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	36	1.定期的に実施	12	保育室内で行うには手狭で適切な空間が取れない遊びであったので、広いスペースのとれる遊戯室や園庭など適した場所で行うようにする。	園児用テーブルは仕切りとしては適していないので、テーブルの用途以外では使用しない。
531	2.不定期に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	50	太鼓橋は幼児対象のためバーの間隔が広い	太鼓橋にネットを張る
532	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	安全面のため鉄棒の下には、必ずマットを敷いていた。子どもの動きにあった保育士の立ち位置を考える。	保育士が見守って声をかけたり、そばにつくこと
533	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	園庭に凹凸があったため足を取られた。子ども自身が怪我を回避できるように園庭に出る前に指導をしているが、危険回避の感覚を身に着けることと、実際の危険回避との線引きは難しいと感じる。	園庭の凹凸について点検を行い、起伏が激しい箇所については平坦にするなどの対策をとる。
534	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	240	隣接する椿の木の枝が伸びていた。	隣接する椿の木の枝を切る。

事故発生の要因分析 環境面

No	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策
530	1.集団活動中・見守りあり	雨天だったので、戸外遊びが出来ず体力を発散させる遊びが出来なかった為やりすぎてしまったのではないか。	雨天でも身体を動かす遊びが安全に出来るように、遊戯室や広い安全なスペースで遊ぶ機会を作るようにする。
531	1.集団活動中・見守りあり	1人でやりたい本児の気持ちを予測せずに保育士がその場を離れた	危険が予測される場合には、子どもを安全な場所へ誘導する
532	1.集団活動中・見守りあり	状況把握、人数が少ないからと油断しない。	お互いの行動に声掛けをする。声をかけられた職員は、全体把握をする。
533	1.集団活動中・見守りあり	子どもが集団で園庭に出ている場合は速い動きをすることによる事故の確率が上がると考えられる。	園庭での自由遊びに際しては、子どもの人数、動き、年齢を見て遊びの種類を変えるような促しを行う。
534	1.集団活動中・見守りあり	前の週から裸足での水遊びを始める。固定遊具で遊ぶ際はズックを履くように伝えていたが、新しい流れが見についていなかった。	固定遊具で遊ぶ際は、必ずズックを履くことを徹底する。

事故発生の要因分析 人的面

No	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
530	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	雨天で戸外で遊ぶことが出来ず体力が有り余っていた。そのためいつも以上に活発に遊びに参加しており、気分が高揚して手加減が上手く出来なかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	遊びこんでいたため、近くでケガのないように様子を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	加配児で遊びになかなか入れない子がいたので担当児を見ていた。		戸外遊びのできない雨天の日はどのような遊びが適しているのかを考えて取り入れていく。	
531	1.いつもどおりの様子であった	1人でできる自信があり、保育士の戻ってくるまで待つことができなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	直前まで本児の対応をしていたが、他のこどものトラブルの仲裁をしていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子どもの対応をしていた	本児の動きを見ている保育士がいなかった	トラブルが発生した時点で、他の保育士に応援を頼む	
532	1.いつもどおりの様子であった	鉄棒ができるようになったことが嬉しくてみんなに見てもらっていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	落ちるのを止められなかったが、すぐに看護師、保育士が対応する	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	声をかけて子どもの様子を見る人、他の子どもを見る人、連絡をする人に分かれて対応をする。	入園式当日で、職員も子どもたちもいつものように流れがうまくいっていなかったのか、夕方の子どもの少ない時間帯の見守りを考え直す。	職員間の連携を見直す。お迎えに子どもたちも興奮したりするので、子どもにも声掛けの大切さと安全面の見守りを続ける。保護者との連絡の取り方の工夫をする。	
533	1.いつもどおりの様子であった	３歳以上児の午後保育の子どもたちが年齢に関係なく自分の好きな遊びをしている状況。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	保育者４人が園庭に間隔を置いて立つ。鉄棒、雲梯など危険性が高いと考えられる遊具には、特に近くでアドバイスをしながら見守っていた。対象児が泣き出して一番近くにいた職員が駆け寄って、子どもを職員室の方へ連れて行った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	こどもの泣き声で気づき、対象児のほうへ近づいて援助を行った。職員室にいた職員に渡したあとは、元のように園庭の見回りに戻った。	―	―	
534	1.いつもどおりの様子であった	裸足で泥遊び、水遊びをしていたが、友達に誘われて太鼓橋に向かう。椿の葉を取ろうとして足を滑らせ転落。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	泥水遊びのコーナーに配慮の必要な子がいたので、泥山コーナーから見守っていた。本児が裸足のまま太鼓橋に向かったことに気が付かなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育者それぞれが配慮を要する子について見守っていた。	本児が裸足であることに誰も気付かなかった。運動能力が高い子なので、遠くからの見守りで大丈夫だと思ってしまった。	総合遊具で遊ぶ際には必ずズックを履く（裸足、長靴は危険）の約束をする。総合遊具で遊ぶ際には必ず、職員がそばにつく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
535	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	24									3	3	16.4歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(5)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年 実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(96)回/年 実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	新年度で、子どもたち一人一人の動きの把握が十分にはできてない。	固定遊具を使用しているときには職員間で連携し目を離さないようにする。手を離さないなどのブランコの遊び方や、固定遊具の使い方を子どもたちと再確認する。	1.いつもどおりの様子であった	他児と一緒にブランコで遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ブランコで遊んでいる児を見守っていたが、他児に呼ばれその場を離れた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育士1名は怪我をした児に付き添い事務室にいた。保育士1名はジャングルジムの側で子どもを見守っていた。	ブランコで見守っていたが、場を離れてしまった。	他児と関わるため、ブランコや鉄棒の側から離れる時も保育士は全体を見渡せる位置に立つ。ブランコから離れる時には、他の保育士と連携し見守ることができるようにする。	
536	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	50				11	19	20			7	3	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	0～1	2.基準配置		危機管理意識を高めるための考察後の情報共有	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		遊具の位置の確認・安全点検	1.集団活動中・見守りあり		職員の立ち位置を考えながら、丁寧に見守り声をかけていく	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	室内から園庭に出てすぐということで、気持ちが高揚していた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	友だちと追いかけごっこをしている姿は見ていたが、砂場の方から見守っていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	太鼓橋のところにおり、本児が慌てて登った状況は把握したが、一瞬なことで阻止できなかった	鬼ごっこの時は遊具に乗らないというルールはあったが、気持ちの高まりもあり登ってしまった。	遊び方を見直し、ルールを子どもたちと再確認するとともに、職員の立ち位置や視界の確保など職員の配置を検討する	
537	令和6年3月27日	1.認可	3.保育所型認定こども園	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	3									3	3	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置		特になし。事故があった時間は職員3名、園児15名で基準は満たしている	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/月	踏み台になる物(積木)を自分で持ってきて棚に登り、マットのない所へとんだ	低めのとび箱と登って遊べるカラーボックスを常設し、そばにはマットを敷いた	1.集団活動中・見守りあり	声かけだけでは降りなかったので一人ずつ降ろしていた。対象児はその間にジャンプした	登りそうになる前に声をかけ止めるようにする	1.いつもどおりの様子であった	外遊びの延長で入室後も落ち着いた遊びができていなかった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	棚に登っている複数の園児に気づき、声をかけ順番に降ろそうとしていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	排泄室に1名、2mほど離れたままごとコーナーに1名の職員がいた	棚に登る行為は危険であることを声掛けで促していたが、気付いた時にすぐ降ろせば飛び降りることはなかった	職員同士で連携し、棚に登る前に止めるようにする。踏み台になる遊具を棚の近くに置いた際は動きを見て、判断する	
538	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	21									3	2	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	園庭の草や砂で滑ることによる転倒、鬼ごっこでの追いかけっこ	改めて重大事故防止マニュアルの確認を行い、職員一人ひとりが内容を熟知する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施		雨上がりでいつもより園庭が滑りやすかった。	定期的な点検を行い、不備が見つかった場合は修繕を行い改善する。	1.集団活動中・見守りあり	滑りやすかった。	園庭の定期的な除草や整地。活動の見守りのなかで、子どもの動きの予測等安全に配慮する。	1.いつもどおりの様子であった	楽しみな活動だったので意欲的に走り、転倒後もすぐに走り出し活動に参加する。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	全体の活動を見守っていた。すぐそばに走ってきて転倒したので声をかけたが、すぐに活動にもどり走りだした。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児の動きを見ており、側に走ってきて痛みを訴えて座り込んだ際に声をかけた。		個々の状態を把握し、行動の予測を行ったり、ケガの際の適切な処置ができる様に実践する。	
539	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	19					11	8			4	4	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨折・骨嚢腫	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	熱中症や誤嚥など看護師目線での研修の機会はあるが、職員の立ち位置や動きについての研修は特にされていなかった事。	職員の立ち位置や動きに問題があった「ヒヤリハット」を用いた研修を行っていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	日除けテントのヒモが垂れ下がっていた事。	園庭に出た時に1人が全体に危険のない物がないか確認し、活動の途中でその場から離れる事がないようにする。	1.集団活動中・見守りあり	4歳児という事と園児の人数も少なかった事もあり危機感が薄れていたと思われる。	少ない人数だからこそ1人1人の保育教諭が危機感を持ち、4歳という子どもの特性（何でもできるようになり子どもの発想から危険な行動をとる事もある）を理解し保育にあたるよう周知していく。子ども達にも事故のことを話し注意を促していく。	1.いつもどおりの様子であった	柵につかまりながら50センチほどの高さの水道に登った	4.対象児の動きを見ていなかった	テントから垂れ下がっていたヒモを他児が指に巻きつけていたので危険に思い、切る為に室内にハサミを取りに行っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	機嫌の悪い他児を抱いて関わっていた	園庭に２名の保育教諭がいたが、１名がその場を離れる際にはその事をもう１名に伝えていかなかった事。	保育教諭が自分の持ち場を離れる時はその事を他の保育教諭に伝え、全体を見てもらうようにする。	
540	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	38									5	5	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首剥離骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	10	1.基準以上配置		職員会議、幼児ミーティングで事象の振り返りをし、指導の改善を図る。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		ハード面に関わる事象ではなかった。	1.集団活動中・見守りあり		職員が一人一人に目を配ることができる配置を工夫する。	1.いつもどおりの様子であった	友だちが走っている本児を抱きかかえた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	児童の見守りをしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	児童の見守りをしていた。		友だちを抱きかかえる行動について気をつけるよう指導を行う。	

No	初回掲載年月日	概要：認可・認可外	概要：施設・事業所種別	事故発生時：月	事故発生時：時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制：発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳：0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故：年齢	性別	特記事項	事故状況：発生時状	事故の転帰	死亡：死因	負傷：負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面：マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面：施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面：教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面：対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
541	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	22	2	3	4	5	4	4			2	2	18.6歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	大尺骨骨間部骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	3	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	人数に対し、靴取りの枠が少し小さく、衝突に繋がってしまったのではないかと考えられる。	靴取りの枠を人数に適した大きさにし、環境を整えていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りであった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児から離れた場所で他児と遊んでいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	本児の動きを見ていなかった。	その場に保育者が居らず、怪我に気づくことが出来なかった。	本児の特性から、傍で遊びを見守ることが必要であったため、保育者の配置を適切に行う。	
542	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	3									3	3	15.3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨通顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(10)回/年	1.基準以上配置	入室への切り替え時で子どもが焦ってしまったか、後に食事が控えていたため、気持ちが浮足立ってしまったかもしれない。	入室時に子どもの気持ちを焦らせることなく、落ち着いて保育室に向かうことができるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	地面に気付かないくらいの傾斜があったのかもしれない。	地面に凹凸がある際はトンボをかけて平らにしているが、気付いた人がいたら声に出してもらい、習慣化していく。	1.集団活動中・見守りあり	直前まで本児は追いかけっこをしていたので、気分が高揚していたのと、お腹が空いて食事を早く食べたくて、気持ちが急いだのかもしれない。	急がず落ち着いて入室できるよう、保育者が言葉かけをする。	1.いつもどおりの様子であった	直前まで、仲良しの友達と追いかけっこをしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	職員は入室への切り替え時だったため、室内、戸外、テラスと三か所に分かれて子どもについていた。事故前後の対象児の動きは把握していたが、一人は最後の子どもと砂場の片付け、一人は入室した子どものトイレの見守りをしていたため、事故発生の瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	テラスにいた入室担当の保育士が事故発生後に気付き、担任に報告した。	追いかけっこの延長気分で高揚していたのに、それに対しての言葉かけをしなかったせいかもしれない。	場面の切り替え時は子どもは気が緩み、保育者は慌ただしい時なので、意識しながら保育をする。	
543	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	57				17	24	16			6	6	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足関節外果裂離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置		ブランコの乗り方は日頃から指導しており、当日も危険な乗り方降り方をしたわけではなく、職員の配置にも問題がなかったため、改善点は見いだせなかった。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	3	2.不定期に実施			安全点検は上記の通り実施しており、当日もブランコや着地面に不備はなかったため改善点は見いだせなかった。	3.個人活動中・見守りあり		園庭全体に子ども達が分散して遊んでおり、特に混雑して遊んでいる様子はなかった。ブランコからも自分の意志で普通の降り方で降りたため、改善点は見いだせなかった。	1.いつもどおりの様子であった		4.対象児の動きを見ていなかった	6人の職員が園庭の各場所に配置され、ブランコの近くにいたものの足をひねった場面は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	6人の職員が園庭の各場所に配置され、ブランコの近くにいたものの足をひねった場面は見ていなかった。		職員の配置も遊具ごとに分散していたが、たまたまその場面を職員が見ていなかった。自分で足をひねったことが原因だったので、見ていたからと言って防げる事故ではなかったと考えるが、職員配置を今一度考え、今以上に子ども達の活動の様子全体を見守っていくように努めていく。	
544	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	41					19	22			3	3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨端線離開	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	5	1.基準以上配置		事故の原因等についてヒヤリハット・事故報告等で職員間で情報共有する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		運動玩具の点検を継続し、使用に際しては年齢に適したものを利用するように職員間で共有する。	1.集団活動中・見守りあり		異年齢での活動の際には職員間で遊びの内容を共有するなど、事故防止に努める。	1.いつもどおりの様子であった	迎えまでの時間を園庭で竹馬の練習をして待っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	異年齢児での自ら選んだ遊びの活動中で、竹馬の練習を行っている該当児の近くで保育教諭が様子を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭全体で3歳以上児が遊んでいたため、遊びの状況に合わせて異動しながら遊びの見守りを行っていた。		園庭遊びの見守りの際の保育者の動きや園児の動きに合わせた見守り方について再度職員間で研修する。	
545	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	73				17	29	27			9	9	15.3歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨のひび	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	異年齢交流のため、園児の動きが予測しきれていなかった。	職員全体で、築山のあらゆる事故を想定し直し、遊び方の再検討をして年齢ごとのルールを再確認し、保育教諭が必ず横について遊ぶように話し合った。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	幅広い年齢に対応できる築山にしたため、自分で遊びを工夫して楽しむ遊具になっていたが、あらゆる事故を予測し、発達段階に応じたクラス毎ルールを細かく決めていないと安全な遊びにならないことがある。	遊ぶ前には、子どもたちとルールの確認をし、保育教諭が必ず横について遊ぶようにする。	1.集団活動中・見守りあり	横について見守っていた保育教諭が5歳児担当であり、園児の担任でなかったため、姉と同じ遊び方をすることを予測しきれていなかった。	園児への説明を徹底し、けがをしない遊び方を自分で身に付けるよう指導する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	姉と一緒に遊んでいたため、うれしくて様々な遊び方を試していた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他の園児の遊びを危険のないように横について見守っていたため。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園庭で他の遊具で遊んでいる園児の横について事故防止を図っていた。	保護者対応をしていたため、3歳児の保育教諭の人数が十分に足りていなかった。	3歳児の保育教諭の人数が十分に揃ってから園庭に出るようにする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
546	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	3	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	77				24	24	29			3	3	15. 3歳	1. 男児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左橈尺骨遠位端骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	4	2. 基準配置	特になし。	所庭で保育をする際に保育者の立ち位置を確認し、共通理解する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	所庭にボール使用に適さない斜面がある。	所庭が緩やかに斜めになっているところではボールを使用しない。	1. 集団活動中・見守りあり	特になし	職員数と遊びのコーナーの数を適正にする。	1. いつもどおりの様子であった	ボールが転がったので追いかけていた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	数人がボール遊びをしていたのでその場所にいた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児と遊んだり、保護者対応をしていた	特になし。	ボールを走りながら蹴るのではなく止まった状態で蹴るように指導をする。	
547	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	4	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	32				18	10	4			7	6	16. 4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右脛骨遠位骨端線損傷 右脛骨骨幹部骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	３～５歳児の保育士が園庭の使い方について話し合い、共通理解しながら職員配置や援助を日々行っている。事故発生時もジャングルジムの側と隣の色水遊びのコーナーに職員がいたが、瞬間を見ることができていなかったのは、ジャングルジムを含めた周辺の子ども達のことを見ていたためであり、ジャングルジムに対しての安全面の意識が低かったと振り返る。	ブランコ・滑り台・雲梯・ジャングルジム等、危険が予測される遊具には、専用に職員がつくことができるように考えることと、安全面について意識を高く持って子どもを見守り援助することを共通認識した。	1. 定期的に実施	実施頻度(約４８)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(約４８)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(約２４０)回/年	遊具や設備に不備はなかったと考える。	日々の点検を継続し、不備が見つかった場合は使用を止め、修繕など適切な対応を行う。	3. 個人活動中・見守りあり	４歳児ということもあり、自分でできることも多くなってきているが、危険に対する対応はまだまだ難しいと考える。急いで降りようとして足を掛けそびれ落下に繋がったことからも、側に保育士がついて本児が安全面に配慮しながら降りられるように言葉がけや見守りの援助が必要だった。	友だちと一緒に遊ぶ中で急ぐことはあるが、そんな時でもジャングルジムから降りる時には足場を確認することや、気をつけて降りることなどを保育の中で適時に伝えていくことを積み重ねたり、クラス全体で確認できる機会を意識して行ったりしていく。	1. いつもどおりの様子であった	ジャングルジムに３人で上がった後、先に降りた友だちを追って急いで降りようとしていたところであった。足場があると思っていたのにない箇所だったので急な対応が出来ず手も放してしまい落下したと考える。	4. 対象児の動きを見ていなかった	ジャングルジムの側にはいたが本児の側にははおらず、また近くの色水あそびの子どもの様子等も見ていたため本児が落下した瞬間を見ることができていなかった。発生後直ぐの対応はできたが、事故を未然に防ぐための援助や発生時に助けるための手立てが出来なかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの保育士が園庭の様々な場所で、子どもの安全を見守ったり、一緒に遊んで楽しさを共有したりしていたため、本児の落下は見ていなかった。	ジャングルジムは高くまで上ることが出来る遊具である分、危険が考えられる。子どもが利用している時に保育者がジャングルジムだけに注目して見守ることができていれば、本児に言葉をかけること等ができ未然に防ぐことに繋がったのではないかと考える。	他の子どもに求められるとジャングルジム以外に目を向けたり、その場を離れなければならない場合が出てくる。その時には職員同士で声を掛け合い、代わりに誰かがジャングルジムにつくように人的環境を整えなければならないと考える。	
548	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	8	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	14									3	3	16. 4歳	1. 男児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右環指末節骨骨折	4. 玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	水着に着替える前で排泄を見る担任と着替えを見る担任に分かれていた。	押し入れに手を挟まないように、ガードを付け、声を掛け合うようにした。	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	子どもの力で簡単に戸が開閉できる状態だった。	押し入れの戸が完全に閉まらないよう（隙間のあくように）対策した。	1. 集団活動中・見守りあり	ガラス戸は気を付けて声をかけて注意していたが、押し入れの戸については伝えていなかった。	子どもたちに対しても危険なのでとの開閉はしないことなど約束をした。	1. いつもどおりの様子であった	プール準備中で着替えが後、手持ちぶさたとなり戸を開閉していた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	他児の着替えの援助をしていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の援助・排泄に行っている子の援助をしていた。	水着への着脱・プール準備・排泄の補助等でバタバタし、目を離していた。	生活の節目であっても、子どもたちから目を離さないよう徹底した。	
549	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	3	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	22									18	18	18. 6歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左腕の骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	3. 未実施	実施頻度( )回/年	2. 基準配置	マニュアルの更新も含め事故防止の為に努めていきたい。	見守りの強化、事故防止マニュアルの徹底を行う。	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(6)回/年	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守りあり	見守り方の不備を改善できるように努める。	落ち着きをもって過ごせるようにする。	1. いつもどおりの様子であった	日頃と変わらない様子で元気で過ごしていた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	担当職員のすぐ近くでこけた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は他の園児を対応していいたため近くにはいなかった。	1人の職員で見守りをしていたことが要因。	1人の職員で見守らず2人以上で見守りができるように職員の動きを考える。	
550	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	5	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	49				16	17	16			5	5	16. 4歳	2. 女児	曇り	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	両肩関節打撲傷 左鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	2. なし	3. 未実施		1. 基準以上配置	特になし	事故予防に関する研修等を今後受けていく方が良いと思う。	2. 不定期に実施	6	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施	12	園庭が乾いていたので、カーブは滑りやすかったかもしれない。地面が滑りやすい時には散水を行うが、この時は散水をしていなかった。	園庭の状況によっては、まめに散水を行うようにする。	1. 集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1. いつもどおりの様子であった	スタートラインより元気に走り出していた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	かけっこのスタートラインの近くでスタートの合図の笛を鳴らしながら、走る姿を見ていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他のクラスの子どもを見ながら、走っている子を応援していた。	特になし	特になし	
551	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	1	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	31			11	7	7	6			2	2	16. 4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	2. 顔面(口腔内含む)	眼窩底骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	3. 基準以下	職員が動く際に、配置の見直し・人員補充ができていなかった。	室内にいる職員に声をかけ、職員配置を整えてから屋内へ戻るようにする。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3. 未実施	実施頻度( )回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(48)回/年	遊具がなく、見通しが良いため、子どもたちが勢いよく走る。	グランドラインを引くこと、三角コーンを立てることで鬼ごっこで走る範囲をわかりやすく知らせる。また、人数や遊びの内容に応じて園庭をコーナー分けし、広いスペースを確保する。	1. 集団活動中・見守りあり	危険物がないか見回った後、子どもたちとルールの確認をして遊びを始めている。子ども同士での衝突やトラブルについての注意が促せていない。	グランドラインを引き、走って遊ぶ範囲を分かりやすくするとともに、線や逃げる範囲を意識したゲーム（田んぼの田、ドロケイなど）を取り入れる。	1. いつもどおりの様子であった	鬼ごっこを気に入る子が多く、園庭でいつも遊んでいる。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	鬼ごっこコーナーの近くで、全体を見渡せるように立って見ていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	砂場の近くで、玩具を使って遊ぶ園児を見ていた。	特になし	園庭へ出た際には職員の立ち位置等を確認し合う。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
552	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	22									1	1	17.5歳	2.女児		8.その他	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	鼻骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	8	2.基準配置	ヒヤリハットの意識の低下。	階段の昇降時の留意点を、職員・子ども共に意識を高める。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	階段は濡れていなかった。淵が尖っていなかった事で傷はなかった。	ヒヤリハットの意識をさらに高める。	7.その他	見守り・声掛け。	日頃からの階段の上り下りの際の留意点を子どもたちと共有しておく。1階へ降りた子どもへの見守り、声掛け。	1.いつもどおりの様子であった	変わらずいつも通り過ごしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	おやつ後、残っていた本児の荷物に気づき、一人で1階へ持って行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員はいなかった。	見守り・声掛け	日頃からの階段の上り下りの際の留意点を子どもたちと共有しておく。1階へ降りた子どもへの見守り、声掛け。	
553	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	26		17	9						7	7	13.1歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	4.上肢(腕・手・手指)	右示指挫滅創	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	1.定期的に実施	14	1.基準以上配置	特になし。	ヒヤリハット委員会の際に、全職員でマニュアルの再確認を行った。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし。	器具の安全な使用について、子どもが園庭で遊んでいるときには、絶対に移動させない。	1.集団活動中・見守りあり	晴れていたので日陰を作るために、子どもが遊んでいる中で、広げていたパラソルを動かした。	常に声を掛け合い、子どもの安全を確認する。	1.いつもどおりの様子であった	パラソル付近で砂場玩具を持って遊ぼうとしていた。普段はずさないパラソルのネジが外れ、いつもと違うことに興味を持ち近づいたと思われる。	4.対象児の動きを見ていなかった	子どもが遊んでいるところに日陰を作るために、近くに子どもがいないことを確認しパラソルを動かそうとしたが、背後から近づいてきていた本児に気付かなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	砂場遊びと蝶々の観察をしていた他児の対応をしていたため、本児がパラソルに近づいたことに気付かなかった。	いないだろう。見てくれているだろう。大丈夫だろう。と思い込んでの行動。	一人だけの思い込みはやめ、必ず職員同士で声を掛け合い行動する。	
554	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	12									11	11	18.6歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左腓骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	腫れがなくても、痛みが続く場合は病院を受診する。	子どもたちに起きやすい骨折、怪我など把握しておく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	園庭の滑りやすさなどを確認しておく。	砂場の砂で、走ったとき滑りやすくなることもあるので、朝庭を掃くとき、確認しながら掃く。	1.集団活動中・見守りあり	9：30～10：50まで室内で活動し、11時から園庭に出て鬼ごっこをする。椅子に座ってする活動から走り回る活動へ移行する。	ストレッチをするなど、動く前に心も身体も準備をする。	1.いつもどおりの様子であった	7：10登園。9：30から10：50迄文字指導に参加する。その後園庭に出てしっぽとりをする。タッチされて鬼になり、友だちを追いかけた時転んで足を捻ったという。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	一緒に走ってしっぽとりをしており、本児の泣き声で転倒に気が付く。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	前の保育の片付けをしており、室内にいる。	園庭にはすべり台等の遊具があり、追いかけっこは転倒しやすい。	広い場所で活動する。	
555	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	16		1	4	5	3	3			6	5	18.6歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施		2.基準配置		様々なケースを想定した事故に対応できるよう研修を実施する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	2.不定期に実施	随時		標準装備の転落防止柵はあるので、施設・整備等での改善策は考えていない。	7.その他	他の保護者にジャンプしようとする自分を見て欲しくて、気分が高ぶっていた。	園児と再度正しい遊具の使い方を確認する。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと同様であった。	4.対象児の動きを見ていなかった	保育外	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育外	園児には妹（２歳児）がおり別保育室で保育していた。母親は妹を迎えにいっており、保護者の目が行き届いていなかった。	兄弟別々で保育をしているご家庭への引き渡しには、時間を要するので、引き渡した後も該当家庭には気を配る。	
556	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	22									3	3	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	担任が子どもの動きを把握しきれなかった。	活動と活動の間の時間に一人一人の子どもの様子が把握できるよう保育者を配置する。外傷後止血困難な持病がある子どものケガの防ぎ方を話し合い、職員間で周知する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	ホール、保育室の2つの空間に園児が分散していた。	広い場所での遊び方を子ども、職員と一緒に考えていく。	1.集団活動中・見守りあり	相撲をしている友達をみていると楽しくなり、遊びに入って行った。	遊び方を知らせながら年齢の発達に応じた遊びの提供。	1.いつもどおりの様子であった	相撲をしている友達の中に入って行った。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ホールにて担任が全体を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児と一緒に遊んでいた。	クラスに保育者が3人いることで、安心し、危険認知の甘さがあった。	子どもの行動を注意深く見て保育者同士の声掛け連携を強める。	
557	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	33				11	11	11			5	5	16.4歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	高いところから飛ぶ危険認知がまだ年中４歳児には難しく、予想しながらの職員の声かけや確認がさらに必要	職員会で再度共有し,日々の保育の中でヒヤリハット意識を持って場面ごとに職員で協力し合って子どもの保育に関わっていく	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	高い場所（畑との敷居）の場所が死角になりやすい場所	園庭にでている場合は，担任だけでなく園の職員全体で気がけて見ていく	1.集団活動中・見守りあり	年齢的にチャレンジしたいが危険認知がまだ不十分な為	意欲を大事にしながら危険な遊び方等を，繰り返し子ども達に伝え，一緒に考えていく	1.いつもどおりの様子であった	好きな遊びを自分で見つけ，いつもどおり元気に遊び過ごす	4.対象児の動きを見ていなかった	自由に園庭で遊ぶ場面の中、全体の子どもを見ながら過ごしていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	自由に園庭で遊ぶ場面の中、全体の子どもを見ながら過ごしていた	その場面の近くに職員が離れていたとこだった	死角にあたる場所でもある為，職員全体でその場面や場所の様子を見ていく	

No	初回掲載年月日	概要・認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時・月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制・発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳・0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故・年齢	性別	特記事項	事故状況・発生時状	事故の転帰	死亡・死因	負傷・負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析・ソフト面・マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面・施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面・教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面・対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
558	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	3	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	80			16	22	24	18			10	9	17.5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘頭骨棘、左手関節部打撲傷	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施		2.基準配置	日頃から本児は雲梯や太鼓橋で遊ぶことがなく、遊び方に慣れておらず危険を伴う遊び方になったのではないかと考えられる。	子どもの動きや遊び方に注意しながら子どもにも知らせたり、高さのある固定遊具では保育者が十分に見守るようにしていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	引き続き雲梯や太鼓橋、鉄棒などの下にはマットを敷き配慮していく	3.個人活動中・見守りあり	日頃から本児は雲梯や太鼓橋で遊ぶことがなく、遊び方に慣れておらず危険を伴う遊び方になったのではないかと考えられる。	高さのある遊具の下にはマットを敷いたり、保育者が近くで見守るようにしていく	1.いつもどおりの様子であった	普段、雲梯で頻繁に遊ぶ方ではないが、時々雲梯から飛ぶようなことはしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	園庭にはいたが、雲梯とは離れた場所で、別の子どもと遊んでいた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	近くでは見ていたが、手を差し伸べて届く距離ではなかった。	危険な動きに繋がる行動への予測が十分にできていなかった	危険な動きやその子どもにとって無理のある動きや遊び方に注意し、子どもに知らせたり見守りを強化したりしていく	
559	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	9				3	3	3			2	1	17.5歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	5.下肢(足・足指)	爪剥離症表在性皮膚感染症爪甲変形症	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度( )回/年	1.基準以上配置	特になし	見守りの対応を職員で検討した	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	該当なし	該当なし	1.集団活動中・見守りあり	トイレの入り口の近くにピアノを置いていて、他の職員からトイレに行く子どもの姿が見えにくい状況だった。	柱にコーナークッションを設置した。トイレの入り口のピアノを移動した。	1.いつもどおりの様子であった	特になし	4.対象児の動きを見ていなかった	職員はトイレにおり、トイレにいる子と部屋からトイレにくる子どもたちの様子を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は、部屋に居て他の子ども達の動きを見ていた。	トイレに行く子どもの動きを、部屋に居る保育士も出来るだけ見るように気をつけたら良かった。	子どもの動きによって、保育士も出来るだけ移動し、細かな子どもの動きを把握する。	
560	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	9		1	1	3	1	3			4	4	17.5歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	遊具の正しい使い方・遊び方の説明が足りなかった。	職員間でも共通認識をしておく。遊具の固定のチェックをする。子どもたちには年に数回話をする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	48	雲梯の近くには遊具を置かない	遊具の安全点検を複数の職員で行う	7.その他	降園中などに見守りが行き届かなかった	園庭全体に目が行き届くように保育するよう徹底する	1.いつもどおりの様子であった	居残り中に同年齢の子どもと遊ぶ中で雲梯近くに高さ30センチぐらいの遊具をもってきて飛び移ろうとしていて落下した。	4.対象児の動きを見ていなかった	降園する園児の保護者と話をしていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	少し離れた園庭で遊んでいた子どもを保育していた。	いつもは遊具を動かさないように話しているが注意喚起できなかった。	危険がないように職員会で話し合いを重ねて安全配慮を徹底する	
561	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	5	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	3				1	1	1			3	3	17.5歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首若木骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	行事の集合時間に合わせての職員の配置が整っていなかった。	行事当日の職員の役割分担を再度確認する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	安全点検は定期的に実施していても使い方によっての危険性は考えられる。	安全性の確認と使い方の指導	3.個人活動中・見守りあり	園庭を開放していたにもかかわらず職員配置がされていなかった。また、遊具で遊ぶことについての注意（使用しない等）を行わなかった。	遠足の出発前には、園庭の遊具で遊ばないようにする。事前に園児と保護者に伝える。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りにみえたが行事（遠足）で、うれしくて気持ちが高ぶっていたかもしれなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	集合時間前で、園内で行事の準備を行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当保育士同様に園内で行事の準備を行っていた	園児が園庭に入った時点での見守りができていなかった。	園児が一人でも集合した時点で職員も園庭にでて見守りを行う。	
562	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	5	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	56				19	20	17			5	5	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	本児を押してしまった園児はADHDの疑いがあり、申請に向けて進めているが、その子の衝動的行動を止めることができなかった。	合同保育の中で衝動的な行動がみられるため、職員間で共有し、再発防止に努める。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	築山上に柵は設置できないため、後ろから押されると転落する危険性が高い。	事故防止の観点から園庭の築山付近には人工芝を設置しているが、それに加えて保育士の立ち位置の確認や情報共有を強化し、未然に防げるよう努めたい。	1.集団活動中・見守りあり	築山での活動の様子を見守ってはいたが、未然に防ぐことができなかった。	あらゆる危険を予測し、常に安全に気を配りながら保育にあたるよう職員で再確認する。ヒヤリハット事例として事故防止委員会に共有し、子どもたちが安全に遊べるよう努める。	1.いつもどおりの様子であった	築山付近や砂場付近で虫探しをしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	築山付近で、対象児やその付近で遊ぶ子どもの様子をみていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの場所で子どもを見守りながら、保育していた。	築山の際の部分で遊ぶことは転落の危険もあるということを、園児たちに事前に伝えていなかった。	あらゆる危険を予測し、常に安全に気を配りながら保育にあたるよう職員で再確認する。	
563	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	49									4	4	15.3歳	1.男児	特になし	5.食事中(おやつ含む)	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	刺創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2～3	2.基準配置		定期的に保育環境を点検する。登園前毎日確認をさらに強化する。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施		点検の項目が遊具中心であったため、保育室・廊下等身近な環境の点検が不足していた。	全クラスのロッカーを確認点検し、名札入れのケースを取り外し、名前のみ直接テープで貼った。園舎内の1階、2階の廊下と1階の保育室・多目的ホールにカメラを設置するため業者に依頼した。	1.集団活動中・見守りあり	廊下にあるロッカーにカバンをしまうことは子どもがそれぞれ一人で行っていた。	職員配置を再度検討し、常に危険個所や破損等がないか点検をさらに強化する。	1.いつもどおりの様子であった	特に変わった様子はなく、落ち着いていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	給食後の片付けの時間帯に起きたけがで、それぞれの子どものペースで行動していた。担任は保育室内にいる子どもの給食の介助中だった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの保育室内で保育中であった。	廊下での行動の見守りがなく、確実な原因の特定が難しい状況になってしまった。	保育補助の職員の動きを確認し、職員で連携をとる。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
564	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	12				4	4	4			2	2	17.5歳	2.女児	無し	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	橈骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	無し	定期的に予測される危険について話し合う。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	毎	1.定期的に実施	毎	近くの公園の遊具について、どんな遊具があり、どんな危険性が考えられるのか保育士間で周知する。	公園の遊具は使用前に必ず点検をする。	1.集団活動中・見守りあり	園児に遊ぶ場所を移動するときの約束を伝えていなかった。	広場から遊具へと移動する際は保育士に伝えるよう園児に伝える。	1.いつもどおりの様子であった	本児が滑り台のアーチ型の階段を登っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	始めは滑り台と広場に配置していたが、園児全員が広場に行ったため保育士も広場へ行った。しばらくすると数名が滑り台に戻ったため、保育士が向かっている途中だった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	広場の園児たちの見守りをしていたため気づかなかった。	本児が「やめて」と他児に言っていたが再度押された。	保育士がそばにいて声掛けできるように一緒に移動するようにしていく。	
565	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	61					29	32			3	3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	環軸頸椎亜脱臼	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	6	2.基準配置	4・5歳児(3クラス)同時に戸外遊びをした際、各固定遊具に保育士を配置する方法ではなく、コーナー遊びを想定しての保育士配置をした為に見守り範囲が広くなってしまい、危険行為に対して制止することができなかった。	可能な限りの職員増員配置や使用できる固定遊具を限定するなどより見守りが充実するようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	2.不定期に実施	随時	特記なし	待機場所とブランコまでの距離を考慮し、安全に遊べるような待機場所の位置や交代する時の動線について確認し約束事を検討。職員に周知した。	1.集団活動中・見守りあり	特記なし	ブランコ付近で遊ぶ時の安全な遊び方や約束、順番を待つ場所や柵の意図、危険行為について子どもたちと確認をした。	1.いつもどおりの様子であった	いつも対象児と遊んでいる友だちがブランコに乗り少し離れた所にいた対象児を呼び寄せ、呼ばれた対象児はブランコを囲むタイヤ内にはいってしまい、ブランコを漕いでいた他児と接触した。	4.対象児の動きを見ていなかった	ブランコ付近ではないところで子ども達を見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	ブランコと登り棒を一緒に見ていた。対象児は接触時に転倒することがなくそのままジャングルジム付近にいた担当保育士の方に向かったため、様子をみてその後担当の方へ状況を伝えた。	特記なし	職員の協力体制の見直しを行い、子どもの遊びの様子や状況に合わせて声を掛け合い臨機応変に対応できる職員体制がとれるよう周知した。	
566	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	20					11	9			4	3	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	特になし	保育士の立ち位置の確認をする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	園庭の安全点検をする。	3.個人活動中・見守りあり	走れるスペースの確保はしていた	園庭整備をする。	1.いつもどおりの様子であった	戸外で走り縄跳びをしていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭全体を見守っていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	個別に子どもたちに関わっていた	左ひじの痛みを訴えたのが数時間後だったため、気づきが遅れた	けがの原因となる事故の後は速やかに職員間で情報の共有をし、一日様子をみて本児の様子の変化に十分に気を配る。	
567	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	52				21	14	17			6	6	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	橈骨遠位端骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置		特になし	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		特になし	1.集団活動中・見守りあり		特になし	1.いつもどおりの様子であった	天気も良く園庭で活動していた。仲の良い友だちとごっこ遊びを楽しんでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	園庭には職員を配置していたが、対象児を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭の各コーナーで職員は配置し対象児を見ていたが、怪我の発生時は見ていなかった。	保育基準は揃っていたが、滑り台の活動の様子を把握し声掛けができていなかった。	園庭で過ごす時は、保育教諭の配置を考え全体を見て、活動によっては声掛けをしていく。	
568	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	44	0	0	8	13	11	12			10	10	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	口唇裂傷・ALA外傷性歯の脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度( )回/年	1.基準以上配置	急いで階段を上がっていた時に足を踏み外した。	急いで上がっている様子が見られた時は、声をかけて落ちついて階段を上がれるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	登園時より変わった様子は見られず、好きな遊びを楽しんでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭に出て、他児とあそびながら本児を含めた園児の様子を見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園庭に出て他児と関わって遊んでいるときに、本児の様子も見ていた。	急いではしごを登り、バランスを崩して歯をぶつける	急いでいる様子が見られたときに、声をかけ落ち着かせる	
569	令和6年3月27日	1.認可	7.小規模保育事業	3	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	4.3歳児クラス	8									3	3	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	脛骨(左足)ひび	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	園外保育時の怪我対応マニュアルはあるが、遊具の使用に関する安全マニュアルはなかった。	園外保育で利用する公園の遊具を確認し、子どもたちが怪我をするリスクを考え、職員全員に周知する。	3.未実施	実施頻度( )回/年	2.不定期に実施	実施頻度(10)回/年	3.未実施	実施頻度( )回/年		公園の遊具を利用する際は、危険がないか確認してから使用する。	1.集団活動中・見守りあり		年齢差がある子どもがドームで遊んでいる時はドーム上で座って待機させるのではなく、ドームから降ろして待機させる。	1.いつもどおりの様子であった	遊具に座っていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児が座っていたので、そばでみていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園児が全員で8名いて、それぞれ2，3名ずつの園児をみていたため、対象児をみていなかった。	一つの遊具で年齢差がある複数の子どもが遊んでいた。座っていても小学生が飛んだ反動が伝わり、対象児の体が浮くかもしれないという予測が出来ていなかった。	3歳から使用可能な遊具で全員が3歳になっていたが、2歳児はまだバランスをとる感覚が未熟なため、使用方法を考え直す（使用しない、小学生とは一緒に使用しないなど）。	

No	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰	死因	負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
570	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	15					7	8			2	2	17. 5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左第3中手骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	けがにつながる器具、を使う時は思っている以上に無理をしたり自分の力以上の事をするかもしれない、ということを想定することが大事。	本児が痛みを我慢しすぎていることもあるかもしれないと配慮すること。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	子どもの気持ちを尊重するとともに、活動限度を見極めることも必要。	本児の気持ちを理解し無理のないよう見守ったり、できることできないことを把握し対応する。	1.集団活動中・見守りあり	本児の跳び箱に対する思いを理解し、無理しすぎないように配慮する。	本児の気持ちを尊重するとともに、本児の運動量、体力の限界を想定することが大事。	1.いつもどおりの様子であった	跳び箱に意欲的に何度も繰り返し挑戦していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児が跳び箱を跳ぶ様子を見ながら補助をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	跳び箱以外で遊ぶ子どもたちをみていた。	子どもの動きや内面を想定し頑張りすぎていないか見極めることも必要であった。	子どもの背景を理解し思いもよらない事からケガにつながることを意識し子どもと関わる。	
571	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	15									2	2	16. 4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折　左手首捻挫	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	4	1.基準以上配置		施設の危険箇所を図式化するなどして事故防止について職員で研修を行う	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12		定期的な点検を続けて実施していく	1.集団活動中・見守りあり		今後も園児の状況に合わせて人員配置していく	1.いつもどおりの様子であった	登園時の視診では普段通りだった。保育中も変わった様子は見られなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	至近距離にいて園児の遊びの様子を見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体を見渡せる位置にいた。		園児の発達段階や体の使い方などを考慮し、遊びの場面を見守る体制を構築していく。	
572	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	17									2	2	17. 5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨、尺骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施		2.基準配置	加速して滑り台に突入したことと、らせん状滑り台で遠心力により体をコントロールできなかった。	らせん状滑り台の場所に、職員を配置	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12		らせん滑り台だけ撤去した	1.集団活動中・見守りあり		大型遊具での遊び方を再確認させ、鬼ごっこ等はしないように指導した。滑り台は、おしりをつけてすべるように指導した。	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	遊びはじめは大型遊具の所にいたが、他児との対応でその場を離れた為、落下時は見ていなかった。落下した園児が腕を抑え泣きながら保育士の所に駆け寄った為、即座に対応した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊具の場所の反対側で他児とのトラブルに対応していたため、見ていなかった。		鬼ごっこ等スピードが出る遊びは、遊具に登ってやらないように声をかけて、滑り台はきちんとお尻をつけて滑るようにさせる。遊具全体を見渡せるように職員を配置する。	
573	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	91				33	22	36			15	15	15. 3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	4	2.基準配置		保護者引率のもとであっても、園児の様子を把握する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		園内でも起こりうる事故なので、安全管理の再確認を行う。	1.集団活動中・見守りあり		一人一人の遊びをしっかり見守ると共に、危険な遊具のそばには必ず職員が付くようにする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	親子遠足に両親と共に参加し、普段よりも気持ちは高ぶっていたかなと思われる。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	近くにいた職員は落ちたことを見ており、保護者にもその時に声をかけていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	広い園内だったので、それぞれ分散して様子を見ていた。		親子遠足なのでテンションが上がることを予想して、声をかけたり行動を見守ったりしていく	
574	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	19									4	4	16. 4歳	2.女児	２週間前に園庭のベンチとテーブルのところで自らの転倒により頬を打撲しており、怪我が続いている。	8.その他	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	●/● 左足打撲 ●/●左足骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	12	1.基準以上配置	特になし	常に事故予防を意識した保育が提供できるよう、定期的に研修に参加したり重大事故が起こる前にヒヤリハットを出し合い、意識を高めていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	293	1.定期的に実施	293	特になし	設備の問題はないと考えられる。	1.集団活動中・見守りあり	何につまづいたか⇒着替えコーナーのござは位置的に要因とはなりにくい。遊んでいた玩具は足元には散らばっていなかった。子ども達がロッカーの前に集まっていた。	子どもの動線を考えた配置、分散できるように職員が保育・対応する	1.いつもどおりの様子であった	排泄後、自分のロッカーに着替えをとりに行くが、他の様子が気になり行ったり来たりする中で転倒した。	4.対象児の動きを見ていなかった	一人の職員の後ろで転倒。転倒に気付いてすぐに抱き起した。一人の職員は正面で他児２名の着替え越しに転倒を確認。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	遊びコーナーから全体を見ていて本児の動きを把握。（2mほど離れたところから）転倒の瞬間を確認している。	本児自身が転びやすい特性があることを認識し、意識的に行動を見守る事ができていなかった。	配慮を要することを職員周知し、怪我や転倒のリスクを考えて保育・対応する。	
575	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	40									8	8	18. 6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	右足首じん帯損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	4	2.基準配置	特になし	研修は行っているが、常に事故やケガを予測し事前回避することが必要である	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	20	特になし	園庭の小石や草も定期的に除去する	1.集団活動中・見守りあり	片付けを始めようとする時だった	年齢ごとの発達に配慮しながら異年齢での遊びを見守る	1.いつもどおりの様子であった	同学年の友達と連れ立って園庭を駆け回っていたが、他の子とぶつかったり前を見ていないなどの不注意な行動はなく、走る速さも全力走でなく楽し気に軽く走って移動していた。	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児が園庭で友達と遊んでいるのは把握していたが、足を捻った様子は見ていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	異年齢オープンでの外遊びのため、担当学年の子を中心に見守っていた	対象児は園生活も3年目で年長児であり、異年齢児への配慮もあるし、危険を回避する能力もある。	園庭での自由遊びでは子ども同士の衝突や転倒などが予想されるので、視野を広くみていく必要がある	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項
576	令和6年3月27日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	4	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	49									2	2	18. 6歳	2. 女児	本件事故と既往症及び発生時の天候等は、関係はないと思われる。
577	令和6年3月27日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	5	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	24									4	4	16. 4歳	1. 男児	晴れ
578	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	3	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	21									3	1	17. 5歳	2. 女児	
579	令和6年3月27日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	4	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	16									6	6	16. 4歳	1. 男児	
580	令和6年3月27日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	6	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	40				16	11	13			5	5	17. 5歳	1. 男児	
581	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	5	3. 昼食時・おやつ時	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	7									1	1	15. 3歳	1. 男児	走り方がややつま先走り気味で、バランスが悪い。

No	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策
576	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	上腕骨外側顆骨折	1. 遊具等からの転落・落下	2. なし	3. 未実施		2. 基準配置	日頃、全職員で安全面については最優先事項として取り組んできたところであるが、事故予防マニュアルに基づいた定期的な研修等により日常場面で実効性をもつような取組が今後必要である。	事故予防マニュアルを策定する。また、定期的な研修会を実施し、職員の事故防止意識を高めるとともに、園児の行動予測等に基づいた事故防止に努める。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	毎日		各担当による定期的な安全点検は行っているが、遊具や園庭、体育館等で活動する前及び最中にも各担任が安全点検を実施するようにする。
577	1. 屋外活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	外傷性歯の脱臼	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	1	2. 基準配置		職員が固定遊具に対する危険予測を意識する。	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	1	なし	事故発生との関連性がなかった。
578	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右外果骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	2. なし	3. 未実施	実施頻度( )回/年	2. 基準配置		マニュアル作成、職員間での研修	1. 定期的に実施	実施頻度（ 3 ）回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年		園庭は芝生化としてある。
579	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	（1）左中指末節骨骨折、左中指爪下血腫（2）左環指挫傷（3）左環指爪脱臼	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 基準以上配置	特になし	特になし	1. 定期的に実施	実施頻度(293)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(293)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(293)回/年	保育室入り口の扉を閉めた際に隙間ができず、子どもが手を挟んでしまった。	その日のうちにウレタン積み木を利用して戸の上部に取り付け、戸を閉めた際に隙間ができるようにした。
580	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足親指付け根の骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置	手をつないでジャンプをしたことで体制が崩れてしまった	自分の身を守りながら安全に遊ぶ方法を伝えていく。怪我を予防するための体力づくり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	必要に応じて点検の回数を多くする	子どもの年齢、体格にあった遊具の選定や安全点検の強化
581	8. その他	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	外傷性歯根破折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1	2. 基準配置	担当保育士の関心を引きたく、事務所で担任が迎えに来てくれることを期待している様子。転ぶときに手をつかず直接顔を床にぶつける。	体の動きがぎこちない部分があり、大きなけがにつながりやすいため、バランスが崩れそうなときに手をつく動作を促したり、本児の気持ちを受け、走らないような言葉がけを工夫する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	昼頃の明るい時間帯であり、節電のため廊下の電気は消してあったが、暗さも要因の一つであったかもしれない。	事務所からクラスまでの行き来を予測し、電気をつけておく。

No	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
576	1. 集団活動中・見守りあり	対応可能な場合は担任外の職員も園児の見守りにつくようにしているが、事故発生時は担任のみであった。	今後も対応可能な場合は、担任外の職員も見守りにつくようにし、特にも安全面に留意して複数の目で園児を見守ることを継続する。	1. いつもどおりの様子であった	いつも通り友達と遊具を使う等して外遊びを楽しんでいた。普段と特段変わっている様子はなかった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	担任は随時園庭の全体の様子を把握していたが、事故発生時は他の子どもに対応していたため、当該児が落下するのを目撃していなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他クラスの担任も上記と同様であった。	事故発生率の高さ等に留意した目の配り方も必要であった。	事故予防マニュアルを作成し、具体的な目の配り方等に留意し、今まで以上に安全な教育保育活動の展開に努める。	
577	3. 個人活動中・見守りあり		固定遊具の階段の砂をこまめに掃くようにする。	1. いつもどおりの様子であった		3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	滑り台の近くに職員が見守っていたが手を差し伸べ防ぐことはできなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児と遊びながら見守っている状況であった。		園児の行動予測に努める。	
578	1. 集団活動中・見守りあり		怪我の多い児童は家庭と情報共有。サッカー教室へ内容等確認検討	1. いつもどおりの様子であった	他児とトラブルもなく、サッカーを楽しんでいる様子であった。本児がシュートしようとした時に転倒してしまった。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	試合中である為、コーチ2名がコート内にいるため、担当職員は、コートの外より全体を見ていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭は、５歳児クラスだけで使用。そのため、他の職員は見ていない。		通常通りの動きであっても、無理な態勢ではないか注視する。子供の動きを観察する。ノートに記録する。	
579	3. 個人活動中・見守りあり	特になし	落ち着かない園児に対しては、すぐに手が届くような位置で見守りをする。	1. いつもどおりの様子であった	新入園児でまだ生活に慣れておらず、気持ちは不安定であった。また、外国籍であり日本語の理解が不十分である。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	活発な園児のため一対一で見守り、後を追っていたが、すぐに手が届く位置ではなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	2歳児保育室内で他の子の保育をしていた。	本児が3歳児クラスの戸を開閉するという咄嗟の行動に対応できなかった。	すぐに手が届くような位置で見守りをする。	
580	1. 集団活動中・見守りあり	当該園児が、それまで衝突の多かった子と仲良く遊び始めたので、多少の危険を感じながらもその遊びを黙認していた	遊具の使い方、遊び方、ルールについてあらためて確認し職員間で共有する	1. いつもどおりの様子であった	該当園児は、運動能力も高く、普段であれば怪我をすることなく飛び降りることが出来たと思う	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	遊具の上に立っていたので危ないということはわかっていたが、友だちと嬉しそうにしていたので注意するまでは至らなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は近くにはいたのだが、破損したものをなおしていて、対象児の動きは見ていなかった	遊具の高いところから飛び降りに危険を感じたり、他の子が真似を始める可能性を心配に思う職員もいた。2，3日前から継続的に行われていた遊びに対して職員がどう対応していくか、子どもの動きのどこまでが許容範囲か決められていなかった。	子どもの遊び方について少しでも疑問がある場合は職員間ですぐに話し合う子どもたちが納得するかつ、安全が保障されるルールをみんなで決める	
581	4. 個人活動中・子どものみ	活動が切り替わる場面で、部屋から出ていく。	移動する前に個別に話しかけるなど、個別対応が必要。	1. いつもどおりの様子であった	最近はよくある行動で、事務所に来ることで担任が迎えに来たり、個別的な関わりをしてくれることを理解している。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	事務所からクラスへ戻る様子を見守りながら後ろから追いかけるように歩いていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他クラスや事務所職員も食事中であったため、廊下の様子は見ていなかった。	対象児が後ろから来る担任を気にしながら走っていた。	転ぶかもしれないことを考え、手をつないで一緒に歩いて戻る。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
582	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	5	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	23									3	3	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右第１趾捻挫（当初の診断）経過観察後●月に受診した際骨折だったと判明	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置	年長児は自分たちで自主的にできることもあり主体性を育てているが、安全面については保育士の最終確認を必ずすること。子どもだけにまかせない	上記の通り、職員の共通理解をする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	サッカーゴールは問題なし、組み立ての際安全確認を目視のみだった	安全確認は目視のみではなく、手で触れて確認する。	1.集団活動中・見守りあり	本児は体を動かすことが好きで活発、サッカーにも意欲的でゴール設置後すぐシュートを決めていた、その際他児が触れたゴールが下がり足を挟んだ	ハード面と同様安全確認をしっかり行うこと	1.いつもどおりの様子であった	１週間前にサッカー教室があり、サッカーにとても興味をもっていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	複数担任のクラスで、一人は近くで見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	加配児の近くにいたため、本児の動きはみていなかった。	１週間前にサッカー教室もあり、みんなのテンションが高かった。	ハード面と同様安全確認をしっかり行うこと。	
583	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	11									2	2	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨亀裂骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置		今回の事故の検証、マニュアルの再度の周知を行い、再発防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		毎日の安全点検の実施と危険と思われる個所等の報告や改善	1.集団活動中・見守りあり		夕方の時間帯は1日の疲れも出やすいので、特に子どもの動きに注意しながら保育を行う。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	友だちと一緒に繰り返し楽しんで、テンションが高くなっていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	遊びのすぐ近くにつき子どもたちの様子を見守っていた。人数が少なかったため全体も把握できる状態で、本児の側にいたが転倒を防ぐまでの対応はできなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	人数も少なかったため、遊びのすぐ近くにつき子どもたちの様子を見守っていた。	広いスペースを確保して保育士が側につき見守りながら遊んでいたが、時間帯と人数から遊びの内容は適切だったか。	広いスペースを確保し、保育士が側につきながら危ないと感じた場面ではすぐに止めて、子どもたちを落ち着かせてから安全に遊びるようにする。	
584	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	20									5	5	13.1歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右小指打撲傷、右小指骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置		マニュアルには今回の事案そのものについての内容はなかったため、追記するとともに職員研修にて情報共有をおこなった									3.個人活動中・見守りあり	子どもを膝に抱っこした状態でタブレットを持って操作したため	ショルダーベルト付きタブレットケースを購入した。タブレットを使用する際にはショルダーベルトを装着して利用することを徹底した。	1.いつもどおりの様子であった	担当保育者とふれあい遊びを楽しんでいた	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	対象児とふれあい遊びをした後、膝の上に座らせた状態でタブレットの操作をしようとして、タブレットを落としてしまった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当する他児の遊びを見守ったり、一緒に遊んだりしていた		タブレットを使用する際には、ショルダーベルト付きのタブレットを子どもから離れた場所で使用することとした	
585	令和6年3月27日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	5	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	15									2	1	16.4歳	1.男児	●月●日に再診、アレルギー検査の結果、キウイフルーツは6段階中２との結果報告を保護者より受ける。その日の体調で疲れていたりする場合、普段食べているものでも、アレルギーが出やすいとのことを主治医より伝えられる。今後は、キウイフルーツは、食べないとの主治医からの指示。今後園では、本園児に対し、キウイフルーツの提供はしない。また、キウイフルーツ以外のアレルギー検査結果の一部コピーをスクールにご提出していただいたので、園児の記録と一緒に保管している。	5.食事中(おやつ含む)	1.負傷		6.その他		食物アレルギー	6.アナフィラキシーによるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置		エピペン等の使用研修をする。症状が発生した際のシミュレーションをする。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年		食事の時に使用するテーブル、イスにがたつきがないか壊れていないかなど、安全に食事ができるよう目視だけでなく、触ったり力をかけたりしながら確認するようにする。	6.食事(おやつ)中		各クラスに掲示してあるアレルギーリスト（保護者より提供情報）の掲示を大きく見やすく変える。外国人日本人両方の保育者が提供時に、確認点検をするようにする。これまで同様、飲食中は子どもたちがよく見える位置に配置し、いち早く異変に気づくようにする。	1.いつもどおりの様子であった	午後15：20頃、おやつにキウイフルーツが提供され、男児はキウイフルーツを少し噛んだ１、２分後に違和感を感じた様子で、立ち上がりティッシュを取りに行き、口を拭いた。その後、席に戻ろうとした時に大量に嘔吐。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	嘔吐後、その場にいた日本人保育士が介抱し、一階の事務所へ男児を連れ、簡易ベットの上に横にさせる。事務スタッフが話しかけながら園児の様子を確認する。もう一人の事務スタッフが保護者に状況の説明、緊急のお迎えを要請。この時体温は、35.9度。保育士は、一旦クラスへ戻り、クラスに残った外国人講師に状況の説明。施設長に報告。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	その後、見守りをしていた事務スタッフが男児の目の腫れが酷くなり、目を擦るようになる事を確認。首から下の症状（なし）確認。他の保育士にも状況を伝え、目の腫れを確認、呼吸（あり）の確認、アレルギー症状が出ていることから救急車の要請をする。16：10頃救急車が到着。保育士が園児を抱きかかえ、救急車へ同乗。迎えに来られた保護者（父親）も救急車へ同乗。事務スタッフが自家用車で病院へ向かう。		飲食の時間において、安全な環境作り、また、食事中の園児の安全を守るためのサポート、見守りに関しての注意を全スタッフで、見直し、徹底をしていく。	
586	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	50				18	32				7	3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足関節外果骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	事故発生防止のための指針は作成されているが、「安全な保育環境を確保するための配慮」について改めて確認する必要がある。	「安全な保育環境を確保するための配慮」について職員間で話し合いを行い、必要な配慮を話し合った。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	事故発生場所の芝は伸びておらず、地面に穴や石などはなかったが、場所によっては傾斜の箇所もあるので、バランスを崩す要因につながった可能性も考えられる。	園庭に玩具や石などが落ちている場合には、その都度寄せるようにする。虫探しで園庭の端をスコップで穴を掘った後は埋めるようにする。	1.集団活動中・見守りあり	対象児は、足に合ったサイズの靴を着用していたが、サイズの合わない靴の着用は、バランスを崩したり転倒したりしてケガにつながる危険性がある。	足のサイズに合っていないものや古くなりマジックテープがはがれやすくなっているものなどは、保護者に知らせ交換してもらうようにする。	1.いつもどおりの様子であった	普段通りの様子で、友達と二人でサッカーをしていて、右足でボールを蹴った際にバランスを崩し、左足首を外側にひねる体勢で転倒した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	コンビネーション遊具の滑り台に付いていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭内にいた保育教諭３名は、それぞれコンビネーション遊具、築山、砂場についていた。	雪遊びから春先の園庭での遊びへと切り替えに体が十分に慣れておらず、更に利き足ではない方の足でボールを蹴ったこともバランスを崩す要因につながった可能性も考えられる。	普段繰り返し楽しんでいる遊びでも、思わぬケガに繋がることがあるという意識を保育者がもちながら遊びを見守り、園庭での遊び方について子どもたちと再確認を行った。	

No	初回掲載年月日	概要				発生場所	発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																										掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期			発生時の体制										教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
587	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	10									2	2	17.5歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右尺骨・橈骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置		降園時は保護者管理となるため、保護者に対し園児から目を離さないよう周知する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		施設等に危険がないか確認し、本来の使用方法以外の使用をしないよう明示する。	7.その他	本来座るべきでない金属製のポールに座り転倒。	本来の使用方法以外の使用しないよう明示し、園児に対しても指導する。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わらない様子で、体調面も問題はなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	対象園児を引き渡した後、降園中の駐車場での事故のため、対象児の動きは見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	同上		降園時に保護者及び園児に対し、気を付けて速やかに降園するよう指導する。	
588	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	20									2	2	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施		2.基準配置		職員会を行い、危険箇所のピックアップとマニュアル作成を実施した。令和5年度の職員研修に事故予防の研修を計画中	1.定期的に実施	毎日	2.不定期に実施	1	1.定期的に実施	毎日	鉄棒下のクッション材が十分ではなかった。丸太を踏み台として使用していた。	クッション材を新しく敷きなおした。丸太を第二園庭から撤去した。	3.個人活動中・見守りあり		クッション材を新しく敷きなおし遊具周辺に玩具等が置かれていないか随時確認する。遊具の安全性を毎日確認する	1.いつもどおりの様子であった	他児が第一園庭より運び込んだ丸太を使用して、鉄棒の上に登ろうとしていた	4.対象児の動きを見ていなかった	主担任は対象児が鉄棒に近づいていることに気が付いていた。しかし木登り中の児童がトラブルを起こしそうだったため、そちらに気を取られてしまった。副担任は第一園庭で遊ぶ児童を砂場付近で見守っていた。両者とも対象児が鉄棒から転落したところは見ておらず、対象児の泣き声で気づいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	昼食準備のため、児童たちと園舎内へ移動していた。対象児のクラスと担任二人だけになってしまうが、第二園庭を閉める等の助言や児童たちの移動を促す行動を行えなかった。		保育士同士で移動する旨の声掛けをおこなう。また、児童・保育士の人数が減るに伴って第一園庭へ移動し、くまなく目を配ることができる環境を維持する。	
589	令和6年3月27日	1.認可	3.保育所型認定こども園	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	31					17	14			4	4	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	4～5回	1.基準以上配置		特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施			上記の点検を継続し、異変があればすぐに対応し安全に努める。	1.集団活動中・見守りあり		見守りを強化し安全に努める。	1.いつもどおりの様子であった	転倒後も様子を見ていたが、普通に遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭なので全体が見渡せる位置にいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ、自分のクラスを重点的に見ていた。	本児が内股で歩く時に不安定さは感じられることもあった。それが要因であるとは言いきれないが、バランスを崩す要因となったのかもしれないとも分析する。	見守りを強化し安全に努める。	
590	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	5	7.午後	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	14									2	2	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		6.その他	2.顔面(口腔内含む)	右目眼球破裂	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	職員の子どもの目が届いていなかった	旧型のタオル掛けを破棄し安全な物と交換した	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		園児の安全を配慮した設備の確認	7.その他		降園準備の園児の立ち位置を改善	1.いつもどおりの様子であった	通常の降園準備を行っていた	4.対象児の動きを見ていなかった	保育室で2名の職員が見ていたが、ちょっと目を離した時に起きてしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室内は2名の職員で見ていたが、ちょっと目を離した時に発生。他の職員は別のクラスにて対応。		保育室での職員の目配りを徹底する	
591	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	14				6	5	3			2	2	16.4歳	1.男児	事故との因子関係のある特記事項はなし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2、3　)回/月	1.基準以上配置	職員の目の届く位置ではあったが、走る本児を静止することができなかった	室内では靴下を脱ぐ。保育室内は歩くなどの環境を整えていく必要がある	1.定期的に実施	実施頻度(1　)回/月	1.定期的に実施	実施頻度(1　)回/週	2.不定期に実施	実施頻度(2、3　)回/月	特になし	今後も定期的に安全点検を実施し、設備の安全確認に努める。	1.集団活動中・見守りあり	保育室内を靴下を履いた状態で走ったこと	保育室内は歩いて移動するようその都度本児に伝え、意識づけできるようにする	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	戸外に出かける準備で、排泄後に並ぶ指示を受け1番に並びたいという思いから、保育室の入り口に向かって走った	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他児のトイレの見守りで離れていたために、目視はしていたが対象児の転倒を防ぐことはできなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	隣りの保育室で他児の準備に対応していたため、対象児の転倒の瞬間を見ていなかった	進級したことを喜び、気持ちが高揚していたため室内を走ってしまった	靴を脱ぐ際に靴下も脱ぎ、靴を履く場で靴下を履くように統一し、室内では靴下を履かないように周知する	
592	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	30					16	14			5	5	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足関節外果剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.基準以上配置	担任と非常勤の職員がついていた。	足が弱く何もない所で転倒など、足の怪我の頻度が多いので、活動時職員が一人つく。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１３)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/週	いつもと違う公園内で遊んでいた。長縄を使用すると横移動が発生する。	活動が無理そうな時は、本人の意思を確認した上で見学する。	1.集団活動中・見守りあり	長縄を7人で飛んでいたので、短くしてもう少し少人数にするべきであった。	児童の特性などを考慮し、環境の変化に対応できるように、職員同士の連携を図っていく。	1.いつもどおりの様子であった	長縄を飛び越えた後、横移動する際、バランスを崩す。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	長縄の傍につき見守っていたが、対象児がバランスを崩した瞬間止められなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	長縄を持っていた。	４歳児と５歳児、分かれて公園内で遊ぶ。５歳児に二人の職員がついていた。	４・５歳児同じ空間で遊ぶようにし、職員全体で園児を見守るようにする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
593	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	不明	不明	7.異年齢構成	120	9	16	21	23	23	28		※発生時間不明のため、当日の登園人数を記載	20	19	18.6歳	1.男児	本児は全体活動への指示が通りにくく、感情の起伏が激しく他児とトラブルを起こすことが度々みられた。自分の思いを上手く相手に伝えられないことが要因であり、保育者が仲介に入り本児の思いを代弁し、問題を解決してきた。今回も身体の異常を担任に伝えられなかったことが、園が事故の把握が遅れたことに繋がったと考える。	園内（園庭・保育室）での活動中であると想像する	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手橈骨遠位端骨折	不明	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度（1)回/年	2.基準配置	保育者と園児の密なコミュニケーション。保護者とは連絡を密にすること	園児と保育者との日頃からのコミュニケーションを密にすることで、園児の一日を保育者がより深く把握することが大切であり、そのための言葉かけを園児一人ひとりに行っていくことが大切である。	1.定期的に実施	実施頻度（１２　）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２)回/年	特に無し	安全点検を的確に実施することを徹底し、異常個所等の発見に努める。	1.集団活動中・見守りあり	保育中に負傷したのであれば、保育に関わった者が見逃したことが要因であるかもしれない。	事前の役割分担と事後の異常の有無の確認を徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	日頃の自分の行動を顧みる習慣が本人に身についていなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象園児は当日問題なく保育活動に看過しており、特別に個別に支援する機会が無かった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任からの該当園児への支援依頼が無く、保育室でも問題なく保育活動に参加していたため	負傷場面を特定できなかったことは、見落としがあったかもしれない。	園児が負傷（骨折）した事実を深く受け止め、役割分担と園児・保護者とのコミュニケーションを深めることを重要視していく。	
594	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	1.0歳児クラス	3									2	2	12.11か月	1.男児	食物アレルギー（卵）	5.食事中(おやつ含む)	1.負傷		6.その他		食物アレルギーによるアレルギー反応	6.アナフィラキシーによるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(３)回/年	1.基準以上配置	保育教諭と調理員の連携不足	食物アレルギーについての認識を深めるための園内研修を定期的に実施する。現実践中の食物アレルギーの子どもの一覧表についての再確認をする。ダブルチェック体制の強化。	1.定期的に実施	実施頻度(1　)回/月	1.定期的に実施	実施頻度(1　)回/月	1.定期的に実施	実施頻度(1　)回/年	特になし	引き続き定期的に設備等について点検をおこなう。	6.食事(おやつ)中	０．１歳児のおやつが同じカゴにあり、０．１歳のおやつがはっきり分かる表示が不足していた。	おやつも給食同様クラスごとに分け、０歳児の分にはラップに名前を書いて、視覚で判断できるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	自分でたべることがまだ難しいため、保育教諭が手伝い食べていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児斜め前で、他の子どもにおやつを食べさせていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児の横で、対象児におやつを食べさせていた。	おやつの材料について、担任と調理員間で口頭でのやり取りで済ませ、献立に対する最終確認が十分でなかった。プリンを０歳、１歳児が同じカゴに入っていたことも反省である。	0歳児については、一人ひとり食事が違うので、アレルギーでない子どもについてもラップに名前を書いたものを皿に掛けることを引き続き行う。おやつについても給食と同様のチェックを行い、提供するようにする。おやつも調理員から手渡しで受け取れるように調理員の勤務時間も含めて検討する。	
595	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	23									3	2	16.4歳	1.男児	特になし。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第５中足骨若木骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	近くにいた保育者が他児に気を取られていた。	事故予防マニュアルを確認し、職員への周知を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	木組み角度によって本児の姿が見えにくい状況が生まれてしまった可能性。	木組みの周辺は整理し、障害物や破損がないか毎日点検する。	1.集団活動中・見守りあり	近くにいた保育士が他児に視線を向けていた可能性も考えられる。	子どもたちと現場で危険な遊び方について話し合い、ルールを確認する。	1.いつもどおりの様子であった	朝から健康視診をしながら本児の様子を見ていたが、いつも通り元気に遊ぶ姿が見られた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	普段から子どもたちが木組みの段を上り下りして遊んでいて、飛び降りることのないよう注意しながら近い場所で見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	本児が落ちた瞬間、担当職員から呼ばれて救急用品を持って現場に駆け付けた。	本児に遊びのルール(飛び降りは危険)を意識づけできていなかった。	個別での指導・声がけを継続していく。	
596	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	28									3	3	15.3歳	2.女児	障害名：タウシッヒ・ビング症候群による心臓機能障害（１級）	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨折（右橈骨骨折）	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	近くにいた保育者が他児に気を取られていた。	事故予防マニュアルを確認し、職員への周知を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	椅子を片付けた場所が近くにあったため本児が興味を示し遊び始めた。	椅子には寄りかかれないように設置する。	1.集団活動中・見守りあり	傍にいた保育士の位置から下側にあった右手が見えていなかった。	椅子本来の使い方をしないと危険であることを指導する。	1.いつもどおりの様子であった	朝から健康視診しながら本児の様子を見ていたが、いつも通り元気に遊ぶ姿が見られた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	椅子にうつぶせになって遊んでいる本児に帰りの準備をするよう促していたが、右側にコロンと転がってしまい落下。半回転して仰向けに倒れる。至近であったが受け止めきれなかった。すぐに本児のけがの有無や痛い場所はどこか確認した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	本児に背を向けていたため、転落後に仰向けの状態の本児を見つけた。担当職員と共に本児に駆け寄り、けがの有無や場所の確認をした。	傍にいた保育士の位置から下側にあった右手が見えていなかった。	咄嗟の事態にもすぐ対応できるよう本児の近くに寄り添う。	
597	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	15									1	1	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	右上A歯の打撲、外傷による下唇裂傷、右上A歯の打撲＜Per、外傷による下唇裂傷	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	遊具の安全に関する基準への確認不足、各遊具の正しい使用方法の指導不足	グループ活動時の職員配置・各遊具の正しい使用方法を園内研修で再確認し、事故予防に取り組む。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	事故当日、ホールに数種の室内遊具を設置し遊んでいた。各遊具にマットを敷くなどの安全対策を行っていたが当該事故が発生したネットジャングルの降り口は高さが280mmであり、マットを設置していなかった。	遊具の安全領域と落下高さを再確認し、設置面への落下に対する衝撃の緩和措置(マットを敷く)を徹底する。	3.個人活動中・見守りあり	足をかけ、降り口まで三点確保を基本として慎重に取り組んでいたが、あと2歩くらいのところで跳びおりようとしてしまい、ネットに足がひっかかり顔面から落下した。	園児へ三点確保や昇降時のルール等遊具の遊び方を再指導し、職員、園児ともに安全領域等、周囲の状況にも気を配るように再徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	ネットジャングルで降りる際に、前向きになり三点確保し辛い状況になろうとしたので、声をかけて三点確保を指導した。その後は最後まで三点確保で降り、数度は安全に遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	跳んで降りようとした時に、危ないことを声掛けで知らせた。数度は安全に繰り返して遊んでいるので見守っていたが、事故発生時はおもむろに跳んでしまい間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故発生時、担当職員がホールで15人の園児を1名で保育していた。他の職員は保育室で保育していたため、事故発生時は状況を確認できなかった。	職員の人数、園児の人数に合わせた遊具の配置ができていなかった。	職員の人数、園児の人数に合わせた遊具の配置を検討する。	

No	初回掲載年月日	概要: 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時: 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制: 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳: 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故: 年齢	性別	特記事項
598	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	17									2	2	17.５歳	1.男児	●月●日受診し、治癒の診断。
599	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	79				18	27	34			9	7	17.５歳	1.男児	
600	令和6年3月27日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	5	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	5	1	2	2						7	5	13.１歳	1.男児	●/●　胃腸炎と診断
601	令和6年3月27日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	5	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	12		1	11						5	4	13.１歳	1.男児	

No	事故状況: 発生時状	事故の転帰	死亡: 死因	負傷: 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面: マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面: 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策
598	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置		マニュアル、研修、職員配置等からは、事故に直接つながる問題点は見つからなかった。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施			ハード面に不具合や点検上の問題はなかった。
599	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨骨折（右腕）	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度(１　)回/	1.基準以上配置	預かり保育の利用が少ない園児（１号認定児）の怪我	日頃、預かり保育を利用しない園児への見守り・声掛けの強化	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/		園庭で（砂の状況・芝生の状況等）滑りやすい箇所はないか点検の強化
600	8.その他	1.負傷		1.意識不明		胃腸炎関連痙攣	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2回/年)	1.基準以上配置	ノロウイルス（胃腸炎）による痙攣（発症より３日目くらいに起こりうる可能性がある）	感染症による事故のため、防ぐことは難しい	1.定期的に実施	実施頻度(12回/年)	1.定期的に実施	実施頻度(12回/年)	1.定期的に実施	実施頻度(12回/年)	環境面では対象児の発達面で今回の事故に関して要因なし。胃腸炎関連痙攣は、胃腸炎発症より３日目くらいに痙攣の発症しやすく、３歳くらいまでは起こりうる。	感染症による事故のため、防ぐことは難しい。
601	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足骨折(腓骨)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1回/年)	2.基準配置	子どもたちの遊びの中で手を繋いだりするが、複数名で手をつなぐと真ん中の児が転倒したりするときに手をつくことができない。	子どもだけで手をつなぐ時は職員が側についたり間に入るなど安全に遊べるように配慮する。	1.定期的に実施	実施頻度(12回/年)	1.定期的に実施	実施頻度(12回/年)	1.定期的に実施	実施頻度(280回/年)	特になし	特になし

No	環境面: 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
598	1.集団活動中・見守りあり	縦置きの跳び箱に挑戦するのが初めてだった。	縦置きの跳び箱を実施する際には十分な注意を払い、咄嗟のアクシデントに対応できるようにサポートする。	1.いつもどおりの様子であった	横置きの跳び箱と違い距離があるため、跳び越える時にバランスを崩してしまい、前方に手から落下した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	一人で二つの跳び箱をみており、咄嗟の事態に対応できる場所と距離にいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	更に離れた場所で全体を見ていた。		担当職員が一人の場合は、跳び箱を一つにするなど、とっさの事態にも対応できる範囲で活動を実施する。	
599	1.集団活動中・見守りあり		日頃、預かり保育を利用しない園児への見守り・声掛けの強化	1.いつもどおりの様子であった	預かり保育を利用し、いつもより長時間、遊べることを喜んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	直前まですぐに声をかけられるよう見守っていたが、転倒した時には他児と話しており、他児とぶつかり転倒した瞬間は見ていなかった。職員の背後での怪我であった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体が見渡せる位置にいたが、転倒した瞬間は見ていなかった。本児の泣き声と担当職員の声に気づき、その後の対応を一緒に行った。		全体が見渡せる職員配置等の再確認	
600	3.個人活動中・見守りあり	胃腸炎症状が完全に完治ではなかったため、関連痙攣を発症した。	胃腸炎関連痙攣を防ぐことはできないが、胃腸炎による登園再開の目安での登園以降、数日は注意して様子をみる。	4.具合が悪かった(熱発・腹痛・風邪気味等理由を記載)	２日前胃腸炎と診断後症状かいふくし登園。病み上がりであったが、通常通り午前睡眠をとるために、保育士に抱っこで寝かしつけされていた。	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	寝かしつけで対象児が泣いてしまったため、関係が深い保育士と交代し、対処児を寝かしつけをおこなっていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児と別室で活動見守りのため、保育をしていた。		感染症による事故のため、防ぐことは難しい。	
601	1.集団活動中・見守りあり	１名、登園後にまだ眠たい児がいてベットに寝ていた。本児たちの歩くスペースの邪魔になっていた可能性がある。	自由遊び中に横になる児がいる場合は邪魔にならないゲート内などにベットを置くようにする。	1.いつもどおりの様子であった	自由遊び中、他児３人と手を繋いで室内を歩いていた。10mくらい進んだところで１人が転倒し順に対象児も右足を重心に転倒した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担任保育士は登園した児の荷物の片付けをしながら保育を行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の園児と座って自由遊びの側につき、ブロック遊びなどの保育をしていた。	特になし	特になし	